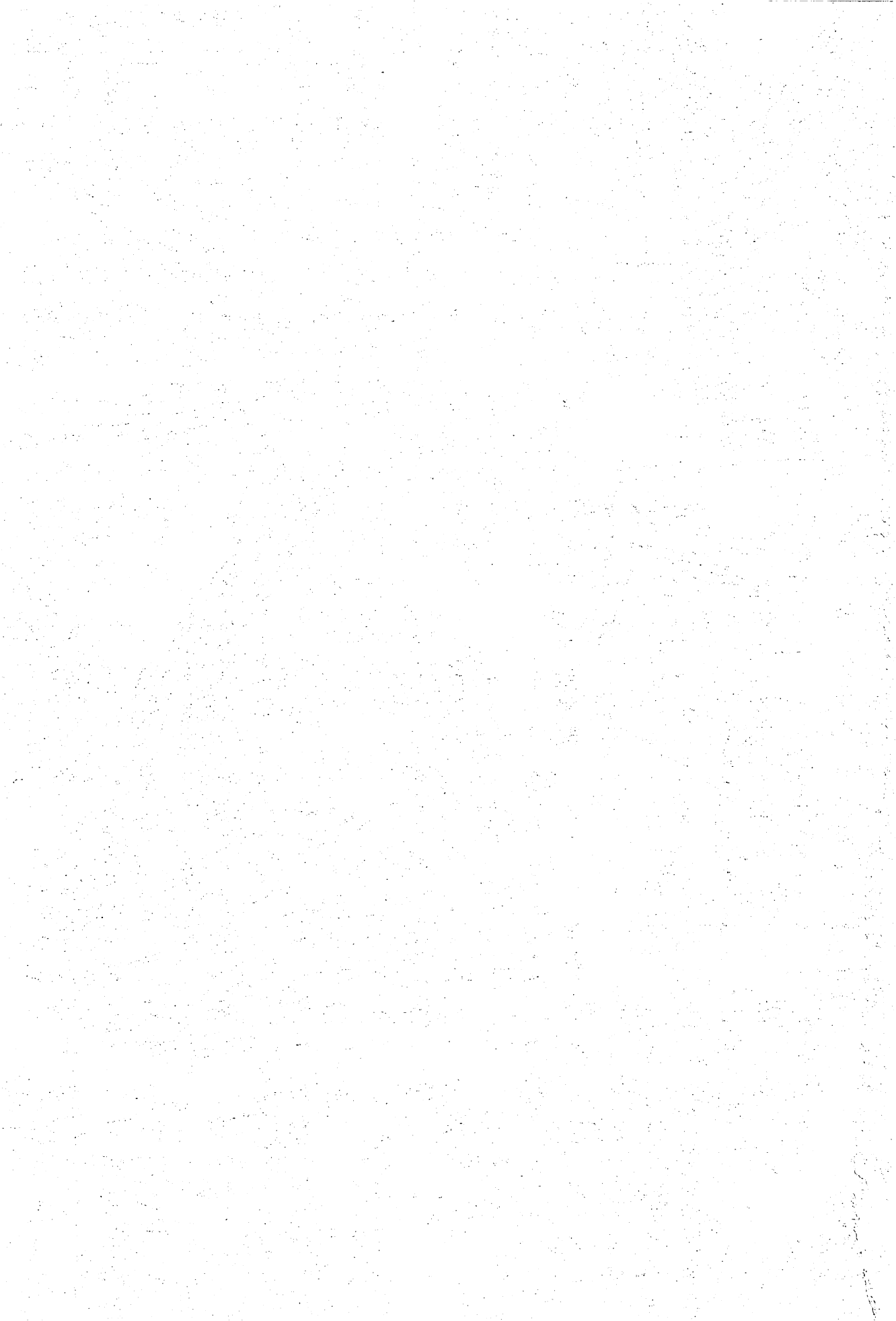


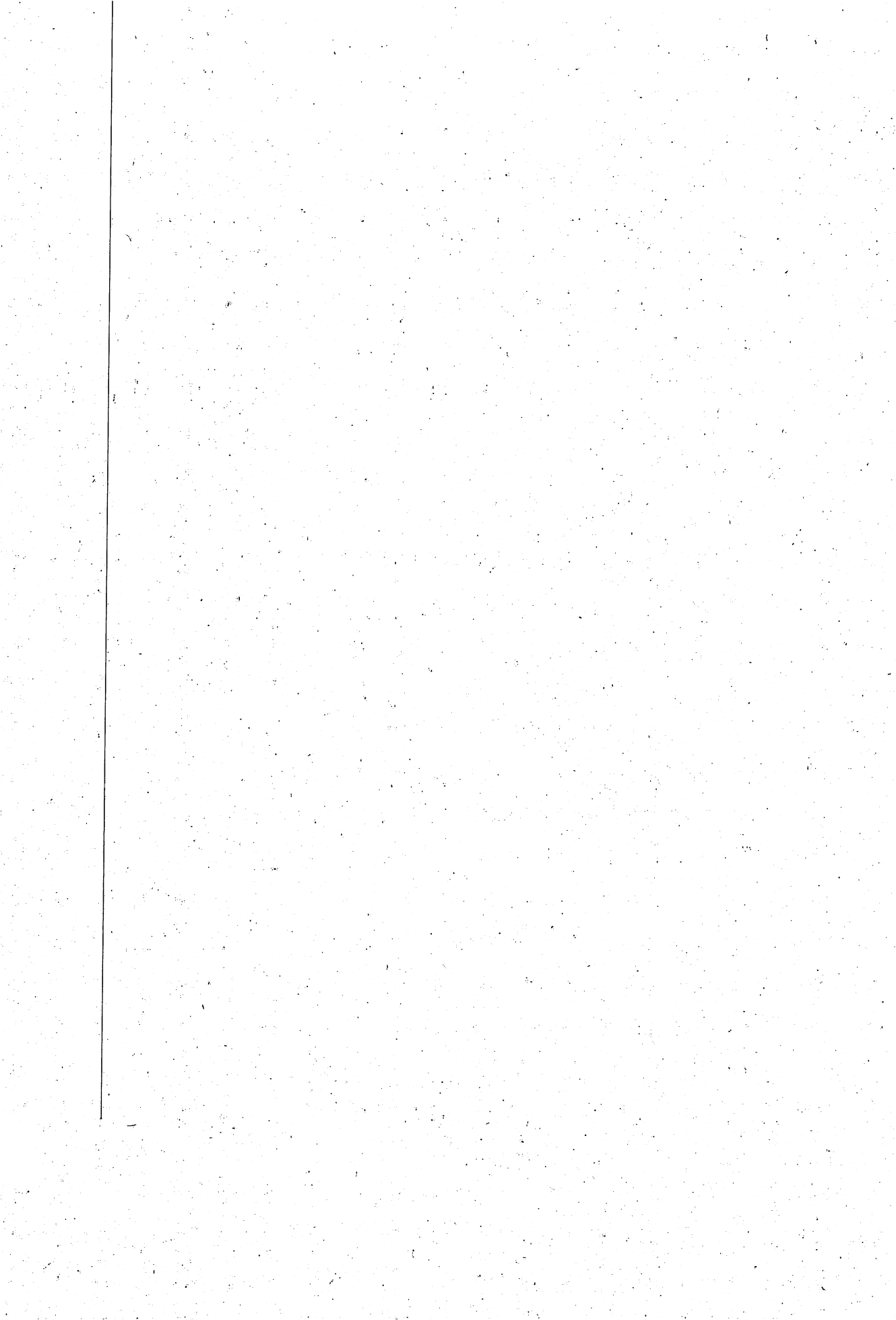
平成十四年三月
津山郷土博物館紀要第十五号

津山松平藩町奉行日記 十

天明二年（一七八二）
天明四年（一七八四）

津山郷土博物館





津山松平藩町奉行日記十

目次

町奉行御用日記 天明二年 後藤守助筆

同 四年 後藤守助筆

82
{
158

1
{
81

凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」天明二年および同四年を収録した。
一、本文の表現法は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

体てい 扣ひかえ 嘔あつがう 歎なげ 喧嘩けんか 音物いんぶつ 稠敷ちゆうぢく 又候またぞろ 与風よふう 風かぜ 舩ふね 持かぎ 糞くそ 綺いきり

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニ、并は、小活字で示した。

合（より） ヌ（して） 氏（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで読読できない文字は、字数を推定して「」で括り、虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んであるものも多いが、元の場所に残っていない文字を記してあるものは、その箇所を○◎として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻は天明二年正月から三月までを乾貴子が、天明二年四月から天明四年十二月を乾康二が担当した。編集については乾康二が担当した。

天明二壬寅年十二月至

御用日記

三十五 後藤守助

(表紙)

正月御用番小須賀一学殿

大目付渡部相馬
大年寄齊藤孫右衛門
諸吟味山本屋与三七

元旦 晴

- 一辰上刻諸士登城於桜間御帳付猶又於松間御縁側御年寄出座謁有之
- 大目付中被相詰表御礼式相濟御用所江町奉行勘定奉行郡代并添役罷出御祝儀申上ル
- 一御屋敷江罷出若殿様江年始御祝儀申上植木左土応対尤御目見被仰付拙者岸権六栗田唯次

正月二日 晴

- 一御用始ニ付登城町奉行勘定奉行郡代同添役御蔵奉行御作事奉行御金奉行御代官一諸ニ御用所罷出御祝儀申上ル畢而おし進ミ出候而

町方御静謐之段御用番中へ申上退座夫々七間廊下ニおゐて御酒御吸物被下置大目付月番挨拶有之畢而大目付所ニ頂戴御礼申上ル一昼後大年寄札元諸吟味年頭為祝儀謁尤書遣ス

正月三日 淡雪

- 一大年寄三人方へ為年礼罷越表迄出迎候ニ付祝儀申述罷帰玉置廣四郎病氣ニ付名代兄平左衛門出迎申置
- 一蔭田連三郎様向後御両敬被仰出候旨大目付廻状到来
- 一久世村丈兵衛不法申募訴ニ付逆も彼江理談申趣候ニも相濟中間敷候ニ付同村莊屋江当方大年寄共々懸合相對ニ而此方へ參候儀可相成候ハ、罷越候様可申遣哉之旨一学殿御伺申上候処考之通可取計被仰聴相馬へも達取計

正月四日 如前日

- 一病犬有之哉相聞諸人之為ニ候へハ無油断可取計旨一学殿申来兼而其段ハ申付候へ共尚又遂吟味早速病犬見合次第いつ方之犬ニ而も可打殺非人共へ可申付候段大年寄へ達勿論明和三戊十二月向後右之通可取計候段御家中へも被仰出候ニ付尚又其旨も申付ル

正月五日 雪三四寸

- 一西川永松太惣左衛門田中清右衛門今年頭祝書到来
- 一乃井野川端代八福居市郎左衛門右同断何連も及相答候
- 一米初相場御蔵米五拾式匁五分町米四拾八匁五分

正月六日 曇

- 一町方年寄共不殘御蔵元并問屋大保頭目明年頭祝儀謁但問屋兩人玄関式台大保頭月明玄関前着座之事何連も大年寄名披露取計之立合

平太兵衛小頭部屋目付諸吟味

一 米相場御蔵米五拾壹匁五分町米四拾七匁五分

一 城州愛右山大善院使僧正見坊上下式人參宿切手出二階町堺屋伊右衛門

一新魚町伊勢屋猪大夫妻去閏五月の妊娠ニ而當正月二日出産女子出生候処甚虚弱ニ而同五日病死之段書付を以申出遂吟味候処無相違候付承届候段一学殿へ達

一 東新町大地屋源七借家伝十郎独身者ニ而候之処今申刻頃表裏共戸をノ罷有候様子ニ付家主源七透間の視見候処右伝七郎縊居候ニ付組合玉屋莊七ともく内へ這入繩を解下し医師相招色々養生仕遣し候へ共不相叶致落命候段夜ニ入大年寄孫右衛門注進申出依而為見分部屋目付石名佐五兵衛差遣候処遂吟味立合一札取之婦ル改無間違縊死と相見大家并組合相長屋等何之心懸も無之儀相聞候段申出尤御用番一学殿大目付相馬へも注進申出趣紙面ニ而達置

正月七日 不正

一 東新町縊死伝十郎見分吟味之趣一学殿へ御届申達外心懸り之義も無之ニ付取捨可申付哉之旨御伺申候処勝手次第之旨御差図有之其段大目付相馬へも達

一 久世村丈兵衛儀ニ付同村莊屋又左衛門応対致度旨大年寄共の飛脚差向候処幸生野へ參勤之命有之候間近々可立寄段返翰候段申出一学殿へ及御噂候

一 勝山戸村源五右衛門渡部唐兵衛年頭祝書到来及相答

一 坪井陣屋の年始祝書到来是又及相答

一 林田町ニ而病犬有之早速非人申付候処宮川辺へ右病犬參候ニ付非

人共追駈候処北御門へ這入候ニ付無抛非人共引取候段届出依而林田町右犬目馴候もの三四人出候様申付組兩人内山下向案内ニ差添内山下遂吟味候へ共最早林田辺へ參候由之処林田辺ニ而病犬打殺候段兩人見届帰ル出番勇藏忠藏

一 久世村理左衛門と申者用事御座候而十日計逗留為仕候段願出堺町小島屋次郎右衛門

正月八日 晴

一 町方月納銀札式百八十目勘定所相収受取印取置之

一 播州佐用郡島脇村次郎兵衛娘鍛冶町鍛冶甚之丞妻ニ引取人別入願御用所及御沙汰御聞届被承候

一 来ル十六日例年之通町医并大年寄札元諸吟味御蔵元御用御謁被下哉之段一学殿へ御伺申上候処伺相濟御奏者兼大目付中へも達書付差出且又御門通行之義中奥目付中へ書付を以達

一 東新町大地屋借家横死人伝十郎御当地人別入之節引受人西新町中嶋屋伊兵衛と申内縁有之段書面ニ有之候へハ葬之投主ニ相成大家組合等相談可取計段申付伝十郎家財并有銀等ハ帳面ニ仕立差出同町年寄大家組合預ケ置追而可令作配旨申付置是又御用所大目付中へも達

一 二階町山手屋弥太郎借家屋守市平借家宗七と申者旧臘しも五日夜盜賊這入紛失物有之段申出其節夫々吟味申付候然ル処近来目明共申出候ハ紛失之段宗七偽之趣相聞大年寄共へ虚実相糺申出候様申付候処彼是取計候内致出奔候段届出尋申付ル御用所大目付中へも

達

一例歳之通町方御條目勿論諸触事博奕停止相背申間敷且又左義長共
はやし共人家離ニ可仕旨触書差出ス

正月九日 快晴

一久世村莊屋又左衛門立寄孫右衛門并三七応対之趣昨臘廿七日丈
兵衛訴訟之繰綿差滞濟方申渡受書等ゐたし銀子調達ニ包ニ相成候
処丈兵衛より上操綿受取度相望候へ共此義ハ最初買入之節極之義
ニ候へハ当時可論事ニ無之義を強而申立銀子調達之義ハ不申出
束之趣申段候得共庄屋又左衛門趣意も丈兵衛不相用此方存寄次第
ニ而又左衛門も断候ニ付其旨孫右衛門与三七申出

一東新町横死伝十郎取置無滞今晝見正寺吊相濟候段申出勿論当地ニ
而火葬ニ取置候段申出

一右伝十郎相統人西新町中嶋屋猪兵衛伊吉末期養子ニ仕度旨大家
組合願書差出候ニ付乍借家も相統人有之候へハ軒別も不減道理ニ
相当候ニ付願書受取置

正月十日 快晴

一伝十郎相統人伊兵衛伊吉養子ニ申付候義一学殿江も申上候処考
之通可申付旨御差図有之

一久世村莊屋又左衛門へ孫右衛門与三七懸合之趣一学殿へ委細申上
候処左候へハ此上取計之儀ハ如何と被仰聴処此上ハ丈兵衛不埒之
段書面ニ綴生野へ申遣候ハ、定而向方趣意も同様可有之候夫共存
寄も申来候ハ、追々懸合可申旨申上置

正月十一日 晴

一上紺屋町松本屋長松備前岡山小畑町出石屋文四郎方へ往来四十日
逗留願承届

一祇園三位之札守差上候義蔵合孫左衛門伺小勘者三浦仙左衛門へ懸
合御門通行之儀中奥目付中へ通用申置明十二日差上筈ニ候

一久世村丈兵衛繰綿買入質物差滞候段訴状添翰ヲ以差出旧臘廿七日
濟方申付事濟候処又々上繰綿相渡候様申付無之候而ハ銀子調達綿
請引之義ハ不得改候段申ニ付再応差詰候へ共一向承引不存候ニ付
濟方申付候上之義ハ当役所向了簡ニ不能候旨生野御代官所返翰相
認願人丈兵衛呼出右之趣当番甚蔵并書役喜作立合申渡返書文段等
御用番中御伺之上取計大目付中へも達

正月十二日 風雨

一如恒例大般若御執行ニ付六半時登城無滞相濟御用所へ罷出御執行
相濟奉恐悦段申上ル尤御札一包并組中人数程御札相廻ル

一二階町山手屋次太郎家守市平借家宗七去ル五日出奔尋申付候処行
衛不相知段申出尚又百日尋申付ル

一元魚町玉島屋安右衛門西川仁十郎名代押測村武助与申者内用事ニ
付四五日逗留為仕度旨願書承届

一久世村丈兵衛并同人兄理左衛門塚町小島屋次郎右衛門方逗留致罷
有候処今朝罷帰候段次郎右衛門届出ル

一久世村丈兵衛訴訟之趣ニ付生野役所へ返翰遣候へ共当所相手方七
人もの繰綿取散不申候追而役所へ懸合相濟候段申渡候迄ハ質綿
取散申間敷候段申渡候趣大年寄共へ申渡

一祇園三位之御礼蔵合孫左衛門不快ニ付代斎藤孫右衛門登城差上ル

小勤者三浦仙左衛門取計大目付中へ一通り右之趣及噂候事

一戸川町高雄屋藤助商向用事ニ付播州赤穂那波村孫十郎方へ逗留七日計承届

正月十三日 晴

一東新町佐伯屋与三兵衛紛弁右衛門当国勝山兼田茂右衛門方へ養子差越度依之町内人別離之義願出御用所及御沙汰御聽許ニ成候

一惣町生死并人別出入妊娠之者書付一学殿へ差出

一西今町年寄車屋七郎右衛門商用ニ付京都六角室町近江屋庄三方へ往来廿五日計承届

一堺町豊屋喜左衛門備前国西大寺大和屋伝左衛門方迄往来四日計承届

正月十四日 正月十五日 両日共晴

一坪井町吉野屋勘三郎去霜月の大坂阿波座堀解船町大坂屋忠兵衛方へ四十日逗留罷越候处未用向相濟今三十日加日組合共申出承届

正月十六日 晴

一如御嘉例御具足御祝儀ニ付諸士登城芥子之間御連座隨而宇治橋之間御奏者大御目付兼海老原右兵衛渡部相馬并郷左衛門町奉行後藤守助御祝儀頂戴相濟畢而御祝儀被下難有「御礼申上退座引続松之間御祝儀相始ル御用番小須賀一学殿出座諸士頂戴相濟町奉行御勘定奉行郡代并添役御用所へ罷出不相替御祝儀奉恐悦旨一同申上ル

一引続町医并大年寄札元謁之場所相調月番之大目付へ申達尤郡代中申合

岩佐孝硯

川嵩桃庵

阿部周益

松ノ間御縁側通り北向東ノ頭トノ並居御家老中御不參御年寄中松ノ間江出座大目付渡部相馬下段東之方町奉行下段西ノ方名披露無之何^茂年頭御祝儀申上候旨取合述之

大年寄

斎藤孫右衛門

札元

玉置廣四郎

川口藤十郎

武田七郎兵衛

茂渡庄右衛門

見習

玉置宇左衛門

山本与市

茂渡忠左衛門

川口希右衛門

山本平右衛門

述之役名不及披露引続郡代南之方着名披露有之畢而屏風之内へ御年寄中入座此間各退せ諸吟味御蔵元繰出

諸吟味

直屋市郎左衛門

久米屋勘八

御蔵元

山本屋与三七

熊野屋文五郎

中ノ口御疊上北を頭に並居御

年寄中大目付出座前之通町奉

行名披露着場所同断取合せ先

刻之通畢而右四人之もの退か

せ直ニ御退出

一今日先例之通組中并牢屋三軒屋番盃遣ス

一今日御用所謁不参左之通書付御用所并大目付中へも差出但御使番

中へ者不差出候忘中嶋清庵当病蔵合孫左衛門右同山本三右衛門

当病妹尾平兵衛右ハ三船八郎右衛門右同植月孫四郎当病姫路屋彦

兵衛

一東新町大地屋源七借家伝十郎末期養子西新町中嶋屋猪兵衛悖猪吉

相統為仕度旨大家源七組合連判を以願出右猪兵衛儀伝十郎当地人

別人之節内縁有之ニ付引受願等差出候旁猪吉人物等遂吟味候処常

々実躰ニ相聞候ニ付一通一学殿へも此間及御沙汰今日承届遣尤伝

十郎家財有銀等先日書付差出させ一覽之上同町年寄組合へ預置候

ニ付猪吉へ引渡候様申付ル銀錢家財之儀ニ候へハ受取談済候双方

書付印形被差出候様申付ル

正月十七日 雨 正月十八日 晴

一茅町玉津屋茂七悖理八儀去十一月致引負候上出奔其段親茂七ハ断

書差出候砌安岡町篠屋市右衛門米理八へ売渡候処代銀不相弁旨訴

状出茂七へ濟方候処其後内濟願下申出承届置候然ル処右理八罷婦

侯段願書茂七ハ出右篠屋米代之義も内濟ゐたし理八百日尋中之儀

ニハ候へ共申出方勿論理八不埒ハ難晴事ニ候へハ御裁許之義追而

御伺可申候ニ付先組合預申付候段一学殿へ於御用所申上尤大目付

中へも達ス

一旧臘申付置候安岡町大黒屋利兵衛ハ西川へ相廻候はた手札取戻候

由不残差出依之手鎖預家財封印差免他参留メ申付置追而一流はた

商ゐたしもの咎可申付ニ付其砌咎尚又可申付段及噺置委細一学殿

御承知被成大目付へも達今日呼出右之儀申渡差免封印切取計出番

老人差遣候順次忠蔵取計相濟御両所御届申達

正月十九日 晴 廿日 晴 廿一日 晴

一萬人講被仰付候而も障ニも下方相成間敷哉且又城州正法寺興行之

義如何被仰付可然哉之趣弁書ニゐたし差出候様一学殿ハ此間被仰

聞候ニ付今日相認御同人へ差出ス

一備州津宇郡妹尾村木綿屋太兵衛手代岩次郎と申者畳表元結売ニ参

候ニ付宿切手出ス中ノ丁福茂屋武助

一播州加藤郡三木町形屋与兵衛与申者老人紺屋形売ニ参候ニ付宿切

手出ス中ノ丁福茂屋武助

正月廿二日 晴 正月廿三日 晴

一米相場御藏米五拾式匁町米四拾八匁書付出ス

一福渡町田外玄道悖尚益儀去ル亥歳二月より久米南条郡下弓削村針

医ニ罷越候処右年数罷婦侯段断書差出

一ミの職人町津田屋善助家屋敷表口拾間裏行六間但老軒役也右家屋

敷去ル申八月坪井町浜野屋嘉一郎取次ニ銀札老貫目借用候処此

度返済又々当正月ハ同十二月迄元魚町藤野屋多吉取次ニ銀札老

貫七百目之家質願出承届同廿八日本証文出ル

一二かい町富屋宇兵衛娘新田村勘六妻ニ差遣置候処此度離縁仕候ニ

付町内人別人願出郡代所引合之上承届ル

一 林田町塩屋莊助家數二十五日前幾屋長右衛門其節橋本町ニ罷有候
ニ付家質ニ入置候処此度請返候旨断書出ス當時長右御門儀大庭郡
久世村ニ罷有ニ付同町鍵屋勘七代判ニ而出ス

一 福渡町作人又蔵娘龜借家八助後家当寅六十五才同人娘とく二十八
才林田村社人加賀方へ役介引受取申度人別離之義申出郡代中へ引
合之上承届

一 二丁目林田屋又次郎娘りつ当国勝山前田屋平右衛門養女ニ差越度
人別離願御用所及御沙汰御聞届ニ付大目付中へも達

正月廿四日 昼後雨

一 中ノ丁高雄屋勘七方紛失物同丁山西屋要助方へ風来ニ参候備前金
川出所侯由無宿定吉右勘七方日傭ニヤとひ候処襟物盜ミ取三宝屋
へ質ニ入有之由申出右定吉遂吟味候処実ハ勘七婦娘いわニ訳相有
之右衣類かり受侯由定吉申之ニ付勘七娘いわ遂吟味候へハ決而左
様之覚無之旨同人母申口も同様然ル処右宿山西屋要助定吉へ言教
勘七娘へ無実申懸候様相聞候へ共今日詮議ニ而ハ不相分ニ付定吉
要助兩人共手錠組合預勘七娘いわ組合預申付置組合の相尋候而可
申出候段申付置定吉三年ほと宿元出離帳之由ニハ相聴候へ共為念
逢川承合可申出申付ル委細之義一学殿へ申上大目付中へ以紙面達
置

正月廿五日 みぞれ雪 正月廿六日 曇

一 生野御代官所の飛脚到来旧年申来候去丑年中銭平均相場取ニ来調
置候ニ付及相答候事

一 大坂北久太郎町塚筋松屋甚兵衛手代平兵衛与申者小間物風売参候
ニ付宿切手出ス二階町塚屋伊右衛門

正月廿七日 折々小雨

一 町方之者他国他領罷越かさつかましき儀無之様兼々申付置候へ共
於他領富興行なと之場所ニ而喧嘩口論なと仕候様粗相聞依之向後
可相慎旨触達候事御用番一学殿へ御伺申上御差図之上大年寄書付
ヲ以触達候申付ル尤大目付中へも達

一 下紺屋町祇園修験右弁方ニ而散銭箱紛失るたし段届書差出即刻目
明共申付候段一学殿へ達

一 備前岡山下片上町大和屋清右衛門醬油売ニ参候旨宿切手出ス塚町
西川屋善助

一 勢川安野津国子村形屋仁左衛門手代庄次郎と申者参候旨宿切手出
ス右同人

正月廿八日 晴

一 御用日ニ付登城少々頭痛氣ニ付当病断之義郡代岸氏へ相頼
一 今晩大年寄罷出申候者元魚町美濃屋彦兵衛雇安岡町喜助と申者木
山寺へ代参ニ差遣候処去ル廿四日ニ罷出昨晩迄不罷帰跡の人の遣
と存罷有候処昨夜及深更勝山領莊屋の飛脚候者勝山領木山之山内
ニ年頃三十計之男行倒死居候処所持之風呂敷之端ニ元魚町と記有
之ニ付心当之義も有之候ハ、承度旨申来左候得者右喜助ニ而可有
之如何可仕哉と今晝七ツ時伺出尤疵所ハ無之由ニ付先庄屋の内々
申越候由依之大年寄へ及差図候ハ、疵所等無之旨ニハ相聞候得共
いヶ躰義ニ而死候哉之処無覚束先両町ニ而組合之内四五人此方も

内々之申合ニ而先差向死骸等疾と相改委細様子承たとへ脚死之様子ニ而も其俣ニ而可罷帰旨申付遣候様申付ル且又美濃屋方ニ而心懸り之義尚又安岡町兼而之様子等聴續候様申付目明なとニも其段申付ル拙者事不束ニ付一通右之趣御用番一学殿へ権六ヲ以申上置一茅町玉津屋茂七俣理八去十一月致出奔其節安岡町しの屋市右衛門商米取次不埒有之出奔右米代ハ茂七市右衛門へ致内濟候へ共不埒たし立去候上又々押而罷帰茂七も右躰之ものを押而願書出候事不埒ニ付茂七義ハ戸ノ理八事ハ居町拂申渡書ヲ以伺置候処今日御下知有之権六承之通用有之大目付中へも権六達有之明廿九日取計候ニ付夫々手配申付ル戸ノ之者貫并釘御作事へ申遣大工并持夫ハ大年寄へ申付ル

一二階町鳥屋金藏先年町払ヒニ申付置然ル処当正月梅香院様二十七回御忌御赦ニ徘徊御免被仰付候其段可申渡被仰出権六承之通意有之

一吹屋町孤独まつ御救扶持代銀札十式匆八分大年寄へ相渡帳面添渡

一新魚町村本屋治介四国遍路往来日數六十日計承届

一戸川町播磨屋七左衛門播州赤穂平治方へ往来七日計逗留承届

正月廿八日 晴

一玉津屋茂七同粉理八兩人共左之通申渡

其方儀旧冬安岡町しの屋市右衛門懸り合理八申渡之義有之致出奔候処右同人ノ訴状指出其御尋出候ハ、遂吟味相当可申付候得共親茂七市右衛門へ相懸り内濟願下申出願之通申付候乍然右一件始末不埒之趣ニ相聞其上一旦立去り押而罷帰候段不届ニ付

居町払申付之也

其方俣理八義旧冬安岡町しの屋茂七へ申渡懸り合之義ハ内濟願下事濟候へ共不埒之趣候其上一旦立去り押而罷帰候段不届之事候へ共以憐愍居町払申付候尤右利八義先達而百日尋申付置候処居所相知候ハ、委細申出差図之上可引戻処無其儀呼戻し置願書差出候始末不届ニ付戸ノ申付之也

右申渡之節立合例之通出番甚藏孫八兩人ニ而戸ノ追払共相兼追払一札西今町年寄取之戸ノニ付大工老人持夫老人差出ス右相濟一学殿相馬へ相達

一二階町鳥屋金藏徘徊御免之義申渡尤其段一学殿相馬へも達

正月卅日 晴

一元魚町美濃屋彦兵衛木山寺へ代參安岡町喜助行倒死骸見改ニ參候両町組合共昨夜帰着仕申出候者疾と様子等及見骸等委敷改候処少も疵所無之平日往来之道ニ而も無之場所全踏迷候内急病取詰候様子ニ被察取持之品々も相改候処是又少も相違無之候然ル上者致病死無相違趣御座候依之右喜助母願書差出候ハ組合共ハ罷越死骸相改候而病死ニ無紛ニ付受取於彼地葬相仕度旦那寺弓削村蓮久寺ニ而御座候間送引導持參仕取置度之旨相願勿論組合共向方參懸合ふり弁書差出病死之事故役所不及懸合下方相對ヲ以受取答ニ承合置候旨申出候右之趣御用番一学殿へ罷越委細書面ヲ以申上ル御聞届被成候ニ付大目付相馬へも達勝手次第向方へ參取置候様大年寄へ申付ル尤為後日死骸受取渡一札取かわし候義ハ可致事ニ候へ共尚又右取計^等可仕人物他町にても不苦相撰可申付段申付置但シ右喜

助倒死ニ付自他風聞等聴合目明共へ申付置候処表向申出候趣相違
無之旨申出承達

但屋敷ニ不限何方ニ而も支配違之場所

「屋敷などにて町方之者忍ひ博奕致候ハ、組之もの共為踏込可

申哉之旨一学殿へ御伺申上候処随分不苦候間其段可申付旨被仰渡

大目付中江も達組中江茂右之趣申渡

一坪井町勝屋文助悴清助儀四国遍路為仕度尤往来六十日計逗留承届
ル

二月 御用番 大目付

安藤丹後殿 海老原右衛門

朔日 風小雨 二日 晴

大年寄 玉置廣四郎
諸吟味 久米屋勘八

一坪井町高砂屋兵助同町小塩屋文左衛門大坂心齋橋筋榎木町玉子屋
九兵衛方往来三十日逗留願承届

二日 昼夜風烈 三日 風雪

一丹後殿ハ不参一学殿へ御用向申上ル

一茅町坂本町幸右衛門借家萬屋弥兵衛三浦備後守殿御領分真嶋郡垂
水村河内屋忠兵衛引受渡世為仕度ニ付人別離之義願出及御沙汰承

届ル

一山田彈正殿去月廿八日主膳と改号被仰付候旨大目付中為知依而町
方触知ル

一 去月勝山領木山於山内行倒死候安岡町喜助組合之者共彼地之參受
取弓削村蓮久寺送り引導持參取置相濟双方受取渡一札取之罷帰候
段今朝大年寄廣四郎申出御用所右書付委細為申上ル大目付中へ
も達

一 米相場御蔵米五拾三匁町米四拾九匁書付出

「町檜物屋源妻去十月の妊娠之処流産致諸吟味久米屋勘八差向吟
味申付年寄組合一札取之大年寄共差出尤医師容膝差添出丹後殿
へ及御沙汰

二月四日 雨 五日 少みそれ雪

一 中之町山西屋要助方ニ差置候風来定吉儀同町高尾屋勘七方紛失物
右定吉質ニ置候処勘七娘いわニかり候而質物ニゐたし候段偽候而
盜候趣相陳候処今日於牢屋遂再吟味候処先日吟味之砌申候ハ偽ニ
而実ハ盜取候儀相違無之旨及白状即刻牢舎申付ル且又要助事右定
吉盜賊筋携も有之哉之旨遂再吟味候処盜之義ハ一向不存ニ相決風
来者留置候而件之不埒仕候義幾重ニも奉見ノ段申之盜賊懸合候無
之ニ付手錠免番人も為引禁足只今之通相慎候様申付ル猶又勘七娘
いわ事組合預ニ申付置候へ共定吉密通之儀ハ無実申懸候而掛り合
之義無之ニ付預免勘七儀他參差留置候様大年寄共へ申付ル御用番
丹後殿并大目付中へも相違今日牢屋小頭部屋目付書役罷出佐五兵
衛勇蔵出番

一 配当帰城喜員城正両人共当年参加ニ付京都平文所へ罷出度於御許
容ハ逗留中之義ハ城定へ相頼置候旨願出承届ル

二月六日 晴

一上紺屋町幾野屋勘六京都本國寺へ參詣仕度ニ付往来廿日計逗留願出承届

一元魚町福増屋善兵衛持參候古道具取替株此度同町紙屋助右衛門江相譲り申度尤請人新魚町村本屋多四郎願之趣承届

一中之町平岡屋忠右衛門悴忠藏儀西國順礼罷出申度来ル十一日出立往来八十日計逗留願之通承届

一東新町黒田良朴四年以前亥歳去丑歳迄三ヶ年備前佐伯玉津屋孫六方へ參候此度罷帰猶又当寅ハ来ル辰ノ歳迄右同所同人方へ罷越度願承届

辰歳良朴死去巳ノ二月良朴後家計り帰ル

二月七日 晴 八日 晴

一正月中生死人別増減懷妊書付出ス出生十七人人別入式人人別離四人死失十三人差引而式人増御用番中へ差出

一月取勘定所へ銀札式百八十日相納受取印取之置
一安岡町三右衛門借家喜助母備前國整梨郡一場村門兵衛と申者親類ニ而候此者方引越人別除之義願出御用番中へ及御沙汰承届

一当國勝北郡田堰村利吉兄菅八坪井町沢野屋伝六養子ニ引請申度人別人願是又御沙汰承届

一下紺屋町修驗右弁紛失物届書差出候砌先達而文仙坊と致改号候処心得違右弁と書上候段不調法之段断書出以後可念入旨申渡置

一林田町鍵屋茂助今度山田主膳殿病氣ニ付高橋由三罷越逗留中宿仕度旨願出承届

二月九日 雨

一下紺屋町原田屋佐七借家守幸助借屋上紺屋町平屋忠七親鸞聖人旧

跡巡拜罷出度ニ付往来百日逗留願出承届六月廿日今三十日之日延願承届

一勢州安藝郡白子村形屋忠右衛門と申者紺屋形壳參候旨宿切手出ス

二かい町さかい屋猪右衛門
一西新町紙屋幾右衛門悴政吉田町丁子屋源左衛門悴武兵衛同町飯綱屋源兵衛悴兵助右三人之者とも明十一日立願望有之西國順礼ニ罷出度往来八十日逗留願出承届

一牢番足輕松岡佐助此間病氣罷有同役大谷甚兵衛暫老人結切候得者急ニ全快難計趣依之助之義申立大目附海老原右兵衛へ相達候処

勘定奉行中へ懸合受取候様被申聞栗田唯次へ其旨懸合置候前田才次与申者御使組右助相廻為案内罷出一通り対面御場所柄之義昼夜入念可相勘旨尤勤方巨細之義ハ大谷甚兵衛へ承合候様申達

二月十一日 晴

一藏合孫左衛門悴猪三郎備前岡山西中島和田屋平次郎方へ往来十日計逗留承届

一牢屋御普請所今日相始候段牢番相届

二月十二日 晴

一米相場御蔵米五拾四匁五分町米五拾匁五分
一京町年寄ニ文字屋徳左衛門商用ニ付大坂道修町伏見屋半右衛門方へ往来廿日計逗留願承届

一鉄炮町ニ而御使組松田縫次渡り屋敷ニ罷有候忠次与申者福渡町忠助縁類之者ニ付引受申度願一人人別入承届

一 鍛冶町鍛冶藤次郎久米南条郡弓削村六郎右衛門方へ当年中毎月十日計ツ、罷越鍛冶職仕度旨相願承届

一 林田町塩屋庄介病氣ニ付年寄役難儀仕候ニ付、助名代ニ差出度旨願承届

二月十三日 雨

一 去丑歳中生死人別出入書付差上候様被仰出候旨左之通書上ル半紙

去丑年中

一 出生合百六拾四人内男八十五人 女七拾九人

一 他所引受合百貳拾九人内男六十三人 女六拾六人ノ式百九十三人

一 死失合貳百三拾三人内男百十一人 女百貳人

一 他所引越合九拾五人内男五拾六人 女三拾九人

差引而拾五人減

ノ三百八人

一 懷妊之女合貳百三拾貳人

内百六十四人出生

五人死胎流産 難産之分

壹人他所へ引越

壹人出奔

壹人病氣ニ極候分

ノ百七拾貳人

残而六十人未産分

右之通ニ御座候以上

寅二月 後藤守介

一 牢番助今日夕堀内甚蔵と申者罷出候段為案内■念候様申達ス
一 安岡町扇屋仙介商用ニ付阿州徳島船場熊野屋勇助方へ往来廿日計逗留相願承届

一 新魚町河本屋猪之平妻御乳被召抱候其「」申渡候様植木左土

被申聞尤御用所へ伺之義ハ右同人ハ相濟御撥作之義ハ御給米拾三

俵御贈御仕着せ小兒へ里扶持二人扶持其外子供へ壹人半扶持宛合

三人扶持当時御手当銀札貳百目被下其旨大年寄共へ可申渡段申渡

一 堺町横東側表口拾間半裏行拾貳間半但式軒役京町北山周齊名代ニ

而買受置候処稻実屋義七郎名前附替之義願出承届

一 船頭町今津屋萬次郎所持之藍玉壳宿株当寅歳今来ル亥歳迄十ヶ年

同町板屋八十八へ預ケ申度旨願之通承届ル己十一月八十八日伊右衛門へ相戻ス

一 町方夜廻之儀世上盜賊沙汰近来静謐ニ相聞最早夜廻引候様申付候

而も可然候へ共俄相止候而ハ不ノニ而も却而可相成候付一夜両三

度相廻候様可申付且御家中非人加廻之事式組四人相廻候へ共是又

一 組式人ニ可申付哉之趣御用番丹後殿へ相伺候上右之通申付ル大

目付中ニも相達

二月十四日 晴

一 播州網千新在家村籠屋善七小間物風壳罷越候ニ付屋と切手出ス林

田中ノ町福茂屋武助

一 播州姫路龍野町和泉屋孫兵衛手代権次郎文三郎彦五郎勘藏忠次郎

右五人小間物風壳「」ニ付屋と切手出ス右福茂屋同人

二月十五日 晴

一 牢番助御使組鈴木忠太今日助番相当候旨為案内出ル

二月十六日 晴

一 塚町稻実屋義七郎播州姫路東魚町池田屋仁左衛門方へ往来十三日計逗留承届ル

一 安岡町北側米屋伊助家屋敷表口老間半裏口十四間半但シ式歩半役右家屋鋪代銀札百目同町久米屋岩吉へ売渡段願之趣承届

一 三木叶太長屋和助と申者夫婦両親倅老人合五人坪井町神田屋理助親類ニ付人別人願之通承届ル

一 林田町豊国屋重右衛門同町袋町ニ而持家表口四間半裏行六間半但三步役代銀札百目ヲ以町内三増屋利七へ売渡申度願之通承届同廿三日本証文出ル

一 西今町福場屋源兵衛役介源六儀去ル未歳断之上久米南条郡高屋村惣左衛門方へ奉公ニ參右年限相済罷帰候然ル処今三ヶ年同所ニ奉公仕せ度願承届

一 西今町沢田屋六三へ後家養子ニ入三郎儀勝手ニ付兩人倅召連夫婦共ニ実家久米北条郡中北村与三郎方へ来卯歳中罷越渡世仕度旨願承届

一 南新座御敷際ニ散錢櫃捨有之段目明共註進尤同人手前へ非人共訴出候ヲ直ニ非人共番ニ付置候よし依之大目付月番海老原右兵衛へ申達候右役筋構場所ニ付即刻見分被差出桶屋町年寄へ預被置候由被申知然ル処先格当役筋ニ而部屋目付共立会可申処少々彼等手前間違及延引候内右之趣大目付中一役所切ニ而見分相済

二月十七日 雨少シ

一米相場御蔵米五拾六匁町米五拾貳匁書付出ス

一 今日牢番助安并長右衛門

二月十八日 晴今曉風烈

一 新職人町瀧本屋平四郎借屋作人仁三郎儀去十月致出奔定法之通尋申付候へ共尔今尋出不申候尋之日数相立候ニ付人別除義平四郎の願出今日御同所へ及御沙汰承届

一 西今町高松屋太助当国久米北条郡里公文下村善藏平岩兵衛并妻夫婦共右太助養子人別人願承届御用所へ及御沙汰同廿六日住宅本証文差出ス

一 茅町玉津屋茂七戸ノ今日迄廿日ニ相成明日可差免之段於御用所丹後殿へ御伺申上候処考次第可申付之段ヲ差圖有之右三ヶ条共大目付中へも達茂七差免年番之義小頭部屋目付大年寄共へも申渡

二月十九日 晴

一 玉津屋茂七戸ノ之義於役所申渡立合小頭部屋目付町役人出番孫八甚藏大工老人召連茅町へ罷越取計単差圖大工差出候事大年寄の前日申付置

一 牢番今日助荒木弁藏出ル例之通申渡

二月廿日 雨

一 当二月迄大村庄介長屋ニ居候平左衛門と申者当時細川丈介長屋住ニ候然ル処昨十九日右平左衛門妻を庄介方へ召呼平左衛門妻を庄介内所さし殺候由委細之義ハいケ躰之義ニ候哉不得止事筋と相聞候右ニ付右平左衛門并同人倅新次郎父子共入牢申付候様御用番丹後殿より被仰渡尤大目付海老原右兵衛対談之上可取計旨被仰渡即刻右兵衛へ遂參及内掛合無程細川丈介の相替堀江右助ヲ以長屋もの当役所へ引渡候様被仰渡候趣被申聴相応之及答兼而年番致置候

ニ付即刻出番石名忠藏神田順次差向右兩人共手錠ニ而受取帰ル尤
書役小頭部屋目付立合ニ而左之通申渡

其方女房を昨日大村庄助妻殺害ニ付

牢舎申付候

元細川丈助長屋住

平左衛門

年六十六

其方母を昨日大村庄助妻殺害

ニよりて牢舎申付候

元細川丈助長屋住

新次郎

年十四

右取計相濟御用番中并大目付中へ御届申達賄之義受人江被申付候
様是又右兵衛へ懸合丈助へも其段左五兵衛為使申達

二月廿一日 雨

一林田村上之町村上吉右衛門母養女に西新町瓜生原屋喜兵衛娘を差
越申度願郡代所引合之上人別除之義承届ル

一東新町野田屋磯右衛門借家ニ居申候早助と申者家内三人共林田上
ノ丁次助後家借家へ引越申度旨願出郡代所引合之上人別除承届ル

一諸吟味直屋一郎左衛門用事有之ニ付備中国倉敷酒屋丈助方へ往来
七日計逗留罷越度願承届

一西今町直屋利助所持之他国受酒株東新町紙屋佐七方へ預ケ置候処
私手前へ取戻候段届書差出承置

一元魚町東側ニ而豊嶋屋伝次家屋敷表口式間半裏行拾七間但七歩五
厘役也此家屋敷代銀札三百五拾目ニ相極林田町福谷屋伊助へ売渡

申度願承届候事同廿五日売券状差出ス

一藏合孫左衛門梓猪三郎備前和田屋平次郎方へ差越候処未用事相濟
ニ付今七日加日之義孫左衛門願出承届

一牢番助今日小堀文次例之通申渡

二月廿二日 晴

一材木町年寄河内屋武兵衛へ申付ル

二月廿三日 晴

一米相場御藏米五拾八匁米五拾四匁書付出ス

一惣酒屋共願旧臘酒直段上ケ之儀願出候処又々壹分上ケ之義相願先
例寒作之節直段相究候へ共去寒作之節米価漸五拾目少余ニ相成候

処式分上願候ニ付壹分上ケ被仰付可然御用所へも申上候然ル処近
来米価追日高直ニ相成其上錢相場百文余ニ相成小壳等旁以難渋仕
候ニ付定法之通五拾目産名酒壹升壹匁五分諸白一升壹匁式分上酒

一升壹匁其以下式分ツ下リニ直段相究其旨今日御用所へ及御

沙汰候処御聽届被成候大目付中へも達急度先例者無之候へ共至而
酒屋共難渋ニ付直段上ケ申付ル旧臘壹匁酒壹匁壹分ニ申付ル猶又

今日壹匁式分ニ申付ル右直段積ヲ以壹分ツ直段上ケニ相成ル

一惣豆腐屋共大豆高直ニ相成其上錢相場百文余ニ相成候へハ当時豆
腐拾丁ニ付手間代壹分壹厘ニ相当今式文上ケ之義願出候処先壹文

上ケニ申付可然之段御用所へ及御沙汰候処御聞届被成候其段大目
付中へも達

一東新町鍛冶六右衛門娘当国勝北郡河面村文八と申者妻ニ差越度旨
人別除之儀願出御用所へ及御沙汰承届ル大目付中へも達

一 牢番助今日野田頼右衛門例之通申渡

二月廿四日 快晴

一 撰州難波順慶町老丁目山城屋弥三郎小間物風売參候旨宿切手出ス
中ノ町福茂屋武助

一 撰州豊島郡池田村月軒町植木屋平兵衛植木売參候旨宿切手出ス新
魚町鳥屋与三兵衛

一 大坂堺筋北久太郎町岸部屋茂十郎手代利八小間物おろし売參候旨
宿切手出右同人

一 先日以來所々散錢櫃盜取候ニ付目明とも詮議ゐたし候様申付置候
処丸尾元意拝領長屋ニ罷有候元半六當時勇助と申者去ル八日井口

村行者堂散錢櫃手懸ケ罷有候処同村百姓共及見候処逃去旨申出依
而今朝召捕ニ同心組差向候処一昨日木山辺へ參今日ハ罷帰候筈之

由手延ニ相成候而逃去候程難計ニ付直ニ尋ニ罷越可申哉之段途中
老人伺ニ參候ニ付罷越候様申付ル尤路用相渡遣今日出番石名忠藏

神田順次外中村勇藏目明甚助兩具持老人差添遣ス右之趣丹後殿右
兵衛へも達置

二月廿五日 雨

一 牢番助今日吉田市郎右衛門例之通申渡

一 河原町山形屋長七四国遍路往来日数百日計願承届ル

一 小姓町杉屋七兵衛借家金次郎と申者割場御中間被招抱ニ付御奉公
ニ罷出申度依之人別除願承届

一 中之町玉置三四郎家守和氣屋喜作借家龜屋兵助去十月往来百日奉
願四国遍路ニ罷出候処今以不罷帰依之今七十七日日延之義願出承届

一 西新町紙屋幾右衛門借屋井筒屋和兵衛往来百日奉願甲州壬延山へ
參詣仕候処今以不罷帰今五十日日延願出承届ル

二月廿六日 晴 二月廿七日 晴

一 元魚町湊屋後家四国遍路往来日数百日逗留願出承届ル

一 牢番助梶間義藏例之通申渡
一 西在へ半六尋ニ遣候組之者共夜ニ入罷帰其段丹後殿へ以手紙達置
一 大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門と申者唐弓弦おろし売參候旨宿
切手出ス東新町因幡屋新七

二月廿八日 晴

一 林田町辻番所及大破然ル処先達而非人夜廻申付當時番所入用無之
ニ付先崩置度之段申出其旨御用所及御沙汰勝手次第ニ申付ル

一 牢番松岡左助病氣全快今日出勤依之御使組助ニ及不申候段大目
付中并勘勘定奉行栗田唯次へも達

一 先日南新座ニ捨有之候散錢櫃寸法ヲ出候ニ付為見分御徒目付下目
付大鑑中ノ被差向其段心得被置候様右兵衛申来其段即刻大年寄
廣四郎へ申付ル

一 御用宿只今迄小鷹屋小鳥屋大坂屋小間屋四軒ニ而ハ折々差支難哉
之段問屋共願出候ニ付元魚町紙屋助右衛門京町加茂屋十兵衛今式
軒可申付哉之段御用所及御沙汰申付ル大目付中へも達

一 玉置廣四郎御湯殿道具拜借致罷在候処惣而御大名様方御通行之砌
差懸而御本陣ニも相成候節俄取立候義難相成依之永々拜借被仰付
被下置候ハ、町役銀近来省略勘弁ヲ以少々之余分有之ニ付別ニ御
湯殿雪隠取立置候様可申付候段大目付右兵衛へ申談候御用所へ

も達御聞届被成候旨被申聞其旨廣四郎へも申渡翌廿九日之処ニ受記

一吹屋町熱田若狹持福院下紺屋町萬性院一乗房戸川町八木求馬上紺屋町圓乘院河原町熱田市正右之もの共讚州金比羅參詣来月七日迄往来七八日計逗留願之通承届寺社取次引合済

一 下紺屋町嘉十郎当国勝山金田市郎右衛門方へ三ヶ年季奉公ニ参候処不勝手ニ付此度罷帰候段断出承置

一 勝南郡河辺村源七娘京町辻屋五三郎妻ニ引受度旨人別人願出郡代所引合済承届

一 東南条郡林田村上ノ丁権次娘西新町樽屋勘右衛門養女ニ仕度旨人別人願郡代所引合済承届

一 鍛冶町鍛冶伝右衛門役介金之丞久米南條郡南庄村十次郎養子ニ差越申度人別離之義願出御用所へも及御沙汰承届尤大目付中へも達

一 久米北条郡角石畝村百姓庄七と申者茅町作人在七と申者親類ニ而候処不勝手ニ付此度引受渡世為仕度人別人願出御用所及御沙汰承届尤大目付中へも達三月七日住宅本証文出ル

二月廿四日之取計

一新魚町一文字屋米四郎持来古道具屋株林田町平井屋弥助相讓申度願承届京町田戸屋宗十郎受人相立

二月廿九日 雨

一 大庭郡久世村丈兵衛当町七人之者へ操綿質物差滞ニ付訴状并生野添翰ヲ以願出渡方申付候へ共再訴之趣難取上ニ付其旨生野役所へ返翰右丈兵衛へ相渡候処其後数日相立候へ共何之否も生野不申

来然ル処当所七人之もの質綿請引も不致長々願置候而ハ難波之趣右七人ハ願書差出依之生野役所へ様子承ニ飛脚可差越之旨昨日於御席奉窺候処少々文段等思召有之今日尚又伺候処書面可差向様ニ

丹後殿御差函有之尤大目付中へも書状下案并七人之者願書入一覽各飛脚之者小勤者吉田文左衛門へ申談晚方原田与蔵役所へ罷出生野江之書状相渡勿論下方へも右之趣申渡候様大年寄共へ申渡

一 去ル廿四日西在へ半六尋ニ遣候組三人共一昨廿七日夜帰ル然ル処半六懇意之者も有之内通之義無覚束出役先直ニ西在へ尋差越候

処其日猪式村江入込不申日も晚之候由ニ付落合ニ泊翌朝半六在所猪式村へ参候処前夜逃去候由不得捕其上伺もなく数日をり心得違

之旨小頭部屋目付立会呵置勿論間違候段一通御用所へも申上ル右半六ハ迎も急ニ尋出候様ニも参中間敷何分目明非人共心懸召捕候

様申付ル旨申上置大目付中へも達

一 玉置廣四郎永拝借ニ被仰付候御湯殿道具別格之損シ者従上御繕被下候少々之義ハ手前ニ而取膳候様大目付右兵衛被申聞其旨廣四郎へも達置

二月廿日 雨

一新魚町福本屋莊介借家作人文助昨夜近辺へ罷出九時後帰候処表口明居申ニ付内へ入何角相改申候処四畝蒲団一式升釜古拾一右同断

一 右四品紛失致候段断書出ス即刻目明共へ詮議申付置

但補なし

一 生野役所江之飛脚今日出立尤日付も今日ニ認昨日原田与蔵へ渡

三月

御用番 小須賀一学殿

大御目付 平井郷左衛門

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 直屋市郎左衛門

朔日 晴

三月二日 晴

一三丁目竹津屋胡三郎商用向ニ付而大坂淀屋橋南詰錢屋七郎右衛門方へ往来廿六七日願出承届ル

一坪井町勝屋文助商用向ニ付而大坂梶木町玉子屋九兵衛方往来廿日計願承届ル

三月三日 晴

一若殿様江上巳之御祝儀可申上哉之旨大目付中権六承合候処不及其儀旨ニ付類役何も罷出

三月四日 晴

一年頭之為御祝儀大年寄三人并惣町御卷一程宛差上被遂披露候之旨江戸御奏者中書狀到来右大年寄共歳末祝儀申上候段ハ先達而申来候へ共今日一緒申渡

一材木町魚屋権兵衛伊勢参宮三十日計承届ル

一堺町団屋文七四国遍路往来八十日計承届

一元魚町能勢屋勇次郎借屋富貴屋治左衛門四国遍路往来百日計承届

一右同町年寄藤野屋留吉讚州金比羅江参詣往来七日計承届

一宮脇町角屋傳助四国遍路往来九十日計承届

一西今町久米屋勤七梓嘉兵衛儀商用ニ付撰州大坂心齋橋筋梶木町玉

子屋九兵衛方へ往来廿日計承届

一下紺屋町渡部三隅用事有之ニ付大坂平野町高橋由三方へ往来三十日計承届

三月五日 昼後六雨

一坪井町小塩屋茂右衛門母病氣養生旁大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ往来三十日計承届

一三丁目年寄助左衛門商用躰ニ付大坂大河町錢屋七郎右衛門方へ往来廿日計承届ル

一新魚町米屋新兵衛借屋大工平七儀四国遍路往来九十日計承届ル

一元魚町河内屋与七借家中野屋五兵衛四国遍路九十日計承届ル

一さかい町国屋幸七伊勢参宮罷度往来廿四日計承届ル

一橋本町吉見屋儀助借家西屋儀兵衛妻四国遍路九十日計承届ル

一元魚町よし屋清藏伊勢参宮往来三十日計承届ル

一新魚町松屋清右衛門盼猪之助四国遍路往来八十日計承届ル

一橋本町莊野屋平吉母并妹右兩人四国遍路往来九十日計承届ル

一京町大村屋藤兵衛商用向ニ付大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ往来参

十日計承届ル

一堺町古川屋源七右同断往来廿日計承届ル

一元魚町縫屋宗兵衛讚州金比羅参詣往来十日計承届ル

一備前国小畑町岸屋甚八元結嵐壳参候間例歳之通宿切手出ささい

屋伊右衛門

一讚州金比羅参詣往来七日計茅町左之者共一紙連印相願承届ル

茅町 惣吉 同人母 三介 同人母 平次郎 幾之助 猪八 同

人母 幸助 遊右衛門 長右衛門 善太郎

一 齋藤孫右衛門妻義讚州金比羅參詣往来十日計同役玉置廣四郎加判願出承届ル 同十六日今五六日加日承届ル

三月六日 晴

一 西今町紙屋六藏浅島屋茂兵衛菱屋治兵衛公文屋藤吉弓削屋源右衛門常屋文吉井口屋利助橋本屋儀八右町内之者共明七日立讚州金比羅參往来十日計承届ル

一 元魚町さし屋長左衛門住屋市左衛門右同断願之趣日数同断承届ル
一 下紺屋町原田屋佐七梅屋卯助兵庫屋弥助妻中谷屋幸助妹作人藤右衛門右同断願之趣日数同断承届ル

一 三丁目播磨屋市右衛門安岡町大坂屋順助鍛冶町三國屋吉右衛門新職人町桶屋茂兵衛西新町年寄いさき屋長左衛門美濃職人町乗物屋佐吉右之者共共明七日立讚州金比羅參詣往来十日計承届ル

一 坪井町河原屋治助讚州金比羅參詣明七日立往来廿日計堺町小山屋治助右同断日数十五日計右承届ル

一 西今町永野屋安之丞商用向ニ付撰州大坂槐木町玉子屋九兵衛方へ往来三十日計承届ル

一 新魚町年寄嘉兵衛右同所心齋橋筋安倉屋長兵衛方へ商用ニ付往来八日立往来廿日計承届ル

一 福渡町芝屋嘉助家守桶屋多七借家利助姉明七日立四国遍路往来九十日元魚町あふり屋歌次郎母召連右同様往来八十日承届ル

一 吹屋町作人十藏妻明七日立四国遍路往来日数百日元魚町米屋新兵衛右同断鍛冶町横野屋胡太郎母右同断東新町紺屋長次郎来ル十二

母 日立日数同様承届ル

一 京町挽屋家屋敷表口式間裏行拾七間御堀切壹歩五厘役也右之家屋敷代札百拾匁ニ極田戸屋宗十郎へ売券願承届ル同十一日沽券証文出ル

一 銭相場百貫文通用ニ相成ル

一 去月廿日立ニ而生野へ遣候飛脚原田与藏今日四時過罷帰返輪到来即刻御用番一学殿へ差出返書文段ハ別帳ニ書入扣候ニ付此ニ文略ス

三月七日 晴

一 西今町玉屋吉右衛門妙願寺長屋ニ只今迄居候武助と申者引受渡世為仕度旨願之趣承届

一 西今町庭瀬屋平七関十次組山中落右衛門役介幸助と申者平七養子ニ引受申度旨人別人願承届

三月八日 晴

一 町方夜廻りの儀夜中二三度ニ差寛メ遣候へ共近来世上盜賊沙汰も静ニ相聞先夜廻差免可遣哉之旨御用番一学殿へ御伺申上候処考之通可申付旨御差図有之尤御家中非人加廻之義同断相伺今日相止ル其段申渡候様大年寄孫左衛門へ申渡大目付中へも達取

一 町方貸付月収銀札式百八十目御勘定所へ相納受取置

一 播州網干丸尾屋六三郎と申者例年之通荒物并塩物売右同国同所平松屋惣九郎と申者小間物并曝獵売被參候旨宿切手出ス中野丁小山屋与惣右衛門

一 二丁目福永屋藤助親藤左衛門義京都妙覺寺參詣仕度来ル十日立往

来三十日計願承届ル

一安岡町吉川屋安左衛門商用事ニ付来ル十日立大坂行往来三十日計承届ル大河町銭屋七郎右衛門方へ

一安岡町扇屋兵助俸仙助儀去月十四日立阿州徳島へ参今以用事不相濟依之今日計都合三十日追願承届

一中ノ丁菊屋兵藏借家岡屋槌之助姉当国真島郡垂水村伝兵衛方へ三ヶ年季奉公差越度願承届ル 天明四辰九月罷帰候段断出ス

一美濃職人町憲法屋安兵衛弟莊助下村友右衛門殿へ出入奉公ニ罷出候処此度暇被差出候ニ付町内人別入断出承届ル

一播州網干余陸屋武兵衛八百屋物并鯉節売ニ参候ニ付宿切手出ス林田中ノ丁小山屋与三右衛門

三月九日 雨

一西今町永田屋喜七同町正田屋吉右衛門甲州王延山参詣明十日立往来六十日計願承届ル

一元魚町墨屋理兵衛安岡町神場屋猪兵衛大坂心斎橋筋梶木町八丁目玉子屋九兵衛方へ明後十一日立往来三十日計願承届ル

三月十日 晴

一川口藤十郎俸希右衛門京都妙覚寺へ参詣為仕度明十一日立往来三十日計願出御用番中へ及御沙汰承届大目付中へも達

一二丁目福寿屋新兵衛妻京都妙覚寺参詣明十一日立往来三十日計承届ル

三月十一日 晴

一昨夜鶏鳴之頃ニも候哉大年寄共申出候ハ林田町平井屋善六昨九日

之夜便所へ罷越兼々積氣ニ而心氣も乱候事も有之悻源助ハ留守娘

并善六妹参居尤善六妹ハ娘之母也ともに介抱るたし然ル処右雪隠之中ニ而苦しき声立候へ共兩人共婦人之事近辺親類共へ通候処即時ニ駈付様子ともに相窺候処小合口をかくし置自滅之様子咽喉一

ヶ所腹三ヶ所いづれも浅手即刻渡部貞斎外療ニ而療治致遣候由右源助親類組合の呼ニ遣候へ共未帰不申旨組合共右之者たち訴出候段大年寄廣四郎の孫左衛門不快ニ付申出依之兼々家内不和又ハ

其外申分等有之候而之事故ニ而ハ無之哉と相糺候処先乱心之様子相違無之旨申之ニ付承置今朝部屋目付石名左五兵衛為見分差向候

処彼是年寄共承糺候内右善六落命仕候段申出候ニ付死骸見分直ニ可仕哉之段伺出候ニ付及差図無程致見分一札取之罷帰委細御用番

一学殿へ遂参御届申達大目付江も達尤悻源助留守之義帰次第彼存所も無之候ハ、取捨等之義御伺可申達旨申置同十六日追込之事

一出羽守様来ル十四日御国元御発駕被成候ニ付継馬三拾四疋人足百七十人御先触去ル八日出廻状今未下刻問屋場へ到来取計触状等差

出尤郡代中へも為相知触状名前

松崎六左衛門片山良平
元ノ 龜定七 奥野林左衛門
林原将太

一夜ニ入平井屋源助罷帰候段申出候ニ付親善六変死之義兼々心懸リ之義有之哉今朝親類組合為立合見分之節一札差出候通無相違候哉

之段且又兼々積氣ニ心氣も乱候事も有之旨左も候へハ他行等之節ハ手当等不行届件之横死ニも及候義ハ不心得之段申聞候処不調法

一言之申方も無之恐入後悔仕候段申之ニ付書付印形取大年寄孫左衛門の差出ス

一 雲州清水寺常念仏勸化之由旅僧兩人御家中なとへも相廻候由ニ付宿相糺候処橋本町若坂屋藤吉方ニ致逗留候由相聞候ニ付即刻若坂屋遂吟味候様大年寄孫左衛門へ申付候処去ル六日迄逗留候由甚不調法奉恐入候旨申出尤右僧為相糺候処清水寺の勸化ニ出候慥成証抛無之風来越候口すき之旅僧と相聞候ニ付今夜ハ先宿藤吉預ケ申付置

三月十二日 不正

一出羽守様近々御通行昨日御先触到来候旨御用番一学殿へ席も有之及御沙汰候処諸事先格之通可取計旨被仰渡大目付中へ及噂且又右ニ付寄せ馬之義郡代中被仰達被下候様郷左衛門へ申達置

一出羽守様御通行ニ付先格之通町方触書差出尚又御道為見分小頭并大年寄廣四郎諸吟味市郎左衛門差出

一 平井屋善六俣源助昨夕罷婦相糺候趣今日一学殿へ及御沙汰右源助商用と乍申極老其上不正氣之病人為備介抱人不付置遠方罷出候義尤変義之事ハ無是非候へ共不埒ニ付追込等可申付哉何分善六死骸取捨等申付其上咎メ之義ハ可相同旨申上候処尚又相考可申上旨被仰聞候事

一 橋本町若坂屋藤吉方ニ留置候雲州清水寺勸化之由御当地徘徊之旅僧之義一学殿へ今日及御沙汰右僧者不束なからも畢竟ハ宿藤吉不埒事発候へハ右藤吉咎メ之儀考之上可申上候差当右旅僧之義ハ無断勸化致候段不調法至極之段一札為致候上御境目へ宿藤吉并組合差添立去可申付段御伺申上候処其通可取計旨御差図有之依之目明兩人為立合旅僧知玄玄水二人共誤り一札為致右域御境目へ相送ル

右取計相濟候上藤吉義ハ禁足申付ル同十六日追込之事

一 上高倉村百姓彦七姉吹屋町なへ屋忠右衛門俣初次郎妻ニ引請申度旨人別入之儀願出郡代所引合之上承届ル

一 京町年寄菊屋清左衛門近年病身罷成難儀仕候依之俣藤藏名代差出申度旨願出承届ル

三月十三日 晴

一 先月中惣町妊娠之者并生死人別出入書付左之通御用番一学殿へ差出

妊娠八人出生十五人男子七人 女子八人人別人拾老人人別離口人死失十式人都合差引而六人増

一 平井屋源助親善六横死致兼々介抱不行届不埒ニ付追込且橋本町若坂屋藤吉風来旅僧留置剩右僧勸化ニ為致徘徊候義不届ニ付追込右兩人咎之義申渡下案を以一学殿へ御伺申達候処書面之通可申付御指図之事大目付中へも達文段ハ申渡扣帳留置

一出羽守様御通行ニ付御貸人馬之儀大目付中へ申達尚又小勤者三浦仙左衛門へも談置

一 右御通行ニ付寄馬五疋問屋共申出則郡代中へ及懸合置都合上十四疋御先触通ニ候へ共通之馬之内問屋共懸合相濟候由ニ付五疋ニ而濟ム

一 御当日御徒目付下目付立宿之義書付ニ而大御目付中へ差出 安岡町 養屋太助

一 御馳走舟之義当年者兼田川土橋有之ニ付院庄川計へ御船被差出御藏元并船年寄下裁許人申付罷候様御船奉行佐藤彦右衛門被申聞

一刻大年寄へ申付ル御使之宿齋藤次左衛門相勤候段御使番右同士へ達且又御取次同人被相勤候由尚又為心得大年寄共申聞置

一御当日在宿醫師本道井上道可針医笹岡休□申付ル

三月十四日 晴

一米相場御蔵米五拾九匁五分町米五拾五匁五分書付出

一京町北側作人忠四郎家屋鋪裏行拾七間表口三間半但七步役也代銀

札三百六拾目相究町内桶屋勘左衛門へ売渡申度願承届ル事同十九

日売券状差出ス

一中之町北側堺町三津屋辰之助所持家屋敷表口式間半裏行十七間但

半役也右家屋敷同町山手屋幸助へ売券願承届候事同廿一日売券状

差出ス

一久世村丈兵衛先達而当町懸り合之質綿請引ニ罷出候得共生野役所

へ懸合候趣ハ丈兵衛痛所ニ付一先婦村仕度旨申立其旨被聞届候由

申来然ル処其後支配所へも未罷出当所へ罷出候付双方相達ニ付難

貪着成旨作右衛門申間差返ス委細御用番一学殿へ御伺申上候上

取計郷左衛門江も申達

三月十五日 朝之内雨昼夕晴

三月十六日 晴

一橋本町若坂屋藤吉林田町平井屋源助右兩人去ル十三日追込同相濟

候へ共御日柄差「」昨日ハ式日旁今日追込ニ申付ル尤大年寄孫左

衛門宅取計小頭部屋目付差向相濟御用番一学殿并大目付中へも達

一坪井町角屋庄助商用ニ付而大坂南堀江巷丁目はりま屋与兵衛方へ

来ル十九日立往来廿四五日計承届

一堺町三津屋平右衛門家守丸屋甚六借家桶屋市右衛門粉塩谷辰治と相改小沢諸鈴家来召抱ニ付而人別離之義願出承届ル

一出羽守様今夕御止宿久世村へ問屋共今聞合差遣候処弥久世村御止

宿被成候旨夜中ハ半時頃申出承置

三月十七日 雨

一出羽守様御通行ニ付為御馳走先格之場所へ罷出立宿西今町坪屋藤

十郎辰過刻罷出院庄へ御着被成候為知郡代岸権六〇九時手紙到来

同所御立被成候為知手紙同人〇九時過到来夫〇大年寄共取計差出

置候遠見天王端〇同刻罷帰ル此節立宿〇妙法寺横丁へ罷出違筋橋

遠見罷帰無程御通行御目見申上ル例之通御駕籠脇披露有之御目錄

被下町分御通行相濟候内立宿ニ扣罷有為註進承退出御用番一学殿

へ罷越御届申達大目付以手紙相届ル 供立左之通

馬口中間 若童兩人同心組神田順次 錦合羽箱

御先弘小頭室井作右衛門平組三舟孫八福田甚蔵馬駄部屋目付石名

佐五兵衛平ニ而竹内兵助何連も先格之通被下物有之

右御通行ニ付人足貳百廿人 此増三百七拾四人

内廿七人馬人足

馬三十四疋

右之通書付出ス

三月十八日 晴

一出羽守様昨日御通行ニ付罷出候処拙者始出役組之者迄

一河原町山形屋新太郎惣社宮へ心願有之候ニ付同所於社地廻之小

相提取相集晴天一日華角力興行仕度旨願出寺社取次中へも引合之

上御用所及御沙汰候処承届可遣被仰聞大目付中へも達

一安藤丹後殿御帰城御供立帰出府被仰出候旨大目付中へ被為知類役相揃御用所へ罷出御悦申述ル

一先日南新座御敷際ニ捨有之斎錢櫃其節桶屋町へ大目付中へ預ケ被置候妙願寺へ申出吟味相詰無相違ニ付可相渡寺社取次へ申達候懸合有之口可相渡先日被申聞今日手形を以北郷門兵衛江引渡受取書印形取之大目付郷左衛門へ相達

一三丁目井筒屋徳次郎所持之他国請酒株同丁幸助へ三ヶ年貸申度願右兩人一紙ニ相願承届ル

一三丁目井筒屋幸助上京来ル廿日罷立往来三十日計承届ル

一二宮村立石齋兵衛父左治病氣為養生当年中西今町桑屋安右衛門方差置度願郡代所引合済承届

一吹屋町南側かま屋善三郎家屋敷表口三間式尺裏行六間但半役也代銀札百五拾目相究同町作人治助へ売渡申度願承届ル売券状出ス

一播州網干新在家伊部屋清六右同国網干余子浜菊屋弥七郎悴源次郎小間物おろし売右清六ハ塩物鯉ふしおろし売例年之通參候ニ付宿切手出ス林田中ノ丁甲屋石兵衛

一京都状見海道五条上ル丁森下町近江屋勘兵衛小間物きせる卸売參候旨宿切手ニ階町さかい屋伊右衛門出ス

三月十九日 晴

一坪井町中津屋惣十郎悴常助儀阿州徳島新町橋四丁目宮島屋治兵衛方へ明廿日立往来三十日計承届ル

一堺町豊屋喜左衛門京都柳馬場四条上ル丁近江屋七三郎方へ来ル廿

一日立往来三十日計承届ル

一兼々酒運上之儀枚数ヲ以相納候而ハ難儀之旨惣酒屋相願運上奉行へ勘定奉行へ達有之引合之上勘定奉行へ同有之向後枚数相止老石ニ付七分ツヽニ相究造込多少ニよつて差上候様申付尤造込時節酒改ニ運上奉行下代差添改之御立ニ相究ル委細勘定奉行近藤猪左衛門へ通用有之

一吹屋町米屋多助借家新魚町多助妻去十月より妊娠当月六ヶ月ニ而流産仕候処死躰之旨届出即刻吟味役直屋市郎左衛門差向逐吟味一札取之差出

一播州今市綿屋嘉一郎手代武兵衛伊兵衛与申者呉服売參候旨宿切手出ス堺屋伊右衛門

一元魚町鞠屋猪介商売躰ニ付大坂榎木町玉子屋九兵衛方へ明後廿一日立往来四十日計承届ル

三月廿日 晴

一二階町塗師勘平用事有之ニ付大坂心齋橋筋玉子屋九兵衛方へ来ル廿二日立往来三十日計逗留承届ル

一下紺屋町松本屋長松先達而備前岡山へ罷越候処於向方病氣ニ付来ル四月二日迄日延之儀同人妻願出承届ル

一二階町組屋勘十郎去年已来足痛を以不相勝ニ付摂州難波村孫左衛門方ニ療治ニ參度尚又有馬入湯三廻仕度廿二日立往来六十日計承届加日廿日五月廿三日願出承届

一茂渡莊右衛門悴惣十郎儀大坂天満与力古屋甚左衛門与申者方へ差遣度来ル廿二日立往来四十日計承届ル

三月廿一日 晴

一 林田町かと屋又治借屋武藏屋源次上田九右衛門長屋へ引越人別離願承届

一 上横野村源八伴勤兵衛娘二丁目小倉屋茂兵衛伴十四郎妻ニ呼取度願郡代所引合承届ル

三月廿二日 晴

一 播州網干馬屋彦右衛門小間物おろし売右同国同所塩屋伊兵衛同弟助三郎右両人荒物塩物おろし売林田中ノ町高尾屋勤七宿切手差出ス

一 二丁目紙屋長右衛門宿願御座候ニ付大岑山上參詣来ル廿四日立三十日計承届

一 坪井町福伊屋猪三郎大坂淀屋橋筋梶木町松屋甚兵衛方へ右同町市勢屋与市大坂心斎橋筋梶木町玉子屋九兵衛方へ明廿四日立三十日計承届

一 播州網干余陸屋宗七八百屋物おろし売參候旨林田中ノ町高尾屋勤七宿切手出ス

三月廿三日 晴

一 船頭町南側川嶋屋又十郎後家家屋敷表口^{三間}八寸裏行五間四尺九寸土手限九步役也町内新屋藤助へ売渡申度願承届ル代銀札六百三拾匁相究候由同廿九日売券状差出

一 船頭町川島屋又十郎後家家屋鋪表口式間七寸裏行五間四尺九寸但六步役也土手限代銀札四百式拾匁ニ相究町内高瀬屋勤右衛門へ売渡願承届候同廿九日売券状差出ス

一 備前岡山松平内蔵頭殿家中榎健齋上坂九八郎川島桃庵親類ニ付參七八日逗留願承届ル

一 備前国岩梨郡石蓮寺村多兵衛伴七兵衛と申者中ノ町広戸屋伊右衛門親類ニ付引受渡世為仕度人別人願御用所へ及御沙汰承届

一 新魚町多助妻流産之義及御沙汰

一 美濃職人町ニ而茂渡庄右衛門持借家与七郎家内四人共久米南条郡大戸村百姓久作縁類ニ付為渡世引越人別離及御沙汰承届

一 東新町弓削屋与之八親猪右衛門先達而林田村ニ持高有之ニ付忝人残罷有与之八始家内之者町人別ニ相成居候処今度右猪右衛門与之八方へ引取申度人別人願郡代所引合承届

一 三舟八郎右衛門真賀温泉病氣為養生明廿四日三十二日計逗留願承届

一 京都中江弥左衛門用事有之罷越四十日計承届ニかい町塚屋猪右衛門願承届

一 安岡町久米屋勤八妻娘召連讚州金比羅參詣来ル廿五日立往来十六日計承届

一 城州正法寺役者青松寺施入銀貨附講興行之義ニ付此節可罷下処少々不快ニ而難罷越旨来書ニ付其旨一学殿へ相達返翰ニ粗申遣可然哉と相伺候処考之通取計様御指図有之返書下案ヲ以伺候而取計尤大坂御藏屋敷迄差越明廿四日立町便ニ申付ル

三月廿四日 晴

一 安岡町三倉屋新助同町大坂屋宇八右之者共妻讚州金比羅參詣明廿五日立往来廿日計承届ル

三月廿五日 雨

一元魚町東側二丁目福永屋藤助持家表口七間裏行十七間但老軒役也
右之家屋敷五人組相談之上同人甥福永屋幸吉へ譲渡申度旨願出承
届ル五月十六日本証文出ル

一東新町大地屋辰三郎妻去ル廿二日七月子出生弱虚ニ候処昨夜死死
之書付ヲ以申出尤医師箕作文庵書付添出ス承置

三月廿六日 雨

一安岡町久米屋友七讚州金比羅參明廿七日立往来廿日計承届

三月廿七日 晴

一 二階町藤本屋勘吉与申者錢勝負「儀昨日表口ノ右参会之様子ニ
付昨夜大年寄とも宅ニ而為相糺口書取之差出依而右勘吉禁足申付
置

三月廿八日 晴

一 船頭町和泉屋銀兵衛弟清三郎播州佐用郡平福村吹屋清左衛門方
養子差越度人別離願出今日御用所及御沙汰承届大目付中へも達

一 東新町大地屋辰三郎女房出生小兒病死候段今日一学殿へ達

一 右藤本屋勘吉儀賭將棋さし候へ共実ニ錢取遣りハ不仕段申之畢竟
鎖細成事ニ候へ共先達諸賭勝負御停止稠敷被仰出候へハ弛之端ニ
も可相成候ニ付追込申付相当可仕哉之段書付を以御用所御伺申候
処考之通可申付旨被仰出大目付中へも達申渡ハ明日手配申達

一 林田町平井屋源助橋本町若坂屋藤吉追込来ル朔日十五日ニ相成差
免可申哉伺候処考次第可申付一学殿御差図有之大目付中へも達

三月廿九日 晴

一 二階町藤本屋勘吉追込申付ル申渡別帳ニ有取計大年寄宅小頭部屋
目付立合「尤御用番中并大目付中へも御届申達

一 林田町奈良良喜助妻極月々経行無之候へ共妊娠否之義医師方も難
見分旨断出いづれ共極次第尚又可申出大年寄ともへ申達置

一 西今町車屋七郎右衛門伯州阿比縁解脱寺參詣仕度明朔日立往来九

十日
■計承届右同町湯田屋万吉阿比縁參朔日立往来九日計承届

一 林田町田部屋治助去ル子歳6当寅迄三ヶ年季奉公勝山金田市郎右
衛門方へ參居候処又々三ヶ年季同所ニ而相勸度尤家役ハ借家作人
義助ニ為相勸度旨願承届

四月

御用番 小須賀一学殿

大目付 渡部相馬

大年寄

齋藤孫右衛門

諸吟味

山本屋与三七

朔日 晴

一 例歳之通御戴際竹子ぬき取申間敷旨町触出ス文段如先格尤扣帳ニ
留置

一 橋本町若坂屋藤吉林田町平井屋源助追込差免尤御用番中并大目付
中へも御届申達置

四月二日 晴

一 玉置卯左衛門梓三四郎備中矢懸中村与四郎右衛門方へ明後四日立
往来十三日計承届

四月四日 晴

一安藤丹後殿御帰城為御迎今朝江戸表へ出立

一札元補缺植月孫四郎事久々病氣罷有御役儀難相勤ニ付役免之義先日願出勘定奉行引合之候上御用所へ及御沙汰置候處今日於御用席

御役免願之通申渡候様一学殿被仰渡大目付中へも達尤下地御用

達ニ而之役札元補欠ハ御免御用達ハ只今通可相勤被仰付候也孫四郎同道罷出候様大年寄へ申達孫四郎病氣ニ付名代妹尾平兵衛罷出

大年寄并小頭諸吟味立合右之趣申渡御扶持方ハ札元ニ付被下置候

故御扶持ハ相止ム

一備前和氣郡笠原村萬右衛門弟熊吉儀東新町鍛冶屋市郎兵衛弟子ニ

致引受家人人別へ差加度旨願出御用所及御沙汰之上承届

一西今町かと屋吉兵衛不勝手ニ付娘并孫兩人とも当国大庭郡久世村

尾張屋藤介役介差越度旨願出御用所及御沙汰承届

一玉置廣四郎備中早嶋油屋儀兵衛方明後五日立往來十三日計願出御

用所及御沙汰承届

一橋本町後藤屋孫市持分家南土手へ出ル細合町造作致候ニ付往來難

成普請中繩張致往來差止申度旨願出大目付中迄及噂候上承届ル

四月四日 晴

一林田町かと屋又治借家武蔵屋源次宿株之義何連江も不讓人別相離

候段不束恐入乍然用捨を以宿屋頭兩人預り申度旨願出願之通伊右

衛門庄右衛門へ源治宿屋株預ヶ置追而相応之士願候ハ、可申付旨

孫右衛門へ申渡置

一元魚町肥後屋佐七家守笹屋藤治借家播磨屋勘次郎去月十四日商躰

罷出候処行衛不相知旨断出百日尋申付ル

一奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助墨壳ニ參候旨宿切手差出京町瀧山屋惣兵衛

四月五日 晴

一三丁目浜野屋重郎兵衛悴寿四郎先達而伏見檜皮屋喜十郎方へ差越

置候処病氣ニ付為養生罷掃候快気次第罷登候度旨断書差出承届

一新魚町黒田屋宇兵衛○大坂藏屋敷村尾彦右衛門方三ヶ年奉公ニ參

度願承届

一東新町倉敷屋佐兵衛家屋敷表口式間半裏行十七間但式歩五厘役也

同町桶屋平五郎六ヶ年前西才賃入ニ致置候処此度元利返済之上尚

又同人へ銀札四百三十日利足一割半当十月借用之旨願出承届旨見本

一播州姫路南町大村屋平吉弟茂兵衛墨筆太物おろし売參候ニ付宿切

手出ス中ノ町甲屋名兵衛

一大坂北小太郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛大工道具売參候ニ付宿切手

出ス京町海老屋長右衛門

四月六日 晴 四月七日 雨

一鍛冶町南側莊助家屋敷表口壹間半裏行八間但三步役也右家屋敷五

人組相談之上同町かち伝蔵売渡申度願出承届代銀札三百目相極候

也「何之聊も無由又同十八日売券状出ス

一坪井町小塩屋茂右衛門母登坂当五月三日迄日延之願承届ル

一西今町永野屋安之丞登坂三十日之願然ル処未商用不相濟今十五日

計加日願組合共々差出承届

四月八日 雨

一二階町藤本屋勘吉明九日ニ而十日ニ相成追込差免之義御用所御伺

申上候処考次第可申付旨差向候事

一先月中町方生死人別人出入妊娠改書付差出左之通出生九人死失十人別人別人別除七人妊娠十五人右書付御用所へ差出

一町医中島清庵宗之と改号之義願出御目見も致候ニ付御用所へ及御沙汰承届ル

一中ノ丁西屋治三郎店借作長右衛門娘当国勝南郡瓜生原村幸之助妻ニ差越人別除願御用所及御沙汰承届

一当国西々条郡長藤村庄助世倅庄七鍛冶町神場屋善七養子人別人願御用所へ及御沙汰承届

一当国英田郡倉敷村六三郎娘鍛冶町長三郎世倅春藏妻引受人別人願承届ル尤御用所及御沙汰候上

一当国勝南郡西吉田村文兵衛世倅龜之丞井町新藏養子引受願御用所及御沙汰承届右等之趣大目付中へも相達何連も大年寄へ申渡

一来ル十二日惣社宮於社地山形屋新右衛門花相撲興行之義申出御用所大目付中へ達承届ル尤郡代中寺社取次中へ被及噂候

一布原村兵助娘桶屋町桶屋勘右衛門妻ニ引受人別人願郡代所引合之上承届ル

一円宗寺村与市伯父八右衛門桶屋町桶屋弥七親類ニ付引請渡世為仕度旨願郡代所引合之上承届ル

一林田上之町玉屋喜七世倅六之承桶屋町おけや善兵衛養子引受願郡代所引合之上承届

一一宮市町ニ付如例町方触書出文段之義去歳之通触書扣帳ニ留置

四月九日 晴夕方又雨

一西今町蘭田屋伝八安岡町扇屋兵助右兩人年寄役申付ル此両町先前今年寄三人ニ「」近来老人ニ減御用多之旨申立候ニ付已前之通三人ニ申付ル

一藤本屋勘吉追込今晚方差免候様大年寄共へ申渡取計相濟御用番中及大目付中へ御届申達

一雲州飯石郡鍛冶北村平四郎娘年十六歳伊勢參宮下向道中疾來候由問屋場へ參右之趣申聴候ニ付北山田齋診脉候処余程ねっ氣も有之候由乍然格別之義も有之間敷申葉等可遣旨先兩三日ハ問屋弥兵衛方ニ而看病致可遣候由外同行之者も有之同年くらい之女子三人右病人共四人連之由申出左候ハ、先無手拔服藥等為致候様申付尚又様子申出其品ニ取計方も可申付旨大年寄ともへも申付置右之趣御用番中并大目付中へも席有之ニ付噂致置

四月十日 雨 四月十一日 晴

一久米屋勘八家族召連讚州金比羅參詣去月廿五日立往来十五六日承届候処妻子共少々疲れ候ニ付今日追願承届尤相役市左衛門願

四月十二日 晴

一魚魚町墨屋徳次郎祖父利兵衛大坂行往来三十日今日追願承届ル
一二丁目福永屋藤助親藤左衛門上京逗留三十日願今日計加日断承届ル

一二丁目福寿屋新兵衛妻上京逗留三十日願今日加日断承届
一西今町三倉屋喜四郎持分家屋鋪北側表口五間裏行十七間但七步役

也然ル処同町新屋勘右衛門取次ヲ以銀札老貫目之家質月老步之利

足卯ノ三月切實入願出承届ル同十八日本証文差出ス

一惣社宮於社地今日花相撲興行ニ付同心組出役申付ル福田甚蔵石名忠蔵無滞相濟暮時引取御用番中并大目付中へ御届申達ス

四月十三日 不正

一川口藤十郎世倅乙右衛門去月十一日出立往来三十日願上京然ル処於彼地病氣ニ付今日加日断出今日御用番中へ右之通申出承届候段相達大目付中へも達

一元魚町肥後屋佐七家守笹屋友治借家播磨屋勤治郎去月十四日出奔いたし候ニ付定法之通尋申付候段御用所并大目付中へも御届申達置尤口達申達置

一当国久米北条郡油木上村六郎右衛門孫女福渡町沢田屋猪助借屋久米屋伝蔵世倅伊助妻に引受申度旨願御用所及御沙汰承届候事

一三丁目沢田屋新治郎家守新職人町善七借家作人六兵衛後家娘当国久米北条郡宮尾村彦四郎妻ニ差遣度人別除願御用所及御沙汰承届ル一京町松岡屋多助裏之堀端場有之土蔵庇改候ニ付御掘へ足代おろし申度願御用所及御沙汰承届右之三ヶ条大目付中へも達旦又御堀へ足代下し候事ハ御作事奉行関十治へも及通意候事

一細川丈助元長屋者平左衛門并同人世倅新治郎先達而牢舎被仰付附之儀右請人細工町作人儀助与申者へ申付置候処兼而不如意もの漸小作等致候仕合存候右両人賄等致候ハ、家内扶助も難成難澁之趣相願乍然請人之身分難澁申立候筋無之儀ニ候へ共不得止事筋変儀之左も候へ者無余儀事ニ付乍内々此間一学殿へ御伺申置候処無據筋ニも思召候間願書可出候様被仰渡候今日被仰渡候ハ外申付方

も無之ニ付先牢屋賄可申付被仰渡大目付中へも達大年寄孫右衛門へ申渡候ハ誠無據筋ニ相聞候間前後例ニ不成事先此度ハ願之趣承届牢賄申付候旨可申渡申達牢番へも右之趣可申渡小頭へ相達

一町方絵図御帰城前途ニ可差出大目付海老原右兵衛御小姓頭兼帯ニ而達有之画図出来今日同人へ差出旦又役所御用物品之相改書上候様其節達有之差出候処月番渡申相馬へ可差出被申聞同人へ差出一近々一宮市町ニ付而非人加廻可申付哉之段一学殿相伺候処尤之義宜取計候様被仰渡大目付士へも達大年寄孫右衛門へ達候ハ来ル十六日昼夜非人四人ツ、御家中并町方可相廻十五日十七日四人ツ、夜計追而廿四日市立触集候ハ、夜四人ツ、可相廻申付置

一安岡町波屋嘉兵衛役介茂助娘しけ久保田村三四郎妻ニ差遣度人別除郡代中引合之上承届ル

一横野村百姓長八世倅兵八養子ニ仕度人別入之義安岡町作人三右衛門願郡代所引合之上承届ル

一林田上之町作人勘次郎娘中ノ町松田屋利助借家伊勢松引受申度旨願郡代所中引合之上承届ル

一西新町丁子屋源左衛門伯母大笹村七兵衛方へ引越願郡代中引合之上承届ル

一雲州飯石郡種村熊右衛門娘市年十四歳伊勢參宮下向播州飭西におゐて疾来村継送り之義相届候旨ニ而同所へ送出今日当町へ送來無滞新田村へ相送ル

一久世村丈兵衛大津御代官石原清左衛門殿手代添翰ヲ以先達而之質綿請取ニ參依濟口一札案調ヲ以於役所小頭書役へ申達尤庄屋同道

可罷出旨申渡させ候之処丈兵衛畏引取ル右取計之趣御用番一学殿
江御伺申達大目付中へ達之上申付ル

四月十四日 雨

一安岡町吉川屋安左衛門義去月十一日出立ニ而往来三十日登坂承届
候然処未用事有之今七日計逗留弟佐七願之承届

一右同町神場屋伊兵衛右同断組合共願之承届ル

一久世村丈兵衛昨日落口一札案文相渡候処承引ニ而引取候処今日又々
申出候ハ右一札案調之通ニ而差上候ヘハ万一悪綿相渡候而も一言
之御訴訟可申上候段無御座ニ付此通ニ而ハ得不仕旨申出候ニ付左
も可有之と存候ニ付再応差詰申付候処得心ニ而引取置而可罷出旨
申之返約之義ニ候ヘハ偏不調法奉誤候旨書付出候ハ、右案調此方
へ可受取旨為差詰候処丈兵衛申ニハ案調受取帰相考尚又可罷出旨
申候由申ニ付左様ニ申候而ハ水かけ論ニハ不致候左も候ヘハ案文
可受取帰筋無之処案文持參帰候上ハ返約ニ相違無之候右誤之書付
不差出候ヘハ此方不及食着其方ハ勝手次第支配所へ可罷出此方ハ
大津役所へ可懸ケ合旨申聞差帰其旨御用番一学殿へ申達何分此上
ハ大津役所懸ケ合書面下案調次第御伺可申上旨申退出

四月十五日 晴

一西今町直屋市郎左衛門家守■幡屋平兵衛借家作人藤兵衛家内三人
山田仙左衛門長屋へ引越人別除願之承届ル

一〇〇〇御裁筆番之義同所非人へ例年之通作事方ハ被申付候ニ付其
旨関十次ハ紙面ニ而例之通可取計旨大年寄孫右衛門へ申渡

一安岡町松田屋徳次一宮市町ニ付〇〇〇〇非人万歳芸十人連興行仕候

付世話焼之義同社神主之為願候段願之寺社取次北郷門兵衛引合
承届ル翌十六日一札差出

一米相場御蔵米五捨八匁五分町米五捨四匁二分書付出

一徳守宮社人下山行衛姪河村町柴田市正養女ニいたし度人別人願寺
社取次之上承届ル

四月十六日 晴

一久世村莊屋代り喜兵衛与申者役所罷出度旨申候由大年寄ヲ以申出
右ニ付及差図候ハ添簡等持參候哉又々丈兵衛一件ニ付而何ぞ存寄
加度義ニも候哉可相尋申渡候処右喜兵衛申候ハ丈兵衛ハ御役所御
用向有之段申越候ニ付出府仕候由申之旨申出依而此義丈兵衛落口
一札庄屋加印之義ハ申渡候へ共此方用向ニ而罷出候様ニも丈兵衛
不申聞用向ニ呼出候ヘハ丈兵衛可申聴段無之候畢竟丈兵衛落口一
札承引之上返持いたし候ニ付聞違之義と被察候何分丈兵衛へ其所
へ可越応対旨大年寄孫右衛門ハ申聞候

一因州知頭之駅小豆屋平兵衛世倅九郎右衛門与申者東新町玉屋伊左
衛門家守米屋嘉助方へ親類ニ付昨日參候処今朝急病ニ而即刻医療
加候へ共相果候ニ付九郎右衛門隣家加平次利兵衛と申兩人近辺へ
參出候ニ付早速相招病氣之趣立会拜見届之上因州宿元へ飛脚差立
親類之者參候様申越候參次第懸合咎之義可申上旨書付差出候右ニ
付他所者ニ付一通御用番一学殿へ及御沙汰大目付士へも及噂被置
一一ノ宮田植祭ニ付同心組出役申付ル

四月十七日 晴

一雲州飯石郡鍛冶北村百姓平四郎娘すて去ル九日病氣ニ付当所問屋

共養生加遣度旨申出候処全快ニ付一刻も早く帰郷仕度旨相願候旨申出依之全快之義候へハ任其意可遣尤一札爪判取之可然旨申渡右之通一通御用番中へも及御沙汰大目付中へも達

一新魚町姫路屋彦兵衛商用向ニ付而備前岡山行明後十八日立往来十日計承届ル

一御城裏手草刈取候ニ付三軒屋番中村作次届出承置

四月十八日 晴

一因州知頭宿九郎右衛門親類之者昨夜及深更東新町米屋加兵衛方へ參九郎右衛門病躰具ニ加平次利兵衛も立会見届候旨申聽候処得心ニ而残所なく御介抱被下候得共致落命候段是非ニ叶不申以來共親類共ニ至迄聊申分無之旨一札相認九郎右衛門姉簀小豆屋伝左衛門并親類江戸屋勘兵衛兩人か助勿論組合共へ一札差出候ニ付右一札之趣ヲ以断書差出然ル上ハ片時も早ク亡者ハ宿元へ引取置等仕度旨申候間願出今早天御用番一学殿江及御沙汰承届遣ス大目付中へも達一札并断書文段別帳ニ有

一材木町小村屋莊八家内三人共寅辰歲迄三ヶ年勝部村和助持家守瀬介借屋林田有之借受出仕度旨尤家役之義ハ同町原屋甚介相勤候段願出郡代中引合承届ル事

一大津御代官江先日丈兵衛出訴添翰返書京都御留守居田中武兵衛へ状ヲ以相廻同所今大津へ飛脚仕立之義取計被與候様申遣ス尤御飛脚便ニ差越候ニ付小勤者へ相渡置

一札元川口藤十郎世倅希右衛門京都今昨夜帰着之段藤十郎届出御用御大目付中へも達置

一材木町友屋与助家屋鋪表口老間半裏行十七間但式部半役也右家屋鋪五人組相談之上町内柳屋勘兵衛ニ而當九月切老割之利足銀札五拾目ニ相究家賃入願承届ル同十九日本証文差出

一一ノ宮市町ニ付昨今共同心組出役申付ル

四月十九日 晴

一市町ニ付同心組差向ル

四月廿日 晴

一市町ニ付同心組差向ル来月四月迄日々差事

四月廿一日 晴

一米相場御藏米五拾七匁五拾三匁書付出ス

一太戰打中村庄右衛門渡屋敷作人甚七家内三人林田町作人甚六借家へ引越人別人願出尤庄右衛門手前何之聊も無之由依而承届ル

一安岡町吉田屋源藏世倅常四郎西々条郡瀬戸村百姓才助養子人別離願之通郡代中引合承届ル

一京都烏丸通六角上ル丁二文字屋九兵衛手代金十郎太助惣兵衛又兵衛市之助右五人呉服商參候ニ付宿切手出ス京町海老屋長右衛門

四月廿二日 晚方今雨

一城州正法寺役僧青松寺罷越候旨願書差出二階町堺屋伊右衛門其段承届ル右之通御用番一学殿江も御届申達依而為応対石名平太兵衛大年寄齋藤孫右衛門宅江正法寺万人講之義願書旦家中村孫左衛門連名ニ而差出平太兵衛今受取

一御堀表通草刈取候義昨日迄ニ相濟其段三軒屋番中村作治今届出承届

四月廿三日 雨

一 官市町同心組出役雨天ニ付不差出

一 官市町ニ付他領者入込盜賊なと粉込可申義も難計ニ付非人加廻之儀先日御用所へも申達置宮初節の大勢入込可申候ニ付明夜より非人四人御家中町共式組ニ式人つゝ分相廻候様大年寄孫右衛門へ申付ル

一 城州正法寺萬人講之義去ル亥子酉年興行無滞相濟候へ共遠境懸組不替ニ御失然多及迷惑候由依之一ヶ年分金子百五十匁向方へ受取りニ致度旨講元共へ対談相究候段青松寺の中江弥左衛門加判ニ願出今日御用席へ差出候処御聞届相濟候其段申達候様大年寄孫右衛門へ申渡

一 西新町山城屋伝六後家孫茂介今度小谷茂助与相改近藤伊左衛門出入奉公致度人別除之義願出承届

一 一宮市町中地廻之小角力取相集花相撲興行ニ付而世話焼之義神主共相頼依之彼地へ参取計仕度旨願出社取次中へ引合之上当役所承置願主河原町山形屋新太郎

四月廿四日 少雷雨

一 若君様去ル三日大納言様与可奉称旨従公儀被仰出旨申来支配方へも可相達候段御触書出来組中牢屋三軒屋番且大年寄共へ町中可相触申渡文段別帳ニ有

一 銭相場百四文通用ニ相成大年寄届書差出

一 正法寺萬人講ニ付講元之義浜野屋宗兵衛今屋佐七高雄屋藤助へ相頼候ニ付右三人之ものを青松寺の頼之任証文を以講元之義願出尤

当十月十五日南河原において興行仕度立札書付差添願出御用番一学殿へ相頼候処御聞届相濟大目付士へも相達承届候旨申渡立札之義も勝手次第申付ル

一 大年寄孫右衛門申出候ハ新魚町松屋清右衛門兼々馴染之由玉林八兵衛世倅熊之助下紺屋町辺ニ而致喧嘩候由手負候而参暫宅をかしくれ候様申様子相承候へ共深手之様子心気不慥無覚様子ニ付早速右親八兵衛方へも申遣候旨注進申出右手負ハ心を添可申渡趣檢使可差向申置尤相手方不相知落取逃シ候而ハ不相濟逐吟味相知候ハ、押置注進可申出旨申付置即刻郡代中へも及通達然ル処目明甚介申出候ハ細川丈助長屋伝藏与申者右熊之助ニ手疵負せ候由尤丈助長屋へ引取候趣相聞候旨申出即刻丈助方同心組兩人差遣口上之趣左之通

御手前長屋ニ罷在候由伝藏と申者下紺屋町辺において玉林熊之助ニ手疵負せ町内へ付届も無之卒忽ニ引取候由御油断無之義ニ候へ共手当等被成之置兼々候右之趣此方御届申達候旨申遣又丈助返答被仰越候趣致承知候右伝藏事長田彦四郎出入奉行刀差之由畢竟向方家来之事故件之趣為届彦四郎方参候旨養ニ付即刻粗前段之大意ニ彦四郎申遣佐五兵衛郡治彦四郎一札左之通被仰越候趣致承知候右伝藏逐吟味此方御届申達候積ニ御座候

一 下紺屋町仁右衛門借家とめと申者独身女方ニ而之凶事依而右とめ預ニ申付ル尤とめ娘仁右衛門并扣長屋組合之者大年寄宅ニ而遂吟味口上書取之可差出孫右衛門へ申付ル

一 郡代中申合新魚町松屋方ニ罷有之手負熊之助立会为檢使当役所部

屋目付石名佐五兵衛郡代下代植月喜三次兩人罷越見分一札取之候
上疵所療治等勝手次第之旨申付ル疵所背中「」わたり六寸計格別
深手共不相見旨右夜中取計

四月廿五日 晴

一右檢使兩人今早朝引取双方組合立会見分一札双方へ取替療治之上
手負ハ村方へ為引取右取計之趣吟味書見分一札共ニ御用番一学殿
へ差出委曲申上置大目付中へも相達

一下紺屋町一件組合扣長屋昨夜呼出口上承候者共ハ一件相濟候内他
參留申付置

一伏見町近江屋和助弟孫三郎因伯へ呉服商ひ当十二月迄逗留願承届

一安岡町扇屋兵助世倅仙助義商用ニ付伯州倉吉龜本屋文右衛門方へ
明後廿六日立往来八十日計承届ル

一大目付渡部相馬參候様手紙到来急參候処昨日熊之助ニ手疵負せ
し伝藏女房致出奔右女房ハ細川丈助人別之者ニ付同人へ尋被仰付
候へ共尚又当役筋へも尋之義致仰付候旨被仰出候旨相馬參達有之
即刻同心組小頭并目明尋申付ル

一万人講取計諸ノ「」諸吟味老入ツ、出役之義申付候様大年寄共口
申渡

一細川丈介長屋出奔之女かん新田辺之茶屋ニ居候由風聞依而夜早時
分目明源八非人兩人差添遣ス

四月廿六日 晴

一右出奔之女かん召捕今四半時罷帰候段源八申出候ニ付如何取計可
申哉之段大目付「」罷越相尋候処女親可為差図被申聞朔日手口ニ

て直ニ入牢申付候様差図有之出番忠藏順次立会書役小頭部屋目付
右申渡相濟入牢申付御用番中并大目付士へ御届申達「」賄之義相
馬へ相尋候処細川丈介へ被仰付候由依之丈介へも一通及通達候処
請人へ申付候由

一越中富山船橋町松井屋源兵衛世倅伊八郎内手代吉兵衛反魂丹売參
候旨切手出ス京町新「」屋惣兵衛

一河原町山泉屋新太郎一宮市町ニ付角力世話焼一札差出

一細川丈助長屋出奔女かん請人二階町丸屋長兵衛紺屋町長藏

四月廿七日 晴

一下紺屋町とめ家主仁右衛門書此間凶事ニ及候伝藏參錢入老つ押而
預ケ候由右中へ入有之品遂吟味置候様大年寄共へ申付吟味書付取
置

四月廿八日 晴

一宮市町ニ付此間中も日々同心組差向今日ハ小頭作右衛門も罷越
一上紺屋町灰屋善十郎家守又「」借家吉左衛門二ノ宮村七三郎方へ
養子ニ差越度願郡代中「」之人別除候事承届

一新魚町年寄姫路屋彦兵衛備前行十日願之今十日追願承届右世倅徳
次郎断之

一二階町山手屋弥太郎家守市「」借家宗七当正月出奔百日尋申付置
候処右日数ニ及候へ共未行方不相知右市兵衛今人別除断出今日及
御沙汰承届大目付中江も達

一当国久米北条郡領家村修驗清学義上紺屋町修驗教学養子ニ引受申
度旨願出寺社取次「」江も引合御用席へ及御沙汰承届大目付中へ

も達候事

一 来月五日若殿様御昇替御祝儀御吸物御酒被下置候ニ付例刻可致登城旨大目付中ハ被申聴

一 若殿様御名仙千代様与御改被遊候右御名差合候面々者可相改被仰出大目付廻状到来右之趣総町中并組中牢屋三軒屋江も相触ル

一 今般若殿様御改号被遊候恐悦之事依之為御歛御帳付候間来月三日前格之刻限諸士登城之旨御奏者廻状到来依之組中并大年寄ヘ為知

「西通之趣御文段ハ別帳ニ有

一 正法寺萬人講之儀講元江向方ハ任証文相渡依而右受書一札青松寺

并中江弥左衛門ハ相届候段案調ヲ以頼出御用番中江も及御沙汰候

而可相渡旨申渡右文段之内当年十二月上旬助力銀可相渡旨有之事

四月廿九日 晴 四月廿日 晴

一 渡部相馬ハ御用之義候間只今小須賀一学殿御宅江可罷出申来即刻

罷出候処相馬立合ニ而一学殿江仰渡候者黒田彦四郎家来内田伝蔵

林田村熊之助ハ手傷為負候一件吟味被仰付候ニ付当所御渡被成候

彦四郎ハも其段被仰渡候間懸合受取逐吟味候様被仰渡尤揚り屋ヘ

入置候様被仰渡

一 内田伝蔵暮時彦四郎ハ被差越尤道中為警固同心組差向くれ候様彦

四郎ハ被申願郡治兵助兩人御用提灯式帳ニ而差向駕籠ニ而役所迄

伝蔵差ハ腰物渋紙包懐中物共封印之俵於玄関向方力差ハ小頭作右

衛門受取之尤同人对談相応之為挨拶物差返ス

一 右伝蔵受取之上手鎖懸ケ於白州遂吟味「取之相済牢屋差越郡治

兵助右之趣御用番中并大目付中ハ相届ル

一 山田主膳殿組豊橋伝八役介莊介西今町嶋屋忠七養子仕人別人願承届

五月

御用番 小須賀一学殿

大目付 海老原吾兵衛

大年寄

玉置広四郎

諸吟味

久米屋勘八

朔日 雨

一 内田伝蔵女房かん并懸り合下紺屋町とよ并相長屋新助女房遂吟味

口書取之出番佐五兵衛勇藏立合例之通

五月二日 晴

一 内田伝蔵并同人女房かん兩人共遂再吟味伝蔵義ハ揚り屋ヘ入置ニ

付而道中あみ笠を為着呼出兩人口書取之出番郡治兵助

五月三日 晴

一 若殿様御名仙千代様与御改被遊候付御歛御帳付諸士登城例之通類

役相揃御用席ヘ罷出恐悦申上ル下御屋敷ハも罷出植木左士ヲ以恐

悦申上ル

一 茂渡莊右衛門家守小姓町作人莊介借屋笹助久米南条郡皿村勘七郎

方ハ稼類ニ付引越人別離願御用所及御沙汰承届

一 林田上之町作人宇兵衛娘みよ塚町豊屋喜右衛門家守丸亀屋文吉養

女ニ貫受人別人願郡代中引合之上承届

一上河原村百姓助右衛門方去月廿九日夜盜賊這入盜取候色品十二書付權六被相廻町触取計文段別帳ニ有

一昨日伏見町保頭喜介家内不殘作場へ參留守古蒲團ニ紛失懸硯一面右代リニ有之其旨大年寄共今朝註進組中并目明へ申付ル但右硯箱ハ材木町福市屋忠次方ニ而紛失候由ニて又同人註進申出候由

一雲州飯石郡鍛冶北村平四郎娘捨当町ニ而疾來問屋共方ニ留置医療ヲ以全快為仕差返し右為謝礼親類參年少分有代等持參候由申出相応可為挨拶旨申置

一尾州岡崎神職吉田左右上下三人永見造酒介殿へ祈禱被申付候依而十五日計逗留堺町西川屋善介願之承届今十五日加日之儀同廿日願出承届

一西新町安長屋武介妻昨二日平産男子出生之処殊之外虚弱ニ而晩方早世ゐたし候旨医師算作丈庵書付相添差出相違も無之相聞候ニ付承届

五月四日 雨

一大津御代官所へ先日差越候久世村丈兵衛一件ニ付而之書状返翰京都田中武兵衛被相廻候申遣候趣委曲承知之由丈兵衛訴出吟味之上可被申聞之由申来ル

一江戸表ハ飛脚到來殿様倍御機嫌克被成御座去月十三日以上使御國許江之御暇被持參仰御拝領等被遊候段申来恐悅御事ニ候依之明五日為御歛御帳付候間例刻登城候様御奏者廻状出来組中并大年寄へ相達

一一宮市町無滞引扨同心石名佐五兵衛中村祐藏ハ届出承置

一市上リニ付例歳之通町触昨日大年寄相渡文段者別帳ニ有

五月五日 雨昨夜中大小風

一御國許江之御暇被為蒙仰候為御歛御帳付登城若殿様御昇之為御祝儀七間廊下におゐて町奉行郡代勘定奉行并北郷門兵衛御酒御吸物被下置御用席江も相揃罷出恐悅申上ル頂戴御礼ハ大目付中へ申上ル下御屋敷へ罷出江戸表恐悅并御昇御祝儀申上候御目見可被仰付候処只今御昼寝被遊候ニ付不被及其義旨植木左士挨拶ニ而退出

一大津役所ハ返翰一学殿并大目付中へ達

五月六日 晴

一町方溝為見分例年之通小頭部屋目付大年寄諸吟味出ス

五月七日 晴

一今日も溝見分并御掃城ニ付御辺見分相兼差出右相洛何れも為届罷出調

一錢相場百五文ニ相成候旨大年寄申出ル

一一宮市町ニ付非人加廻今夜引取候様申付ル御両所江御届申達

一高橋茂作長屋作右衛門と申者去月廿四日下紺屋町ニ而林田村熊之介手疵負候節見請候由右様子承度ニ付海老原吾兵衛へ達茂治へ申遣作右衛門呼出承口上書取置

五月八日 晴

一米相場御蔵米五捨八匁町米五捨四匁

一月収銀札式百八十目勘定所へ相納

一例年之通材木町ハ二階町迄裏通り御堀へ付候石垣之竹を取度旨申出大目付中へ達作事方へ及通意勝手次第と申渡

一 林田村熊之助疵所少々快正氣相成候ニ付旅宿中へ荘屋入込荒増吟味口書取之郡代中へ相廻御用番中江相達右口書ヲ以内田伝蔵再吟味可取計旨相伺

五月九日 雨

一 内田伝蔵遂再吟味立会例之通出祐蔵郡次

一 京町菊屋清左衛門越中富山板屋理兵衛役介長次郎佐七両人例年当十月迄差置売參爲仕度願承届

一 齋藤孫右衛門当国勝山金田「娘孫右衛門孫娘ニ而手習稽古之ため今来年中迄逗留願承届

五月十日 不正

一 江戸表へ飛脚到来殿様倍御機嫌克被成御座先月廿五日御暇之御礼首尾能ニ被仰上御応之段上意御馬御拜領被成候段申来恐悦之事候此段爲被知候様被仰出候旨大目付廻状「大年寄三人并小頭江相達牢屋三軒屋へも相達

一 御家中御関拔御ノリ江対候垣堀者勿論侍屋敷たり共大風雨破損所ハ申出候様「ケ所番人共小頭部屋目付爲申渡

一 大津御代官所手代中へ飛脚到来久世村丈兵衛当町七人之者手前へ買入質物ニゐたし置繰綿去月請引ニ參候依之濟口一札申付候処難渋申立候ニ付先達而申渡候筋合承知ニ而罷出候事ニも不之存候今一応丈兵衛被召出得心候様被申付之上請引ニ罷出候様被仰付被下度申遣置候処今度丈兵衛大津へ罷出申候ハ先達而申付候濟口一札案文之内難致承引文言有之ニ付江戸表致出訴度旨申之ニ付返用被致候段「状到来之京都ニ出役所有之右役人「田中武兵衛へ被

相廻

五月十一日 一日雨

一 大津役所へ到来之書状一学殿へ入御被見吾兵衛江も達可及相答旨申置

一 江戸表へ飛脚到来殿様倍御機嫌克被成御座当月「江戸御発駕被遊御道中無御滞候へハ来ル十七日土居御泊十八日御城着被遊候積之旨申来候火之用心其外先前之通諸事體候様御触書大目付中へ出ル「之組中牢屋三軒屋へ達

一 右之通近々御帰城ニ付町触先触之通相認させ大年寄へ相渡

一 先前之通土居之駅へ乘懸馬被遣「十疋くらい候致用意置候様勘定「通用有之尤員数之義ハ御先番着次第限定可被申聞由右大年寄へ申付ル

五月十二日 雨

一 如恒例大般若御執行ニ付登城宇治橋間へ相詰拜礼畢而御用所江罷出恐悦申上ル

一 大津御代官所へ返輪下案ヲ以何濟大目付へも達ス

一 明十三日先番帰着ニ付勝間田駅馬不足ニ付式疋借受候度大年寄共へ申来伺出先例も有之候ハ、貸し可遣併式三疋之義ニも差支之義畢竟者此方へもたれ候而之義ニも候へ者貸シ遣候事可致無用旨及差図置

五月十三日 晴

一 元魚町藤野屋多吉家守泉屋藤右衛門倅多兵衛大坂錦町福井伝兵衛方奉公ニ遣置候処相続人無之ニ付養子ニ相望候ニ付差遣度人別除

願出御用所へ及御沙汰承届ル

一殿様御帰城ニ付勝間田之駅馬無之ニ付御当日「」貸呉候様御本陣

并莊屋今大年寄迄飛脚差越伺出候ニ付今日勘定奉行中へ懸合候処

乘懸馬之分ハ貸シ遣候様可取計旨ニ付其段広四郎相達

一來ル廿一日晴雲院様十三回御忌ニ付当「」之旨相被知廻状到来組

中并牢屋三軒屋且又大年寄共へ為相知ル

一來ル十八日御帰城例格之揚所へ致出役候ニ付御貸シ人馬之義大目

付中へ相達

一兼田川江御船相廻候ニ付御蔵元并船年寄出役申付候様御舟奉行中

今申聞大年寄へ申渡

一來ル十六日夕内々御用場有之段大目付中被申聞

一今日御先番着御小納戸馬場熊次御小姓市村忠之丞

五月十四日 朝之内雨

一京町戸屋伝吉大坂坂本町大屋治三郎方「」來廿日計願承届

五月十五日 雨

一土居駅へ貸し遣候乘懸馬向方ニ而人馬等随可取計処去々々右手当

等も無之差支候ニ付「」間大年寄共今土居へ及懸合候処承知之旨

返翰差越候旨申出

一かつまた町山県屋九兵衛夫婦娘共讚州「」比羅參詣十六日立十日

計往来願承届

一御帰城ニ付御先手者頭中へ立宿之事及通意東新町茶屋六郎右衛門

五月十六日 晴

一御帰城前ニ付今日夕日參ニ相成ル

一町方四月改懐胎之者并生死人別出入書付左之通

出生九人男式八人 女七人人別人別離十人死失七人差引而式人増

一土居之駅并勝間田之駅へ乘懸馬廿式疋相廻余馬老疋都合廿三疋当

取用意馬三疋相残ヌ老疋不足ニ付寄せ馬之義郡代所へ懸合明日相

廻答ニ承合置尤大鑑衆へも達

一京町北側三家屋利右衛門家屋敷表口五間半裏行十七間但七步五厘

役也五人組相談之上同町豊屋伊兵衛へ代銀札七百目相極壳渡度願

承届同廿二日壳券状出ス

一中町玉置三四郎家守和氣屋喜作店借龜屋兵助儀四国遍路二度目之

日延今七十日承届ル

一坪井町小塩屋茂右衛門母大坂江出養生日延來ル六月上旬迄承届

一伏見之駅夕飛脚到来殿様倍御氣嫌克被成御旅行來ル十八日御城着

被遊候依之右先格之場所可相詰旨御奏者廻状到来組中并牢屋三軒

屋番大年寄へ相達御文段扣帳ニ有

一御堀之魚捕申間敷処近來子供たと取候様相聞以後心得違無之様親

々々可申聞旨大目付廻状到来組中并牢屋三軒屋惣町中へも相触扣

帳ニ有

五月十七日 晴

一瀧山屋惣兵衛裏通御堀端塀繕ニ付御城へ足代おろし度断出御席

及御沙汰大目付中へも達承届作事奉行へも及通意

一堺町団屋太郎兵衛大坂往來來ル廿日立三十日計承届ル

五月十八日 快晴

一御帰城ニ付出役五時出宅立宿東新町茂渡忠左衛門勝間田御着御立

註進阿部次兵衛御立之註進ニ而松原升形之外北側江罷出兼田川御
乗船を承大年寄升外之内北側御目見名披露有之押之御家老中相濟
引取登城御用席へ類役相揃罷出恐悦□先格之場所へ出役御届申達
大目付江も相届ル御次江罷出御小納戸ヲ以恐悦申上ル若殿様江恐
悦長沢右源治ヲ以申上ル

今日出役供立前格之通略之馬脇甚藏金藏御先払小頭作右衛門平組
孫八順次払除見分忠藏兵助町分御懸リ被成候註進勇藏京町御懸リ
被成候註進郡治京町人留メ佐五兵衛

一西川永松太惣左衛門軼役ニ而大坂へ引越右跡役斎藤六藏右両人
為知来書及相答

一大津御代官所江之返輸今日仕廻之飛脚便京都田中武兵衛差越

五月十九日 雨 登城

一御用日隔日へ被仰出隔日出仕寄日休右之趣大目付へ被申触類役中
へも及演達

一御次江為御機嫌罷出

五月廿日 雨 登城

一林田町北側和田屋清六家屋敷表口四間裏行十五間但本役也橋本町
吉見義助取次ニ而当月限元銀札四百目家賃願承届六月六日本証
文出

一大坂玉水町尾張屋権兵衛上下七人御用ニ付逗留願承届ル京町綿屋
源七宿之

一二丁目南側武本屋久太郎名前妹はつ名前ニ付替申度旨願出承届

五月廿一日 晴 五月廿二日 晴 登城

一御手廻書人召抱候ニ付相望候ものハ可申上旨相触候様大目付中へ
被申聞先格之通申触尤来月十二日迄之内割場中間小頭方迄申越様
相触ル文段別帳ニ有

一御居間江被為召御留守中町方之儀御尋被遊兼々被仰渡候三ヶ□其
外委細御請等申上候趣類役何連も右同様之事

一宮川橋京橋今町橋筋違橋ニ而涼候儀停止之触先前之通触書出ス文
言例之通

一二階町東側豊屋六之丞名木屋喜助鉄砲屋惣左衛門出雲屋与次右衛
門裏通り御堀端塀覆仕候ニ付御堀へ足代おろし申度断書御用所へ
も及御沙汰承届御作事方へも及通意

五月廿三日 不正

一材木町古達屋長兵衛弟弥七義当寅歳辰ノ歳迄三ヶ年之内西々条
郡奥津川西村忠右衛門方へ罷越茶屋商仕度旨尤伴両人召連相越度
旨願承届

一武田七郎兵衛二男久吉義法心相望候ニ付旦那寺妙法寺弟子ニ差遣
度依之人別除之事願出寺社取次中懸合之上承届

五月廿四日 晴 出仕

一元魚町藤野屋多吉家守藤右衛門倅太兵衛大坂錦町福井伝兵衛養子
ニ差越置候処右太兵衛方へ藤右衛門夫婦共引越度旨人別離願出御
用所及御沙汰承届大目付中へも達

一二階町石松院宿□裏通御堀端塀繕仕候ニ付御堀へ足代下シ之断□

御用所及御沙汰届大目付「」も達作事方へ及通用

一宗門帳案調同奉行黒田勝与へ被相廻大年寄相渡

一 明廿五日五時御供揃四ヶ寺御參詣被仰出候ニ付御道触中奥目付ハ被申聞且又始而之御參詣御用所出仕有之何連も罷出候様大目付ハ被申聞右ニ付御先弘御道掃除之事小頭且大年寄共へ申付ル

五月廿五日 雨 出仕

一 五時御供揃地藏院泰安寺本源寺妙法寺御參詣被遊候ニ付七間廊下へ相詰今日御先弘郡次勇藏

一 東新町丸木屋重助妻去ル廿一日女子出生八ヶ月ニ而虚弱之处翌廿二日果候段届出遂吟味候処病死ニ紛無之承届候右之儀一学殿へ相達

五月廿六日 晴 出仕

一 惣豆腐共願出候ハ大豆相場高直ニ相成其上残数増往キ来ニ手間代一向引合不申難波仕候段歎依之今三文上ヶ壹丁ニ付十九文商ハ申度旨申出余り高直ニ相成候へ共右算用扣ニ而ハ無抛筋ニ相聞候ニ付今日御用所へ御覧申置

一 壹匁壹分八厘大豆相場五十九文式升一三分薪代右十挺分元入壹匁四分八厘壹丁十九文売立残而手間代三分三厘但錢相場百五文

一 二魚町加茂屋長七借家藤藏先達而大橋十太夫殿出入奉公相動罷有候処暇被差出候ニ付人別入願承届

一 上紺屋町鉄屋与八家内四人共立願有之四国遍路往来百日計承届

五月廿七日 晴

一 若殿様御誕生公儀江御届先月廿二日被相濟恐悦之御事ニ候依之為御歎明廿八日辰ノ刻ハ巳ノ刻迄之内御帳付候間登城可有之旨御奏者廻状到来組中并牢屋三軒屋且又大年寄へも相達

一 若殿様御誕生御届被相濟候為御祝儀明廿八日御飯御吸物御酒被下候間小従人以上四時大役人已下坊主迄八時登城可有之年始八朔登城相濟候嫡子迄被下之旨大目付廻状到来

五月廿八日 晴

一 五時登城御帳ニ付四半時御祝儀相始場所左之通

藤ノ間御奏者番格 四時ヨリ 桜ノ間御小姓頭格 御使番格迄

七間廊下御小姓組中奥目付 虎ノ間番外 大御番組

鎗ノ間 小従人組

大役人ハ御徒目付迄鎗之間御徒ハ坊主迄銀鷲ノ間八時ヨリ

一 類役相揃御用所江罷出恐悦申上尚御祝儀被下置御礼も申上ル大目付所へも頂戴物御礼申上ル頂戴物之席へ大目付海老原吾兵衛為挨拶被罷出

一 支配之組中并牢屋三軒屋江も御酒被下置候旨大目付中ハ被仰渡様有之旨御礼申上ル

一 若殿様今日御目見も可被仰付候処少々御異例被成御座候ニ付不被及其儀来ル朔日頃御目見可被仰付旨大目付所ニ而被仰渡

一 日光御門主御用之由江州比叡山総持房内本立房勝山役所迄罷通候旨輕尻ヒ足式人先触到来候段大年寄ハ申出即刻寺社兼帯海老原吾兵衛へ達尤昨暮時之取計也今日七時本立房来着伏見町大坂屋

利七宿申付右本立房大年寄逢申度旨ニ付玉置広四郎參候処明廿九日四時寺社奉行所へ罷出度案内致候様被申聴広四郎申候ハ他方御懸合之義ハ御応対之場所も有之候ニ付定而此度も左様口義と被存申

候何分其段町奉行中へ可申達旨申聞引取候趣広四郎申出ル其旨吾

兵衛他出ニ付相馬へ達右時刻迄之内何連共返答可有之旨

五月廿九日 雨

一宮川大橋東詰之積物落チ有之橋本町年寄共方へ取入置候段大年寄申出大目付へ達

一本立房の広四郎へ催促有之吾兵衛へ申談今七時寺社懸り北郷門兵衛御応対可申旨広四郎罷越本立房へ達候処寺社取次中之者応対難致寺社奉行中応対有之哉無之哉承礼呉候様広四郎へ本立房申聞候段申出委細吾兵衛へ談猶寺社奉行中応対有之無返答之義大年寄場合ゐたしニ而ハ不輕義ニ付難申付御座候何分右返答之事ハ何連へ成共被仰付度旨吾兵衛へ申談候処承知ニ而先右之懸り合相濟門兵衛応対場所齋藤次郎左衛門宅へ罷出候へ共右之通ニ付引取地蔵院へ申付懸合有之筈之由

一夜中及弥太夫門兵衛入来右本立房へ地蔵院差越候処明朔日一通リ面会ハ可致旨申之ニ付猶又齋藤へ其段申付候様懸合有之即刻其旨申付ル応対之節吸物酒差出候様申渡

一明朔日五時半御帰城之御礼被為請候旨御奏者廻状到来

六月

御用番

小須賀一学殿

大目付赤見類助

大年寄蔵合孫左衛門

諸吟味

朔日 雨

一五半時登城松之間おゐて御礼申上ル

一若殿様御目見被仰付於松之間御奏者番格の御使番格迄一列御小姓頭出席相応之取合有之夫の番外大番組迄一列夫の小従人大役人一列小役人御徒御通懸之由承之右御礼廻動致候様大目付の演達有之
一米相場五拾九匁五分町米五拾五匁五分書付出ル

一於御用席大目付赤見類助立合被仰渡候ハ川島桃庵事下御屋敷御用向出張ニ付御褒美金式百疋被下置候段一学殿の被仰渡依之以奉書召出右之趣申渡立合大年寄小頭

一本立房齋藤次郎左衛門宅ニ而北郷門兵衛江面会有之吸物取肴酒出ス小勤者可相廻答ニ候へ共差懸り之事ニ付此方ニ而取計追而其段可申達事右相濟本立房「届出御西所御届申達

一朔日五節句御礼御先格之通被為請之段大目付の演達有之且又毎月御社參御仏參前々之通被成候尤五時御供揃ニ相極ル

六月二日 雨

一不快ニ付不參断岸権六へ相頼

一此間伺置候通豆腐直段上ケ之義一挺十八匁ニ承届遣候様御指図有之権六の通意其段大年寄へ申渡大目付中へ願書ハ相廻

一美濃職人町作人十助并同町金具屋たみ同人娘かよ并同町文助借屋とよ右四人之者立願有之四国遍路往来日数百日計承届

一下紺屋町松本屋長松因州鳥取橋本屋八左衛門方へ七十日逗留承届一京町「屋伝吉父佐左衛門病氣為見廻先達而登坂致候処右佐左衛門養生不相叶病死仕於彼地取置致昨夜罷帰候旨届書出承置

一御堀掃除料来ル十日比迄ニ取立作事方関十治の通意有之即刻大年

寄へ其旨申渡

一本立房又々着之趣宿寺之義寺社取次へ申談候処大円寺申付候由着候ハ、右寺へ案内致候様」方へ申付置

一三丁目浜野屋重次兵衛倅寿四郎病氣為養生因州吉岡へ入湯六十日承届

六月三日 雨

一明四日五時御供揃ニ而泰安寺御仏詣被仰出之旨中奥目付永井甚太夫へ通用有之大年寄且又御先払同心組へ申渡

一京町田原屋猪兵衛商用ニ付備後福山大黒町いなり屋宇兵衛方迄来ル六日罷越往来四十日計願承届

六月四日 晴 登城

一五時御供揃泰安寺へ御仏參被遊御先払郡次勇藏

一山門之使僧本立房地藏院へ去ル二日直ニ来着之由今日玉置広四郎於宅御料理被下寺社奉行応対も有之寺社取次も罷出右之趣広四郎へ申渡候様類介へ申触其旨申遣ス

一 下紺屋町南側龜屋勘右衛門持分家屋鋪表口四間裏行十七間但半役也右之家屋敷五人組相談之上代銀札四百目ニ相究中ノ町川口屋理七郎へ売渡申度旨願出承届同十九日売券状出ル

一 下紺屋町万性院讚州金比羅除疫祈禱来日〇日迄三日之内護摩修行仕度旨願出寺社取次中引合之上承届

一 下紺屋玉性坊例歳之通来ル七日〇十四日迄祇園会中御戸開申度旨願出寺社方引合相済承届

一 二階町石松院宿房ニおるて不動堂并鎮守前へ来ル七日〇十四日迄

例年之通灯明ともし尚又本堂前護摩修行仕度旨願出寺社方引合承届

一吹屋町熱田若狭上紺屋町円証院堺町小林主水来ル七日立讚州金比羅參詣往来十日計承届

一材木町万屋与三兵衛店借為本屋儀兵衛儀去ル亥年御飛脚原田与蔵〇古小袖老つ取次六十目ニ売遣候処内十〇ハ与蔵へ相渡残ル五拾〇今以差滞不埒ニ付濟方之儀申出候由訴狀勘定奉行栗田唯次〇相廻遂吟味候様大年寄共へ申渡ス

六月五日 晴

一越中富山松井屋源兵衛反魂丹売參候ニ付宿切手出ス京町瀧山屋惣兵衛

六月六日 晴 登城

一直屋市郎左衛門備中倉鋪妹尾屋重郎兵衛方へ無抛病氣為見廻罷越度旨願出承届

一元魚町よし屋清藏吹屋町年寄釜屋六郎右衛門鍛冶町喜之助万藏長八右之者」七日立讚州金比羅參詣往来七日計願承届

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代新兵衛清吉式人之者茶碗売ニ參候旨宿切手遣ス京町田戸屋惣十郎

一京町松岡屋太助大坂心齋橋筋玉子屋九兵衛方商用明七日立往来廿五日計承届

一安岡町岡崎屋善吉西今町中屋定次郎右式人讚州金比羅參詣願承届

六月七日

一因州鳥取吾田直人与申者諸国大社詣相廻候処備中城拜新町ニ而病

氣ニ相成去ル四日送出昨夜当町へ送り来新田村の受取林田村へ相渡

一明八日五時御供揃泰安寺御仏參被仰出候旨中奥目付永井甚太郎通意依之御先払并町触申付ル

六月八日 雨屋分はれニ成ル 出仕

一御仏參御延引被仰出候之旨中奥目付永井と通達有之從御城大年寄并御先払出役同心組江も為相知

一大年寄共御帰城後御目見之義一学殿并類介江も御席之節被仰付候様及御沙汰置

一二階町山手屋弥太郎所持之他国請酒株当寅六月己巳六月迄丸三ヶ年之内東新町紙屋佐七借受商売仕度旨承届

一市村忠之丞長屋住幸助細工町平助親類之者ニ付引請人別ニ加申度旨願出承届

六月九日 雨

一美濃職人町団屋作右衛門当国兼田茂右衛門「女ニ付病氣出養生仕段申」付廿日計逗留之義願出承届ル

六月十日 雨 出仕

一小姓町杉屋七兵衛借屋吉兵衛事久米南条郡八出村安右衛門由緒有之ニ付町作上リ畑貰候而妻「共安右衛門方へ引越作廻申度旨人別除願引合之上承届ル

一五月中生死人別出入書付出ス左之通

出生九人男子八人女子一人 人別入三人人別除五人

死失十老人 差引而四人減ス

一鍛冶町金具屋源五郎女房去ル五日六ヶ月ニ致流産大年寄玉置広四郎諸吟味直屋一郎左衛門入込遂吟味書付出候ニ付今日当人源五郎へ過料老實文可申付哉之旨一学殿へ御伺申置

一御堀掃除料式百八拾九匁老分四厘例年上之通町方分差出関十治へ遣ス受取差越

一吹屋まつ独孤扶持本証文内貸共拾三匁八分老厘受取大年寄へ相渡

六月十一日 不正

一御蔵米六拾匁五分町米五拾六匁五分相場書出ス

一元魚町米屋喜兵衛店江御中間源次と申者罷越大三打式双相調代納掛呉候様申候処懸売之義ハ面躰も不見知ニ付得致不申候段喜兵衛申之然処源治立腹致代物相払ヒ年寄名面等相尋口違ニ而述之候ハ書付出候様源治申之ニ付筆取候処脇差をぬき切懸候処腕ニあたり其節左之指式本少々疵付同人姉もさへ手致少し手之内疵付候へ共少し之義右源治ハ差向ふ紙屋太兵衛參先手前被參候様申同道る

たし帰候旨申出同刻差廻甚藏忠藏も届出源治ハ佐藤彦右衛門長屋住宿元へ引取候由右之趣彦右衛門承合候処相違無之旨依之為吟味佐五兵衛甚藏差向置御用番一学殿并大目付類介へも達米屋佐五兵衛甚藏罷掃吟味書差出尚又一学殿へ差出米屋喜兵衛組合預ケ申付置此義も御両所御届申達

六月十二日 晴 登城

一五時御供揃泰安寺御仏參例之通取計出役郡次勇藏

一安岡町菊屋安右衛門大坂松屋平兵衛方へ往来六十日計来ル十四日立願承届

一元魚町漆屋喜七後家四国遍路往来百日先達願出未帰郷不仕今三十日之日延断書組合共々出承届

二階町南側小鳥屋次郎右衛門持家屋鋪表口三間裏行十七間但老軒役五人組相談之上代銀札式百目相究なき屋喜助へ売渡旨願出承届同廿二日売券状差出ス

六月十三日 不正

一元魚町米屋喜兵衛一件ニ付源治吟味書一学殿へ被渡喜兵衛遂吟味候様被仰渡并懸り合紙屋太兵衛是又遂吟味候様被仰渡今日孫左衛門於宅小頭部屋目付立合遂吟味口書差出
一明十四日御仏參被仰出候旨中奥目付へ通用有之御先払并大年寄へ申渡

六月十四日 晴 登城

一御蔵米六拾三匁五分町米五拾九匁五分相場書出
一大年寄共御帰城ニ付明十五日御目見被仰付候旨赤見へ被申聴剪紙ヲ以申達右差上物之義小勘者中へ申談御門通行之義中奥目付へ及通用

一五時泰安寺へ御仏參被遊御先払甚蔵忠蔵

六月十五日 晴 登城

一五半時登城御礼被為請当役御居間ニおゐて御礼申上ル屋後於松ノ間御難子被來候ニ付諸士拜見勝手次第被仰出御用所大目付葵ノ間中拜見郡代町奉行勘定奉行御後詰之面々之内へ差加り拜見致候様御小姓頭へ被申聴

六月十六日 晴 登城

一明十七日御社參被仰出候旨中奥目付通用御見通しへ触候様大年寄へ達

六月十七日 晴

白紙貼紙で抹消
六月十八日

一明十八日正六時御供揃押入辺ニ被為入御道筋林田上ノ丁御還鍛冶迄御船ニ而御上り被遊京町江御懸り京橋御門へ被為入候段中奥目付へ通意有之大年寄并御先払申付ル

六月十八日 不正 登城

一今日御出ニ付先払甚蔵忠蔵東新町江差出置御乗船御上り被成候ニ付東新町土手端へ鍛冶場京橋御門外迄御先払相勤御波戸場へ御紋付高張一つ大文字高張一つ都合二張相渡七時半時無滞御還被遊候一伏見町能勢屋勇次郎同町田原屋左助御蔵裏御通り御堀端并石垣繕ニ付御堀へ足代おろし申度旨断出御用所及御沙汰承仕大目付中并作事方へ通用之事

一小姓町土橋破損ニ付註進書出ス大目付中へ差出候処當時勘定奉行中へ作事方御任せニ付同役所へ達候様渡部相馬江申聞栗田唯次へ註進書相渡

一元魚町米屋喜兵衛懸り合御中間源治此間吟味有之候処右口書一学殿へ御渡尚又喜兵衛遂吟味候様被仰渡今日大年寄於宅小頭部屋目付立会遂吟味口上書差出

六月十九日 晴

一明廿日有徳院様御証月ニ付五時御供揃地蔵院へ御仏參被仰出候旨大目付へ為知尚又中奥目付へ通用有之大年寄へ相達

六月廿日 晴 登城

一五時地藏院へ御仏參被遊候

一鍛冶町源五郎妻義去ル五日致流産候節医薬相用なく右手当無之旨申之遂吟味候へハ医療加へ候義無相違紛敷申方ニ付追込可申付哉之段伺候処一学殿少伺之通御差図有之大目付へも達

一橋本町紀国屋喜助所持之旅籠屋株五年已前かつまた町西屋半兵衛預置候処此度取戻申度旨願出承届

六月廿一日 晴

一鍛冶町源五郎追込蔵合孫左衛門於宅取計立会小頭部屋目付相済御両所へ御届申達

一直屋市郎左衛門備中行日延今十日承届ル

六月廿二日 晴 登城

一吹屋町土橋大破ニ付註進書出ル勘定奉行中相廻ス

一二階町御門の北御堀水送支候哉二階町裏側大留之節水堪耆尺余も上五あかり迷惑候段願出御用所差出候処御聞届被成候大目付中へも達

一元魚町米屋喜兵衛御裁許伺候様一学殿が被仰渡三日追込伺済大年寄於宅申渡小頭部屋目付立会申渡一学殿類助へ達申渡文言別帳ニ有之右懸り合御中間源治事ハ永之暇差出候様勘定奉行へ御達有之候由承之

一自他領座頭警女若殿様御誕生御届之義公边被為済候ニ付御祝儀頂戴仕度申出相伺候処公边御届内々被為済候へ共未御一門様御知らせ無之ニ付御知せ後ニ可被下旨申渡候様一学殿が被仰渡然ル処御誕生被成候砌御祝儀頂戴仕度申出候へ共公边御届被為済候ハ、

可被下申置候ニ付御一門様方へ為御知無御座候義ハ畢竟思召之義

ニ候へハ其旨も難申聞乍然御一門様へ御弘不成ニ而他領座頭共へ難被下旨も御尤ニ御座候へハ役所之計を以御祝儀物ハ当所配當場へ取替遣置追而表立頂戴罷出候様申付置度旨申上候処御聞届被成候大目付へも達書付を以大年寄へ達置

一御蔵米六拾式匁町米五拾八匁相場書出ス

六月廿三日 晴 六月廿四日 雷雨 登城

一正米不自由ニ付町方末々小壳等ニ差支難波之段川留願出最早新穀執候迄間もなき事ニ候へ共先川留積荷共差留申度旨町触相伺親之通相済大目付へ達文段別帳ニ有

一元魚町米屋喜兵衛追込差免御両所へ御届申達尤昨夜之取計

一吹屋町かま屋齋右衛門願勝田郡勝間田村与平治娘を養女引請申度人別人之義及御沙汰

一明六時御供揃押入築場へ被為人御道筋京橋御門の京町今東新町迄御先扨同心組兩人申付ル尚又大年寄共へも相達

一鍛冶町源五郎追込今夕差免即刻御両所へ御届申達

六月廿五日 雷雨

一五時押入江御出被成御先扨孫八順治御還七時半時

六月廿六日 晴 登城

一当二月十九日大村庄助妻細川丈助長屋平左衛門女房を殺害候ニ付平左衛門并同倅新二郎御裁許之儀親之様御差図ニ付左之通伺済

○一江戸追放江岸十里四方日本橋ヨリ五里

右之当リニ而考候処津山一里四方御構被成候ハ、江戸追放之

当り

○一江戸払 品川千住四谷大木音而國權板橋此五ヶ所備之

右之当ニ而考候処町払ニ相当リ候然ル処是迄町払之者御家中御構場ニ入不入之義不慥ニ御座候以來御家中御構場ニ御詰定御座候へハ以來追放相当之者右之例ヲ以可奉親候依而平左衛門義ハ町払相当しめ候

右書付之通親濟以來之例ニ相究ル尚又平左衛門町払可相同一学殿
被仰渡

一新魚町塩田屋孫三郎持馬但青毛相欠落申候旨書付問屋兩人奥印断
出承置

一材木町北側小村屋庄八家屋敷表口式間半裏行十七間御堀切但半役也五人組相談之上代銀札式百五十匁ニ相究大工市右衛門へ売渡
願承届ル同廿七日日本証文出ル

六月廿七日 晴

一四時供揃ニ而押入築場へ御馬ニ而被為入御還御対面所京町東新町迄御先払出ヌ祐藏佐五兵衛八過時引取

六月廿八日 晴 登城

一材木町小村屋庄八先達而林田村小兵衛引受勝部村和介借家ニ而作方渡世致候処林田住宅ゐたし度人別除願出郡代中引合承届ル

一元細川丈助長屋平左衛門并同人伴新二郎取計之義一学殿被仰渡大目付へも達明日取計候ニ付立会并出番之義小頭へ申付ル且又寺町鉄砲町御構場入可申旨相同候処御構所ニ相極ル

一申ノ町甲屋石兵衛大坂梶木町河内屋甚七と申者唐かね類銅類真鍮

類唐弓弦植木目鏡人替灯提張替且又京都長刀町近江屋藤七金通し張替紺屋形悪銀買右兩人御当地參商売仕度旨相望候ニ付宿仕度旨願出遂吟味候処御障無之ニ付今日相伺承届遣ヌ大目付へも達

一尾州嶋崎陰明師高橋伊豆同手代五兵衛例年之通且那廻リニ来候旨宿切手遣ヌさかい丁小鳥屋次郎右衛門

一御藏米六拾壹匁米五拾七匁相場書出

一講元三人拜借銀札壹貫目願出書付勘定奉行中へ相廻ス

六月廿九日 晴

一細川丈助元長屋平左衛門并同伴新二郎今日左之通於役所申渡小頭部屋目付立合出番順次孫八相濟御両所御届申達

其方女房当二月十九日大村庄助妻江対し 平左衛門

法外過言剩手向致し其座難見逃刺殺候

兼々其方家族共へ申付方不宜不屈之事ニ候

依之町払申付候立帰於今徘徊を可為無事者也

其方母当二月十九日大村庄介妻へ対し

法外過言剩手向致し其座難見逃刺殺候 新一郎

兼々平左衛門家内へ申付方不宜不屈ニ付町払

申付候依之其方立去リ申付候勿論

御構場父同断ニ候間住居徘徊不及成候

一下紺屋町玉性院和州大岑參詣米月三日立往來五十日承届右同町一

乗坊同断四十日承届寺社取次へ引合濟

一元魚町飯屋善十郎妻去ル廿六日女子出生之処殊之外虚弱色々療治いたし候へ共不相叶疵死之旨申出大年寄藏合孫左衛門諸吟味久米

屋勤八見屈病死相違無之承届ル

一若君様御任官御元服為御祝儀自他座頭警女共へ配書銀被下

一若殿様御誕生御届被為濟候御祝儀願出候へ共御一門様御弘無之

付為取替所分割渡為立合作右衛門孫八罷出ル銀高惣人数夫之別帳

ニ有ル

合銀札壹貫七拾八匁七分五厘

一貳拾四匁在名式人 一拾貳匁五分晴衆分式人

一八百八拾目衆分百七拾六人 一四拾貳匁五分打懸十七人

一五拾壹匁分五厘初心四十一人 一三拾六匁寿名廿四人

一貳匁五分小警女式人 一三拾匁配當場役料筆墨掛代共

一大坂淀屋橋筋梶木町河内屋勤七手代九兵衛銅唐金真鍮類壳參候旨

宿切手出中ノ町甲屋石兵衛

六月晦日 晴

一^{被下}大北久郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛例歳之通大工道具完參候ニ付宿

切手京町蝦屋長右衛門

七月 御用番 安藤丹後殿

御家老安藤丹後殿 大目附平井左右衛門

御年寄小須賀一学殿 大年寄齋藤孫右衛門

大目付渡辺相馬 諸吟味山本屋与三七

朔日 晴

一月次之御礼被為請諸士登城当役例之通御居間ニおゐて御礼申上ル

一新田村菊右衛門博奕宿致候由昨日於郡代所吟味有之処新魚町伊之

与申者參候由耽々何連と申義不相知かと屋伊之右衛門松屋伊之助

河元屋伊之平右三人今日於役所遂吟味候へ共不相分ニ付三人共組

合預ケ置

七月二日 晴 登城

一勝部村蓮地蓮葉例年之通来ル六日迄入札差出候様相触呉候様郡代

中ニ被申聴大年寄へ相達

一元魚町箆屋善十郎小兒相果候段御用所へ相達

一中之町兵庫屋徳兵衛林田村伝助引請流水後家借家引越同人妻共ニ

二人人別除願出候ニ付郡代中引合之上承届

一井口惣左衛門万人講省略方被仰付候段近藤伊左衛門通用

一新田村菊右衛門於牢屋郡代所ニ詮議有之候処新魚町河本屋猪ノ平

同町油師猪兵衛鍛冶町鍛冶手間清七右三人博奕致候旨菊右衛門差

口之段右吟味書御用番中ニ御下可遂吟味旨被仰渡於役所遂吟味候

処不及白状候へ共伊之平義頭取之由相聞寺社吟味中牢番預ケ申付

ル油師猪兵衛ハ呼出申付候へ共昨夜ニ行衛不相知旨申出早速尋申

付ル右清七も白状不致年寄市郎右衛門方ニ居候由同人へ預ケ置且

又かと屋猪之右衛門松屋伊之助預ケ差免右之趣御用番中大目付へ

相届ル

一去歳はた商ひ之義下方ニ而難濟□取上右裁許之義相伺候候処親之

通相済委細入組候ニ付別帳ニ記有之

七月三日 風夜ニ入雨

一今日風立候ニ付町方火之用心申付ル

一明四日御仏參被仰出御先弘并大年□申達

一夜半年寄罷出久世村丈兵衛の相手方 □ 廻状差越候者明四日当地へ罷出線繰渡方滞ニ付上御奉行所御列物可相渡候間相心得候様申来候旨申出承置

七月四日 晴 登城

一今日御仏參御延引被仰出夫々へ相達

一於江戸表加藤遠江守殿奥様去月廿四日御卒去 □ 右者殿様御從弟女之御統ニ付定 □ 御着服被為請候段御届被来候依之今日明後六日迄三日之内鳴物高声御停止被仰出大年寄并小頭江相達

一久世村の差越候廻状之趣丹後殿へ相「」申置

一駅馬廿五疋持主共例年之通壹疋ニ付大豆一俵ツ、拜借之義願出御用所相伺候処御聴濟ニ付其段大目付中并勘定奉行中へも達

一万人講省略方石名平太兵衛先前相動「」張先年之通相心得伊口恵左衛門可申談申渡尤御用番中へ伺之相濟申達

一下紺屋町ニ而中ノ町川口屋理七郎家守作人市平借 □ 山田主膳殿組

池田権兵衛へ貸申度願承届

一來ル十八日夕廿日迄町会所ニおゐて町寺院宗判取同廿一日廿三日迄在寺院同断書付出寺 □ 中へ相廻ス

七月五日 晴

一久世村丈兵衛江戸表へ罷出三御奉行の □ 裏判取之持參相手方へ相渡町 □ 所ニおゐて受取渡濟組合組頭年寄も出ル其段大年寄の申出丹後殿へ相達右目安写等一件袋ニ有

一大坂南本町三丁目小法師利兵衛例年之通墨 □ 売ニ參候旨宿切手出中ノ町福茂屋武助

一上紺屋町小山屋伊八借屋長藏林田上之町「」方へ引越人別除願引合之上承届

七月六日 晴 登城

一丈兵衛の受取候三御奉行目安裏判御用所差出然ル上ハ相手方急ニ出府申付其内ニも一件写御留守居へ相廻可然一学殿へ申達候処何分相調へ伺出候様被仰聴候ニ付生野御役所并大津「」懸合之一件写書役共へ申付ル

七月七日 晴 五ツ半時登城

一七夕御礼被為請諸士登城当役御居間ニおゐて御礼申上ル今日被為召候面々左之通

御家老当職 佐久間上総殿 同 安藤丹後殿

御年寄当役 海老原吾兵衛殿 同断 見 □

本多左門殿 大目附役太田舎人 詰江戸

平井郷左衛門

一明日五時御仏參被仰出候旨中奥目付中の通用有之夫々へ申付ル

七月八日 晴 登城

一五時御供揃御仏參被遊候ニ付御先扨甚 □ 藏

一久世村丈兵衛一件書付のたし目録引合せ相分候様相調御留守居岡村要助へ送り状認御用所へ相親置

一伏見町大坂屋理七明九日立往来十五日大坂行承届ル

七月九日 雨

一山田主膳殿病氣養生不相叶死去候昨夜御触昨八日夕今日中鳴物高声御停止被仰出組中并牢屋三軒屋大年寄へ相達

一 盆中ニ付例年之通触書出ス文段別帳ニ有リ

一 佐久間殿安藤殿海老原殿本多殿御役被仰付候義町方へ為相知ル

一 下紺屋町桜屋宇助和州大峯山上参来ル十五日立往来廿日逗留承届ル

七月十日 晴 登城

一 当国英田郡山外野村喜三郎伴伊八同人妻伴新吉右家内三人西新町

山田屋政右衛門内縁有之引受願御用所へ達承届本証文八月六日差出ス

一 備前国和氣郡塩田村和右衛門娘西新町医師箕作文庵妻ニ引受申度

人別入願承届ル尤御用所江も達同年十一月廿五日出ル本証文

一 丈兵衛懸り合目安御裏書ニ付近々出府申付ル諸吟味久米屋勘八右丈兵衛相手方生綿屋治助豊屋喜兵衛丸龜屋文六大年寄ニおゐて申渡

一 上紺屋町年寄八右衛門病氣ニ付役免願差出無抛筋相聞候ニ付承届跡役今屋佐七へ申付候様申渡置

七月十一日 晴

一 丈兵衛事段々手違之目安差上御裏判取候段不調法誤入候段相佐此義承届候ハ、出入之義双方内濟仕度旨暖人安岡町三倉屋新助申之

旨大年寄共の内意申出候へ共一旦御判物相渡候上ハ当役所切ニ而卒尔ニ聞濟候事も難成旨申之処達而丈兵衛相佐候趣美ニ誤候上ハ

此義而已を申張公儀へ奉懸御苦勞義も恐入左候へハ御用席へも御内意可申上も申置一学殿へ相親候処差而思召も無之候得共時日を移し後破証ニ及候而ハ却而妨之事ニ付今明中取計候様申談置弥右

之趣相聞丈兵衛誤一札庄屋代喜兵衛加判ニ而差出判本見届久米屋

勘八尤相手方七人江繰綿買入賃入銀七百十匁を丈兵衛へ差戻し内濟ニ暖候双方取替証文差出即刻一学殿并相馬へも相届

一 明十二日五時御供揃泰安寺御仏詣被仰出夫々へ相達

七月十二日 晴 登城

一 五時御供揃御口參被遊候

一 丈兵衛内濟ニ付目安御判物双方江江戸表へ持參御奉行所へ返納相

手方老人年寄老人近々出府之義一学殿へ相達且又一件御留守居へ相廻始末条止有之様懸合可申哉之事且内濟之義大津御代官所へ相

達義同候事何連も伺之通ニ相究ル

一 先月中町方生死人別出入并妊娠書付出ス左之通

出生十四人 死去十四人 人別入式人 人別除老人

差引而老人増 懐胎十八人

一 例年之通来ル十四日町免分同濟人馬之義大目付衆へ達尚勤者へ懸ケ合置

一 盆中三日町方関抜九時迄開置候様去歳も申付尚又去才之通同濟西

大番所貫抜も同断之事大年寄へも達小頭へ申付ル

七月十三日 晴

一 丈兵衛目安御判物持參出府之者新野屋新兵衛年寄代問屋弥兵衛へ申付其段一学殿へ相達右一件書物大目付へ差出ス

一 中之町瀬戸屋治助家屋鋪表口三間裏行十七間但大溝切半役也右家屋敷五人組相談之上ヲ以銀札百五十拾目質物ニ書入ふし、屋茂七取次ニ而老ヶ月老步半来卯五月切借用願出承届ル同廿日本証文出

一 船頭町熊野屋文五郎来ル十五日立和州大峯參詣往来日数十五日承
届

一 鍛冶町年寄市郎右衛門組合江鍛冶手間清七預置候処依願町内江預
ケ申付ル

一 明十四日盆中ニ付地藏院泰安寺御^(不詳)參被仰出候旨中奥目付中^(不詳)通
意有之夫々へ申渡

七月十四日 晴

一 盆中御^(不詳)參ニ付御用所始諸役所御通懸御目見御出相濟直ニ何連も
退出

一 例歳之通盆中町方為令相廻ル七半時出宅五半時帰宅場懸ケ御用番

一 学殿へ御届ニ罷越申置大目付相馬江高脇為届差越供立左之通

馬口取式人若堂式人同心組佐五兵衛兵助提灯持但高張二老人ハ受
取老人ハ牢屋中間鍵持老人合羽箱老人挾箱老人草履取手人箱提灯
兼

七月十五日 晴

一 先格之通御礼無之

一 大津御代官所江丈兵衛一件内濟之義以町使申越いつも之通京都御
留守居迄差留

一来ル十八日右丈兵衛目安御判物持參江戸表へ罷^(不詳)問屋弥兵衛并新
野屋新兵衛岡村要助江右一件申越候ニ付御用状遣候依之道中々飛
脚之通相心得罷越候ニ付絵府之義申立御用番一学殿御聞届被成候
ニ付大目付へも達小勤者^(不詳)繪府受取相渡

七月十六日 晴

一 今日前格之通御用場無之

一 昨日鍛冶^(不詳)兵衛悴源藏妻六月ニ致出産候処月足り不申小兒ハ間も
なく死候依而昨夜大年寄吟味ニ差遣諸吟味差添罷出ル一札取之尚
吟味書共ニ差出

一 明十七日地藏院御社參被仰出中奥目付^(不詳)通意有之下方へ申渡
七月十七日 晴夜ニ入大雨

一 御社參御延引被仰出候旨通意下方江申渡

一 明日弥兵衛新兵衛出立ニ付大目付中^(不詳)江戸同役中へ通意之書状被
差越ニ付当役所江相廻大年寄広四郎へ相渡

七月十八日 大雨から風 登城

一 橋本町松井屋孫四郎世悖与吉不所持ニ付義絶勘当仕度旨親類一同
願出御用所江相伺承届大目付中へ申達同廿四日本証文出ル

一 安岡町鍛冶長兵衛嫁ニ出生小兒死候旨今日御用所へ及御沙汰

一 大川筋満水ニ付註進申出於御城御貸人馬之義大目付中へ達御用番
中江も出役致候段相達下城即刻船頭町川土手田原屋凌通江罷出未
土俵ニ而水せき留ほと之義ニも無之候得共余程洪水ニ而暫扣罷有
之内雨も上り追々水足落候ニ付引取帰懸ケ御用番一学殿へ為届罷
越大目付相馬へ者以手紙相届尤川端江大年寄兩人組中不殘小頭共
供立者例之通此々略之

七月十九日 晴

一 御藏米六拾式匁五分町米五拾八匁五分相場書出ス

一 四時御供揃押入刃被為入候旨中奥目付^(不詳)通意尤上之町通町分御通
行不被遊候へ共御見通しニ付被申聴候由即刻大年寄江申渡

七月廿日 晴 登城

一三丁目竹津屋炊三郎来ル廿二日立大坂錢屋七郎右衛門方へ往来三
十日計逗留ニ参度願承届

一新魚町若葉屋伊八郎借家油師猪兵衛家主組合相尋候へ共未行衛不
相知旨申出猶又尋申付ル

七月廿一日 晴

一はた商ゐたし先達而手札取上置候もの共不埒御裁許之義被仰出今
日取計伺書ハ扣ニ有ル右名面左之通

西新町年寄紙屋甚兵衛勝間田町年寄荏田屋治七郎年寄役勤なしは
た商一件頭取之罪科手鎖申付ル尤役義取上

はた商頭取之罪科

手鎖申付ル

伏見町能勢屋源助船頭町高松屋利助戸川町高尾屋藤助宮脇町土佐

屋逢十郎

右四人年寄役取上追込申付ル

二丁目小倉屋茂兵衛同町富屋倉作東新町岩屋文蔵東新町槇屋源助
同町播磨屋茂八同町菊屋六郎兵衛同町松屋吾兵衛同町置屋忠兵衛

同町わら屋与七西新町升屋助同町備前屋市右衛門同町冲屋庄助

西今町久保田屋利右衛門同町はた屋藤蔵同町正田屋喜兵衛同町井

口屋利七同町黄金屋和右衛門船頭町高瀬屋勘右衛門同町新屋藤助

安岡町太黒屋利兵衛同町岡崎屋善吉同町三倉屋新助同町生綿屋治

助勝間田町山形屋九兵衛同町豊野屋万助元魚町豊屋喜兵衛同町紙

屋 □ 堺町丸亀屋文六吹屋町米屋長蔵中ノ丁津田屋 □ 林田町福

茂屋安右衛門坪井町かと屋庄助
右之者共追込申付ル

はた商附リ手札取次候段不埒ニ付吃 (マ)

米中買式歩中買共

大年寄玉置広四郎於宅申付ル立合作右衛門佐五兵衛出番順次祐蔵
兵助忠蔵右相濟一学殿并相馬へ相達

一明廿二日於松之間御唯有之小従人以上拜見之義勝手次第之旨廻状
来ル

七月廿二日 雨 登城

一橋本町今坂屋定右衛門持分家屋鋪表口五間裏行十式間但本役也五
人組相談之上同町塚角屋新八江壳渡申度願出代銀札五百目相究候

由承届ル同廿九日証文出ル

一下紺屋町原田屋佐七持分上紺屋町同人家守長七借家平屋忠七親鸞

上人御跡詣右三十日計追願承届

七月廿三日 雨

一摂州大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ今日立往来九十日計承届ル下紺
屋町松本屋長松願

一若殿様生キ御魂御祝儀ニ付類役何連も □ 召於御居間御赤飯御酒御

吸物被下之

一はた商一件ニ付追込申付候三十八人之者今日追込差免大年寄へ申

付ル晩方相濟御両所御届申達

七月廿四日 雨 登城

一坪井町高砂屋兵助摂州大坂梶木町卵屋九兵衛方へ往来三十日同町

勝屋文助右同断日数廿日計来ル廿六日立西今町久米屋勘七同断右
三人願之通承届ル

七月廿五日 雨

一新田村菊右衛門新魚町河本屋猪之平博奕言□之義何連も不相分今
日立会吟味取計郡代中申合於牢屋吟味ニ及候処双方及白状弥猪之
平も菊右衛門方へ參候旨有躰ニ申之口書取候而引取ル

七月廿六日 晴 登城

一新魚町姫路屋彦兵衛俸去月十五日夜御用ニ而御城江罷出下り懸御
下屋鋪前ニ而布浅黄小紋羽織拾ひ所々心当り承合候へ共主無之断
書出ス依而御用所へ及御沙汰候処一学殿先例御尋ニ付御触御座
候而可然町方などニ而候へハ建札ニ而も可申付候へ共御場所柄ニ
付右之趣被申上候相触候様大目付士被申聴支配方へ触達ス

一御領分野村百姓藤右衛門と申者方へ去ル十八日夜盗人這入襟物類
被盜取候ニ付註進申出候由郡代中懸合町触取計猶又吟味申付候様
一学殿被仰渡町触出ス文段者扣帳ニ有大目付中へも相達
一菊右衛門猪之平昨日立会遂吟味白状詮議詰候ニ付吟味書一学殿へ
差出然ル上ハ御裁許御伺可申上旨伺候処考之通御差図有之

一当国大庭郡台金谷村半七娘鍛冶町鍛冶次郎右衛妻ニ呼取申度老人
住宅之義及御沙汰承届ル同年九月十四日本証文出ス

一[夜ニ入北奥向雨致候由大川筋洪水之由既ニ註進水ニも及候ほど之
処重落之由承ル

七月廿七日 晴

一[下御屋鋪前布羽織拾ひ候者有之紛失之心当之者可申出旨御家中へ

も御触達有之組中へも相達

一大津御代官右原清左衛門殿御手代大鳥丈九郎内藤伴九郎ノ飛脚ニ
而申越候ハ所々御普請之引合ニ相成候由当城下町材木并竹釘鉄物
大工木挽作料直段附致官尾村庄屋方可差出旨申渡候様中来及相
答一学殿へ申上下方へ申付ル

七月廿八日 晴 登城

一御吉事ニ付御赦有之候御先例調へ差出候様一学殿被仰渡延享二
丑寛延二巳宝曆九卯御赦書付差出ス

一材木町万屋借家次郎吉母伊勢參官明廿九日立往来四十日計承届
一新魚町北側ニ而吹屋町米屋長兵衛持家屋鋪表口三間裏行十式間但
本役也五人組相談之上代銀札式百目ニ相究当町弓削屋太助へ壳渡
申度旨相願承届ル八月八日本証文出ル

七月廿九日 晴

一東新町松本屋源七世倅定次郎此度町内へ引受渡世為仕度旨人別入
願出郡代所引合承届ル

八月

御家老 佐久間上総殿 大年寄 齋藤孫右衛門
御年寄 海老原吾兵衛殿 諸吟味 直屋市郎左衛門
大御目付 赤見類助

朔日 晴

一諸士登城於松之間御礼被為請□於御居間御礼申上ル

一[御代官辻六郎左衛門殿手代沢井和四郎飯塚伊兵衛殿手代秋山茂八

郎当国弓削村の櫓村迄明二日罷通候旨御勘定所御証文ヲ以先触到來之旨大年寄の申出古格相調候処宝曆十二六月御老中右近將監殿御証文ニ而御普請方御役人罷通候節同心組差出候得共右例ニも相
当不申候ニ付通筋見苦敷無之様取計町々保頭先を為私可然旨御用番中へ親候処考之道可申付御差図ニ付其旨申付ル尤先触ニ渡舟之義有之ニ付郡代所へ懸合相濟郡代所ニ而ハ馳走ケ間敷義無之由ニ候得共御城下之義公儀御役所御証文を以罷通候へハ万公儀なミ御会釈トス以後之見合ニも可相成ニ付具ニ相記置候御証文写左之通

一馬 壹疋

右者就御用辻六郎左衛門手代沢井和四郎江戸より但馬播磨美作国迄差遣候間道中往返并領地御用共書面之馬無滞差出可繼送候也

伊豆印

六月廿五日

彈正印

江戸の

但馬

播磨国迄

美作

右宿之

村々

庄屋

年寄

名主

右同文段ニ而 飯塚伊兵衛殿手代秋山茂八郎

□御証文同断ニ付文略ス

一林田土手下腰石垣先日洪水ニ而損所有之段申出郡代中へ及通意

八月二日 晴 登城

一若殿様御誕生日ニ付詰合江赤飯御酒引サキ鯛被下之於七間廊下頂戴御用席へ罷出恐悦申上尚御祝被下候御礼申上ル大目付所へも御礼申上ル

一御代官辻六郎左衛門殿手代沢井和四郎飯塚伊兵衛殿手代秋山茂八郎無滞罷通候段大年寄共の申出即刻御両所へ御届申達

一雲州島根郡大江村百姓惣吉娘くま伊勢參宮并信州善光寺參夫の西国三十三所志巡行候処道中ニ而同行を見失ひ其上病氣之由ニ候得共達而国元帰度段願之候ニ付送り出候旨播州乙訓郡山崎宿の送り出候由当町無滞新田村へ送届ル

八月三日 晴

一明四日五時御供揃泰安寺御(不詳)參被仰出候由中興目付の通意有之夫々へ申達

一伏見町大坂屋利七去月上旬大坂河内屋源七方へ内用有之段願ニ付承届候去才懸り合 □ 福崎村菅井屋丈助へ相懸同所御番所へ罷出度旨申之候得共御蔵屋御役人桑原作治申聞候者理非ハ兎も角拙者添翰無之候而ハ差図及 □ 申聞候得共達而願候処差押帰郷申付候段作治の送り状持參罷帰ル依而大年寄へ吟味申付尤禁足申付置同六日御用番中へ相達

一美濃職人町田中屋文助梓伝次郎去丑七月当国勝山大工久左衛門門方へ差越置候処今般罷帰候段断書差出承届

一船頭町船本屋佐助借家力治同町菊右衛門借宿家祐蔵右兩人今般御

手廻御奉公ニ出候ニ付町内人別差除度旨願承届

八月四日 晴 登城

一五時御供揃御仏詣被遊

一吹屋町孤独まつ御救扶持拾五匁壹分式里受取大年寄へ相渡ス

一御櫓ニ有之候首鉄十三本当役江御預ケ被来候由先日大目付中御

達有之今日相廻受取牢屋江預ケ置

一鍛冶町鍛冶市郎左衛門江預置候鍛冶手間清七懺成請人も無之者差

置候段不届ニ付追込之義此間伺候処親之通相濟今日申渡尤清七義

ハ早速在所へ差返候様申付ル大年寄宅之取計立会小頭部屋目付差

越相濟御両所へ御届申達

一元魚町播磨屋和兵衛江預置候河本屋猪之平「」差置候硝子細工師

代助猪之平吟味之節証人ニ申立候得共一件吟味相濟候ニ付在所へ

差返候様申付ル

一八半時御供揃ニ而百間藪辺江被為入大隅宮辺ハ大手江被為入候程

も難計旨相心得可取計旨中奥目付ノ通用ニ付御先払御掃除之義夫

々へ申渡御還暮時

八月六日 晴 登城

一御蔵米六拾三匁五分町米五拾九匁五分相場書出ス

一新魚町姫路屋彦兵衛俸拾ひ候布羽織富沢武左衛門長屋猪八と申者

落し候由武左衛門書付勘定奉行栗田唯次ハ被相廻相違も無之候ハ

可相渡旨吾兵衛殿へ申置大目付へも達

一今九時院庄辺御遠乗被為入候旨中奥目付通意有之西大番所ハ町分

御懸リ被成候由右御掃除并御先払申付ル

一「百宝箱役所門前へ出候而ハ如何ニ有之哉相考主意可申上候旨吾兵

衛殿ハ被仰聞今日書付を以右御答申上候ハ唯今迄之通東西大番所

へ御箱差出被成可然旨愚意申上ル

一今日被為召御役替被仰付候面々左之通

村上縫殿丞御使番種村紋太夫奥勤右兩人於御居間被仰付候由 御

蔵奉行川口小弥太銀札場奉行山野重郎兵衛御小姓組御近習勤遠藤

場平大御番組頭長沢右源次若殿様付川上藤九郎御蔵目付永井甚

太郎御作事惣取込西村長三郎狩野家相統池渊如水御前坊主飯島伝

条地方見習松岡善吉三浦大助

八月七日 晴

一明八日五時御供揃御^{不詳}參被仰出通用中奥目付ノ有之

一先日大津御代官所出郷役人ハ申来当町竹木鉄物大工木挽作料書上

帳面今朝相廻候様宮尾村庄屋次郎左衛門ハ大年寄共へ内分申越右

ニ付帳面吾兵衛殿へ差出置候ニ付其旨伺候処御帳下り候而両方へ

相廻候様被仰渡宗門帳相違之文字付紙ニ而宗旨奉行ニ差越大年寄

共へ相渡

八月八日 雨

一泰安寺御^{不詳}參被遊御先払出ル

一不快ニ付当病御断類役ヲ以申達

一宮尾村へ竹木釘鉄物直段書上帳面木屋喜助致持參候ニ付添輪相調

今日差越莊屋次郎左衛門受取之

八月九日 雨

一東新町丸木屋長四郎江中ノ丁玉置三四郎取持之他国請酒株賃置候

処今度取戻候旨断書出承置

八月十日 昼々晴

一不快ニ付仕御断類役中を以相違

一大津御代官所正先日久世村丈兵衛内済一件申越候処右返翰今日到來岸氏相頼御用所へ差出

一正米不自由ニ付他領へ正米出候義差留置候処新穀間も無之ニ付勝手次第被可申付候之旨伺候之上右触書差出ス文段別帳ニ有

一鍛冶町市郎右衛門追込之義差免可申哉之旨岸氏ヲ以伺候処考次第可申付旨被仰渡

八月十一日 晴

一明十五日五時御不替參被仰出候旨通用有之夫々へ申付ル

一宗門帳相違之文字相改差出候ニ付宗旨奉行中へ差出ス

八月十二日 晴

一不快ニ付仕御断類役中を以申達

一一刻御不替參被遊御先払出ス

一錢相場百六文ニ相成ル

八月十三日 晴

一明十四日御仏詣通用申来夫々へ達

八月十四日 晴

一一刻御不替參被遊御先払出ス

一不快ニ付不參御断類役中へ相頼

一小姓町原田屋伊右衛門先月上旬近在売用ニ出末罷帰不申候且又宮

脇町松屋屋長七同断右式人者百日尋之義御用所同之上大年寄申付

ル

一備前国和氣郡益原村方右衛門弟熊吉儀東新町鍛冶市郎兵衛弟子ニ引受置候処方右衛門不快ニ而熊吉を差戻候様申ニ付差返度人別除申出今日御用所へ及御沙汰承届ル

一七月中生死妊娠改書付岸氏ヲ以差出左之通

一出生十四人男六人女八人 一人別入六人 一人別除四人

一死失十人 一妊娠十七人 差引而十八人増

一去ル八日宮尾村へ差越候竹木釘鉄物直段等書上帳面添状返翰到來

一宮脇町佐渡屋八左衛門戸川町福永屋藤助桶屋町大坂屋藤吾勝間田

町藥屋善七右四人之者年寄役申付ル

一明十五日九時御供揃中島辺へ被為入候旨中奥目付付通用有之夫々

へ申付ル

八月十五日 晴 今夜月食

一式日御礼被為請拙者義不快不參御断類役中ヲ以相違

一明十六日四時東本願寺付御使僧有之由尤御料理等被下候ニ付右宿

玉置広四郎へ可申付旨大目付付被申聴候由岸氏付通意ニ付即刻申

付ル明和三戊五月御使僧有之節例ヲ以諸事取計候様申達置

一今日中島辺正御殺生被為入大番所脇付蘭田町御先払申付ル暮過御

機嫌存御還被遊

八月十六日 雨

一不快ニ付不參御断岸氏ヲ以相違

一明十七日地藏院御社參通用有之夫々申付ル

一玉置広四郎於宅東本願寺使僧有之御取次村山縫殿亮御門主様御口

上扣左之趣

御太守様益御勇健被成御座祝意思召候今般門末為身使僧差出候

ニ付御安吾被為間度御使僧被送候ニ付目錄之通取送之由手綱五

筋御送物候由

御返答縫殿亮申述候御送物者例之通御断被成御使僧へ式汁五菜伴

僧へ一汁五菜御料理被下置本琳寺相伴寺社取次北郷門兵衛挨拶之

由屋後無滞相濟諸事先格之通

八月十七日 晴

一材木町河内屋武兵衛改印ニ付印鑑差出

一西今町葉屋安右衛門大坂松屋平兵衛方へ参居候処今五十日之日延

願出承届

一三丁目藤本屋安兵衛大峯参道中ニ而不快日延申出承届

八月十八日 晴

一不快ニ付当病断岸氏ヲ以相達

一御蔵米六拾式匁町米五拾八匁相場書出ス

一町方宗門帳并書本証文相違之文字書直し今日佐藤彦右衛門江為持

遣ス

一西新町伊木屋源右衛門家屋鋪表口五間半裏行十七間但九步役也去

丑二月元銀札五貫目之質物ニ書入元魚町古川屋宗助へ借用候処此

度請戻候段断書差出承置

一元魚町古川屋与作伴宗助義此度字佐美宗助与相改今泉和平次出入

奉公致度ニ付人別除願出承届ル

一中ノ町和氣屋喜作借家龜屋兵助事去丑十月四国扁路願出其後当三

(ム)

月七十日之日延断出承届又々今七十日之日延申出承届

八月十九日 雨

一林田町槽原屋喜介妻去丑極月〆経水無之候へ共当三月四ヶ月ニ至

妊娠不相分其旨断出有之由極今一応可申出処無其儀此間致出産乍

然出生之子を生立大年寄共手前ニ而遂吟味候処心得違不束之趣書

付差出

八月廿日 雨

一不快ニ付不参断類役中へ相頼遣ス

一町方月納銀札式百八十匁近藤氏へ相頼

一例年之通一宮牛馬寄せニ付博奕停止触并為忍非人共兩人ツ、彼地

江遣候様大年寄へ申付ル右文段別帳ニ有例年之事故郡代中申談前

ニ御用所御伺〇不申之事

一当月二日勝部村和介下女於途中風呂敷包之内着類繕道具持罷通候

処剥^{ハキ}被取候由右之品買取候軟質ニ取候被致候者有之候ハ、可申

出旨可相触様御用所へ被仰渡

一風呂古釜鍛古通之鎌当月十五日野村平兵衛下男拾ひ候由

一古鎌五枚野介代村伊助飯綱畑岸竹之中〇拾ひ取候由当月十五日之

由有之両条者致紛失候軟又ハ落候者有之候ハ、可申出旨是又相触

候様御達有之右三ヶ条共相触ル

八月廿一日 晴

一播州加古川ねしわく細工人九郎兵衛長治与申者式人例年之通当十

二月迄差置申度旨二階町島屋藤吉願承届ル

一三丁目蔵本屋安兵衛はた商一件咎伺之者ニ候処他参るたし一昨夜

帰郷届出今日追込申付ル大年寄孫右衛門於宅申渡吾兵衛殿類介へも御届申達

八月廿二日 晴

一 今五時日上村築場江被為入尤御道筋林田上町御通行被遊町分御見通しニ付浜田平太夫の通意依而大年寄共へ申付ル

一 不快ニ付不參御断岸氏相頼

一 日上村築場の川向杉山江被為入御還今津屋前が京橋へ被為入之旨浜田平太夫の通意御先扨且又御掃除等大年寄へ申付ル

一 町在におゐて正米切手替外扨不相成旨例歳之通書付御用所の御渡被成岸氏が被相廻触達文段別帳ニ記置

一 京町年寄菊屋清左衛門悴藤藏商用ニ付備前岡山中嶋川崎屋安兵衛門方へ明廿三日立往来廿四日計承届

一 東新町玉屋猪左衛門所持白国請酒株当寅辰ノ才迄西新町大和屋猪八借受申度御願承届

八月廿三日 晴

一 御城裏手竹刈候義二三日ニ而相濟三軒屋中村作治前後共届出承届
一 三丁目若本屋安兵衛追込今晚差免御面所へ御届申達

八月廿四日 晴

一 不快ニ付不參御断岸氏ヲ以相達

一 御代官石原清左衛門殿今夜倉見村泊明廿五日西吉田村屋休当御城下通行山北通り貞永寺泊リ之由岸氏が通用有之右同人を以町方先格之通可取計哉之旨吾兵衛殿へ御伺申達大目付へも達夫々江申達

ス元魚町の高石垣通之積ニ手合申付ル

一 途中江被差出候御使者立宿者不申付東大番所ニ而立宿相濟安永八

亥九月十五日広瀬周藏相勤節時刻移候ハ、心を付候様大目付の被相頼其節自分并若堂草履取之分ハ自分弁当持參其余下部ハ町方の

賄差出候ニ付此例ヲ以此度も可申付哉之旨大目付亦目氏へ承合候処右之趣相究候様被申聞其旨大年寄共へ申付置

一 林田町植原屋喜助致出産懐胎之節病氣ニ候哉不相分其後否相分次第可申出処無其儀出産及候由候得共小兒も無事ニ生立候義惡意無之ニ付已來為□年寄始当人組合両隣へ呵可申付哉之旨岸氏ヲ以同

相濟大年寄へ申渡

一 三船八郎右衛門病氣ニ付札元補厥御免之義奉願勘定奉行江引合候処向方江も願出委曲勘定所の被相頼候処今暫致保養相勤候様被仰

出候旨通用ニ付願書差下右之趣申渡候様孫右衛門へ達

一本郷北村太兵衛去ル九日廿日比迄間脇差一腰并襟物四ツノ五品被盜取候由買取候状質ニ取候之者致町触呉候様郡代所の被申聞勿論御用所へも申上候由ニ付触書出ス文段別帳ス有

八月廿五日 晴

一 御代官石原清左衛門昨夜倉見村泊ニ而旅御城下今日被罷通然ル処道筋二宮通ニ相成候旨郡代所の通用有之即刻御先扨并大年寄へ申

渡

一 今八過時石原清左衛門殿当町通行先扨石名佐五兵衛竹内兵助東新町の筋違橋迄先相勤道筋掃除申付ル相濟吾兵衛殿并類助へも相届ル東大番所ニ而御使者村并莊藏相勤町方の案内之者先前之通相勤

ル

八月廿六日 不正 出仕

一西今町西田屋太助伴伝五郎藤生友白と相改針医相成候度旨太助願出御用席へ□上承届尤太助儀ハ是迄之家業次男も有之由ニ付致相統候様申付置

一御代官石原清左衛門殿今夜久米北条郡宮尾村泊明廿七日暁出立大坂へ向被相越候ニ付明日御城下通行人馬先触到来候段大年寄〆申出即刻郡代中へ通用吾兵衛殿江及御沙汰町方掃除并御先払之者申付ル大目付中へも相達

一三丁目北側浜野屋六郎左衛門後家持分屋敷鋪表口六間裏行十七間但一軒役也右之家屋鋪五人組相談之上代銀札四貫目ニ相究同町高雄屋藤助へ売渡申度段願出承届ル九月三日日本証文出ル

一無宿者ニ而盜賊之由利七と申者於郡代所被召捕今日牢舎被申付如例手形相廻立合孫八差出

一河原町上之土橋破損るたし候段同町年寄註進書出ス勘定奉行中へ相廻ス

一三丁目平野屋助右衛門家守戸川町多助借家伝七儀久世村金田徳藏方へ来卯三月 □ 奉公罷越度願出承届

一安岡町扇屋三介伯州倉吉龜屋文右衛門方へ来ル廿八日立百日返「
」承届ル

八月廿七日 晴

一御代官石原清左衛門今朝宮尾村出立五時当町通行先掃三舟孫八神田順次相動無滞相濟吾兵衛殿類助江も相届ル

八月廿八日 晴 出仕

一元魚町住屋市左衛門大坂道修町川崎屋源兵衛方へ来ル晦日立往来

三十日計逗留願承届

一大坂御役人村尾彦右衛門桑原作士へ大坂屋利七一件□〆申来候返輸住屋市左衛門へ属遣ス

一錢相場百弍匁へ相成候段申出

八月廿九日 晴

一京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛手代金十郎大助市之助源之助右四人呉服商参候旨宿切手出ス京町海老屋長右衛門

一林田村熊之助疵所平愈ニ付今日於郡代所入牢被申付立合□治

八月卅日 晴 出仕

一西々条郡院庄村忠八孫政吉東新町鍛冶政次郎養子引取申度人別人願引合之上承届

一当六月十五日夜姫路屋彦兵衛伴拾ひ候浅黄布羽織富沢武左衛門長屋伊八落候由武左衛門〆書付出勘定奉行栗田唯治〆被相廻ニ付相渡唯治〆受取手形取置御用番中并大目付中へも相達

一東新町大和屋和介取持之家屋鋪南側表口二間半裏行十七間但式歩五厘役也土藏巻ヶ所長屋一ヶ所三年前子八月西新町江見屋伝七

へ質入致置候处此度受戻し同町綿屋忠兵衛相望候ニ付代銀札弍貫五拾目ニ相究メ同人へ売渡申度旨五人組以連判願出承届九月二日

本証文出ル

一林田委細町御城代組植月伝藏渡屋敷ニ居申候孫四郎夫婦伴源六三六夫婦同人娘右六人材木町大工幸介引受同町大工源九郎後家借家へ引越させ申度旨幸助願出承届尤伝藏手前故障無之旨文段ニ有ル

一原田屋紺七家守長七借家平屋忠七新鸞上人旧跡詣罷出候処今以不

罷帰今五十日日延組合の断出承届ル

一宮牛馬集ニ付博奕為忍目付非人共昼夜遣候処無別条今日返ニ引
取候段大年寄の申出承置

九月

御家老 安藤丹後殿 大年寄 蔵合孫左衛門

御年寄 小須賀一学殿 諸吟味 久米屋勘八

大目付 太田舍人

朔日 晴 登城

一月次御礼被為請諸士登城当役於御居間御礼申上ル御用所江も類役
相揃罷出当目御祝義申達

一來ル九日大隅宮祭礼ニ付西新町氏子共申合屋台差出子供三人為踊

申度尤有来之衣裳相用ヒ候旨願出御用所申上

一東大番所前関拔飛便損候旨註進書出候ニ付今日勘定奉行へ相廻ス

一錢相場百四匁ニ相成候旨大年寄の申出

一御蔵米六拾三匁町米五拾九匁相場書出ス

九月二日 夜雨 登城

一西大番所関拔損所申出勘定奉行中へ書付相廻ス

一元魚町土橋損所註進書出是又勘定奉行中へ相廻ス

一追々冬気盜賊時分ニ相成候ニ付御家中始関拔ノ稠敷申付御家中関

拔御ノ「」場所手薄之場所者つどくニ不申出大目付へ懸合候様

一学殿の被仰渡其段舍人申達

九月三日 晴

一内田伝蔵手疵為負候林田村熊之助疵所平愈依之今日猶又伝蔵吟味
取計郡代申合取計候様一学殿の被仰渡候ニ付岸権六も立合ニ而遂
吟味口書取之一学殿へ差出

九月四日 晴 登城

一今日御仏參少々御風邪被成御座候ニ而御延引被仰出

一西新町氏子大隅祭礼ニ付練物出候義承届候様御用番中の被仰渡大
目付中へも達候上申渡

一久世村丈兵衛と当町七人へ相懸目安相渡候義致内濟双方江戸表へ

罷出候弥兵衛新兵衛兩人去月八日江戸着双方申談桑原伊予守殿江

相届候処同十三日評定所へ罷出御差図ニ付罷出候処内濟御聞届

相濟御消印之義「」於御宅御取計被成候由ニ而今以不相濟候へ共

近口可相濟旨岡村要介の八月十三日出之書状到来御用所へ差出大
目付中へも達

一東新町大和屋和助家内五人此度勝手ニ付而林田村紺屋藤借屋へ

引越申度人別除願出引合之上承届

一芸山山形郡大田村権四郎倅。揖西郡下萌原村庄屋送手形ニ而送候

木町分送り出

九月五日 曇 九月六日 不成風 登城

一東新町井中ノ町氏子共大隅宮祭礼ニ付屋台差出有来之衣裳取繕御

乗供為仕度候段願出御用所へ申上承届ル大目付中へも達

一先月中町方生死人別増減書付一学殿へ出左之通

出生十一人 死去十七人 人別入七人 人別除四人 懐胎十四人

差引而三人減ス

一勝間田町西屋半兵衛願候者先達而出雲屋太兵衛後家旅籠株持居候
如此者死去後致断絶候然ル処右大兵衛後家由緒有之ニ付右株相統
仕度旨願出遂吟味候処故障無之候ニ付承届ル

一船頭町年寄老人ニ而難相動旨申出乍然相当之人物無之相聞米屋左
七へ仮役申付候様及差図置

一二階町年寄組屋勘十郎儀久々致足病色々致養生候へ共其驗も無之
迎も役義難相動候付願出無拗趣ニ付承届ル

九月七日 晴

一明八日御仏參御延引被成候段大目付中を為知申来ル

一錢三十五箇川下ニ付裏印之儀札場奉行山本文右衛門を申来則裏印
取計遣ス

九月八日 晴 登城

一明九日重陽之御祝儀少々御風邪ニ付御札不被為請旨被仰出候依之
御帳付候間辰ノ中刻を已ノ中刻迄之内登城候様廻状到来

一今屋を東新町西新町中ノ丁右三町練り物巾緘於町内屋台引出芸致
候段例才之事ながら大目付中へも及沙汰置明日屋台夜迄のたし書
付差出六丁ニ十四ヶ所割合定置尤同心組警固去歳も七人ニ而祭礼
共ニ相濟候故当年七人申付ル

九月九日 晴 登城

一重陽為御祝儀御帳付候御用所へも類役相揃罷出御祝儀申述

一大隅官祭礼ニ付屋台三つ差出候ニ付警固六人出入ル七人可出処神田
順次俄ニ病氣ニ付差遣候事ニ付六人ニ而濟先格之通相濟候旨御届

之義ハ不申達

九月十日 晴 登城

一内田伝藏林田村熊之助出入一件吟味双方詰候ニ付御裁許相伺候様
御用番中を被仰渡郡代中申談

九月十一日 晴 九月十二日 雨 登城

一如恒例大般若祈禱ニ付五時出仕例之通相詰ル畢而拜礼相濟御用所
へ罷出無滞御執行有之候旨恐悅申上ル尤御礼沓包并組中人別施御
礼来ル少々殿様御風邪ニ付御代拜小島新五右衛門被相動之

一錢相場百三匁ニ相成候段大年寄を届出

一西新町中島屋伊兵衛妻当二月経行不順候得共妊娠難分医師方決定

当七月ニ有之ニ付乍延引届出月取間違之義ハ越度ニ可申付義兼而
触知置候ニ付咎等大年寄共可伺出候処八月中旬を懐胎女相煩終
ニ致出産間もなく赤子死失遂見分右一件躰意申出御用所へ伺之上
月取間違呵申付ル

一福渡町作人忠助借屋為八御駕籠之者被召抱候ニ付当町人別除之義
承届ル

承届ル

一三丁目浜野屋十郎兵衛造酒株を借受西今町紙屋六藏商売致候へ共
当年を相止酒株主^五返之段断書出

一東新町玉屋金次郎造酒商売当秋を相止候段断書出

一西今町直屋利助造酒商売当秋を相止候段断書出

一坪井町小倉屋嘉之丞三丁目草津屋胡三郎造酒株を以商売仕候処当
秋を相止候段断書出

九月十三日 雨

一 明十四日四時供揃泰安寺へ御仏參被仰出候旨中奥目付の通用有之
即刻夫々へ触達

一 安岡町菱屋太助前ニ而西々条郡土居村忠之丞飼牛病死候ニ付取捨
之義断出ル依而先格之通取計候様申付ル

九月十四日 晴 登 城

一 泰安寺へ御^(不詳)參被遊

一 明十五日九時御供揃ニ而御遠乗杉山へ被為入御道筋京町御門の船
頭町橋被為懸候旨夫々申付ル

一 播州網干塩屋伊兵衛同人弟助三郎ノ式人荒物はた物おろし売右同
国同所高屋彦右衛門小間物おろし売右同国同所余陸屋宗七八百屋
ものおろし売右之者其中ノ町高尾屋新蔵宿切手出ル

一 播州網干余子浜菊屋弥七郎倅源次小間物おろし売大坂淀屋橋筋梶
木町河内屋甚七手代弥兵衛唐弓弦卸売右之式人中ノ丁甲屋忠兵衛
宿切手出ス

九月十五日

一 さかい町長八御駕籠御奉公ニ罷出度ニ付人別除願出承届

一 坪井町浜屋源右衛門福渡町年寄相動罷有候処此度当人年寄ニ申付
福渡町年寄兼帯申付ル

一 来ル十九日徳守宮祭礼ニ付立願有之元魚町鍛冶町堺町吹屋町坪井
町有来屋台衣裳取繕御乗之供為仕段願出且又新魚町相願候ハ西新
町ニ有来屋台衣裳借用差出度願且又船頭町有来之やたひ衣裳を借
用差出旨材木町願之右七町屋台差出願御用所へ御伺之上承届

一 式日御礼被為請諸士登城当役御居間ニおゐて御礼申上ル

一 今九時御供揃杉山へ被為入御先弘勇蔵郡次出ル御還七時

一 京町田原屋伊兵衛商用ニ付因州鳥取四丁目吉成屋権左衛門方へ来
ル廿一日立往来三十日計逗留願承届ル

九月十六日 晴

一 本郷西村宗助儀去ル五日東新町大島屋平右衛門方可致質入と持參
庭ニ差置候而用事違ニ外へ參候而罷帰候処致紛失候ニ付触流之義
願出候由一学殿の被仰渡大目付中へ達触書取計

一 御蔵米六拾四匁米六拾匁相場書出ス

一 京町今来ル十九日徳守宮祭礼ニ付有来之やたい差出子供四五人為
踊度願今日御用所へ申上承届ル大目付中へも達

一 備前岡山小畑町胤屋甚八元結卸売二階町塚屋伊右衛門宿切手出ス
一 播州網干平松屋惣九郎小間物并晒蠟売并同国同所丸屋六三郎荒物
塩物卸売且又同国同所余陸屋武兵衛八百屋物鱧節売中ノ町小山屋
与三右衛門宿切手出ス

一 来ル十九日徳守宮祭礼ニ付練り物八町願出候ニ付一町ニ式人ツ
ノ警固出ニ付加人十人申立尤大目付舍人へ達

一 久世村丈兵衛持參目安御裏判之義ニ付江戸表へ差下候山本屋弥兵
衛龍野屋新兵衛昨夜及深更帰着岡村要助の書状来ル一学殿江今日
申上大目付中へも達

一 弥兵衛新兵衛義於江戸表御奉行所向罷出入用等殊外ニ有之罷帰候
節路金不足ニ付其段要助へ願出同人の申立金子三両拝借のたし罷
帰証文写等相廻近々相納候様大年寄共へ申付ル

一 因州松平相模守殿の御到来之由錫井栗茸両種類役何連も頂戴御小

納戸へ御礼申上ル

一昨日杉山御茸狩ニ被為入候松茸等類役何連も頂戴御小戸納戸河野

助八郎を以申上ル

一錢相場百老奴ニ相成候段大手寄申出

九月十七日 晴

一今日御社參御延引被仰出候段中奥目付通用有之大年寄へ申達

九月十八日 雨 出仕

一德守宮夜宮ニ付去歲之通町方惣側関抜九つ時迄開置九時後平生之

通戸川町中元魚町二階町中貫抜三ヶ所夜中開置候様申付ル尤御用

番中大目付中へも達

一小頭并平組四人夜宮ニ付例歲之通出役申付ル

一明十九日六時御供揃赤座屋敷ニ被為入祭礼ニ付差出候練り物御覽

被遊候旨御小納戸被為相知刻限無遅滞様申付ル

一御使組加人相廻当番今夜番明日勤方申談

九月十九日 晴

一六時赤座屋敷へ被為入練り物御照覽被遊無滞相濟練り物町方へ出

芸等ゐたし場所 □ 極置屋過警固之者引取御用番中并大目付中へ

相達

九月廿日 曇 出仕

一大坂桑原村尾今大坂屋利七義ニ付申越候返輪到來

一西新町岸屋伝六後家熊借家作人松五郎林田村上ノ丁字八家守惣右

衛門借家へ引越度人別除願郡代所引合之上承届

一船頭町北側ニ而片田屋勘助家屋敷表口三間四尺裏行六間半但老軒

役也右家屋敷五人組相談之上代銀札百五拾目ニ相究メ林田村新野
屋仲右衛門へ売渡申度旨願之通今日承届ル同廿二日売券状出ス

九月廿一日 晴

一川向明見山初茸御用御留山御小姓頭大目付当役郡代勘定奉行御免
被遊ニ付今日罷越御礼御小納戸を以申上ル

九月廿二日 晴 登城

一錢相場百老ニ相成候段大手寄申届出ル

一御蔵米新六拾六匁町米新六拾貳匁相場書出ス

一安岡町古川屋佐七妻懐胎ニ候処親里船頭町瓜生原屋善七方へ去ル

九日罷越翌十日朝女子之死躰「産候旨届出即刻為見分大年寄玉

置広四郎諸吟味久米屋勘八差越候処死躰ニ無相違不埒之趣不相聞

候へ共臨月ニ親里へ差越其上死躰を産候へハ旁不審之趣申聴遂吟

味候へ共疑敷義無候去ながら臨月ニ外へ遣之義不埒ニ付叱伺之通

被仰渡大年寄申付ル

一東新町元屋文吾妻去ル八日跌倒産氣催次晩六月にて致出産翌九日

夜中小兒死候旨翌十日届出即刻斎藤源右衛門直屋市郎兵衛為見分

罷越候処疑敷事無之一札取之差出然ル処即刻可届出処翌朝申出候

段延引之義遂吟味候処年寄婦郷ニ而及延引年寄呵之義伺之通相濟

大年寄へ申付ル

一元魚町東側福永屋幸吉家屋敷表口七間裏行十間但老軒役也五人

組相談之上銀札十貫貳百目町内墨屋利兵衛取次家質ニ入申度願承

届 □ 事本証文同廿六日出ス寛政二戊五月元利相濟請戻
今日届書差出ス

一橋本町若坂屋藤吉取持候旅籠屋株勝手ニ付同町松井屋孫四郎へ相

讓申度願承届

一 撰州塚北宝寺町岸部屋茂十郎手代理八小間物御卸壳新魚町鳥屋与三

兵衛宿切手出ス

一 二階町年寄油屋八郎右衛門へ申付ル組屋勘十郎代り

九月廿三日 晴

一 大坂久太郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛大工道具壳京町海老屋長右衛門宿切手出ス

九月廿四日 少雨 出仕

一 伏見町大坂屋理七先達而登坂之節菅井屋丈助猶又懸り合事起し御番所へ罷出度御蔵屋敷へ願出候義ニ付同所御役人中へ及懸合候処別儀も不相聞今日御裁許伺置

一 実綿他所へ出候事兼々停止申付置候処近来又々猥ニ相聞停止并触取計尤一学殿伺之上申付ル文段別帳ニ留置

一 生野御代官内方鉄五郎殿御手代沢田菱右衛門今当十月米相場書取之令奥印置候ハ、尚又其節可申越旨書状到来及相答

一 御蔵米六拾九匁五分町米六拾五匁五分相場所出ス

一 江戸表岡村要助へ新野屋新兵衛山本屋「」帰着之節来書ニ付返書遣ス右兩人出立之節路金不足ニ付金子三両要助今申立拝借相濟候此度爰許ニ而勘定所へ相収手形取之同人ニ相廻ス

九月廿五日 時雨

一 勝山渡辺唐兵衛今当十月米相場書之義申来ル片便ニ而飛脚不差越一替女座頭共十里四方御祝義被下来候義ニ付「」御留守居岡村へ問合之書状返翰到来

一 岡山川崎町車屋六大夫米綿買船頭町高松屋利助宿切手出ス

九月廿六日 晴 出仕

一 元高橋三知役介當時京町たか屋清吉儀三知死失跡断絶ニ付清吉へ御扶持方以御憐愍被下置候処其後町人別ニ相成候得共右御扶持可

差上様ニ伺出候処無其儀不埒ニ付而叱追込可申付旨御用番一学殿今被仰渡

一 神田順治義元来鳳巖院様御草履取相勤御逝去後以御憐愍御扶持方被下置候処町奉行組ニ相成候而も御扶持可差上様伺出処無其儀不埒ニ付呵追込申付候様大目付太田舎人今被申渡清吉順治兩人共御扶持方ハ勿論被差留候順治申渡小頭作右衛門於宅部口目付石名

佐五兵衛立会申渡相渡舎人ニ相届清吉義大年寄於孫右衛毛小頭部屋目付立会申渡相濟一学殿舎人へ申届ル

一 元黒田彦四郎家頼内田伝藏林田村熊之助懸り合之一件御裁許伺之通御用番一学殿より被仰渡明日可取計旨郡代中申合せ手配等申付置

一 勝山渡辺唐兵衛へ返翰相認問屋へ相届候様申付置

一 山本屋弥兵衛新野屋新兵衛出府ニ付相渡候御改絵府老枚小勤者へ差戻拙者手形遣置候ニ付引替手形ハ取戻

九月廿七日 晴

〔台紙綴じて持出〕
六半時於牢屋内田伝藏女房かん左之通申渡

穢多共へ申付髪を為判親文助江相渡立合小頭部屋目付書役読渡之

かんへ申渡

当四月廿四日下紺屋町とよ方へ罷越候処林田村熊之助其方兩人

へ留守相頼候迎夫有之身分可任其意義無之候既夫伝藏罷越密会
之様子ニ見請不儀ものと斬かけ熊之助と立合候砌其場をかわし
御領外立去り忍び居候ニ付召捕遂吟味候処無証抛之申訳不埒
ニ付急度可申付候へ共用捨を以髪を判親文助へ渡ス

出番杉本郡次 中村祐藏

一於役所内田伝藏申渡左之通立会出番同断

右城境目ニ追扨同村庄屋清助一札取之罷帰ル

当四月廿四日林田村熊之助其方女房かん下紺屋町とよ留守ニ両
人罷有候処密会之様子ニ見請不儀ものと斬かけ候処取合ニ相成
手疵為負候上ハ何方迄も追詰可討留義ハ当然之理ニ候処無之其
儀却而熊之助懷中物ニ心を移し候始末言語道断之致方不屈之事
ニ候依之急度可申付候得共用捨ヲ以御領分追扨申付□向後立帰
於令徘徊可為曲事者也

一下紺屋町仁右衛門借家とよへ申渡左之通立会同断出番佐五兵衛兵
助

当四月廿四日内田伝藏女房かん林田村熊之助兩人へ留守相頼候
而罷出候処伝藏罷越密会之様ニ見請熊之助と取合刃傷にも及候
早境此一件ニ不限常々不束成致方なとも有之趣粗相聞其処今事
起り不埒之事ニ候依之急度可申付候得共用捨を以手錠懸ケ家主
仁右衛門へ預

一右同町仁右衛門女房左之通申渡候様大年寄孫左衛門諸吟味立会申
渡

当四月廿四日内田伝藏ハ林田村熊之助懷中物を預り候節及断候

而も押而預ケ候ニ付任其意「事ニも及候婦令之義婦人ながら
も差□可有之処証人無之預り候段無念之致方ニ付急度呵
右一件取計相済御両所へ御届申達

一林田村熊之助郡代中於宅左之通中渡有「出牢手形相廻例之通取

計

其爰儀当四月廿四日内田伝藏妻かんと下紺屋町とよ留守ニ罷在
候処へ伝藏参り不義ものと声立入刃傷ニも可及取一旦大小共差
押候上密会無之候ハ、其段申披も可致処無其儀懷中物相渡置逃
出候故及刃傷之様相成始末密通にも紛敷其上何角不束之儀共有
之不屈之至候依之急度可申付候得共以御憐愍御城下井川刃構追
扨申付候

一下紺屋町仁右衛門妻へ向田伝藏預ケ置候熊之助錢入巻つ取上郡代
中へ相廻手形取置候

九月廿八日 今晚時雨 朝ハ晴 登城

一坪井陣屋 嘉藤太此度吉井安助と申□交代之由ニ付来書及相
答

一三丁目浜野屋重郎兵衛悴留四郎大坂江戸堀「橋老丁目伊勢屋
徳兵衛来ル辰ノ歳迄三ヶ年奉公ニ差越度旨願承届

一戸川町一石屋常三郎後家取持之馬株四「新魚町塩田屋孫三
郎へ相讓申度旨願出承届ル

一福渡町森原屋宇兵衛悴多助妻当三月ハ懐胎□処而親極老ニ付妻
親里安岡町波屋嘉兵衛ニ而双方相談之上ヲ以嘉兵衛方へ差越置出
産為仕旨双方ハ依願承届ル

九月廿九日 晴

一城州八幡豊藏坊使僧緩乗と申僧上下式人參候旨宿切手出ス二階門
堀屋伊右衛門

十月

御家老 佐久間上総殿 大目付 渡辺相馬

御年寄 海老原吾兵衛殿

大年寄 玉置広四郎

諸吟味 山本屋与三七

朔日 晴 登城

一例刻諸士登城月次御礼被為請当役於御居間御礼申上ル即而御用所
へ相揃罷出ル

一京町たか屋清吉追込差免候様御用番吾兵衛殿申来尤明二日差免
候様大年寄へ申達

一同心組神田順次追込差免候様大目付中申来明二日差免候様小頭
作右衛門へ相達

十月二日 晴 登城

一たか屋清吉追込差免候旨御用番中へ達大目付中へも御用番中依御
差図差免候旨相達神田順次追込差免候分ハ大目付中へ達

一西新町大地屋店借伝十郎当春死失ニ付引受人西新町伊兵衛倅へ跡
相統申付候処右之者へ相懸リ雲州大原郡舟木清治と申伝十郎甥之

由ニ而申分有之当役所江申出度旨京都広幡殿御内加藤掃部と申仁
由緒有之ニ付清次申分取用遣候様頼来申分有之候へハ出羽守様

御役所可願立義候処掃部申来義ハ甚難心得旨御用番中江申上来
状差出

一御蔵米七拾匁五分町米六拾六匁五分相場書出ス

一出雲大社御師西村神太夫上下四人旦那廻リ罷越宿切手出ス坪井町

桔梗屋莊右衛門

一紀州高野山万生院使僧知靈上下式人旦那廻罷越宿切手出ス右同人

一京町松岡屋多助登坂明三日立往来廿八日計承届梶木町玉子屋九兵

衛方へ

一安岡町材木屋徳之助役介磯治義倉見宗全と相改針術仕らせ度願

一鍛冶町三國屋吉右衛門借家多蔵義香山流作と相改外療為仕度旨右

両条共御用所へ相伺之上承届大目付中へも達

一唐和明鑿之義江戸京大坂堺四ヶ所会所ニおるて売買致候間諸国へ

出明鑿之分四ヶ所最寄之会所へ売渡可申旨先年御触達有之然ル所

右会所之外今般薩摩并唐明鑿計引請是又江戸京大坂堺四ヶ所へ会

所相建売捌候旨相心得其外山方直売買御停止於相背之御咎可成

旨当八月從公儀御触達有之町方へ相触候様相馬申聴御文段別

帳ニ記置

十月三日 雨

一明四日四時御供揃ニ而泰安寺御不詳參被仰出之旨中奥目付通用有

之夫々へ相達

十月四日 少雨 登城

一例刻御仏參被遊御先払無滞引取ル

一錢相場百卷文ニ成ル大年寄届出ル

一 去子春召捕候盜賊宗助死罪御仕置之儀以書付相伺之処伺済

一 吹屋町孤独まつ御救扶持当月の三ヶ月分内貸銀札拾五匁壹分九厘

五毛手形を以受取大年寄へ相渡

一 当十一月十八日城州正法寺施入銀後會之義建札写ヲ以願出御用所

へ相伺候処御聞届相済大目付へも達大年寄へ申付ル

一 月納銀札式百八十匁勘定所へ相収受取書取置

一 大津御代官所の当十月米上中下直段書申来ル

一 志戸郡村忠右衛門と申者此間盜賊這入紛失之色品書付郡代所の被

相廻町触取計候様御用所の被仰渡触出文段別帳ニ有大目付へも達

一 送中ニおゐて問屋年寄共訴訟のため一宿二宿も訴參候義不致様先

年も被仰出候へ共尚又忘却無之様從公儀御触達有之組中へ相達且

又問屋共へ為心得写相渡置

一 大坂屋咎同済戸ノ申付候ニ付貫釘作事へ申遣受取大工持夫大年寄

へ申付ル猶立合之義申付ル小頭書役同断

一 下紺屋町作人亀吉親嘉十郎儀真島郡垂水村金田宗左衛門方へ来卯

二月奉公差越度願承届

一 伯州久米郡湯関村嘉市郎と申者罷越三十日計逗留為仕度旨坪井町

鍵屋吉兵衛願出承届

十月五日 霜晴

一 伏見町大坂屋理七戸ノ申付ル申渡文段別帳ニ記置立会例之通出番

佐五兵衛兵助大工召連罷出見届罷掃御西所へ御届申達

一 材木町万屋与三兵衛借家油師半次郎倉敷村之清三郎懸り合相済先

方願下致候段同村庄屋兩人の大年寄共へ来書清三郎願下ケ写差越

依而半次郎預ケ差免追而御用番中へ御内分可申上事

十月六日 不正 出仕

一 吹屋町熱田若狭讚州金比羅參詣七日立ニ而往来十日計承届寺社取

次中へ引合

一 上紺屋町清寛坊明七日立備前小島覽徳院へ往来七日計承届是又寺

社取次中引合

一 橋本町塚角屋新八借家若坂屋藤吉家内四人清水本助長屋引越人別

願承届

一 橋本町年寄喜八備前西大寺中野屋清吉方へ明七日立往来十日計承

届

一 元魚町いせ屋長右衛門大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ往来廿日計受

届ル

一 大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門唐くわ卸売參候旨宿切手出ス東

新町因幡屋新七

一 備中笠岡御代官所武島左膳殿手代堀善藏と申者今当町上米相場書

之義申来ル

一 万人講ニ付拝借道具書付講元の差出大目付中へ書付出勤者中へ被

相渡候様談置

一 三ッ道具 壹組 一御幕 三張 一 大文字 張灯但台共 三張

一半被 二十 一奇棒 廿五本

一 高札式枚郡代中へ懸合置

十月七日 晴 十月八日 晴 出仕

一 例刻御供揃ニ而泰安寺御仏參被遊候ニ付先払出ス尤昨日通用有之

夫へ申付□

一享保七寅年科人追放猥ニ不致候様從公儀御触達有之諸家ニ而者前々追放被相成候者共如何御取計之義ニ候哉之旨江戸御留守居懸ケ合國々方問合候様吾兵衛殿被仰渡書状相認吾兵衛殿へ入披見今晩相廻飛脚ニ差越

一野条金平表通堀大破之場所大目付中及噶置事

一井汲野助菅健之亮近藤宗兵衛屋敷破損之場所勘定奉行中へ及噶置一來ル十五日城州正法寺万人講ニ付兼而博奕制禁申付候得共猶又稱敷申渡一町切ニ年寄共請書一札取置候様仕度旨相伺候処伺通相濟其旨大年寄共へ申付ル

一右万人講ニ付先格之通觸書出ス但講ニ付他所へ入込候旅人共旅籠代殊之外高直ニゐたし候処漸々ニ町方ニ止宿之もの「」段粗相聞却而下方益ニも永々相成間敷候ニ付旅籠代何程木賃何程と申義張紙ニ而も出置候様申付ル

一当国村々大津御代官所御支配銀納銀荷昨夜当町止宿例之通申付ル今曉出立会之「」

一京都広幡殿内加藤掃部江先頃之返翰「」晚地廻飛脚ニ差越且又大津御代官所へ□來ル米相場書之義ニ付懸ケ合返翰右同断取計

一中ノ町平岡屋忠藏大坂行明九日立往來三十日計願承届ル

一□状吾兵衛殿御渡疾被披見委細可申上旨ニ而受取置

十月九日 晴

一錢相場九拾九匁ニ相成候段大年寄申出

一播州今市綿屋嘉市郎手代武兵衛伊兵衛「」呉服商來宿切手出スニ

階町堀屋伊右衛門

一講場普請出来ニ付為見分小頭罷出ル

十月十日 晴 登城

一御用ニ付こうそふ川下ケ紙漙場役人中□取計ニ付川切手裏判申來

一御家中関拔御ノリ之場所からたち植「」御用番中へ申達置

一筑前国遠賀郡柏原村小平次手代新兵衛忠次郎清太郎伊右衛門右四人茶碗売京町田戸屋宗十郎宿切手出ス

一九月中町方生死人別出入増減書付左「」
出生十五人 懷胎廿六人 死失三拾壹人 人別除八人
差引而廿四人減

一細工町大工多七女房去ル七日七ヶ月ニ而女子死躰を産大年寄藏合孫左衛門諸吟味山本屋与三七致見分候処相違之義も無之書付□并書出今日吾兵衛殿へ相違

十月十一日 雨

一御藏米七拾匁町米六拾九匁相場書出ス

一藏合孫左衛門近年病身ニ罷成押而相勤罷有候処此間ハ腹痛致以今差置致養生候得共難叶躰ニ罷成候以御憐愍御役免之義被為仰付候様願出吾兵衛へ及御沙汰

十月十二日 晴

一惇信院様御仏參御延引被仰夫々へ相違

一雲州侯御郡代中へ広幡殿内加藤掃部申越候趣ニ付問合之義相同候処伺之通「」ニ付幸便も有之近藤氏江相頼右文段□ニ有

之掃部來書寫雲州へ遣ス

一藏合孫左衛門病氣差こもり致願承届候様吾兵衛殿より被仰渡為名代齋藤孫右衛門罷出役義〇免候段申渡猶又家柄ニ付帶刀是迄之

一御扶持方ハ不被下候旨申達

一藏合孫左衛門役免ニ付壳荷川下請負之儀孫右衛門広四郎兩人伺之上申付ル且又銀札場貸付家賃與印之義も同様兩人へ当分申付ル御勘定奉公中へも及通用大目付中へも相届ル

一藏合孫左衛門病氣養生不叶死去候段広四郎届出ル

一來ル十五日万人講ニ付十四日夜四時迄町方惣側貫抜開四後平生之通可申付旨且又同心組町廻十四日昼夜式組つ、十五日同心組代リ加人六人申立昼夜三組つ、相廻十六日手組昼夜式組つ、相廻候様御用席へ相伺且又太鼓打廻之義同済

一御家中非人加廻四十五十六日三夜式組つ、相廻候様同済大年寄へ申付ル

一十五日同心代リ御使組加人六人大目付へ申談相済先格之講場加人式人供式人ひゝる場式人「」都合十四人小勤者吉田文左衛門へも懸合置

一先格通講場出役致候様吾兵衛殿へ申上ル大目付へも達且又御貸人馬之事申達置小勤者中へも達

一石名重兵衛講場出役ニ付草履取老人小勤者へ申達置

一細工町南側大工勤六家屋鋪表口老間裏行拾老間但半役也右家屋敷代銀札百八拾目ニ相極下紺屋町作人弥平次へ壳渡申度旨願出承届ル壳券状出ル

一玉置宇左衛門悴三四郎備中矢懸駅中西〇四郎右衛門方へ遣度來ル十六日立十日計承届ル

一玉置宇左衛門改印致度旨印鑑出ス

一今暮過広四郎罷出申聞候ハ二階町那き屋喜助方ニ播州辺之者之由先達而入湯友達ニ而其馴染を以昨日罷越無何心留置候処今昼飯終候後与風腹痛致候ニ付坪井町谷屋佐七參り合此者兼而「」針術致候ニ付相頼針治仕候処腹痛も快熟睡致之駄御座候而頓而茶ニ而も終可申様子見請候処絶命致候段届出候旨広四郎申出候ニ付医師ニても懸ケ色々養生致手を尽候而も絶命之事ニ候哉且ハ絶命之節組合なとも相詰りと承候処無其儀趣之由先註進書付可差出申渡目明源八呼出右之次第内々申聞承繕申出候様申付ル九時比喜助書付広四郎持參致名所も不相知由目明源八も同刻申出候ハ昨夜ふと死候様風聞も有之由旁以喜助并佐七遂吟味申出候様申渡尤兩人共組合へ預ケ且又被病死人組合共へ預ケ大切ニ番致候様申付未死骸檢使も不遣候ニ付決而兩人之外他人へ為見申聞敷旨致被申渡候様申付ル喜助佐七吟味ニ付小頭作右衛門為立会差向右一件荒増以紙面吾兵衛殿相馬へも達置

一今日十月十三日晴レ諸士一統被下候筈之処少々御風邪被被為入ニ付來廿四日被下候旨廻状到來

十月十三日 晴

一御藏米六拾九匁町米六拾五匁相場書出ス

一昨夜申付候那岐屋喜介并懸り合谷屋佐七其外喜介兩隣組合同三軒遂吟味大年寄吟味書立会小頭も引取右吟味書五兵衛殿へ差出未

病死入甚吉出所不相知下方吟味申付

一 晚刻右喜助申出候ハ大坂南久太郎町境筋東へ入あふら屋忠兵衛内甚吉と申者之由喜助手帳ニ記有之旨書付ヲ以申出猶又同心組世上承繕候処北久太郎町・東へ出ル水引屋と申者方ニ甚吉姉有之由申出候ニ付其旨吾兵衛殿へ相達然ル上ハ檢使差向病死ニ紛無之哉見届之上喜介旦那寺へ仮埋可申付哉先格も有之ニ付御徒目下目付可被差出様申上候処大目付へ申談候様御差函吾兵衛殿も大目付中へ御指図可有之由且又大坂久太郎町江二階町ハ飛脚差立承合候様申付可然之旨相伺候処尤之事之由右之趣可取計吾兵衛殿御下知有之相手方へ罷越右之趣吾兵衛殿相伺御下知有之旨申談候尚又仮埋之義寺社取次中へ御差函被下候様申達是又承知六半過時檢使差向答ニ申合置

十月十四日 晴 出仕

一 六半時部屋目付石名佐五兵衛為見分差向遂吟味候処弥病死ニ紛無之段一札取之罷帰且又乍死骸人相書取之差出即刻吾兵衛殿へ差出喜介宗旨真言宗新田村長雲寺へ仮埋口取計勿論年寄組合見届候様申付候段相達御徒目付河村市兵衛下目付中村藤兵衛兩人出ル大目付相馬へ者以手紙相達

一 城州万人講ニ付且中江弥左衛門參候旨境屋伊右衛門願差出承届一坪井町かつ屋又介大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ明後十六日立往来廿日計承届

一 蔵合孫左衛相果候段吾兵衛殿へ御届申達大目付同断
一 三浦備後守殿領分真嶋郡手谷村伊兵衛伴八吉新魚町龜屋源助由緒

有之役介ニ引受申度人別入願出御用席へ申上承届同廿七日本証文出ス

一 明日町廻御使組加人相廻心得之義共申渡前左之通日笠宗八笹岡与三兵衛松尾八十七堀内甚蔵衣笠仲介飯島文治講場加人加藤五郎八竹田源蔵明日供加藤文兵衛小堀茂助
一 御家中之面々武芸学文相励候様素読等可被為聴候旨大目付廻状到來

一 明十五日少々御風邪被為入候ニ付御礼不被為請旨御奏者廻状到來一甚吉仮埋取計相濟候段夜四時届出即刻吾兵衛殿相馬へ相届ル
一 四過時從江戸表云州松江へ早追駕龍二挺去ル七日ノ夜立先触到來候段大年寄申出ル

十月十五日 快晴

一 雲州早追先触到來之段吾兵衛殿相馬へ相達候処吾兵衛殿申來候ハ早追衆へ御用向内々相尋可申出旨申來即刻問屋へ申付ル四ツ半時早追罷通問屋ハ相尋候処南海様御逝去被成候ニ付御国元へ早追ニ罷越候由申聞其段吾兵衛殿へ相達

一 城州正法寺大般若極入銀万人講再一断ニ付町奉行郡代如先観出役井口惣左衛門石名平太兵衛大年寄斎藤孫右衛門大莊屋植月奉助御徒目付藤井安左衛門下目付小頭平組同心組不殘書役も出ル郡代下代其外例之通

寄札高老万九百三拾五枚但之五匁札此銀高五拾九貫六百七拾五匁内拾七貫九百貳匁五分三步ニ引殘而四拾壹貫七百七拾貳匁五分五拾番ニ割一番貳貫三百八拾七匁拾番貳貫百四拾八匁三分廿番同

断三拾番七貫百六拾壹匁四十番式貫百四拾八匁三分五十番四貫七

百七拾四匁間々四■七拾七匁四分つゝ

一 西川 ■陣屋齋藤六藏今当月米相場書之義申来及相答

十月十六日 雨 登城

一 万人講寄札割合書付御用所江差出

一 近々於他領万人講有之様粗相聞兼而停止申付置候得共尚稠敷申付候様市郷共同濟郡代中申合稠敷停止触出ス

一 相場書他書相廻候ニ付油紙差札十式杖麦繩六把荒物方ハ書付を以受取

一 今日講元渡場江小頭并平組式人差出十番式拾五番未受取ニ不出残之分何連も相渡濟段届出ル

十月十七日 晴 南海嶽ハ松平出羽守檢「一」也
為後年記置

一 於東武南海様御病氣之処御養生不被相叶去ル六日卒去被成候殿様半減之御着服御請被成候旨御届被成今日今来ル廿一日迄五日之内鳴物高声御停止御触書出惣町并組中牢屋三軒屋番へ達且又右為御梅御帳付候間明十八日登城候様御奏者ハ廻状到来是又大年寄へ為相知置

十月十八日 晴 登城

一 元魚町古川屋与作孫娘因州用ケ瀬屋徳兵衛と申者養女ニ差越度人別離願出御用所へ申上承届大目付中へも達

一 元魚町菊屋新兵衛借家平七と申者久米南条郡横山村伝吉家内三人由緒有之ニ付引受渡世為仕度願郡代中引合之上承届

一 京町兵吉借屋河内屋孫兵衛役介六四郎与申者大庭郡赤野村権兵衛

方へ出職仕度旨三ヶ年之内承届ル

一 御帰城ニ付大年寄共御目見之節差上物代今日相収錫三十枚代六匁孫右衛門広四郎兩人分ノ十式匁竹内政治へ相渡受取取之広四郎へ渡

一 南海様為御梅御帳付但廻勤ニ者及不申旨中奥目付ハ通意有之御用所へ御梅ハ不申述御次江者右ニ付御機嫌相親

十月十九日 晴 十月廿日 少雪 登城

一 御蔵米七拾匁町米六拾六匁相場書出ス

一 先達而御渡之疏状今日吾兵衛殿へ御返し申候坪井町吉野屋六右衛門鍛冶町喜兵衛其外無銘一通何連も無益之筋ニ付其段申上ル

一 明廿一日誕生寺万人講ニ付非人兩人差越候様申付尤建札等引取相止候様風聞候得共耽々之義不相知ニ付郡代中申合右之通取計

一 紀州高野山宝蓮院上下式人參候旨宿切手材木町桶屋忠右衛門出ス

十月廿一日 晴

一 江州多賀成然院使僧玄乘坊上下式人參候旨宿切手遣ス二階町さかい屋伊右衛門

一 鍛冶町梶屋久兵衛家屋敷三丁目平野口利助取次九年已前致質入置候処今般請返し相成候段届書差出承置

一 錢通用九拾八匁ニ相成候段大年寄共ハ届出ル

一 先日雲州郡代中へ差越候書状向方ニ而者郡代ハ讚岐国引請雲州郡中ハ郡奉行ハ致極引ニ付不及開封旨郡代神谷孫太夫山岡彦右衛門被申記ハ来書ニ而此方書状ハ封之まゝ返却有之

一 誕生寺万人講ニ付非人兩人差越候処興行無之

十月廿二日 晴 登城

一雲州郡代の申来候趣吾兵衛殿へ申達先日遣候節ハ南海様御卒去前ニ候処當時御忌中ニ付追而可差向旨申置

十月廿三日 晴

一太々神楽岡田忠太夫參御城下相廻候旨大年寄より伺出承届大目付相馬□相届ル

吾兵衛殿の罷越候様申来遂參候処明廿四日九半時町医箕作丈庵御同人宅召連為罷出旨被仰渡即刻奉書差遣大年寄へ為知申達ス

一播州姫路南町大村屋平吉弟茂兵衛墨筆太物卸売大坂梶木町河内屋甚七手代惣兵衛提灯張替播州網干新在家伊部屋清六塩物纏ふし卸売右三人中ノ町甲屋石兵衛宿切手出ス

十月廿四日 晴 登城

一船頭町田原屋六兵衛大津御代官所作州御支配所村々御年貢米同人蔵借受御廻米出納被致度申旨相望候ニ付貸蔵致度旨玉井村莊屋年寄一札取之差出ニ付御用席へ申上承届ル尤近町火用義申付ル然ル処大津御代官手代後藤左右衛門谷半右衛門右之趣願書状到来是又御用所へ申上及相答

一船頭町作人茂兵衛横山村分ニ有之候抱分畑大豆はへ下ニ三徳紙入之類□品有之拾ひ取之段註進書出中ニ為差品も無之金さかし切なと之仕業ニ被察而大番所貫按船頭町橋詰右之品当之者ハ申出候様張紙為致可然旨今日郡代中へも申談御用所へも及御沙汰候処其旨ニ可取計旨吾兵衛殿の被仰渡

一新魚町若柴屋猪八家守太郎右衛門借家油師猪兵衛先達而致出奔百

日尋申付候得共右日數過候而も行衛相知不申依之人別除申出御用所へ及御沙汰承届ル右何連も大目付へ達ス

一箕作丈庵吾兵衛殿御宅へ致同道候処一学殿御列座大目付太田舎人立合ニ而吾兵衛殿被仰渡候ハ丈庵義家業出精候段達仰聞依之御医師並被召出御擬作十人扶持被下置大目付支配被仰付旨被仰渡候右ニ付月番御家老中御年寄中へ為御礼廻動

一大坂屋理七戸ノ今日迄廿日ニ相成明日可差免之旨相伺候処伺相濟夫々へ申付置

一立秋御祝儀被下置諸士登城然ル処今以殿様御風邪眩々不被遊依之御祝儀ハ御具足御祝儀之通ニ而被下置之旨大目付の被申聴尤当役宇治橋之間大目付之次ニ而頂戴例之通御用番中へ一同ニ御礼申上退座之事御用所へ相揃ニ者不罷出

一二丁目紙屋茂三郎家屋鋪表口三間裏行十七間但半役也五人組相談之上質物ニ書人同町福渡屋伝右衛門取次銀札壹貫五百目米仰年迄壹歩半之利足御借用之段願出承届ル事十一月四日本証文出ス
一鍛冶町伝右衛門伯父六右衛門義去丑十一月久米南条郡下弓削村長吉方へ致出職罷有候処勝手ニ付罷帰候尤何之故障も無之由承置

十月廿五日 晴

一大坂屋理七戸ノ差免立合例之通出番佐五兵衛兵助大工老人差向相濟御用所御届へ申達

一坪井町一勢屋与市明廿六日立登坂願往来三十日計承届ル
十月廿六日 雨 登城

一御蔵米七拾九匁町米六拾五匁相場書出ス

一元黒田彦四郎家頼内田伝蔵懸り合細工町大工仁右衛門へ手鎖預ニ
申付置候とよ昨日迄三十日ニ相成明後廿八日可差免之段吾兵衛殿
へ伺済

一坪井町藤屋嘉右衛門登坂往来六十日計承届
一下紺屋町松本屋長松備前行六十日計承届

十月廿七日 不正

一阿州名東郡芝原村永次郎同国板野郡川崎村清兵衛同国名西郡高原
村直兵衛同国板野郡高房村新兵衛同国郡城瀬村曾右衛門右之者
共藍玉壳ニ参候旨宿切手出ス船頭町今岡屋浅右衛門
一当国御代官所廻米川下有之ニ付番人「」之旨郡代中申来即刻
大年寄へ申付ル

十月廿八日 雨 登城

一下紺屋(町名)とよ手鎖預差免立合例之通出番甚蔵忠蔵相濟御両所へ御届
申達

一去ル十五日院莊村辺へ綿買子とも罷出候処綿荷ひ候而御領外罷出
者有之買子共之相尋候処埤和村菊之丞と申者之由二宮辺ニ而辻買
致候由申之ニ付町方へ致同道罷帰段々差詰候処寺元村長兵衛と申
者之買請候由依之右菊之丞召連買子共寺元村長兵衛方へ参差詰候
処弥辻売致候義無相違旨申之右綿ハ買戻しニ □ 通用今日御用席
へ申上ル尚郡代談之上御裁許に可申上候様被仰聴
一来月二日鳳巖院様七回御忌御取越 □ 湯被仰付候此旨為御知廻状
出ス如先例惣町并組中牢屋三軒屋 □ も為相知事
一於松之間御囃子有之御家中江も拝見被仰付

十月廿九日 晴

一撰州池田村月新町植木屋平兵衛植木壳ニ参候旨宿切手出ス新魚町
鳥屋与三兵衛

一於郡代被召捕候盜賊伝介と申者牢舎ニ申付添役北郷門兵衛手形被
相廻為立会兵助差出

十月廿日 晴 登城

一林田町鳥屋嘉兵衛取持仕候他国請酒株来ル未歳迄六ヶ年借受致商
売度旨連印ニ而願出承届ル

一式步中買頭板屋八十八儀八十兵衛与改号并改印願出承届ル

一元魚町漆屋喜七後家借屋平井屋平助俸長吉義撰州大坂天満濃人町
一辰年九月御候旨届出ル

一雲州杵築大社多久十太夫与申御師例歳之通参候旨宿切手出ス堺町
小鳥屋次郎右衛門

十一月

御家老 安藤丹後殿 大目付 赤見類助

御年寄 小須賀一学殿 大年寄

十五日迄 玉置広四郎

十六日夕 斎藤孫右衛門

朔日 快晴 諸吟味 直屋市郎兵衛

一月次御礼被為請諸士登城当役於御居間御礼申上ル今日御吉事日ニ
付御普代於御玄関御礼被為請御祝義被下詰合へも例之通御祝義出
御用席へ相揃罷出候而八例月之通

一海老原吾兵衛殿孫助殿と改号被仰付候由類介が為知有之御席へ罷出祝申述之

一勝山渡辺唐兵衛の来書当十月米平均相場書之義申来相調飛脚江相渡且又毎度相場書相違候之段備後守殿御間ニ付為御挨拶御目録金二百疋被下候由唐兵衛の達文来ル先例も有之ニ付及相答
一及井野川端代八被官市郎左衛門の来状米上中下三段相場書取ニ来相調飛脚へ渡ス

一孫助殿被改号之義町方為相知候様大年寄へ申渡
一町人共致乱舞候者有之候ハ、追而可被遊御照覽候ニ付番組為差出候様御小納戸稲垣茂士の被申聴其旨大年寄へ申渡

十一月二日 快晴 登城

一 大津御代官御支配当国西々条郡久田上ノ原村孫八伴利右衛門と申者新職人町白服屋守兵衛親類ニ付役介ニ引受申渡人別離願承届

住宅本証文廿一日出ス

一 鍛冶町次郎兵衛娘寅年十六ニ罷成然ル処兼而不所持者ニ付親類打寄色々異見加候へ共不相用候ニ付親類一同義絶勘当仕度旨願出今日御用席へ相同承届十二月十五日日本証文出

一 坪井陣屋吉井要助且又目木村陣屋甲斐郡蔵右両所が米相場書取被来即刻相調飛脚へ相渡

一 西川斎藤六兵蔵江米相場書例之通從此方相廻ス

一 二階町渚屋喜助方致病死候甚吉親類之由ニ而大坂南久太郎町近江屋忠兵衛方へ飛脚差越候処忠兵衛義ハ親類ニ而無之知寄之者之由外親類ハ有之忠兵衛の件之趣相達昨日大坂内淡路町三丁目長尾屋勘右衛門病氣ニ付代同所南堀江三丁目山城屋莊次郎同所内淡路町

三丁目油屋四郎兵衛右両人罷越二階町年寄へ致応対甚吉病死無相違旨承得心申分無之段申之ニ付為後年一札差出候様申聞候処是又致承知然ル上ハ甚吉遺族ハ国元へ引候哉と申聞候処遠境甚迷惑ニ付殊更被為入御念御葬置被下候上ハ其俵ニ致置浄土宗之内相頼引導相頼申度旨申之ニ付其旨致書付可相願旨申聞候処願書差出寺社取次中へ申談之上御用番一学殿へ相同候御聴届被成候ニ付其旨広四郎へ申渡右願書一札共文段ハ別帳有之当一件袋ニ入委細大目付へも達

十一月三日 雨

一 明四日御仏參被仰出候旨中奥目付の通用有之夫々へ達

一 笠岡御役所堀善蔵の内外々上米相場書取被差越則飛脚へ相渡

一 生野御役所沢田菅右衛門上米相場書取被罷越則飛脚へ相渡

十一月四日 晴 登城

一 今日御仏參々御風邪ニ付御延引被仰出

一 大津御役所徳田佐五右衛門若山彦市田中新右衛門より上中下米三段相場書取ニ被差越則飛脚へ相渡

一 下直屋まさ取持自國受酒株上直屋利助へ三ヶ年貸シ度願承届

一 大坂内淡路町油屋四郎兵衛同所南堀江山城屋莊次郎宿仕度旨元魚町錢屋助右衛門願承届ル

一 月収銀札式百八十匁勘定所へ相収

一 先達而江戸表ニ而山本屋弥兵衛新野屋新兵衛久世村丈兵衛一件ニ付罷出金子三両拜借証文此度岡村要助が被差戻大年寄へ相渡

十一月五日 晴

一 勘右衛門病氣ニ付代同所南堀江三丁目山城屋莊次郎同所内淡路町

勘右衛門病氣ニ付代同所南堀江三丁目山城屋莊次郎同所内淡路町

十一月五日 晴

一 錢相場九十九文成候例之通申出承置

一 京町田原屋伊兵衛商用ニ付播州姫路京口壺丁目とまみ屋平兵衛方
へ明六日立往来四十五日計承届ル

十一月六日 雨 登城

一 来月五日万人講建札願相濟尤郡代中へも為相知大目付中へも達

一 二階町渚屋喜助方ニ而病死甚吉親類參懸合相濟一件落着ニ付今日
咎同書御用席へ出ス

十一月七日 晴

一 明八日泰安寺へ御仏參之義申来夫々へ達

一 町人共へ囃子被仰付候ニ付左之通番組被遊御好尤■數多候ニ付早

朝相始可申旨兼而被仰出且又林恵仲も罷出候様可相達旨御小納

戸石田新治手紙出来即刻孫右衛門立申達

高砂 杜若 湯谷 邯鄲 自然居士

墨絹 小暫 熊坂 鵜飼 鉄傷

舟弁慶 絃上 星々

十一月八日 晴 登城

一 例刻御口參被遊御先拵郡次勇藏

一 去月廿九日之夜一方村次右衛門長屋へ盜賊這入衾物等盜之取候ニ

付町触取計旨一学殿被仰渡郡代中色目書付相廻例之通取計大

目付中へも達

十一月九日 晴夜小雨

一 二階町渚屋喜助追込坪井町谷屋佐七右兩人大年寄広四郎宅におる

て小頭部屋目付立合ニ而申渡相濟一学殿并類助へ相届

十一月十日 晴 登城

一 御蔵米六拾八匁町米六拾四匁相場書出ス

一 明十一日智円院様御証月ニ付御參詣被仰出夫々へ申渡

一 越中富山向河原町松井屋佐兵衛反魂丹売中ノ町小山屋与三右衛門

宿切手出ス

十一月十一日 晴夜雨

一 今日御口參被遊候ニ付御先拵佐五兵衛兵助出ル

一 西新町年寄役高松屋孫市へ申付ル

一 髮結頭十助死去跡小姓町善助へ申付ル

一 明十二日御口參被仰出夫々へ達ス

十一月十二日 晴 登城

一 今日御仏參被遊候ニ付御先拵郡次勇藏差出ス

一 十月中町方人別入懐胎改書付左之通出ス

出生十六人男十人女六人 人別入四人 人別離七人

死失十八人 差引而五人減し懐胎十五人

一 町方貫抜中しまり東西式手ニ分ケ式人つゝ式組入達ニ貫抜くを

相廻候様申付ル去歳壹町切ニ半時廻ニ申付候得共下方殊之外困窮

仕候様ニ相聞貫抜ノも申付候上ハ右之通ニ而も可然様存候間若又

不ノリ之義も候ハ、尚又御伺之上去歳之通ニも申付哉之段今日御

用所へ伺済申付ル

一 御家中夜中非人廻去歳式人つゝ二組四人相廻候へ共老組相廻可然

万人講前後又ハ時寄加廻申付候而可然哉之旨伺済一夜式人つゝハ

御家中林田ノ上之町迄廻候様申付ル何連も大目付中へ相達

二丁目福永屋藤助家屋敷表口四間裏行十七間但御役老軒役也右之家屋敷五人組相談之上代銀札六百目ニ相極同町松田屋寿太郎へ売渡申度願承届ル同廿一日売券状出ス

一武丁目松田屋寿太郎家屋敷表口四間裏行十七間但一軒役也右之家屋鋪五人組相談之上代銀札壹貫目ニ相究同町福永屋藤助へ売渡申度願承届ル同廿一日売券状出ス

寛政四年八月御返候御書出ス

一西新町谷屋庄右衛門持之家屋鋪南側表口三間裏行十七間但大溝切三步役右家屋敷五人組相談之上質物ニ書入同町沖屋庄助銀札五百目当寅今来卯三月切老割利足相極借用致度旨承届ル同十二月朔日本証出ス

一林田町茅野屋伊助持来候古道具取替株今度橋本町柳屋団七江相讓申度旨右両一紙連判を以願出承届ル

十一月十三日 晴

一明十四日泰安寺へ御口參被仰夫々へ申達

十一月十四日 晴

一今日御口詣被遊候ニ付御先払出ス

一船頭町鶴ヶ崎紙五郎徳守宮於社地晴天一日花相撲興行仕度旨願出寺社取次中へ引合之上御用席へ申上承届ル大目付士へも相達追而日限者可申出筈

一京町高島屋市太郎中村福平と相改海老原孫助殿へ出入奉公ニ罷出度尤町内多賀屋鶴次郎從弟ニ付此者へ家名代「申度旨願承届ル」近々町人囃子御照覽被遊候節狂言も御覽可遊候ニ付申付候様御小納戸石田持次被申聽其旨孫右衛門へ申付ル

一来ル十八日万人講ニ付諸事先月興行之砌執計之通申付候様御用席へ伺濟大目付士へも相達尤右朝夜廻候出役口付御貸人馬等之義も相達小勤者中へも及懸合置大年寄并小頭作右衛門へも申付ル

十一月十五日 晴 登城

一式日御礼被為請諸士登城当役御居間におゐて御礼申上ル御用席へも御祝義申述

一南新座御家中向通岸の老間送へ出し候而からたち植置生立候上ハ清果寺前稲垣茂士角ニ式ヶ所貫抜付尤桶屋町中出口戸川町福渡町本々出口貫抜右三ヶ所引取候様墨引ヲ以伺濟大目付中へも達

一四十間古市究毛下屋敷御堀岸竹垣に致候様御用所へ伺濟是又大目付中へも達

一勢州藤崎神主手代松井李兵衛且那廻ニ參候旨宿切手出ス二階町堺屋伊右衛門

十一月十六日 雨 登城

一下紺屋町原田屋佐七家守上紺屋町平七借家平屋忠七当二月親鸞聖人日跡迎詣往來百日願罷出日数切候而も罷歸其後度々日延願出承届候得共未罷歸依之人別離之願差出御用所へ申上承届ル

一御藏米六拾七匁町米六拾三匁相場書出ス

一明十七日惠照院様御証月ニ付而泰安寺御口參被仰出夫々へ申渡ス

一先達而伺置候盜賊御仕置来ル十九日可取計之旨於御用席大目付赤見類助立合ニ而一学殿が被仰渡

一徳守宮於社地花角力興行之義来ル十九日致候旨申出御用席へ申上候大目付中へも達

一下紺屋町大工仁右衛門借家とよ秋元三左衛門長屋へ引越人別離願
出承届ル

一來ル十八日万人講ニ付町触之義ハ先例之文段ニ而差出

十一月十七日 雨

一惠照院様御証月ニ付例刻御參詣被遊御先払出ス

一渡辺甫庵三男周良岩佐孝政養子ニ貫申度人別人願差出承届ル

一橋本町後藤屋孫市持分家屋敷表口拾壹間裏行八間但東ニ五間ニ式

間半建物とも式步五厘役也此家屋鋪五人組相談之上ふしみ町筑後

屋安右衛門取次ニ而東新町定屋文蔵質物ニ書入銀札貳百目利分式

割半來卯十月切借用之願承届ル同廿一日証文出ス

十一月十八日 晴

一城州正法寺万人講ニ付出役郡代町奉行御徒目付石垣伝太夫下目付

町目付石名平太兵衛小頭室井作右衛門同心組十人内加入式人大年

寄斎藤孫右衛門大莊屋植月李助諸吟味而人其余取計如例送懸ケ御

用番一学殿罷「」大目付中へ以手紙相届ル

寄札高老万七千八百四拾六枚但之五匁札

此銀札八拾九貫貳百三拾匁

内貳拾六貫七百六拾九匁 三步引

残而六拾貳貫四百六十匁 六拾番ニ割

老番一貫六百七拾六匁九分 拾番老貫七百八十四匁六分 貳拾番

同断三拾番拾貫七百七匁六分 四十番老貫七百八十四匁六分 五

拾番同断 六十番四貫百四匁五分式厘 間々七百拾壹匁貳分四厘

つゝ

一町廻り同心組加入六人表組五人御使組老人合六人昼夜三度ツゝ明
日御仕置取計ニ付加入四人申立

一首打刀研屋相渡如先例牢番取計尤於兼田死罪於牢屋敲之上非人

へ遣之ニ付其旨大年寄へ申付ル夫々出役書役已下申渡御徒目付下

目付も両所へ被差出候様大目付中へ申談敲之内郡代中手ニ而被召

捕候者も有之無宿ニ付此方へ申渡之積申付置

一備中小坂郡水谷但馬守殿内近藤武左衛門中島幸右衛門近藤政蔵

合 当十月米相場直段書江戸表鈴木甚大夫へ相廻候ニ付為挨拶來状且

又例歳之通釜鋪紙式束被為贈及相

十月十九日 晴

一今日六時出於兼田盜賊宗助死罪申付ル立合御徒目付石垣伝太夫下

目付原七郎小頭代リ三舟孫八出番福門甚蔵石名忠蔵同刻於牢屋前

盜賊新吉百敲之上父河原町彦兵衛へ渡

一百敲之上非人へ渡

盜賊 助八

一右同断但郡代所ニ而被召捕

定吉

無宿者ニ付此方へ申渡

喜八

一五十敲之上非人へ渡

新七

一五十敲之上非人へ渡

盜賊 利七

一出牢之上非人へ渡

吉之助

一居町払

盜賊助次落之宿

利介

一宿株取上追込

爰者懸り合

小西屋要助

右牢屋出後御徒目付金田十左衛門富田文蔵書役藤森喜作小頭宝井

作右衛門出番石」
「竹田兵助杉平紋次中村祐藏但利助要助ハ
於役所申渡大年寄諸吟味立合

一盜賊定吉盜ミ取之着類三室屋ニ質物有之取上高尾屋へ相渡候様申
付且又高尾屋勘「」他參申付置候得共定吉御裁許相濟候「

「差免

一二階町渚屋喜助追込差免御両所へ御届申達

一盜賊新吉盜ミ取之着類之内わた入帯ハ今岡屋源六へ渡雨羽織卷つ
材木屋庄助へ相渡

一御蔵米六拾六匁米六拾二匁相場書出ス

一德守宮於社地花角力有之同心組祐藏順次出ス暮時引取御両所へ御
届申達

一殘札渡方小頭平組兩人出ス但残り札三枚有之

一先月十五日万人講残り札廿五番里公文村井口喜助と申者取主ニ而
相渡

十一月廿日 晴 登城

一去ル十八日講寄札書付御用所へ出ス

一元魚町肥後屋佐七娘撰州大坂堂嶋小西屋与兵衛方差遣度人別除願
御用所へ申上承届大目付へも達

一勢州河北助太夫手代辻田善治宿切手出ニかひ町塚屋猪右衛門

一斬罪者有之節者前日密々御小納戸へ可申達旨御意有之候由小島新
「」之申聴

一明後廿二日町在之者角力取之者於御対「」角力地取御照覽被遊候
旨被仰出御小納戸高島半助申来即刻下方へ申付ル

十一月廿一日 晴曇

一明廿二日於御対面所角力御覽被遊候ニ付御家中二男三男御徒坊主
迄見物不苦旨大目付廻状到来右ニ付明日出席無之旨上意合爲知手
紙到来

一なら今井町墨屋伊兵衛手代源助參候而宿切手出ス京町瀧山屋惣兵
衛

一勢州朝熊岳明王院使僧中坊宝藏坊休可坊悦中坊上下八人旦那廻来
候旨宿切手出小姓町口地屋茂八

一城州愛宕山長康坊使僧彦意坊柳意坊上下三人旦那廻參候旨やと切
手出ス小姓町肥地屋茂八

一盜賊定吉盜取之品高尾屋勘七後家へ相渡受取証文取置

十一月廿二日 晴

一於御対面所市郷之者角力地取被遊御照覽候右何連も御酒御被下
置尤御小納戸之取計ニ而事濟今日角力一統御家中へも見物被仰
付昨日廻状相廻ル類役大目付席ニ而見物御用所此方共迄御酒御吸
物「」

十一月廿三日 晴

一明後廿五日町人共囃子狂言於御対面所被遊御照覽候旨被仰御小納
戸石田持治御達有之下方へ申付ル

一盜賊久米藏と申者於郡代所被召捕今日入牢爲立合竹田云助出ス例
之手形差越

十一月廿四日 晴 登城

一御蔵米六拾七匁米六拾二匁相場書出ス

一米相場高直ニ相成候ニ付酒直段上ケ之儀惣造酒屋ノ申出先々相考候処宝曆五亥明和五寅米高直之節亥ニハ式分上ケニ申付寅ニハ壹分上ケ申付安永元辰年造酒屋共へ運上被仰出前々之通ニ而ハ相当無之理ニ候へハ當時六拾六七匁ニ付式分上ケ願出候へ共壹分上ケニ承届候様御用席へ申上御聞届ニ付其旨申渡大目付中へも達

一船頭町山家屋源吉福渡町皆木屋甚介口屋町吉田屋平介美濃職人町常盤屋差兵衛

一(女)房こま右四人之者親類組合両隣願ニ付出牢之上預ケ遺宅ニ而手稼致候様申付ル先達而御用席伺相濟今日申渡

「町河本屋猪之平今日今牢賄入牢手形差遣

一新田村菊右衛門今日出牢ニ付郡代中手形相廻立合郡治罷出ル

一四十間御藏跡古市究毛下屋敷南御堀土手下老間半程竹垣ニ相成候様御用席伺濟今日御作事方へ申談ル

一高場半助長屋権兵衛と申者同人妻式人西新町大黒屋藤藏引受人別入願承届ル

十一月廿五日 晴
一於御対面所町人乱舞御照覽被遊候ニ付五時罷出御座敷へ相詰ル御家老中御年寄中大目付夜ニ入六半時相濟役者共へ御酒御肴等被下置英田郡倉敷村林衛仲と申者浪人兼而乱舞巧者ニ付被仰付罷出ル

十一月廿六時 晴 登城

一昨日町人共乱舞御覽被遊先格無之事口其上御肴等被下置候ニ付御小納戸迄御礼申上ル

一御蔵米六拾七匁五分町米六拾三匁五分相場書出

一小姓町撰津国屋みね先年秤野系図内々差上候ニ付御捨扶持式人扶持被下置其後一統御引米ニ付引方被仰付甚難波願出然ル処一統之事ニ候へハ願之義無取上筋ニ候へ共畢竟之処ハ系図を二人扶持ニ而御買上被成候理ニも相当取候へハ御引方ハ御不当ニ付御用席へ申上候処御聞届相濟其旨申渡大目付中へも達

一横野村五兵衛半三郎去ル十四日於講場致落もの中ニ切手又ハ御年貢通等有之町触取計候様御用番中へ被仰渡例之通触書出ス

一奈良今井国政忠兵衛手代庄右衛門半次郎二人参候旨宿切手出ス京町瀧山屋惣兵衛

十一月廿七日 晴

一桂屋久兵衛家屋敷表口四間裏行十三間但半役也右家屋敷五人組相談之上質物ニ書入銀札七百目当才の来ル申年迄七歲賦なし崩し借用願書差出承届同十二月十四日本証文出ス

一城州正法寺役僧青松寺万人講興行ニ付右相濟候迄逗留為仕度堺屋伊右衛願書差出承届

一大坂南本町三丁目小法師利兵衛墨筆壳参候旨宿切手出ス中之町福茂屋武助

十一月廿八日 晴 登城

一桶屋町年寄大坂屋藤五郎次郎助と改号且印形改申度印鑑出ス

一殿様今日院莊辺へ御鷹野被為入

一船頭町片田屋市右衛門娘久米北条郡官尾村岡本屋治左衛門妻ニ差越度人別除願御用席へ申上承届

一三丁目草津屋胡三郎大久保加賀守殿御預分久米南条郡山手公文村

佐五郎娘同人妻ニ引取申度人別入願出御用席へ申上承届翌十二月九日住宅本証文差出ス

一京町加茂屋平左衛門摂州大坂順慶町壹丁目堺屋市兵衛小間物卸売御当地へ参度旨相望候ニ付宿仕度願出先達而御用宿申付候ニ付為手当承届為然ニ候へ共宿屋仲ケ間存寄可有之哉と遂吟味候へ共故障無之ニ付御用席へ伺之上承届

十一月廿九日 晴

一御藏米六拾八匁五分町米六拾四匁五分相場書出

一船頭町田原屋六兵衛取持他国請酒株来巳ノ十二月迄東新町丸木屋

長四郎へ貸申度願連判願差出承届ル

一元雲州建縫郡宝村義藏と申者風来之由盜賊疑敷目明共申出先牢

番へ預置□原定次郎長屋甚八と申者方ニ窃□致候よしニ而右之趣

御番番へ申上勘定奉行中懸合呼出之積ニ申置

一酒改坪井屋藤十郎へ申付ル

一元魚町紙屋助右衛門へ飛脚宿申付ル尤「七拾五文ニ相極申付ル

新魚町旋野屋茂市勘定所ニ而飛脚宿差免被申渡

一中ノ町山西屋要助追込今日差免尤大年寄宅ニ而申渡

十二月 御月番

御家老 佐久間上総殿

大目付 太田舎人

御年寄 海老原吾兵衛殿

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 久米屋勘□

朔日 晴 登城

一月次御礼被為請諸士登城当役御礼於御居間申上ル御用席類役相揃

御礼参申述

十二月二日 晴 登城

一御藏米六拾七匁五分町米六拾三匁五分相場書出

一宿馬廿□疋老疋ニ大豆式俵半宛例歳之通拜借之□願書差出御用席

へ申上承届ル

一宮脇町ニ而西今町藺田屋伝兵衛借家松尾屋長七且又小姓町ニ而瓜

生原屋平吉借家伊右衛門右兩人当七月上旬致出奔百日尋申付候処

日数相立候而も行衛不相知依人別除願出御用所へ申上承届大目付

中へも達ス

一石原定次郎長屋甚八呼出遂吟味候処偽多ニ付牢番預ケニ申付ル其

旨□用番中并大目付中相達

十二月三日 雪

一明四日泰安寺へ御仏参被仰出夫々へ達

十二月四日 少雪 登城

一昨日牢屋へ左五兵衛兵助日明老人非人老人差越無宿儀藏盜賊筋遂

吟味候処当秋東新町玉屋ニ而実綿盜ミ候儀且又去月廿五日林田

町中村屋平兵衛方ニ而銀札四拾式匁盜取候義及白状爪印取之差出

候ニ付今日御用席へ申上ル此吟味書ニ野条金平長屋十藏御城代組

青江定右衛門渡屋敷治助右兩人義藏預ケ物致置候由ニ付呼出吟味

可致哉と御用席へ伺済大目付中へも談金平江者此「」も

手紙ニ而申遣治助へ小頭作右衛門御城代組小□井汲「」衛門へ

手紙ニ而申遣明後六日何連も呼遣旨申遣置

一万人講ニ付諸取計去月十八日之通執計候様御用席へも申上ル御貸

人馬等大目付中へ達加入之義明日町廻屋夜六人供式人講場へ式人
ひひる場式人ノ十四人相廻ル

一 錢相場百式文ニ相成町触大年寄取計之旨先前之通申出ル

一 安岡町割屋佐七弟去ル戊年今当寅五歲英田郡土居村利右衛門方奉
公差越置候処尚又来ル巳年迄今三ヶ年季奉公致させ度願承届

一 吹屋町南側吹屋八右衛門家屋敷表口式間五尺裏行六間式尺式歩半
役也代銀札三拾匁ニ相究作人吉右衛門へ壳渡度願承届同十日壳券
状差出又翌正月廿九日

一 西今町黄金屋和右衛門家屋敷北側表口四間裏行拾五間七步五厘役
也五人組相談之上質物書入銀札六百匁ニ而札屋多助取次ニ而借用
之段願書差出承届ル同十日日本証文出ス

十二月五日 晴

一 四時講場出役拙者并郡代添役北郷門兵衛其外例之通同心組不残出
ル大年寄玉置広四郎大庄屋土居与三兵衛右退出懸孫助殿へ為届罷
越大目付中へ以手紙相届ル

寄札高七千六百三拾五枚但五匁札
此銀札三拾八貫百七拾五匁

内拾壹貫四百五拾式匁五分 三步ニ引
残而式拾六貫七百式拾式匁五分

六十番ニ割

老番老貫百四拾五匁式分五厘 拾番七百六拾匁五分

廿番同断 三十番四貫五百八拾壹匁

四十番七百六拾三匁五分 五十番同断

六十番老貫七百五拾六匁五厘 間々三百五匁四分つゝ
一 盜賊儀藏入牢手形遣尤牢賄申付ル

十二月六日 晴 登城

一 明日万人講寄札高書付御用席へ差出

一 林田上ノ町作人莊右衛門并同人孫莊太郎兩人伏見町吉兵衛内縁有
之ニ付引受願郡代中引合之上承届

一 御城代組青江定右衛門渡屋敷住利介へ盜賊儀藏差置且又取替銀札
等有之旨懸合之義も無覚束ニ付呼出遂吟味候処盜賊筋懸合者無之
取替銀札其外新物預候義ハ有之旨口書取之猶又野条金平長屋十藏
右同断呼出遂吟味候処利助同様ニ相聞是又口書取之兩人受人共印
形取之暮時差返ス立合平太兵衛其外例之通出番郡次祐藏

一 茅町玉屋長右衛門家屋敷表口三門裏行十七門安岡町忠七取次質物
ニ書入銀札百式拾匁七ヶ年已前申借用候処此度并洛相洛候段断書
出ス

一 新魚町淀屋弥兵衛妻七ヶ月出産赤子死躰註進申出即刻大年寄広四
郎諸吟味勘八為見分罷出紛敷義無之死躰無間違段一札取之差出吟
味弁書も有之御用所申上ル

十二月七日 みそれ雪

一 明八日御仏參被仰出夫々へ相達

十二月八日晴 登城

一 例刻御仏參被遊御先払差出

一 錢相場今日六百三文ニ減ル

一 野条金平長屋十藏御城代組青江定右衛門支配利介并盜賊儀藏吟味

書御用所へ差出

一阿州板野郡永留村重藏手代多七郎兵内式人藍玉売吹屋町さわ屋惣左衛門宿切手出ス

十二月九日 晴

一桶屋町大坂屋次郎助持分極原前平場無宿孝女老人步行不叶罷有氣分正敷出生承候得共無宿跡ニ相聞地所郡代構ニ付向方へ届出候ニ付書付差出

十二月十日 晴 登城

一先月中町方人別出入生死懷胎書付左之通孫助殿へ差出
出生十七人男九人女八人 人別入五人 人別除四人
死失七人差引而十卷人増懷胎九人書付出ス

十二月十一日 晴

一明十二日泰安寺へ御仏參被仰出夫々へ達

一御藏米六拾八匁五分町米六拾四匁五分相場書出

一京都広幡殿内加藤掃部公先達而東新町大地屋孫七借家伝十郎親類之由雲州舟木清次訴訟之義内々頼来尚又右趣ニ而催促之飛脚差越然ル処雲州領之者公当地へ相懸り出入之義ニ候へハ外公頼ニ付可取計謂無之ニ付其旨及断り趣返翰ニ認孫助殿へ伺之処何之通相相及返翰尤大目付中へも達委細者書翰留帳ニ有

十二月十二日 晴 登城

一例刻御供揃泰安寺へ御仏參無滞相濟

一於御用席大目付太田舎人立合被仰渡候ハ蔵合猪三郎義兼々病身ニ相聞候へ共家柄格別ニ付而大年寄役被仰付候入念可相勸旨尤御擬

作並之通被下置右之趣申渡候様孫助殿公被仰渡蔵合家ニ付前々公

売荷川下請負之致来候前々之通ニ申来哉伺候処是又伺之通相濟奉書を以呼出右之趣申渡孫右衛門差添立台石名平太兵衛并小頭室井作右衛門右相濟御所へ御届申達

一博奕兼々禁止申付候へ共尚又堅可相守自他領無差別相背之者ハ召捕牢舎宿賄買家之者及難渋ニテ一町内賄申付尤米ニ者不限五穀之内ヲ以賄候様触知置候此間御用所へ伺候処今日相濟大目付士へ達觸書大年寄孫右衛門へ相渡

十二月十三日

一錢相場百四文ニ成ル

一明十五日泰安寺御仏參被仰出夫々達

十二月十四日 雪 登城

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛名西郡幸嶋村平次兵衛手代吉兵衛同国同所武左衛門手代与一兵衛右三人藍玉売京町今出屋半兵衛宿切手出ス

一例刻御仏參被遊無滞相濟御先払出ス

一戸川町ニ而三丁目高尾屋藤助取持家屋敷表口三間裏行拾間六步役也五人組相談之上町内社人八木永馬江銀札三百目ニ相究売渡申度旨願書出承届翌正月廿九日売券状出ス

一中ノ町谷屋清助取持家屋敷表口三間裏行拾五間半但半役也五人組相談之上上紺屋町津島屋安次郎取次質物書入銀札拾六匁借入申度旨願出承届ル同廿四日本証文出ス

十二月十五日 雪 登城

一 式日御礼被為請諸士登城当役例通御居間におゐて御礼申上ル

十二月十六日 晴 登城

一 明十七日地藏院御社参例刻御供揃被仰出大年寄へ達ス

一 境町稲野屋徳左衛門妻ニ西北条郡田邑川西庄屋喜八娘を引請度人別入願

一 右同町小山屋治兵衛姫ニ東南条郡林田上ノ町文助娘を引受度人別入願右両条郡代中引合之上承届ル

一 城州西法寺講ニ付寺納銀百五十拾兩代銀札九貫目青松寺并中江弥左衛門兩人相渡受取手形差出ス御用番孫助殿大目付舍人へ入披見猶又下方へ下ル

一 桶屋町善右衛門後家梓嘉平次義先年身持不埒ニ付夫善右衛門存命之内義絶勘当致候処当時一応取直候然ル処右後家及老衰養育等致度旨申之ニ付勘当願下之義願出御用所へ申上候而承届ル

一 大津御代官石原清左衛門殿支配当国東北条郡塔中村丈助并同人妻娘家内三人親類ニ付此度新職人町年寄茂兵衛役介ニ引受人別人申度願今日御用所へ申上承届何も大目付中へ達

一 月迫ニ付町触之義先格文段ニ而大年寄へ相渡ス

一 封印銀札開封之義先日相伺置候処今日伺之通相濟

一 野条金平長屋住十蔵御城代組青江定右衛門渡屋敷住理介右兩人先日吟味之節致博奕旨申之ニ付御裁許之義伺候様孫助殿被仰渡相伺候処伺之通御城下一里四方追払可申付旨御用所ニおゐて孫助殿被仰渡大目付へ申談候処金平へ者舍人分町奉行所へ十蔵引渡候様達有之尤其旨当役所分も懸合同心組石名忠蔵竹内兵助差向手鎖

ニ而受取於白州申渡取計小原村ニ而追払庄屋嘉右衛門見届一札取之帰ル理介義者役所小頭作右衛門分向方小頭并汲李右衛門へ当役所へ受取候様及懸合是又同心組三舟孫八神田順士差向手鎖ニ而受取帰ル取計十蔵同断十蔵理介盜賊義蔵分預り品役所へ取上追而被盜候中村屋平兵衛銀札ハ可相渡等ニ相伺置事尤相濟之上孫助殿舍人相届ル

十二月十七日 雨

一 封印銀札開封当役所ニおゐて申渡面々左之通

札元役相動候ニ付

札元補欠相動候ニ付

右同断

諸吟味役相動候ニ付

右ハ勝手向不如意ニ付

右之面々役所申渡立合孫右衛門小頭作右衛門町年寄已下孫右衛門宅申渡立合作右衛門出ル左之面々

此者健申ニ付組合之者へ申渡置

小倉屋嘉之介今津屋孫十郎三倉屋菊次郎正木屋才吉浜田屋伝右衛門阿賀屋善三郎伊崎屋長左衛門高尾屋勘七後家魚住屋太郎右衛門

直屋まさ鍛治喜兵衛浜野屋六郎左衛門後家山形伝左衛門後家吉田

屋平吉板屋八十兵衛松屋清六大屋仁右衛門油屋与一郎大庭屋万介

原屋助左衛門塩屋庄介西屋治右衛門羽織屋喜兵衛御蔵元文五郎

此分難波人

永松屋彦左衛門桶屋甚右衛門平田屋平八肥地屋茂八米屋喜兵衛菊

此分難波人

永松屋彦左衛門桶屋甚右衛門平田屋平八肥地屋茂八米屋喜兵衛菊

屋清左衛門米屋八兵衛玉屋源右衛門樫本屋甚左衛門後家角屋又治
瀧山屋平四郎豊国屋十右衛門 此分勝手向裏之分

開封銀札惣辻式拾六貫四百匁小訳ハ省略

十二月十八日 少雪 登城

一石原定次郎長屋住甚八義盜賊義藏差置候ニ付遂吟味候処陳之吟味
中牢番預ケ申付置牢屋ニおゐて遂糺明候処盜賊懸リ合無之相決預
ケ差免之義孫助殿へ相伺候処伺之通相濟大目付中へも達今八過時
請人可差出定次郎へ可被相達候様勘定奉行近藤伊左衛門へ申渡請
人林田村山根分彦右衛門相渡受書取置御両所へ相達

一来ル廿八日大年寄三人為歳末御祝義雉子献上之旨御奏者中申達置
一材木町高田屋理介所持古道具取替株橋本町五島屋孫市へ相讓度願
承届ル

一西今町住屋弁藏家屋敷表口三間裏行十五間五步役也同町京屋伝兵
衛質入ニ致置候処此受返同町久保田屋理右衛門へ質物ニ書入米卯
十二月切六百匁質入願承届同廿四日本証文出ル

一西新町紙屋幾右衛門悻多三郎小須賀一学殿出入奉公致度人別離願
承届ル

一かつまた町南側高野屋伊助家屋敷表口三間裏行十七間但本役也銀

札百五拾匁之質物へ書入林田町高田屋和助へ質入之願承届翌日

一川島桃庵悻三省来ル廿二日御難子被遊候其節仕舞被仰付候ニ付其
旨可申渡御小納戸河野助式郎へ申来大年寄同道呼出申渡

一北村季齋只今迄針術ゐたし候処此度本道ニ罷成度旨願出承届ル

十二月十九日 寒

一錢相場今日今百三匁ニ相成候段申出ル

十二月廿日 晴 登城

一川島三省来ル廿二日登城ニ付御門通行之義中奥目付中へ懸合置

一新職人町坂本屋政次郎役介娘かの西川大久保加賀守殿医師岡松雲
養女ニ差越度人別除願御用席へ申上承届大目付中へも達

一安岡町打穴屋忠助娘きく上田邑北村平右衛門姫ニ差越置候処此度
不縁ゐたし引取人別人願郡代中引合承届

一御藏米六拾九匁五分町米六拾五匁五分相場書出ス

一中之町荒物屋きち取持家屋表口五間半裏行十七間但本役也林田町

武藏屋源次郎三百匁之質入致置候処此度返濟断書出右源次郎当時

上田九右衛門長屋ニ罷有ニ付当年寄罷越引合之奥印有之猶又右
之家屋鋪勝間田町田中屋文助口入町内平野屋伊八銀札四百匁質入
願承届ル同廿四日本証文出ス

一西新町住田屋伝右衛門家屋鋪油道具同建木土藏長屋式ヶ所借家共

安永六酉年銀札壹貫三百匁江見屋伝七へ質入ニゐたし置候処差引
相濟断書出ス

一橋本町松井屋孫四郎取持之旅籠屋株老株同人甥五島屋孫一へ讓願
承届ル

十二月廿一日 晴

一東新町松永屋源七悻定次郎大坂田辺屋橋筋鍵屋甚衛門方へ来ル辰

歳迄三ヶ年季奉公差越度願承届ル翌々辰一月晦日罷焼候

一西新町源六借家大笹屋平吉家内四人東南条郡林田村忠兵衛借家へ
引越人別離願引合之上承届ル

十二月廿二日 晴 登城

一伊勢山田御拔屋四郎太夫手代高村庄吉上下式人二階町さかい屋伊右衛門宿切手出ス

一伊勢山田大炊太夫手代西佐助上下式人宿同断
一今日於松之間御離子被遊川島三省仕舞被仰付罷出ル

十二月廿三日 晴

一播州姫路外旦鷹町桜屋藤兵衛手代長兵衛共ニ式人中ノ町服茂屋武介宿切手出ス

一御蔵米七捨匁五分町米六捨匁五分相場書出ス

一大津御代官所々当寅正月々十二月迄当所錢相場平均書付取之候て奥書印来卯正月可差遣旨申来ル依及相答

十二月廿四日 晴 登城

一井筒屋幸介店へ去ル十九日族商人魚売ニ参候而少々致調物代札近辺へ同道之者ニ預置候由取ニ参荷物二つあみ焼肴等籠ニ入預置罷出歸リ不申段訴出今日御用所へ申上東西関拔ニ張紙可申付哉之旨申上御聞届ニ付大年寄へ申付ル尤大目付中へも達

一八出村和兵衛と申者同村ニ而紺屋物多葉粉等捨有之拾ひ置候而訴出依之心当之者ハ可申出旨町触取計候様御用番中々被仰渡触書出ス大目付中へも達

一広幡殿内加藤掃部と申者家来松岡定左衛門当役所へ罷出度大年寄へ申出依之同心組差出為致対談候様御用番中へ伺之処其通可然御差図ニ付斎藤孫右衛門宅におゐて応対申付ル

十二月廿五日 晴

一松岡定左衛門江石名佐五兵衛々致応対候処先達而々再々頼越候大

地屋源七借家伝十郎親類之由雲州大原郡舟木清次青木亥七召連訴訟ニ参候由掃部口上并来状も有之候へ共筋違之義ニ付今日孫助殿へ伺之上尚又佐五兵衛差出於孫右衛門宅為致応対候而相濟返翰も同人江相渡

十二月廿六日 晴 登城

一盜賊儀藏盜取候銀札式拾三匁林田町中村屋平兵衛へ相渡

一於御用所大目付舍人立合御用番孫助殿々左之通被仰渡

近年病身ニ相成役義難相勤ニ付
願之通被差免候
山本三右衛門

父三右衛門勤切ニ依而札元本役

申付ル出精相勤候様可申渡尤

札元見習同人伴
山本与市

御擬作並之通被下之

出精相勤候ニ付札元本役
申付候猶出精勤候様可申渡
尤御擬作三人扶持被下之
茂渡忠左衛門

出精相勤候ニ付一宮市町并

札元見習
山本平右衛門

旅帯力被差免候

若殿様御用相勤候ニ付
五人扶持被下之
川島桃庵

右之者共平太兵衛并小頭作右衛門大年寄孫右衛門立合奉書ニ而呼

出置申渡相濟孫助殿舍人へ御届申達

一西新町米屋彦太郎借家武田屋新兵衛後家備前国御野郡上伊福部村

治介方へ引越人別除御用所へ御沙汰承届大目付へも達

一半役代り藤森弁作為御褒買米式儀被下之

一高直り川上藤九郎格式番外山本文右衛門大御番組吉田文左衛門小

從人格松風四八大役人格広川義左衛門

十二月廿七日 快晴 十二月廿八日 雪 登城

一塗師勘平御用向相動候ニ付式人扶持被下之

右之趣可申渡於御用所大目付舍人立会ニ而御用番孫助殿被仰渡大

年寄奉書役所ニ而申渡相濟孫助殿舍人へ相達

一 下紺屋町万性院借家作人幸吉久米南条郡粟子村三吉方へ引越度旨

人別除願御用へ申上承届ル大目付中へも達

一 町奉行役所勘定帳勘定奉行中へ差出当年御用銀不足ニ付追而可致

返納旨手形入勘定所ニ而内貸銀札受取

一 大年寄共三人如先格雉子一懸ケツ、献上此方へ受取御奏者中へ差

出中ノ口ニおゐて御奏者赤見類助大年寄三人へ謁有之当役立合之

事

一 鍛冶町長右衛門借家藤次郎并同人妻娘家内四人林田町徳右衛門親

類ニ付此者方へ引越人別離願引合濟承届

一 中之町西屋治三郎借屋作人吉右衛門并妻伴娘家内四人林田上之町

御手屋莊左衛門母ふき借家引越人別離願引合濟承届

一 銀札式百八十匁来卯正月分今日相収当七月分百八十匁不足ニ付是

又今日相収受取印形取之置

十二月廿九日 晴

一 堺町三津屋平右衛門世倅為三郎大年寄玉置広四郎甥ニ而候処此度

役介ニ引受申度旨願出承届ル

一 鍛冶町次郎兵衛女房去ル廿二日七月懐胎ニ而候処三五日相煩候而

死躰を産直ニ産婦も相果候段申出遂吟味候得共紛敷義も無之ニ付

其旨御用席へ申上候事今日吟味書御下ケ被成候

一 中ノ町玉置三四郎家守和氣屋喜作借家ニ罷有候龜屋兵助去丑十月

四国遍路ニ罷出日延毎々断出猶又七十日追願承届

一 桶屋町東側宝珠屋園次家屋鋪表口三間裏行十式間三歩三厘役五人

組相談之上代銀三十拾匁ニ相極吹屋町作人新藏売渡申度旨願出承届

同日売券状差出ス

一 西新町南側住田屋伝右衛門取持家屋鋪表口六間裏行十七間但土手切

本役也土蔵老ケ所長屋式ケ所油道具一通北側借家表口式間半裏行

十七間右之建物不残質物ニ書入来卯三月切同町江見屋伝七匁銀札

老貫七百匁借用仕度旨願出承届

一 安岡町北側戸次屋長兵衛家屋鋪表口式間裏行十四間半但半役也五

人組相談之上質物ニ書入西今町菊屋文兵衛取次来卯十一月切銀札

百五拾匁借入之願承届翌正月廿九日本証文出ス

一 西新町米屋彦太郎家屋鋪北側表口六間裏行十七間但大溝切本役也

五人組相談之上代銀札百式拾匁ニ相極同町藤屋清助へ売渡申度願

承届ル卯正月廿九日売券状差出ス

一 林田町北側和田屋清六家屋鋪表口四間裏行十五間但本役也橋本町

吉見屋儀助取次ニ而質物ニ書入元銀札四百目相濟此度請返断書出

承置

一 二宮村立石齊兵衛親佐治義病氣為養生当寅年中差置候処猶又来卯

年中差置度旨書付差出西今町葉屋安右衛門断引合之上承届
辰正月二宮村罷册断書出承届

一二階町堺屋伊右衛門同居之甥茂十郎儀亥子丑三ヶ年大坂順慶町二
丁目金屋孫兵衛方奉公ニ差越置去丑暮追願可差出無其儀当年迄罷
有不束之段罷帰候上断書差出依呵之上願ハ承届ル

十二月晦日 晴

一今日出席無之廿八日迄ニ御用相済

一去丑正月御次並と被仰出御在城之節先格無之ニ而御次へ歳暮之御
祝儀可申上哉之義御小姓頭小頭新五右衛門江及相談候処内々御前

江も被相親候処及其儀間敷思召候段被申聴候事

一今夜丑下刻吹屋町作人金次郎裏屋少々手まえよりニ而失火燃上リ
候へ共近辺出合早速消留尤隣町火消少々集り申ニ付而大年寄る註
進申出承置明早朝出仕可相達事

天明四甲辰年正月六日迄

御用日記

三十七 後藤守助

(表紙)

正月大 御用番

御家老 佐久間上総殿

御年寄 本多左門殿

大御目付 黒田織江

朔日 晴 登城

一年頭為御祝義御家老中御名代之御礼松之御間椽側通ニ而被受之於
椽御間御帳付畢而類役何連も御用所へ罷出御祝義申述若殿様江御
祝義申上ル江戸表口達書差上ル

二日 雪 登城

一御用始ニ付四時登城御酒御吸物七間廊下におゐて被下置大目付織
江挨拶有之畢而御用所へ罷出恐悦申上例之通町方御静謐之段御用
番中へ申上ル

一乃井野御預所勝北郡勝加茂栗村安井平蔵より元魚町米屋江懸り合

借銀之義旧年返輪到来ニ付内済申付候処双方納得至济平蔵代和作
济口書付差出左門殿へ及御沙汰福居津田へ返輪右和作相渡

一大年寄礼元御用達諸吟味年礼受之例之通不廻出之

三日 少雪

一大年寄為年礼遂參何連も申置并組中不残牢屋と三軒屋江も年礼相
勤ル

正月四日 晴

一御蔵米八拾六匁五分町米八拾式匁五分相場書出ス

正月五日 雨

一御蔵米八拾五匁五分町米八拾壹匁五分相場書上ル

正月六日 雨晴

一及井野福居市郎左衛門津田与一右衛門今年頭祝書且又去卯年錢相
庭之義申来相調飛脚江相渡註進文段打帳ニ有

一町年寄御蔵元大保頭問屋目明之者年頭為祝義謁立会大年寄月番小
頭部屋目付諸吟味

正月七日 雪烈

一西川斎藤六蔵田中恵右衛門年頭祝書到来及相答
一坪井吉田市郎兵衛年頭祝書到来及相答

一去ル四日雲州者之由病人送り来早速町方送り出ス

一因州者之由病足步行難成備前送り出候由町方無恙送り出

正月八日 雪風烈 登城

一来ル十六日例歳之通医師大年寄礼元御用達諸吟味御蔵元御用所御

謁之義申達書付付ス大目付へも同断中奥目付中八御門之義達

一 旧臘追払ニ被仰付候鍛冶町喜兵衛藤吉取上家屋敷札場家質ニ相成居候入札ニ申付銀札場差引取計若残銀も有之候ハ、闕所可仕哉之旨左門殿へ相同済大目付中へも達之上大年寄へ入札之義申付

一 去卯年中役所勘定帳栗田氏へ差出

一 例歳之通左義長触出ス文段ハ扣帳ニ有之

一 一本多左門殿御掃城御留守詰出衆被仰出

一 旧臘在中紛失物色目書を以相触候様御用番中被仰渡触出之扣帳ニ有ル

一 祇園三位御礼藏合善二郎差上大目付中へ從此方申達置中奥目付御門通行之義達

火災

正月九日 雪風烈

一 御蔵米八拾六匁五分町米八拾式匁五分相庭書出

一 未刻元魚町豊島屋伝次裏家ニ而大工遣致候由之処匏くす吹立候哉火鉢出火燃上り追々註進申出御城之方風下ニ而風烈早速致出役

候処火消も相集り消留候段見届引取左門殿へ御届申達大目付中へ馬脇の届ニ差遣右出火ニ付大年寄の当人書付為出伝次榎之義申付

其段左門殿江罷越申上大目付中へも以手紙相達

正月十日 晴 正月十一日 晴

正月十二日 晴 卯半刻登城

一如恒例大般若御祈禱無御滞相济御用所へ恐悦申^上御礼御供物頂戴御礼組中配当

一元魚町豊島屋伝治追込差免左門殿并大目付中へ相届ル

一 御蔵米八拾八匁五分町米八拾四匁五分相庭書出ス

正月十三日 晴 登城

一 御蔵米九拾匁町米八拾六匁相庭書出ス

正月十四日 晴 正月十五日 晴

一 西今町年寄酒田屋伝八太郎左衛門と改号并改印願之通申付ル

一 御蔵米八拾八匁町米八拾四匁相庭書出ス

正月十五日 晴 正月十六日 晴 五半時登城

一 御具足御祝儀ニ付諸士登城於宇治橋間御祝義頂戴赤見類助渡部与十郎太田舍人黒田織江後藤守助頂戴相济芥子之門江罷出御用番中御礼申上ル夫の表御祝義相始ル右畢而類役何も御用席へ罷出恐悦申上ル

一 町医并大年寄札元御用達御謁左之通

松之間入口下段北ヲ向東筆 岩佐孝順

頭並居御家老御年寄出席被謁 川島桃庵

下段入口東ノ方大目付織江西ノ方 中島清庵

町奉行何連も年頭御祝義申上候段 阿部周益

取合申述御座為致医師ともハ不及名披露

中ノ口北を頭ニ鍵ノ手ニ並居 大年寄 齊藤孫右衛門

右同所南を頭ニ鍵ノ手ニ大庄居 礼元 蔵合善三郎

並居少中を隔座並調置 川口藤十郎

銀鷲ノ間へ御家老御年寄 茂渡庄右衛門

出座有而被謁同所南ノ方闌際 玉置卯右衛門

上段着座下段北ノ方町奉行 山本与市

着座名披露年頭御祝義申上段

茂渡藤右衛門

述之同向南ノ方御郡代并添役火

札元見習
川口為右衛門

着座大庄屋名披露被遂早而

諸吟味
久米屋勘八

松之間へ入座其跡江諸吟味口出

坪屋藤十郎

名披露年頭御祝義申上候段

述之畢而引取直ニ御下城

不參之面々左之通

玉置広四郎武田七郎兵衛妹尾平兵衛山本平右衛門三船四郎右衛門

植月孫四郎姫路屋彦兵衛熊野屋「」

不參書付御用所大目付中へ差出右披露之節名計役名ハ不遂披露

一戸村源五右衛門年頭祝書到来及相答

一組中牢屋三軒屋番例年之通年頭祝義省遣ス

正月十七日 晴

正月十八日

雨ひる雪触

一西今町永野屋安之丞妻去十二月男双子を産此節生立候趣ニ付産養

米三俵被下候様左門殿へ相同窺之通濟今日登城其外御用向無之

正月十九日 雨

一去秋浅間山焼ニ付中山道宿々砂降及困窮板橋の鴻巣迄七ヶ宿人馬

賃錢式割増熊ヶ谷より輕井沢迄十ヶ宿三割増去卯末二月十五日

来ル戌十二月十五日迄中年七ヶ年増錢御免

一甲州道中筋去秋浅間山焼ニ付往来多相成宿々助郷一同難義ニ付去

卯十二月朔日來ル戌年十二月晦日迄中年七ヶ年人馬賃錢式割増

御免

一細工町月行事去ル十四日夜時之拍子木打方不埒ニ付翌十五日禁足
申付候処今日差免

一沢田村百姓勘兵衛作兵衛友次惠助右四人郡代所の籠舎被申付候由
手形相廻立会郡差出

一円宗寺村義右衛門与一友次利八右四人夜ニ入籠番預ニ申付候由郡
代中申来立会祐藏

一広嶺山魚住伊予守の年頭書来
正月廿日 雲

一安岡町網屋嘉兵衛他国請酒株安永亥の去卯年迄同町生綿屋治介貸
置候処猶又当辰の来ル申ノ才迄五ヶ年切借用願承届
正月廿一日 雪

一竹田村伊平次清八勘右衛門孫一弥三郎藤右衛門藤七右七人郡代所
の籠番預ニ被取計度由ニ付立会甚蔵差出ス

一伊勢山田御稷屋四郎太夫手代高井庄吉上下式人右同国同所村田三
太夫手代高井重蔵上下式人宿切手出ニかい町塚屋伊右衛門
正月廿二日 雪

一□□□村皮多籠番ニ相当然ル処去年末□□に家屋敷取上ニ相成食物
無之難義之旨籠番大谷甚兵衛の申出郡代中へ懸合置
正月廿三日 雪 登城

一旧獵町方人別出入懐胎書付左之通申上ル
出生十人男六人女四人 人別入三人 人別離十式人
死失十七人差引而十六人減 懐胎十人

一戸川町平田屋平八妻去ル十七日女子出生然ル処虚弱ニ付同日夜相

御免

果大年寄孫右衛門諸吟味勘八罷出遂吟味一札取之差出今日左門殿
へ差出

一牢舎人多相成ニ付牢番足輕中間老人つゝ加人大谷甚兵衛申立候
ニ付大鑑中へ申達相濟

一去ル十四日之夕日上村甚四郎方へ盗賊入込紛失之色品書付

一去ル廿日之夕林田上之町伊助方へ盗人入込紛失之色品書付郡代所
へ申出候由右両条町触致候様織江殿へ被申聴取計委細ハ留帳ニ有

〔他領におゐて富興行有之場所へ參敷數旨兼々申触候へともつどく
に触達不申而ハゆるみ申義も有之ニ付其度毎ニ御沙汰ハ申間敷旨
御用所へ申上ル尤大鑑所へも申達置

正月廿四日 晴

一町々飢人有之身元宜ものとも申合集米いたし救遣度趣内談仕候不
苦候ハ、取計申度伏見町年寄能勢屋源助安岡町生綿屋治助世話焼
ニ而所々相廻遂内談何連も同志ニ而承知之旨大年寄善三郎申上宝
曆六子年飢人とも救候例も有之御用番左門殿へ其段申上ル大鑑中
へも相達

一橋本町三笠屋十蔵所持之旅籠屋株町内塚角屋才次へ讓願連判ニ而
出承届ル

正月廿五日 晴曇 正月廿六日 晴曇

一小姓町茂渡庄右衛門持借屋六三郎戸川町藤屋甚助借屋備中屋源助
船宇之助昨夜河原町益原屋伊八姉方ニ而右両人及深更口論致字之
助を六三郎小刀を以て窓ニ突立候由大年寄善三郎申出即刻出
番祐蔵兵助差向六三郎手鎖預ヶ口上承右字之助も疵所遂吟味医師

容跡書取之猶又宿宇之助ともニ口上承預ヶニ申付置候様申付差向
医師渡部雲斎療治疵所後横疵舐ふし之下式寸余一ヶ所贖ニ小疵一
ヶ所少々之疵一ヶ所都合三所何連も浅疵命分氣遣無之候へとも痛
強ク気分不相勝宇助口上ハ不承見分一札取之差出六三郎手鎖ニ而
預口上承書留差出河原町女かつ口上承書留差出是又預ニ申付

正月廿七日 雨

(字助藤原正月十四日
百吟味名)

一昨夜迄右一件遂吟味候趣左門殿へ申達見分一札并六三郎かつ口上
書差出

一小姓町六三郎河原町かつ召出遂吟味口書取之六三郎吟味中入牢申
付左門殿并大鑑衆へ御届申達但宇助疵所小刀之疵之由申出候へと
も吟味上小合口ニ而手疵負せ候

正月廿八日 雨晴 登城

一御蔵米八拾九匁町米八拾五匁相庭書出ス

一勢州安芸郡宮子村形屋江左衛門手代莊二郎上下式人形売さかい町
西川屋善助切手出ス

一土井大炊頭殿領久米南条郡下弓削村河原伊右衛門姪鍛冶町中田屋
甚兵衛弟藤吉妻ニ呼取度人別人之義願出

一伯州米子道正町水波屋文蔵悴喜右衛門夫婦とも安岡町船場屋伊助
由緒有之引受渡世為仕度人別人願出右両様御用所へ及御沙汰承届
大鑑中へも相達ス閏正月二日住宅証文出

一西今町鳥羽屋源三郎借家塩田屋半七役介女きよ当国大庭郡久世村
喜惣次由緒ニ付此者方へ引越度相望ニ付差遣度人別除願
一右同人借屋同人娘右喜惣次養女ニ相望候ニ付差遣申度旨人別除願

出向条とも御用所へ及御沙汰承届大鑑衆へも相達候

〔一〕町方造酒屋とも安永九年十二月酒運上被仰付候節旅人并炭薪売年貢収百姓とも格別御城下廻之者ニ呑酒売之義御停止被仰付然ル処

近年米高直ニ付酒直段上も被仰付候へとも近年格段之高直銭數ハ多旁売捌引合可致難義ニ及候ニ付自他無差別呑酒差止之義願出故障有無之義大年寄とも段々相糺候処受酒屋ともニ而ハ呑酒も売渡

差支候事無之旨申出又ハ当時米高直ニ而引合不申とも此後米下直ニ相成候節不勝手儀申立候而ハ如何ニ付碇と遂吟味申遣候様先日已来申達候へとも弥此後とも故障無之趣再応申出ニ付今日委細ニ御用所へ御伺申上候処故障さへ無之候ハ、承届候様被仰渡大鑑衆へも申達承届善二郎相達

一 去歲凶年ニ付未進貢百姓とも大勢乞食ニ罷出御城下徘徊るたし面躰をかへてみの笠ニ而相廻候ニ付中ニハ盜人も紛連込候様目明とも疑申出今日御用所へ相伺当分非人加廻式組申付紛敷もの追払候様申付大目付中へも達組中并目明ニ申渡

一 茅町南側大工幸右衛門家屋鋪表口五間三尺五寸裏行廿間但老軒役也五人組相談之上安岡町神田屋弥吉取次ニ而質物ニ書入式百匁丸十二月切借用願承届同世日本証文出ス翌巳四月相濟

正月廿九日 晴

一 二かい町山手屋弥三郎借屋へ丸屋文造引越断書承置

一 美濃職人町清八悴清七大庭郡久世町三原屋七郎左衛門方へ三ヶ年切奉公ニ差越置候処年明罷掃候段下紺屋町原田屋右馬七家守田中

屋文助断承置

一 福渡町南側大工平右衛門家屋鋪表口四間裏行十七間老軒役也五人組相談之上代銀札百五拾匁相究井口屋莊藏へ売渡願承届売券状差出

〔二〕京町南側たか屋鶴治家屋敷二かい町組屋太兵衛取次ニ而質物ニ入置候処此度元利返済相断承届

正月廿日 晴

一 備前国牛窓大工喜右衛門市兵衛半右衛門善助五郎右衛門小作以上六人二かい町堺屋伊右衛門宿切手出ス

一 同心組石名忠藏昨朝与風罷出行方不相知心懸リ之所々尋候得とも未行衛不相知旨断小頭作右衛門申出忠藏兄同氏佐五兵衛へ三日之内尋申付ル

一 京都中江況左衛門祝書到来及相答

閏 正月御用番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 伊達与兵衛殿

大御目付 赤見類助

朔日 晴

閏 正月二日 晴暖氣

閏 正月三日 曇 登城夜雨

一 鍛冶町山形屋与次兵衛借屋布屋源八土岐美濃守殿領当国英田郡下福原村与平次養子ニ相望候ニ付差越度人別除願御用所及御沙汰承

届大鑑所へ達之

大年寄用番

齊藤孫右衛門

諸吟味

坪屋藤十郎

一 公科御廻米積切ニ相成候段船頭町今津屋伊右衛門断出ス

【廻類】石名忠藏親類打寄相尋候へとも弥行方不相知趣小頭作右衛門申出

右ニ付同氏佐五兵衛差扣伺出ル同居弟之義忠孝忘却常々心付薄不
束ニ付伺之通佐五兵衛差扣申付ル尤忠藏跡之義ハ断絶申付ル

一同心組老人致出奔尋申付候へとも行方不相知ニ付代リ之者召抱候
旨大目付黒田氏へ申達

一 御作事方御弘竹三艘川下被取計候由当番所通切手裏判之義申来
即刻取計差越

一 円宗寺村義右衛門急病差込候由牢番とも申出郡代中懸合針医申付
ル

閏 正月四日 晴少雲

一 かつまた町荊田屋治七郎今度菊屋与屋号改候断出承置

閏 正月五日 晴

一 石名 佐五兵衛慎今晩差免

閏 正月六日 晴

一 藤森喜作倅権七と申者只今迄伊達与兵衛殿出入奉公るたし罷有今
度暇取願候ニ付忠藏代り同心組召抱今日小頭并部屋目付と同道罷
出目見受之先例之通不廻遣ス

一 藤森喜作実父姓名とも川端又六と相改申度旨相願親又六番代申付
候節之義小頭部屋目付へ申談候処故障之筋不相聞藤森家権七相統
之躰意ニ相聞候故願之通承届ル

一 沢田村作兵衛勤兵衛寿次恵助円宗寺村義右衛門与一友次理八竹田
村伊平次清八勤右衛門孫一弥三郎藤右衛門藤七右十五人郡代中

出牢被申付候ニ付立会兵助出ス右出牢ニ付先日籠番足輕中間老人
つゝ加人請取置候得とも今日為引取大目付中へ達

一 旧冬籠屋中間病氣ニ付代リ老人申立候処快氣ニ付為引取其旨大目
付中へ達

一 自他百姓とも非人ニ大勢罷出烏乱成もの紛込徘徊候様相聞紛敷も
の召捕追払候様土手之者とも加廻差出とも此間ハ非人とも之徘徊
も無之ニ付今日為引取候様申付ル

一 勝間田村ニ而贖札遣候よし無宿治兵衛と申者同村新助佐七莊兵衛
と申者三人召連来目明とも請取役所へ差出遂吟味候へ共彫刻判元
不及白状今晚先入牢申付与兵衛殿并大目付中へ達右之趣勘定奉行
中へも為相知

閏 正月七日 晴

一 昨日召捕候贖札遣候治兵衛為並吟味牢屋へ罷出遂詮議候処治兵衛
子分ニ致置候太兵衛与申者当正月五日離別致候へとも去ル朔日比
上宝屋にて出会贖札之申談致夫の企始而勝間田ニ而遣候由及白状
口書判取之与兵衛殿へ相達大目付へも達右ニ付太兵衛と申者金
井村新田村辺致徘徊候様子ニ相聞目明甚助ニ非人両三人差添召捕
候様申付即刻差向候処及深更召捕帰夜中ニ付小家へ預置

一 旧臘御種人参売罷越候義ニ付御留守居岡村氏へ懸合候処返輪到来
其趣ニ先年度々有之候御触外之義ハ取用候ニ及申間敷候間兼而御
留守居へ懸合候処右之趣存所之旨可及挨拶申来返輪御用所大目付
中へも差出ス

一 町方飢人四百五拾六人有之寄米貳百貳俵壹斗六升五合外ニ大年寄

諸吟味八俵組合式百拾俵卷斗六升五合世話焼人伏見町年寄能勢屋源助元魚町年寄油屋与一二階町年寄豊屋喜右衛門安岡町生綿屋治助右四人使者屋敷ニおゐて十日分ツ、諸町内年寄へ割渡右場所之義与兵衛殿大目付中へも御聞置被成候様申達置集米并飢人夫々名前一袋ニ入置

一旧臘大阪尼ヶ崎町灰屋久兵衛相懸り当地三丁目并筒屋幸助江訴状相廻候処本書被差越候由ニ付本書ハ向方入用ニ付差戻呉候様申来大鑑中へ申渡之後返達致置候ニ付其旨太田氏へ申談置

閏 正月八日 晴 登城

一西今町直屋市郎右衛門家守屋根屋権兵衛針術相勤度医業願御用所へ及御沙汰承届大目付士へも達

一広瀬并蘭田端之柳御払ニ相成候ニ付望之者ハ徒目付近藤宗兵衛へ承合来ル十五日迄入札差出脇町不連罷候様郡代中被申聞取計

一川島周庵牢屋療治之義父桃庵若殿様御薬手伝ゐたしニ付差除呉候様伺出候由孫右衛門申出尤之事ニ相聞先外医師へ相廻候様及差
図

一鍛冶町山県屋与次兵衛当国八十八ヶ所懸ケ札致候由ニ付寺院方へ者引取候様寺社取次被仰付候得とも辻堂又ハ庵主も無之場所などハ被仰付方も無之ニ付故障ニ相成候ニ付懸ケ札引取候様被申付旨大目付類助申被申聞即刻孫右衛門へ申渡

一御蔵米九拾五五分町米八拾六五分相庭書出ス

一昨夜召捕ル賈札太兵衛御日柄ニ付而一通り口上承之上牢番預ニ申付ル其旨与兵衛殿大鑑所へも達

一安岡町岡崎屋善吉并弟伊三郎両家とも去年郷中御年貢米實物ニ取候由相聞候ニ付付込帳取上吟味呉候様被申聞佐五兵衛祐藏差向ル

閏 正月九日 晴

一賈札太兵衛遂吟味口書取之与兵衛殿へ差出尤今日入申付手形差越右太兵衛賈札板行銀札場江被相渡候様勘定奉行栗田氏へ相渡先格も有之段与兵衛殿江申上ル類助へも達置

閏 正月十日 雨

一因州鳥取四丁目太兵衛と申者山手村ニ而歩行不相叶国所へ送帰呉候様相望候ニ付送出候旨同村庄屋三郎兵衛送書ニ而町分無滞送出ス

一鍛冶町新屋喜兵衛家屋敷入札ニ相伺候処其町内鍛冶長三郎九百目ニ落札被下置

一堺町三津屋辰之助土蔵一ヶ所南北拾間半東西四間西落迄四間半北ノ方半間添合南北十間半敷地とも右土蔵東ノ方空地東四間半東八間添但彦軒役也代銀札式貫目ニ相究稲実屋儀七郎へ売渡申度願承届同月廿九日売券状差出

一材木町河内屋武兵衛兄林蔵京都柳原津山屋平蔵方へ紺屋細工稽古ニ参出候処病氣ニ付此度罷帰候旨届出承置

一材木町大工八郎右衛門所持家屋敷去十二月實入願承届置候処返済断書出承置

一大津三平長屋武兵衛と申者家内四人下紺屋町桶屋六右衛門借屋へ引請人別人願承届ル

一河原町南側作人勘助家屋鋪表口四間裏行五間東ニ而四間半但七步

役也同裏通表口式間裏行式間半式步役合九步役也代銀札四拾匁ニ相究伏見町証屋弥三右衛門借家茂平ニ売渡申度旨願出承届ル同十四日売券状出ス

一船頭町年寄米屋佐七藤内と改号承届

閏 正月十一日 雨

一惣町年頭御祝義差上物并大年寄歳暮年頭御祝義差上物披露相濟候段夫々御奏者中申来即刻大年寄とも申達

閏 正月十二日 晴暖

一御蔵米運送之義無差支馬形差出候様先達而毎々同所奉行被申問問屋ともへ申渡置候処又々差支候趣川口小弥太申来吟味之上問屋兩人叱已後之義差支無之様申渡委細扣帳ニ有

一鍛冶町山泉屋与次兵衛当国八十八ヶ所懸札無願ゐたし候段不埒ニ付叱已後之義先日大目付赤見氏被申聴候ニ付替之義申談候得とも存寄も無之よしニ付御用所へ者類助被達ニ付此方ハ御伺者不申上候申渡文段扣帳ニ有

一竹舟式艘川下被取計候由通切手裏判之義作事奉行中申来相調差越

閏 正月十三日 雨 登城

一札元補欠山本平右衛門来ル十六日立江州多賀參詣往来三十日計願御用所及御沙汰承届大目付中ニも達

一一方村今井玄仲と申者医師夫婦とも勝手ニ付西今町直屋山三郎借屋へ引請度人別入願立郡代所引合之上承届

一去年町方駆勤御裁許之一件申渡相廻可差出与兵衛殿へ被仰渡尤左

門殿へ可差出由ニ付則是御同人へ差出

一牢屋御繕所書付差出候ニ付御勘定栗田氏へ懸合置

一新魚町野田屋櫻野屋御工面銀貸付之義ニ付吟味中牢舎被仰付勘定奉行取計被仰付候処吟味相濟候ニ付出牢之上戸申付候様御書付与兵衛殿御渡大目付中へも達

一二階町石松院宿坊及大破修履自力ニ難及口開仕度旨寺社方へ願立候段書付取出次衆へ引合候処向方ニ而被相親御聴届被成候ニ付勝手次第之旨申渡同廿九日限断書来月廿四日究伺候ニ付同右承届ル

閏 正月十四日 晴風

一下紺屋町市六登坂明十四日立往来廿日計承届ル

一御蔵米九拾老匁五分町米八拾七匁五分相庭書出ス

一勝間田町年寄菊屋善七来ル十六日立登坂往来三十日計願承届ル留守中林田町年寄錫屋治兵衛相頼候旨承置

一三丁目組屋十右衛門株之自国受酒株宮脇町松野屋伝助へ三ヶ年切貸借連判願承届ル

一伏見町能勢屋源助株之自国請酒株東新町丸木屋十助へ当辰来ル酉年迄六ヶ年切貸借連判願承届

一去月廿五日河原町ニ而小姓町六三郎と致喧嘩候戸川町宇助疵所平愈之旨申出今日召出遂吟味口書判取之置立会小頭部屋目付大年寄諸吟味

一志水李助元長屋左助御城代組渡部文太元地子居丈助近来林田上ノ町辺盗人有之哉鍋釜類之品致紛失所々ニ而之由右兩人盜物之義

「付」之弁論ニ相成双方盗物旧悪相頭兩人とも住所を取上召連候ニ付途中ニおゐて目明共召捕非人番へ相渡此間ハ遂吟味させ候得とも近頃之紛失物ハ不相分候へとも何連盗賊之旧悪有之者当時無宿ニ付此俟為追払可然与兵衛殿へ御頼申上候処伺之通可然被仰聴目明ともへ為追払候様申付ル尤大鑑中へも達

閏 正月十五日 快晴

一 鍛冶町新屋喜兵衛取上家九百匁ニ入札仕払ニ相成代銀札相納然ル
処元三百匁銀札場へ家賃入置候故元利合三百五拾式匁五分蔵合手
前ハ銀札場ニ相収残而五百四拾七匁五分闕所銀ニ取計候尤沽券証
文差出

一 西新町北側桶屋助右衛門家屋敷表口式間裏行十七間但大溝切小半
役也代銀札五拾匁ニ相究吉武齋壽へ売渡度願承届同廿四日売券状出ス
一 東新町作人市右衛門娘林田村久右衛門養女相望差越度人別除願出
引合之上承届ル

一 野田屋樫野屋戸ノニ付貫釘ハ御作事方ニ申遣請取大工持夫老人ツ
、大年寄へ申付

閏 正月十六日 晴 村通夜中少雷白雨

一 野田屋孫三郎樫野屋藤一兩人とも出牢之上此間御渡被来候御書付
之通戸ノ申添出番孫八兵助諸道具対印解郡治勇蔵相済与兵衛殿御
届申達大目付中同断

一 札座奉行山野十郎兵衛入来被申聴候ハ勘定奉行中ニ相達候処差懸
候義城老へ直談候様被申聴よしニ付入来候由申聴候ハ只今札元川
口藤十郎方へ東真壁村徘徊之者之由市三郎元津山出生之由万助六右衛

門兩人贖札致石見田村要蔵遣手ニ而因伯銀札も贖札致市三郎も遣
手ニ而候処仲ケ間召連ゐたし市三郎を打殺候様申旨ニ付訴人ニ參
候旨藤十郎へ申聴候由十郎兵衛被申聴即刻目明とも応対申付候処
因伯札贖取持ニ而差出御当領銀札贖候義も無相達之趣ニ付真壁村
美野村辺徘徊何連も無宿者之由粗相聞目明兩人非人六人申付夜半
過差向訴人市三郎も不怪義申出候ニ付牢番預ニ申付置

閏 正月十七日 風少雨

一 昨夜贖札召捕遣候一件与兵衛殿へ申上赤見氏へも以手紙相達
一 無宿万助六右衛門召捕暮過罷帰兩人とも当町出生者石見田要蔵と
申者美野村ニ而相尋候処同村幸次郎と申者内通為立去候様相聞勿
論幸次郎宅ニ万助を養置贖札板行為致彫刻候由ニ付美野村庄屋平
蔵江目明甚助ハ幸次郎様子承合候処他村ハ八九年当村へ參妻子も
有之人別人相望候へとも人物不宜ニ付不承届帳外之間津山連帰相
札ニ而可然旨平蔵申ニ付幸次郎夜ニ入連帰右三人目明とも手前ニ
而相札候へとも委細不相分及深更候ニ付三人とも牢番預申付置出
番甚蔵祐蔵

閏 正月十八日 淡雪降

一 万助六右衛門幸次郎召捕帰牢番預申付候段与兵衛殿大目付中へも
相達今日何も遂吟味候ニ付登城御断之儀岸氏へ頼遣ス

一 五時過詮儀場へ出仕立会小頭部屋目付番甚蔵祐蔵万助六右衛門
幸次郎市三郎四人とも遂詮儀候処六右衛門ハ長谷内村七五郎と申
宅ニ而要蔵と申合当札似板行彫懸候へとも元入不行届板行彫焼捨
候由猶又別々ニ相企幸次郎宅ニ而要蔵万助申合幸次郎も同心ニ而

養置候万助に板行彫刻為致大方板行出来幸次郎棧込之床下ニ隱有之由万助幸次郎兩人とも白状申聴も合躰ニ付即刻目明非人とも申付板行美野村へ取ニ差越市三郎訴人之義相糺候処仲ケ間割連一通之事巧候義ハ不相聞然ル処幸次郎美野村へ參候已前荒内村出生之由未人別不致離帳旨申之ニ付右村庄屋手前承帰候様甚蔵へ申付遣晚刻相濟万助義ハ今日入牢申付帰懸与兵衛殿吟味書差出赤見氏へ手紙ニ而相届ル

一来ル廿一日誓海院様廿三回御忌被為當於泰安寺御条論被仰付候旨為御知大目付廻状到来候旨町方并組中牢屋三軒屋番へも相達候

一当国吉野郡新見村五兵衛夫婦とも病者ニ付一方村の送り来林田村

江無滞送届候段届出ル尤郡代中を為知有之先達而大年寄へ申付ル

閏 正月十九日 晴

一昨日美野村へ差越候目明甚介今八時過帰幸次郎宅ニ板行彫かけ有

之取帰ル昨日申付候荒内村庄屋喜作宅へ參幸次郎人别有無相尋候

処八九年他村へ出候へとも未致離帳旨喜作答へニ付美野村庄屋平

蔵申聴候様子具申達左も候ハ、何分御懸合可有之旨申談甚助罷帰

委細申出候ニ付右之趣有之俣西川役所へ飛脚差越候ニ付下案相認

与兵衛殿へ相伺候処思召も無之旨被仰聴赤見氏へも入披見小勤者

中へ飛脚之者吾人受取書状差越文段之義ハ扣帳ニ委ク有之

一御作事中間忠治藤蔵京町■候処不綿わた入羽織拾候よし年寄徳

右衛門へ預申渡由ニ付預候段断出

一安岡町表屋長兵衛所持自国受酒株三ヶ年戸川町米屋利助江預願承

届

閏 正月廿日 晴

一今八時過西川へ差越候飛脚罷帰ル返翰之趣ハ村方取調之上幸次郎受取之義ハ向方を可申越旨申来即刻与兵衛殿申上ル赤見氏へも同断

閏 正月廿一日 晴

一宮川大橋少上川中ニ菰包流懸リ有之候処中ニ赤子有之様子ニ見請

橋本町を訴出候ニ付近町より番人付置様申付置大目付構之地所ニ

付用番赤見氏へ為知候処御徒目付目付組為見分被差遣候処赤子ニ

相達無之由ニ候得とも流懸殺立候様子ニ而御吟味手懸ニも相成不

申越申出候由依之非人ともへ取埋申付候様赤見氏を申来川向惣墓

江埋候様申付相濟候段夜中申出赤見氏へ相届ル

一 本多左門殿江戸表着後扶持米被相廻候由ニ而當時穀類川留ニ付被

相届御蔵元へ申付

一 佐治順五郎を江戸表小沢佐吉へ扶持米被相廻候由右同断之趣是又

夫へ申付ル

閏 正月廿二日 夜雨

一西川齊藤六藏田中菊右衛門を書状此間申越候美野村庄居幸次郎儀

荒内村取調有之候処未人別之者之由ニ付明廿三日朝領分桑村ニお

るて可請取旨申来即刻与兵衛殿へ相指指圖之上及相答赤見氏へも

連御徒目付吾人差添被仰付是又赤見氏へ懸合晩方荒井安右衛門為

案内入来委細明日手当之義とも申談同心組石名佐五兵衛福田甚蔵

中村祐蔵右三人警固申付ル尤目明吾人宿駕籠一挺大年寄へ申付ル

閏 正月廿三日 雨晴 登城

一 今朝六時幸次郎召出無宿方助要藏其方申合当領贖銀札のたし候義相企召捕置候得とも懸合之上今日西川役所へ引渡候段申渡立合御徒目付荒井安右衛門小頭作右衛門部屋目付孫八書役又六出番順次兵助申渡後向方へ参候三人へ受取郷内ニ而駕籠ニ乗せ十文字繩懸手鎖

御徒目付 荒井安右衛門

同心組 石名佐五兵衛

” 福田甚藏

” 中村祐藏

” 日明老人

〔貼紙〕
落し拾ひ
雜へ翌日記
あり

眞持式人

桑村へ向方役人出合高橋金治と申者へ安右衛門応对此方組三人の向方同心齋藤岩吉藤井兵右衛門細田岩藏江引渡無恙相済未刻至罷婦委細安右衛門の被申聴三人の届出即刻以手紙与兵衛殿へ御届申上赤見氏へも同断

一 右差越候ニ付入用銀札七匁道具持雇賃三匁式人分目明老人遺銭式百文右小頭手形ニ而相済駕籠人足式人老人ニ付一匁三分ツ、式匁六分大年寄へ相渡

一 大津御代官所御支配大庭郡久世村若野屋長兵衛後家娘坪井町高砂屋兵助養女ニ引取申度人別人願出及御沙汰承届大目付中へ達二月

十六日住宅本証文出

一 辰正月人別出入書付左之通書上ル

出生十七人男六人女十一人 人別入三人 人別離式人

死失十一人 差引而七人増 懐胎十五人

一 万助彫刻贖札板行御用所大目付中一覽之上銀札場へ可相渡旨相達勘定奉行栗田氏へ相廻ス

一 河原町喧嘩一件御裁許此間伺置候処今日被仰渡

□ 牢屋詰之皮多とも牢舎人無有不拘四人「」者相詰候義従先規之格ニ候処刑法方被仰付之砌牢舎老人ニ皮多番子老人相定□処去年凶作ニ付皮多とも之内未進有之牢内□詰候而も贖物一向無之類毎々申出郡代中へも及懸合候処去才も牢舎人多大勢番子ニ罷出甚難

波申立余義なき事之由郡代中も被申聴候ニ付牢番佐介甚兵衛致所とも承候処古格之通ニ申付候而も不ノ之筋ハ無之段申立候ニ付今日御用所へ相伺候処不ノ之筋さへ無之義ニ候へハ存寄次第番子増減之義ハ可申付与兵衛殿の被仰聴大目付中へも達古格之通牢番佐助召出小頭作右衛門立会申付ル牢内之義牢番引受之場所之義ニ候

へハ小頭へ申談兎角不ノ無之様可取計之旨申渡置

一 大坂尼ヶ崎町灰屋久兵衛の当地三丁目并筒屋幸助相懸リ借銀出入之義ニ付六十日切済方申付置来ル廿八日限日ニ相成然ル処此間銀子差登候へとも済口証文未相廻候得とも何連にも銀子調達之事故其旨断書大坂御役人村尾彦右衛門迄相廻尤飛脚ハ幸助の差立させ

て大目付赤見氏へも相達候処存寄次第可執計之由

同一月期日返輪到来
向方ニ而相済

閏 正月廿四日 晴

一 但州二方郡千谷村重次郎娘ため四国扁路跡久米南条郡誕生寺村ニ而足留国元へ送遣候様相望候由ニ而送来町方無滞林田村江送渡

一 大円寺納所金右衛門追払被仰付候ニ付社社役所同心組兩人相廻候

様亦見氏が被申聽孫八郡治差越手鎖ハ此方が持參

閏 正月廿五日 晴

一河原町喧嘩一件御裁判之趣申渡左之通

御城下一里四方追払

小姓町 六三郎

呵 追込

戸川町 宇助

右同断

河原町女かつ

一價札訴人市三郎少々条報錢為取之古郷へ差返候様可取計哉之段与

兵衛殿へ此間相同置候処伺之通可申付御指図ニ付銀札場が錢五百

文受取遣之古郷へ帰候様申渡御領外へ目明并非人申付送出今日右

両条取計候ニ付立会例之通相濟何連も御届申達候事

一御蔵米九拾壹匁町米八拾七匁相庭書出ス

一坪井町勝屋文助商用ニ而登坂明廿六日立往来廿日計承届

一西今町紙屋嘉平次家屋鋪北側表口三間半裏行十七間但シ大溝切半

役也五人組相談之上代銀札五百目相究同町高松屋平吉へ売渡願承

届 二月六日迄
券状差出

一材木町北側与助後家所持家屋鋪三ヶ年前町内竹屋勤兵衛取次質物

書入置候処元利返済断書出承置

一材木町菊屋借家和兵衛中尾伊助長屋多助与申者同人家内相罷置相

相応之渡世為仕度願承届ル

一坪井町福渡屋猪三郎商用ニ付明廿六日登城往来廿日計承届ル

閏 正月廿六日 晴夜雨

一一方村が送り者来例之通林田村へ相送ル

一新魚町村元屋治助当三月朔日立四国扁路往来五十日計承届ル閏年四月
懸累届ル

五百廿四日

一武田恵十郎所持他国請酒株来ル未二月迄凡三ヶ年林田町桜屋宗助

へ貸渡願連判ニ而差出承届

閏 正月廿七日 晴風

一坪井町市勢屋与一商用明後廿九日立登坂往来廿五日計承届ル

一元魚町灰屋与七郎商用ニ付明後廿九日立登坂往来廿日計承届ル

閏 正月廿八日 晴少雪散ル 登城

一南新座かし□垣竹百本受取候旨勘定奉行中へ懸合置

一万人講諸入用内借四百匁申立勘定奉行中へ懸合置

一江口恵助後垣損候ニ付御繕之義勘定奉行中へ相達

一大年寄蔵合斎藤家格順候故先前之通善三郎筆頭へ申付候様御用所

へ及御沙汰申付大鑑所へも相達

一非人加廻之義近来静謐ニ付為引候様御用所へ申上大鑑所へも相達

今夕が為引候段申付

一新魚町魚住屋太郎右衛門粉米四郎泉州堺東六軒町清水島玄と申者

由諸有之此もの相統為仕度申候ニ付差越度人別離願出御沙汰之上

承届ル大鑑所へも相達

一下高倉村文四郎悴勤次林田村若狭屋莊兵衛養子致置候処此度離縁

ゐたし人別除断出郡代所へ引合承届ル

一安岡町三右衛門後家店借忠助夫婦とも去卯十月出奔百日尋申付候

得とも行衛不相知人別除断出御用所へ及御沙汰承届ル尤大鑑所へ

も相達

一元魚町はし屋長右衛門店借忠右衛門并同人悴瀬吉去卯十月出奔百

日尋申付候へ共行衛不相知人別離願出御用所及御沙汰承届大鑑所へも相達

一元魚町西側桶屋猪三郎家屋鋪表口四間裏行十七間老軒役也東西三間南北四間老步半役之処丁内作人太兵衛へ壳渡願承届但銀札六拾匁ニ相究二月四日壳渡券状出ス

一右同人家屋鋪同尺同役之処丁内作人徳兵衛へ壳渡代銀札是又六拾匁ニ相究何も承届ル二月四日壳渡券状出ス

一式丁目唐津屋長右衛門明廿九日立往来廿五日計登坂願承届ル

一阿州板野郡永富村重藏手代多七郎兵内此式人藍玉壳参候ニ付宿切手出ス吹屋町沢屋惣右衛門

一若殿様三奉行御目見被仰付

閏 正月廿九日 晴

一因州上地村伊右衛門梓太郎吉乙介兩人痘瘡人「」一方村へ送り来

西今町ニ而受取林田村へ送渡

一御蔵米九拾匁米八拾六匁相場書出

一美濃職人町農後屋角右衛門梓字兵衛大庭郡乘舟屋長十郎方へ来午才迄三ヶ年切奉公願承届

二月 御用番

大年寄用番

御家老 佐久間上総殿

藏合善三郎

御年寄 伊達与兵衛殿

諸吟味

大目付 太田舎人

久米屋勘八

朔日 雪

一上初村清水寺觀世音開帳有之由然ル処去月廿七日河原町目玉伝助参之当地出生原屋龜吉伏見町稻荷山源吉其外無宿など四五人申合

開帳中博奕小家致度清水寺へ懸合候処御制禁之義不相成旨寺へ申之候処左候へハ芝居も不実之事ニ候へハ差留候由右五人之者舞台江上り狼籍相働候由ニ而龜之助打擲ニ逢其外之者ともハ散々ニ逃去候由相聞目玉伝助呼出逐吟味候処種々申張偽候ニ付吟味中手鎖組合預ニ申付置いなり山源吉呼出候処其後一向不致帰宅候由尋出

次第可申出申渡置右之趣御両所へ御届申達同五月十六日居町払ニ

申付ル三月六日牢舎

一三丁目并筒屋幸助大坂尼ヶ崎丁灰屋久兵衛懸合借銀濟方之義ニ付去月廿三日大坂御役人村尾彦右衛門書状差越候処今日返輪到来向方ニ而も松屋平兵衛并灰屋久兵衛も濟口之儀申出近日御番所へ

も相達候由申来同三日大目付舎人へ相達

二月二日 淡雪昼夜降

二月二日 雪晴 登城

二月三日 雪晴 登城

一來ル六日野田屋樫野屋戸ノ差免候様与兵衛殿より被仰渡

一此間夜分町方ニ而作事中間之由往来之者を無躰ニ投打擲など致候様相聞ケ様之狼籍致増長候而ハ甚不宣思召も取付候様致度与兵衛殿申上候処尤之事ニ候大目付中へ御達可有之旨被仰聴候事

一西川斎藤六藏田中恵右衛門へ来状先日向方へ於桑村引渡荒内村幸次郎義去月廿四日ニ遂吟味候由之処申越候趣相道も無之不埒至極

之事ニ付口書写相廻候由尚存寄も候ハ、無遠慮可申越候様申来候

得とも何連にも向方へ幸次郎引渡候上ハ存寄可申にも無之道理之

故向方御家法ニ取極被申様返輪可差越哉之旨下案を以与兵衛殿へ
相伺候処尤ニ思召候由ニ付大目付中へも達之上返輪差越委細ハ文
通留ニ有之

二月四日 夕雨 二月五日 雨

一伯州送り者一方村の西今町江送り来町方無恙林田村へ継送り届出
一河原村女かつ戸川町宇助追込差免御所江御届申達

一福渡町儀助当国久米北条郡桑村甚藏方三ヶ年切奉公罷越度跡家役
之儀ハ悴儀之丞為勤申度断出承届

一中ノ丁福屋甚六家屋鋪去卯十月賃入弁濟断出承届
一元魚町下角東側肥後屋佐七郎家屋鋪表口五間裏行十七間但卷軒役

右裏空地ニ而東北ニ而南北三間東西四間式歩五厘役付右敷地北隣
灰屋佐右衛門江代銀札百匁ニ相究売渡願承届同十三日売券状出ス

一安岡町小倉屋次右衛門取持自国請酒株中ノ丁広戸屋伊右衛門三ヶ
年借貸願連判ニ差出承届

二月六日 晴

一新魚町檜野屋茂一野田屋孫三郎戸ノ差免大工老人出番兩人差向召
出申渡立会例之通相濟御所江御届申達

一御姫様御水痘被遊至而御輕御機嫌能候得とも御機嫌伺候様ニと御
次申來類役何も罷出御伺申上候

二月七日 晴

一去ル十九日夜京町辺ニ而作事中間拾取預置羽織材木町福中屋多助
主之由ニ而京町年寄へも懸合候処色目も相違無之受取度大年寄と
もへ申出候段相伺候ニ付此間何となく風説ニ右羽織儀落候ニ而ハ

無之無躰ニ途中ニ而被取候由ニ相聞様子承候処風説之通相違無之
相聞尚又同心組も内々差向為尋候処弥風聞之通候由其外所々ニ而
作事中間無躰ニ打擲致候趣相聞候旁難相濟事故御用所与兵衛殿江
其旨申上候処夫々々御沙汰可有之被仰聴

一西新町住田屋伝右衛門盼徳次郎西川大黒屋佐右衛門方へ奉公參居
候処年数相濟罷帰候段断出承届

一新魚町黒田屋卯兵衛盼藤吉大坂御藏屋鋪へ奉公ニ遣置候処此度罷
帰候段断出承置

一去才丹州縮緬織三人逗留為致候処此度差返候段元魚町笹屋友治斷
二月八日 晴 登城

一元魚町龜屋定次郎盼熊藏下横野村藤七与申者養子差遣申度人別除
相願引合之上承届ル

一藏合善三郎孫左衛門与改号願御用所及御沙汰承届大鑑所江も達
一新魚町姫路屋前土橋及大破候段断出勘定奉行中へ書付相廻ス

一雲州広瀬御領新市町中島屋伝右衛門家内四人親類ニ付材木町広瀬
屋久八引請渡世為仕度人別人願及御沙汰承届大鑑所へも相達

一左門殿明九日出立ニ付惣町非人とも取計方書付出候様被仰聴左之
通書出ス

一惣町非人五百八拾六人 一惣町身元宣者共六差出之
救米集高式百拾俵余 右非人扶持一日米一合つゝ相渡此上格

別非人相増不申候へハ新麦収納迄之内ハ至難取統候此上之義ハ
時至而御親可申上候由書付差出

一船頭町田原屋六兵衛取持家屋敷銀札場へ賃入相成濟方不致限合過

候而一向訳立不申候ニ付濟方申渡候様勘定所合懸合有之三十日切
濟方申渡三月廿三日日延願出勘定懸合

一 中ノ町小山屋与三右衛門宿株之内大坂瓦町三丁目京屋多兵衛塗物
商參来候処近年断絶仕候ニ付右代り同人甥播磨屋惣吉と申者小間
物飾売御当地御出入為仕度願出今日御用所及御沙汰候処承届候様
被仰渡大鑑所へも達

一 他領合当町へ質入致置候穀類請返之義伺出無抛筋ニ候得とも紛敷
義有之候而ハ下方不為候大年寄諸吟味とも随分ノ宣様取計無抛物
受取勝手次第ニ申付へく哉御用所へ相伺候処ノ入念可申付被仰渡
大目付中へも相達申付ル

一 錢箱三箇銀札場合積下有之ニ付裏判之義奉行中合申来例之通計差
越

二月九日 折々小雨

一 大目付舍人合对談致度旨手紙被差越遂參候処作事中間同所ニ而遂
吟味候得とも未相分依之役所江呼出遂吟味候様被申聴

二月十日 晴

一 久米南条郡南村甚八と申者足病之由送り来東新町ニ而受取井口北
村へ相送無滞相渡

一 作事中間忠治藤吉喜八呼出遂吟味候処境町ニ而河原町莊介を打擲
致候義且又二階町にて京町吉田屋喜八下人を打擲致候義猶又馬形
町ニ而往来之者を打擲致候義甚狼籍之致方及白状其旨舍人江遂
对談候処夫合御用番中江相伺候処狼籍致候趣白状之上ハ牢番預ニ
申付可然御差図之由ニ付口書印形取之部屋頭鈴木善藏川端孫六立

会印形是又申付右喜八忠次藤吉三人牢番預ニ申付御両所へ御届申
達右之趣勘定奉行中へも及通用出番三人但部屋頭ハ玄関端ニ差置
一夜大年寄孫右衛門申出候ハ今日百間土手敷下ニ而穀類抜ケ荷之者
見咎候趣申出候段申出右壳渡之者ハ東新町弓削屋猪右衛門松木屋
源七右両人倉敷村之者へ小麦壳渡候由見咎候者ハ林田町内三四人
も有之旨ニ付双方曉と遂吟味申出候様申付置三月九日御裁許申渡

二月十一日 晴

一 弓削屋猪右衛門松木屋源七遂吟味候処相達無之旨吟味書差出右両
人とも禁足申付ル

一 三丁目井筒屋宗十郎戸川町年寄役申付置候処近来病身ニ罷成難相
勤依而役免願出無抛趣ニ相聞候ニ付承届跡役三丁目沢屋新次郎年
寄申付

一 長岡舟船頭とも之内米穀買取舟積之由相改候処抜ケ荷ニ而之由夜
廻孫八那次合御藏元江も申付為致候而大年寄江も尚又夫々合申出
候由ニ付孫左衛門吟味申付ル三月九日御裁許申渡

二月十二日 晴

一 御藏米八拾八匁五分町米八拾四匁五分相場書出
一 舟積抜荷遂吟味大年寄書付出ス

二月十三日 時雨 登城

一 御藏米八拾七匁五分町米八拾三匁五分相場書出

二月十四日 晴

一 三丁目草津屋胡三郎来ル十六日立登坂往来廿四五日計承届ル

二月十五日 晴

二月十六日 雨

一備州岡山小畑町承屋甚八元結卸売宿切手二かい町堺屋伊右衛門出ス

一材木町北側友屋与助後家家屋鋪表口一間半裏行十七間但式歩半役也五人組相談之上代銀札五拾目ニ相究作人権助へ売渡願承届同三月七日売券状差出ス

一伏見町南側作人源太郎家屋鋪表口三間老尺六寸裏行式拾六間右外ニ東西三間南北九間空地とも但老軒役也五人組相談之上元魚町福増屋善兵衛取次ニ而元銀札五百六十目之家質ニ入候願承届同晦日本証文出ス

一新魚町年寄姫路屋彦兵衛病身ニ付悴徳次病氣之節御用向為相勤度旨相願無抛義尤先例も有之ニ付而承届ル

一新職人町年寄茂兵衛足痛ニ付免御用之節悴茂一為相勤度旨相願承届

一因州八束郡糸白見村善吉四国扁路足痛痛郷難成ニ付送出候由井口村へ送來林田村へ送渡

二月十七日 晴

一因州八束郡吉川村才右衛門足痛之由井口村へ送り來町分無滞林田村へ送り渡

一備中笠岡領当国大庭郡写山根村孫右衛門きんつね足痛ニ付林田村へ送り來町方無事二宮村へ送渡

二月十八日 晴 登城

一林田町年寄庄助悴儀助伊達与兵衛殿へ奉公ニ差出度人別離願出承

届ル

一大久保加賀守殿領当国久米北条郡通善村小十郎娘西今町高松屋多助悴左助妻ニ引請申度人別入之義願出御用所へ及御沙汰候処御聽届被成候尤大目付中へも達同廿日住宅本証文出ス

一大津御代官所御支配当国久米北条郡宮尾村藤丸屋治右衛門悴宗十郎茂渡莊右衛門養子ニ引請置候処此度離縁仕候ニ付人別除願出御用所及御沙汰御聽届被成候大目付中へも達

一去年已來時節柄ニ付船積荷物無之五十四艘之舟株特主共必至困窮致当冬御登せ米賃米御取替之義相願無抛趣明和七寅才迄年々御貸渡も被成候事ニ付相伺候処當時正米之御払底ニ付一艘ニ付銀札五拾匁ツ、御貸渡被遣候様与兵衛殿へ被仰渡大目付中へも達申渡

一新魚町富沢屋庄助妻去ル十四日死躰を産候処例之通遂吟味候得とも紛敷義も無之一札取之差出今日与兵衛殿へ差出

一上紺屋町伊兵衛後家去十一月拾候紙入中ニ米切手老儀有之其節御触流も有之候得とも落人不申出最早拾候者へ可差遣哉之旨相伺候処御聞届被成候大目付中へも達夫へ差遣ス

一江戸表大場猪平次へ正米相廻候由松岡治部助へ被申聽其旨御蔵元へ申渡置

一山本与一玉置卯左衛門忌中引込銀札場御差支ニ付忌差免呉候様勤定奉行中へ被申聽候ニ付今日へ出勤候様申付

二月十九日 晴

一藏日炭焼詣上候様直屋孫兵衛へ可申付旨江戸表御小納戸中へ申來即刻夫召出申付何分相試可申上候旨申候事

二月廿日 晴暖氣

二月廿一日 晴同断

一因州八上郡橋水村与一右衛門妻足痛之由井口村送来林田村へ送渡
一安岡町伊勢屋佐吉久米南条郡弓削村治部安次郎方二ヶ年奉公参度願承届ル

一撰州大坂南本町三丁目小法師利兵衛墨筆売中ノ丁福茂屋武助宿切手出

一備州津宇郡妹尾村木綿屋太兵衛豊表木綿元結売宿切手出ス右同人
一撰州豊島郡池田村植木屋平兵衛植木売新魚町鳥屋与三兵衛宿切手出

一撰州大坂山本町大坂屋忠兵衛手代権次与右衛門小間物卸売坪井町結梗屋莊右衛門切手出ス

一旧鑑申渡候大坂尼ヶ崎丁灰屋久兵衛三丁目并筒屋幸助へ買物代差滞濟方之義相濟書付差出

廿二日 晴

一御蔵米八拾六匁五分町米八拾式匁五分相庭書出

一中ノ丁福屋甚六所取持家屋鋪南側ニ而表口十七間裏行十七間但卷軒役也五人組相談之上小姓町作人太兵衛へ代銀札八百目ニ相究
〔申度義承届ル翌廿三日売券状差出

一拙者亡父清藏妹遠方へ縁女ニ差越候処病氣養生不相叶昨廿一日死去之段申越御定式之忌服受之引込候段類役近藤伊右衛門を以大御目付中迄相届ル

二月廿三日 晴

一因州知頭郡奥早野村彦右衛門妻足痛ニ而井口村より送来林田村へ無恙送渡

一今日不参ニ付御用向近藤氏へ相頼

一先月中人別増減左之通書上ル

出生十七人男十式人女五人 人別入四人 人別離八人

死失十九人 差引而六人減 懐胎十四人

一去ル十九日元魚町龜屋茂右衛門妻二丁目ニ罷「」方ニ而致出

産候処死射ニ而吟味申付候処紛敷義無之一札取之差出候ニ付今日与兵衛殿へ指出

一小姓町治三郎借屋友八家内四人とも去十二月致出奔百日尋申付候得とも行衛不相知人別離願出御用所及御沙汰承届大目付中へも達

一去卯年中人別増減書付左之通書上ル

覚

一出生百七拾六人内男九十五人 女八拾壹人

一他所引受五拾三人内男三拾式人 女式拾壹人

ノ式百廿九人

一病死百四拾五人内男八拾四人 女六拾壹人

一他所引越百拾式人内男六拾人 女五拾式人

ノ式百五拾七人 差引式拾八人減

一懐妊合六拾八人寅才産残

一同去卯年中百八拾九人

ノ二百五拾七人

内百七拾四人出産

但双子兩人有之ニ付出生百七拾六人

壹人欠落拾五人 死躰流産類

ノ百九拾人

残六拾七人未産分

右之通去卯歲中町方人別出入懷胎之「」書上申候以上

辰二月

後藤守助

但上包ニ去卯年中町方人別増減懷胎改之覺卜記

一眞壁村興隆寺紛失物書付大目付中ニ被相渡町触ニ出ス

一「」屋太郎兵衛下人被盜物書付郡代中「」町触ニ出ス

一來ル十九日泰涼院様十七回御忌ニ付於妙法寺御祭礼被仰付候旨為

御知廻状到來組中牢屋三軒屋ニ相達先格ニ付町方江者不相触候

一來月五日更山院様五十回御忌ニ付於泰安寺ニ御法事被仰付候段御

知せ廻状到來町触并組中牢屋三軒屋ニ相達

二月廿四日 晴昼ノ雨

一因州岩井郡荒井村金藏病氣ニ付歩行相叶不申井口村ニ送來林田村

ニ送渡

一院庄村市三郎文八神戸村彦三郎郡代所ニ出牢手形相廻立会勇藏差

出

一二階町石松院宿坊ニ而閨開興行致候ニ付昼廻之者差遣無滞相濟候

段届出承置

二月廿五日 雨昼ノ晴ル

一拙者忌被成御免候間今日ニ出動致候様御用番与兵衛殿ニ御奉書到

來夫々江及為知尤御礼廻勤

一坪井町浜野屋嘉一郎明後廿七日立登坂往來三十日計承届ル

一美濃職人町北側表口五間裏行七間但老軒役也元材木屋莊右衛門家

屋鋪ニ而候処宝曆十辰年九月幾本屋長兵衛江讓渡候処右長兵衛死

後相統人無之ニ付猶又莊右衛門ニ讓戻候様当人遺言致置候由ニ付

親類戸川町八幡屋喜兵衛右家之組合連判ニ而願立候ニ付遂吟味候

処無相違ニ付承届ル同三月廿八日讓証文出ス

一〇丁目年寄福永屋助右衛門明後廿七日立登坂往來廿五日計承届ル

二月廿六日 晴

一東新町因幡屋新七宿切手出撰州大坂玉造松坂屋忠右衛門唐弓弦卸

売

一御藏米八拾五匁五分町米八拾壹匁五分相庭書出

二月廿七日 晴

一藏合孫左衛門祖母備前岡山ニ參此節罷歸候処当五月迄逗留日延願

承届

一播州網干余陸屋武兵衛八百屋物并纏節売宿中ノ丁小山屋与三右衛

門切手出ス

二月廿八日 昼折々小雨夜中雨 登城

一吹屋町釜屋市郎右衛門借家久次郎去十二月出奔百日尋候得とも行

衛不相知人別離願出今日御用所ニ及御沙汰承届大目付士ニ相達

一作事中間喜八藤吉忠次御裁許伺之通与兵衛殿ニ被仰渡來月二日取

計候様大目付中ニ談置

一鍛冶町長八俣与七義渡世向勝手ニ付林田村〇助方ニ引越人別離願

郡代中ニ引合承届

一下紺屋町四証院万性院吹屋町熱田市正熱田若狭下紺屋町一乘院河

原町八木永馬戸川町小林主水讚州金比羅參来月七日立往来七日計

寺社方引合承届ル

一播州網干平松屋惣九郎小間物并晒蠟売宿中ノ丁福茂屋武助切手出ス

一播州網干丸尾屋六三郎荒物類塩物類卸売宿右同人

一撰州難波嶋之内革足袋すいのふ金通し売宿中ノ丁福茂屋武助宿切

手出ス

一新魚町北側かと屋源三郎家屋敷表口三間七歩 □ 裏行十疋間但本

役也五人組相談之上代銀札五百匁ニ相究町内灘屋弥十郎へ売渡

願出承届ル同世日本証文出ス

一元魚町東側油屋勘七後家家屋鋪表口三間半裏行拾四間但八歩役也

并土蔵一ヶ所五人組相談之上代銀札五百匁ニ相究北浜屋善兵衛へ

売渡旨願出承届ル同世日売券状差出

一かつまた町かミ屋茂兵衛家屋鋪同町山形屋善兵衛方へ家賃入置差

引相済断書出承置

一西新町北側英田屋徳次郎家屋敷表口三間裏行十七間但半役也并長

屋一ヶ所五人組相談之上質物書入江見屋五三郎取次銀札四百匁当

十月切式割之利足同三月七日日本証文差出ス

一美濃職人町田中屋文助借家清八盼清七久世村三原屋七郎右衛門方

へ三年切奉公願承届ル

一小性町鈴鹿屋伊助梓市之助小須賀一学殿奉公ニ差出候ニ付人別離

願立承届ル

二月廿九日 雨晴ル丑刻地震余程振

一巳ノ刻過東新町南側土手通町家孫兵衛火元 □ 出火類焼長右衛門

清七善吉重三郎文助八郎兵衛市右衛門長次郎火元共九軒焼失右ニ

付即刻出馬致大年寄組中不殘罷出北風烈敷川手へ吹貫火鎮ル百間

土手藪際番太小家類焼少々藪へ移候得とも早速消ル午ノ中刻火鎮

引取ル帰懸ケ御用番与兵衛殿へ御届申達大目付中へ途中ニ為届組

差遣ス

二月晦日 晴

一東新町昨日焼失火元孫兵衛追込之義相伺尤類焼も有之ニ付七日申

付候様申上大鑑中へも達

一更山院様五十回御忌ニ付配当座頭警女とも御布施被下候義与兵衛

殿へ伺済大目付中へも達

一吹屋町孤独まつ御救ふち三拾匁八厘請取相渡

三月 御用番

大年寄月番

御家老 安藏丹後殿

齊藤孫右衛門

御年寄 伊達与兵衛殿

諸吟味

大御目付 黒田織衛

坪屋藤十郎

朔日 雨

三月二日 雨

一御作事中間喜八忠次藤吉右三人御裁許左之通申渡立会小頭部屋目

付書役

御城下追払

喜八

永之御暇被下

忠次藤吉

右之取計相済与兵衛殿へ御届申達大目付同断

一 村瀬常右衛門入来ニ申聴候ハ一昨晦日庸雇置川向辺へ遣候途中

ニ而福渡町松屋伊助と及口論右日雇伊助申候ハ今日ハ夫へ被雇候ニ付隙取候而ハ無申訳候間夫迄帰候而如何様とも可致申候得とも

伊助不聞入障さへ致候段伊介仕方不埒之旨ニ付宜申付呉候様被申聴禁足申付ル

一元魚町糺屋伊助西今町永野屋安之丞登坂来ル四日立往来四十日計承届

三月三日 晴

一 福渡町松屋伊助禁足差免

三月四日 晴

一元魚町るせ屋喜兵衛来ル七日立登坂廿日計承届

一 材木町福中屋去々月途中ニ而被口候銭入はをり右一件御裁許ニ付太助へ渡

一 此間東新町出火之砌新魚町坪井町船頭町右三丁於其場格別之冑打候ニ付今日費調大年寄於宅申渡

一元魚町豊屋喜兵衛借屋筋屋善十郎渡世向勝手ニ付西北条郡山北村茂右衛門方へ引越申度相願家人人別四人差除郡代所引合

一 下紺屋町長松讚州丸龜明五日立往来九十日計承届ル六月十二日今廿日日延承届ル

一 材木町北側大工源九郎家屋鋪表口式間半裏行十七間但半役也去ル丑年質物ニ書入置候処此度請返町内河内屋常之助へ代銀札式百匁

ニ相究壳渡申度段願出承届同七日壳券状差出ス

一元魚町年寄藤野屋多吉来ル七日立登坂往来日数廿日計承届ル

三月五日 晴

一 更山院様御法事ニ付西今町橋詰辻固同心組兩人差出

一 右御法事ニ付配当場へ御布施被下

一元魚町玉嶋屋徳三郎明六日立登坂廿日計承届

一二丁目小倉屋茂兵衛忠兵衛元魚町北浜屋善兵衛倅万吉右四人讚州

金比罷參詣明後七日立十日計承届

一元魚町笹屋友次中ノ丁平岡屋茂四郎右兩人明後七日立登坂三十日

計承届

一 備州岡山真嶋屋太平次手代源兵へ万紙類卸壳宿境町西川屋善助切

手出ス

三月六日 晴

一 山本弥吉他国請酒株吹屋町釜屋齊右衛門貸置候処此度取戻断書出承置

一 東新町年寄肥後屋長助ふしミ町年寄小浜屋善兵衛式丁目年寄三谷

屋与三右衛門下紺屋町桶屋六右衛門右之者とも讚州金比羅參定例

日数承届ル元魚町とよ屋喜兵衛同断

一 作州吉野郡幸野村清右衛門娘兩人扁路予州ニ而病氣ニ相成同所

送來井口村へ送來町分送出

一 御蔵米八拾六匁町米八拾式匁相庭書出

一二階町山本屋弥兵衛讚州金比羅參日数並之通承届ル同町河内屋政

次郎同断

一 下紺屋町兵庫屋孫助安岡町順助龜吉善吉久助莊七新職人町山本屋
忠右衛門西今町沢屋次兵衛橋元屋義八鳥屋茂兵衛井口屋理助公文
屋清右衛門伊右衛門京屋平次郎右之者とも讚州金比羅參日數並之
通承届ル

一 河原町伝助上初村狼籍一件今日も又呼出遂吟味候得とも有躰不申
吟味中入牢申付ルふしみ町いなり山源吉今日罷帰候段申出是又呼
出遂吟味候得とも相陳面部ニ疵も有之候ニ付紛も無之義ニ候得と
も有躰不申ニ付而手鎖組合預ケニ申付ル右之趣御両所へ御届申達
ス四月十六日源吉牢舎

一 東新町火元孫兵衛追込差免御両所へ御届申達ス
一 因州知頭郡樟原村六兵衛妻子扁路(マ)罷出六兵衛ハ死去妻子とも備
前国金川へ送出井口村へ送來町分送出

三月七日 雨

三月八日 雨晚方夕晴 登城

一 東新町鍛冶市郎兵衛倅作造并妻娘都合四人勝手ニ付林田村喜八
借家へ引越人別離願引合之上承届ル

一 新職人町塗師孫三郎借家仁助上紺屋町喜之助借屋山伏万寿院鍛冶
町佐七後家倅吉助右三人卯十一月出奔何連も其節百日尋申付候得
とも弥行衛不相知人別離願出御用所へ及御沙汰承届大目付中へも
達

一 茂渡藤右衛門用事有之由ニ付伯州日野郡黒坂村判屋九兵衛方へ來
ル十日立逗留十日相願御用所へ相伺御聞届被成大目付中江も達
一 更山院様御年回ニ付被下候御布施座頭替女とも配当銀請取書御用

所并大目付中へ差出

一 新職人町佐七婦去卯十一月懐胎届出其後經行有之懐胎ニ而無之旨
申出乍然又々相違候而ハ如何ニ付弥目前迄見合候様申付置然ル処
弥懐胎ニ而無之旨書付出与兵衛殿へ達

一 作州吉野郡後山村弥右衛門紛両人娘言人阿州根淵村へ病氣ニ付送
出井口村へ送來町方送渡

一 因州八上郡長瀬村源次郎病氣ニ付久米南条郡へ送出井口村へ送來
町方無恙送出

一 直屋孫造藤田炭焼差上候様被仰付候処焼加減留出來不申御断申出
少々計差上夫とも御用ニも相立候ハ、早々ニ仰越候様御小納戸中
へ申達

一 東新町焼失之町画図仕立国保文七へ相廻ス此義御乘駕出火之節ハ
差上置候御画図之通印付差上候様被仰付候ニ付相廻ス

一 上高倉村石松院盜賊入込弘具類紛失日上村角造紛失物有之右両様
町触取計候様大目付中へ被申聽今日相触ル扣ニ有之

一 安岡町扇屋兵助紛三助伯州倉吉へ參致逗留当二月切之処日延願書
出承届ル

三月九日 晴

一 三船八郎右衛門立願有之由明十日立伯州阿毘縁解脱寺參往來七日
計承届ル西今町年寄車屋七郎右衛門右同断承届ル

一 坪井町高砂屋兵助來ル十三日立登板往來廿日計承届ル

一 新魚町備前屋喜七西今町ミくら屋菊次郎美濃職人町さわた屋善助
京町平野屋治造三丁目瀬川屋与七先日他領へ穀類売出候旨無念ニ

付追込申付候東新町弓削屋伊右衛門松永屋源七此兩人他領者と乍存穀類壳渡不届ニ付戸ノ申付ル右ニ付惣町江も心得違無之様穀類他所へ売出間敷又々触達右之趣先日相伺置候処昨日伺相済今日申渡立合例之通戸ノ計方并釘貫等受取之義大工持夫等もいつも之通ニ別而取計相済与兵衛殿織江江御届申達

一廿五疋宿馬見分大年寄於宅例歳之通取計も付帳差出

一出羽守様近々為御參勤御発駕被成候由ニ付御通行筋町々見分大年寄小頭差越

三月十日 曇夜雨

一境町古川屋源七京町大村屋源右衛門明十一日立往来三十日計承届ル

一河原町伝助牢越吟味同心組差越初村狼籍一件及白状吟味書爪判取之差出

一林田町疫痢流行ニ付百万扁板行致度旨断出ル

三月十一日 雨晚方晴ル

一鍛冶町藤吉家入札ニ相成鍛冶嘉助落札式百匁遣ス

一雲州侯為御參勤来ル十四日御国元御発駕被成候旨依之継馬三十四疋継人足百七拾人手合致候様御先触到来之段大年寄申出即刻御用番中へ御届申上ル大目付中同断尤足シ馬九疋郡代所へ被仰付候様大目付中へ申上ル御郡代中へも為知且寄馬為談候旁以紙面申遣置

一去ル九日追込申付候五人之者追込指免大年寄へ申渡与兵衛殿へ御

届申達大目付同断

一出羽守様御通行ニ付町触例之通差出

一但州七味郡高津村八左衛門娘四国扁路ニ罷出病氣口相成作州久米

南条郡福渡村の送出右同行同国長板村喜五郎娘并同行理七紛常蔵古城村の送出喜五郎娘ハ作州上二ヶ村の送出一方村の送来町分無

恙林田村へ送渡

三月十二日 晴

三月十三日 曇 登城

一出羽守様来ル十七日御城下御通行被成候ニ付例之通町方取計出役可仕様与兵衛殿へ申上大目付同断御貸人馬之義織衛へ達置御徒目付下目付立宿書付同人へ差出院莊川へ御馳走舟被差出候由被申聴御蔵元年寄下裁許人申付ル

一東新町戸ノ申付之者とも日數十日相伺置候処出羽守様御通行御目見さわりニも相成候事今二日計之義ニ候へハ前日ニも可差免哉与兵衛殿へ御伺申候処伺之通相済大目付中へも達

一落し切手御触達大目付中へ廻状相廻町方組中牢屋三軒屋へ相触ル

一西今町久米屋勘七明十四日立登坂坪井町河原屋治助明後十五日立登坂兩人とも日数廿日計新魚町古手屋嘉助明後十五日立登坂廿日計西今町高松屋伊兵衛明十四日立登坂廿五日計何も承届ル

一橋本町山田屋七之助西側家屋鋪安永九子年林田町鍵屋茂助取次元銀札五百匁之家質入置候得とも此度返済断書出承置

一山本屋弥吉所持^{他国}請酒株西新町大坂屋利助来ル申年迄五ヶ年貸渡之旨連判願承届ル

三月十四日 晴

一 鍛冶町扇屋吉右衛門明十五日立登坂廿日計承届ル

三月十五日 晴

一 今晚寅半刻比林田玉琳出火ニ付出馬致十軒計焼失追々下火も鎮辰刻引取ル与兵衛殿江罷越御届申達途中大目付士江者為届同心組差遣ス

一 今晚之火事つけ火之由相聞此間大隅宮下ニもつけ火致候得とも早速消留候由相聞依之町方夜廻四時々町々鉄棒引相廻候様申付ル尤御家中江も非人式組夜中相廻候様申付ル与兵衛殿へ御伺申上候処可然旨被仰聞今日相廻候様申付大目付士へも相達四月九日午三時迄御届止ル

三月十六日 晴

一 尾州嶋崎陰明師高橋伊豆手代五兵衛上下式人宿切手境町小鳥屋次郎右衛門出ス

一 東新町松永屋源七弓削屋伊右衛門戸ノ指免御両所へ御届申達立合例之通出番昼廻相兼ル

一 宝井作右衛門伯母病死届出御用差障ニ付今日忌差免候

三月十七日 晴

一 出羽守様御城下御通行被成候ニ付前格之場所へ罷出立宿西今町坪屋藤十郎辰過刻出宅巳ノ半刻院莊へ御着為知郡代中紙面午上刻御城下御通行妙法寺前横丁ニ而御目見例之通名披露有之町分御離被成迄ハ立宿ニ扣罷有帰懸御用番与兵衛殿へ御届申達大目付中へ紙面ニ而相届ル尤供立例之通其外出役前格之通出自分始何連も被下物有之御使者福嶋才右衛門取次佐藤彦右衛門

一作州吉野郡中谷村吉右衛門家内四人備中ニ而病氣步行難叶送出候

由例之通林田村へ送渡

三月十八日 晴 登城

一 申上候御用向無之

一 橋本町西側山田屋七之助家屋鋪表口四間裏行拾五間并裏ニ長屋添但本役也代銀札五百匁ニ極林田町菅屋徳右衛門へ壳渡申度願出承届候事同廿一日壳券状差出ス

一 玉置三四郎取持之他國請酒株境町稻実屋義七郎へ貸置候処取戻候段断書出承置

一 小姓町矢吹屋弥七妻妊娠月取違候断書出何置候

三月十九日 晴

一 新職人町分小川丁重助去月廿四日夜留守へ盗人這入家財穀物など紛失然ル処羽釜一つ京町大村屋店ニ有之承糺候処河原町七郎右衛門と申者持参買取候由同人今日呼出逐吟味候処同町今出屋横丁ニ而見知無之者途中ニ而被相頼貫遣候由申口紛敷吟味中手鎖組合へ預ケ置御両所へ御届申達

一 去ル十五日曉出火之節召捕候由文七と申盗人風来佐四郎と申合つけ火致候よし白状之趣今日入牢被申付立合出ス右之者と博奕致候由山西村宇八是又牢舎被申付

一 渡部其助国保又七山田兵太夫扶持米江戸廻ニ相成候由舟積之義関

〔盗人〕十治ノ申来御蔵元へ申付ル

一 御蔵米八拾七匁五分町米八拾三匁五分相庭書出

三月廿日 晴風

一 御蔵米八拾八匁五分町米八拾四匁五分相庭書出ス

三月廿一日 雨

三月廿二日 晴

一 材木町中村益庵明後廿四日立備前岡山往来十五日計承届ル

一 林田町年寄塩屋莊助病身ニ付役儀難相勤依之役免相願無抛趣ニ付役免申付ル

一 西今町長門屋惣兵衛家守桶屋清助姉伊藤妥女組中尾平蔵江差遣度人別離願出承届ル

一 因州知頭郡岐多村勤次郎紛四国^(マ)下向道足病久米南条郡原田村^{伯州}送出来町分無滞林田村へ送渡同国久米郡樽津村佐兵衛伊勢參宮下向道足痛新田村送出来町分無恙広原村へ送渡

三月廿三日 晴 登城

一 近来大豆高値ニ付豆腐直段上ケ之儀願立耆挺十七文之処式拾文と願候へとも大年寄申出候ハ今耆文上十八文ニ申付可然ニ付其旨御用所相伺今日^ハ十八文売申付ル大目付中へも達

一 近来盗人入込候趣在方なとつけ火致候由既ニ先日玉琳ニ而もつけ火致其後兎角物窓^(マ)ニ相聞然ル処当春已来他所非人物貫数多致徘徊盗賊紛込候程難計依之柳堤之者申付町方勿論御家中端々江も相廻他所非人為追払可申哉と与兵衛殿相伺候処考之通と被仰出候ニ付徒之者十人計したかへ出端々江も相廻為追払候様大年寄へ申付尤住還通非人ハ御領外送立住還之妨ニ不相成様申合大鑑中へも達尤郡代中へも来合郷中も同様ニ取計有之筈御用所へも申上ル四月十日迄追払済

一 牢番松岡佐助病氣ニ付而当分代リ之者大目付中へ申立

一 同心組陣笠破損有之小頭とも申立候ニ付大目付中へ申上承知ニ付小勤者三浦伊右衛門へも申談置

一 中ノ丁西屋次三郎借家飯綱屋新七夫婦とも林田上ノ丁庄五郎引請伊助借家へ引越人別離願引合承届ル

一 餅米百俵御払ニ相成中買共へ入札被仰付候処買人無之由惣町へ役所^ハ申付可然ニ付相触ル

一 当二月八日申渡候船頭町田原屋六兵衛家質濟方之義当五月迄日延願勘定所へ懸合承知ニ付承届ル

一 二月中町方生死人別出入書上左之通
出生十三人男十一人女貳人 人別入五人 人別離九人
死失十六人 差引而七人減 懐胎九人

一 例歳之通御裁際竹子ぬき取申間敷町触出ス文段先格通扣ニ有之

三月廿四日 晴
三月廿五日 晴夜少雨

一 大坂南本町三丁目染屋藤兵衛手代新兵衛葉種卸売二かい町塚屋伊右衛門宿切手出ス

一 桶屋町宝珠屋還治而親太田村作右衛門借屋罷有候処病身ニ付引請養育仕度旨願出引合之上承届ル

一 林田上ノ丁平七与申者林田町辰野屋喜介引請人別入願出引合之上承届ル

一 林田町田辺屋治介勝山金田市右衛門方へ年切奉公ニ参居候処今三ヶ年奉公致度願出承届ル尤^家役之義是迄之通借屋義助相勤ル

一 美濃職人町乗物屋佐吉水車ニ而油絞候事願内分申出然ル処惣油屋

とも殊之外故障相成候様間候ニ付惣油屋共手前尋候処甚迷惑之趣相歎依之佐吉願ハ先無取上差下ケ候全躰近頃油高直ニ致候処右等存付も有之故油屋とも一統申合可成丈ハ油直段引下ケ可致商売候左も無之候而ハ世上之難義相成候而ハ無拋車絞被申付様ニも可相成ニ付其旨無忘却様可申付大年寄ともへ申渡

三月廿六日 晴ル

一茅町南側吹屋藤助家屋鋪表口六間裏行十七間五步半役也右之内三間式尺式寸裏行十七間式步半役付代銀札式百匁ニ相究同町大工政兵衛へ売渡申度願承届ル四月二日売券状差出ス

一中ノ丁玉置三四郎取持之他国請酒株西新町水野屋儀助へ三ヶ年貸申度旨連判願承届ル

一餅米入札鍛冶町山形屋与次兵衛出勘定奉行宗田へ為持遣ス

一牢舎人藤蔵咽ニ腫物致外科之義申出候処町方ニ外科無之大目付江も及噂候処郷中へ可被仰付候由織江ノ郡代中へ被相達候

一文七明日拷問被申付候由牢屋申出候処今朝より病氣之由申出郡代中へも達医師申付ル

三月廿七日 晴

一郷中外科円宗寺村宗論罷越膏藥等指遣

三月廿八日 登 城晴

一來月四日隆照院様廿三回御忌ニ付於泰安寺御法事被仰付候段為御知被仰出大目付廻状「依之町方并組中牢屋三軒家へも相達

一右御法事ニ付自他警女座頭とも御布施頂戴之義願出候候御聞届大目付中へも達且又御法事之節大年寄とも拝礼之義大目付中へ伺

候処先格之義可申付被申付

一 二階町治助義去十二月与風罷出行衛不相知百日尋申付候処此度倉敷村縁類之方へ此間參候由人遣承候処罷出候節一向夢中之由野狐などニさらわれ候哉行衛覺不申此節正氣ニ相成帰往之義相願候段治助妻の申出今日御用所へ相伺候御聞濟ニ付大目付中へも相達

一新職人町作人善藏家屋敷表口三間裏行拾間本役也五人組相談之上代銀札式百拾匁ニ相究福渡町松野屋重吉へ売渡段願出承届ル四月三日売券状差出ス

一 玉置広四郎事去冬勝手向極難ニ及ひ病氣ニ付引籠其節拜借等申立候得とも当りさわりも有之表立てハ難御沙汰乍然大年寄役とも勤候者之儀ニ付内々右之願書写与兵衛殿へ申達候処先格も有之哉と御札ニ付先年齋藤孫右衛門及難波候節内々銀札場ニ而廿貫目十五年賦拜借被仰付候義も有之旨御噂申出候ハ、勘定所へ御「成下夫も懸合何卒取統候様計可遣被仰聽其後勘定奉行ニも色々考之上御工面銀貸付取立申付候ハ、少々働料も被下候事凌ニも可成右之通相究内々出勤候様申聞今日出勤内々取計之事ながら御用番中江も相達候儀以後心得ニも可成事ニ付記置候

三月廿九日 雨

一同心組神田順治儀去才林田町塩屋莊助娘を同町藤本屋重吉密通のたし候砌重吉腰押致莊助ニ当惑為致夫の却而内済も不致甚不埒候へ共内々部屋目付とも以後急度慎候様為申聞其砌ハ有免致置候処又々此間町家之異論ニ煽候趣相聞番代等可申付者ニ候へとも年若之義ニ付此度ハ先追込申付小頭部屋目付立合取計

一作州真嶋郡関村市兵衛病氣ニ付播州新「」ニ送出林田村ニ送来町方無滞在分送渡

一因州知頭郡中原村安兵衛女房娘とも兩人足痛ニ付作州久米南条郡下二ヶ村ニ送出候由送来町方送渡

四月 御月番

大年寄月番

御家老 佐久間上総殿

藏合孫左衛門

御年寄 伊達与兵衛殿

諸吟味役

大御目付 赤見類助

久米屋勘八

朔日 晴ル

一玉置広四郎江御勘定所工面銀取立方御勘定奉行近藤伊右衛門於宅被申渡

一西今町年寄蘭田屋太郎左衛門改印願承届ル

一右同人今日立備中惣部参詣五日計承届ル

四月二日 晴

一船頭町高瀬屋勘右衛門来ル五日立上京往来日数廿八日計承届ル

四月三日 雨

一東新町黒田良朴備前国佐伯先達而相願罷越居候処病氣之段家守伝兵衛断出承置

一戸川町多助借屋伝七大庭郡久世村金田徳藏方へ奉公参居候処年限相済帰候段断出承置

四月四日 晴

一隆照院様御法事ニ付西今町橋詰辻固同心組兩人先格之通差出昨今

自身番申付ル且又自他領座頭替女とも御布施被下頂戴書付大年寄の差出

一大年寄とも三人拜礼罷出ル

一東新町鍛冶新七久米南条郡へ年切奉公ニ罷越居候処年切済罷帰断

書出ス

一因州送り井口村ニ送出町分無恙送渡

四月五日 晴

四月六日 晴

一牢舎文七病氣全快届出郡代所へも達

一安岡町扇屋兵助助義伯州倉吉西中町三好屋善五郎と申者内縁有之ニ付此者方へ三ヶ年奉公ニ差遣置申度相願承届ル

一二丁目ニ而三丁目平野屋助左衛門取持家屋鋪表口六間裏行十七間但本役也并土蔵壹ヶ所代銀札式貫三百匁ニ相究町内小くら屋茂兵衛へ売渡申度旨相願承届ル同七日売券状差出ス

一神田順治追込差免候段小頭作右衛門へ申達

四月七日 晴

四月八日 雨 登城

一西今町級田屋和助妻去月廿八日夜橋本町ニ而水色ちりめん小帯并足袋拾取候段断出

一材木町福中屋松次郎同人店先ニ而子共紙入巻つ先月上旬拾取断出右両様とも御用所及御沙汰東西橋詰張紙申付ル大目付中へも達

一当十月十五日城州正法寺万人講建札之義講元とも願出御用所へ相同候処御聞届被成候其段大目付中へも達

一二階町年寄八郎右衛門町内妊娠之者届老人失念出産之義断出無念之段吃可申付旨今日与兵衛殿へ申上御聽置被成候戸川町伝三郎妻去卯五月の懐胎之旨同八月届出其後逐日腹かさ減懐胎無之病氣ニ而之趣之由断出臨月も過等閑ニ致置候段不埒ニ付是呵可置旨申上御聞置被成候

一隆照院様御年回ニ付座頭ともへ被下之御布施書付御用所へ差出大目付同断
四月九日 晴

一西今町南側沢田屋佐助所持家屋鋪表口三間裏行十五間但四步役也土蔵一ヶ所建物不残町内公文屋清右衛門取次質物ニ書入来已三月切銀札六百匁借用願承届ル同十六日本証文差出ス
四月十日 晴

一町方溝見分例年之通大年寄小頭部屋目付罷出相替処も無之旨申出承置
一作州吉野郡後山村勘右衛門娘式人井口村の西今町口送来町方無滞林田村へ送渡
四月十一日 晴

一中ノ町福屋甚六夫婦とも御城代組青江甚平方へ引越申度人別離願出承届ル
一他所非人物貫追払候様申付然ル処大方追払非人徘徊不致ニ付昨日迄ニ而柳堤之者引取候様申付ル

一元魚町塩物屋清八伴藤吉去月廿六日夜出奔致猶又同夜坪井町高砂屋兵助妻出奔致何連も届書出然ル処兵助妻付之内右藤吉兵助妻を

召連出奔致候様申出清八心懸リ之儀も有之哉為相尋候処心懸リ之義ハ無之趣且又兵助右躰之義申出候ハ証拠等有之哉吟味申付候処度々藤吉参妻江対し見苦敷義とも有之折檻候へハ已後可相慎旨申ニ付幼少之子供有之故其分ニ致置候処件之通ニ御座候へハ弥藤吉誤出候義と被存旨申出双方組合之者五日切急度尋出候様申付ル

一当国真嶋郡之由病人東新町へ送来町分無滞新田村へ送渡
四月十二日 午ノ半刻大雷雨未半刻晴ル

一当国吉野郡坂根村平兵衛妻病氣之由西今町口送来町分無滞林田村へ送渡
若殿様雷ニ付御機嫌伺罷出ル

一伏見町年寄小坂屋善兵衛印形相改候断承置尤印鑑差出ス
四月十三日 晴ル 登城

一御城役所溜間御繕ニ付宮嶋間東御椽側通元御奏者役所町奉行役所当分相成ル尤大鑑中ノ通意有之事
一他所非人追立徘徊も不致ニ付際限も無義先相止候段御両所へ申達一塩物屋清八盼藤吉高砂屋兵助妻出奔委細相尋申付候趣与兵衛殿へ申上大目付中へも達置

一奈良今井墨屋伊兵衛手代源助与申者老人墨商ニ参候旨宿切手出ス
京町瀧山屋惣兵衛

一作州勝山領落合出家老人病氣ニ而東新町へ送来町分無滞新田村へ送渡
四月十四日 晴ル

一加茂川御留場日上築瀨の屏風岩迄建札之内網殺生御停止近年猥ニ

相聞当年御在国前而可相慎旨大目付中ハ触書到来町方并組中三軒屋へも相達

一尾州崎嶋神職吉田左右弟子家来「」例年之通永見造酒介殿祈禱ニ相頼□ニ付「」計宿仕度旨願出承届ル同廿九日今十五日加日承届ル

一新魚町村元屋新太郎親作助先達而四国扁路罷出帰日過候而も不罷帰ニ付弟八十郎四国路へ差向相尋申度旨願出承届ル

一桶屋町美濃路屋喜平次粉半八立願有之ニ付四国扁往來五十日計承届ル右兩人とも明十五日立

四月十五日 雨

一播州網干余陸屋宗七八百屋物卸売

一播州網干塩屋伊兵衛弟助三郎荒物塩物卸売

一播州網干高屋彦右衛門小間物卸売

右之者とも宿中ノ町高尾屋新蔵切手差出

四月十六日 晴ル昼後曇

一河原町七郎右衛門新職人町分重助方ニ而紛失之羽釜大村屋江売渡候ニ付去月十九日召出遂吟味候処途中ニ而面躰不見知者ハ被相頼

貫遣候由申口甚紛敷ニ付吟味中手錠組合預ケ申付置紛失者追々町触等并組中日明なと江も申つけ為相糺候得とも手懸無之ニ付先手

錠預之儀ハ指免候而他参留置候様去ル十三日御用番中へ相伺候候考次第可取計思召候ニ付今日執計御両所へ御届申達候

一伏見町いなり山源吉事兎角有躰不申出候ニ付吟味中牢舎申付遂吟味候ハ、有躰可申ニ付牢舎可申付哉之旨是又御用番中へ相考候上

今日尚遂吟味候得とも有躰不申ニ付牢舎申付ル兩御方へ御届申達五月十六日居町払ニ申付ル

一御蔵米八拾九匁五分町米八拾五匁五分相庭書出

一江戸表本多左門殿扶持米被相廻候由御同氏宇右衛門殿ハ被相届即刻御蔵元申付ル

四月十七日 晴

一先日餅米御払被仰付候ニ付入札町触致候得とも買人無之川下ニ相成候旨勘定所ハ被取計近々町人ともハ船積致候旨近藤伊右衛門ハ申來其旨大年寄申達

一昨日牢舎申付候いなり山源吉申出度儀有之旨申候由牢番ハ申出同心組差出候処粉村ニ而狼籍一件博奕企ハ事起候義相違無之只今迄

偽候得とも吉ヶ原妹鯉亀吉誘ニ而博奕仕候由承參候ハ同類相違無之旨及白狀口書爪判取差出候得とも今日格別之御日柄ニ付追而

又々遂吟味可及御沙汰候事

四月十八日 午半刻風雨少雷 登城

一博奕咎之者とも左之通此間伺置「」今日与兵衛殿ハ御差函有之大目付中江も相達候

橋本町柄巻屋平助同三原屋平八西今町のふ屋□福渡町与惣治初而咎候ニ付手錠懸追込過料壹貫文□申付候様同濟安岡町徳兵衛桶

屋町莊兵衛同吉田屋平助此三人度々之儀ニ付牢舎申付置追而御裁許口之儀相伺候様頼相濟御城代組佐野木重郎兵衛地子居浜七御家

老組荒木磯右衛門地子居小松屋治助右兩人咎之義去々寅十二月御城代組青江若右衛門地子居之者博奕ニ付咎之例御城下一里四方追

一 被仰付此度も右例ニ可被仰付哉伺候処、之通御下知有之大目付中へも達明日呼出候儀同心小頭ノ向方小頭へ及懸合候様申付ル町家之義ハ大年寄へ明日差出候様申渡

一 勝間田町吉田屋与三兵衛娘一宮村林蔵妻差遣置候処此度離縁致孫娘兩人召連三人とも罷婦度申ニ付人別入之義相願引合候而承届ル一 去ル三日吉見村喜平次方江盗人入込紛失品色目書郡代中ノ被廻町触ニ出ス尤向方ニ而夫々□濟

一 御松餅米古川屋太兵衛川下三百俵舟積「」見分神田順治罷出ル一 川向ニ而茂渡荘右衛門作物こなし屋昨夜焼失□ 出安永六西七月

一 廿一日一方村玉置組屋持水車場焼失之節作代守入右兩人禁足三日申付候趣日記有之候へとも左様ニ而ハ二重咎ニ相成候故当役所承置ニ郡代中へ及懸合候昨夜出火之節町分始注進申出候故大目付へも注進遣出馬用意等も致候へとも川向之由注進申出候故罷出火も早速鎮ル尚右之趣口上ニ而赤見氏へ組遣ス同廿三日郷中人別作代無之ニ付作代安兵衛様

四月十九日 晴

一 博奕咎之者とも呼出候処何連も他行之由福渡町与惣治老人罷出手段懸追込過料銭老貫文申付ル立合例之通右之次第与兵衛殿并大目付中へも相達帰次第申渡候答ニ御届申置

一 御松餅米四百廿俵和泉屋銀兵衛川下舟積見分同心竹内兵助出ル

四月廿日 雨

一 牢番松岡佐助病氣快出動届出右引込申代御使組今日為引候其旨大目付赤見氏へ相断ル

一 元魚町北升屋善兵衛弟茂兵衛大坂本町一丁目小川屋利兵衛方奉公

ニ 遣置年切候処又々三ヶ年同人方為致奉公度相願承届ル

一 橋本町三笠屋五兵衛家屋敷西側表口二間裏行拾貳間半但半役也去卯年質物入置候□ 返落之断書出承置

一 二階町年寄油屋八郎右衛門病氣ニ付役免願出無抛相聞承届ル右跡役嶋木屋幸太郎へ当分申付ル

一 鍛冶町北側鍛冶平兵衛家屋敷表口老間裏行十七間但四步役也同町又兵衛取次質物ニ書入当十月切銀札百匁借用断書出承届候同廿四日本既文出ス

四月廿一日 晴

四月廿二日 晴

一 一宮田植祭ニ付同心組左五兵衛祐藏出ス

一 京都烏丸六角下ル町二文字屋九兵衛手代多助卯之介式人呉服商宿切手京町海老屋長右衛門ノ出ス

四月廿三日 雨 登城

一 桶屋町加平次去ル十日与風他出致行衛不相知趣家主勘兵衛断書出百日尋申付御用所并大目付中へ相断置

一 播州佐用郡西小畑村仁兵衛と申者夫婦とも足痛真嶋郡ノ送出候由送来町分無滞送渡候

一 越中富山船橋町松井屋源兵衛手代伊八郎返魂丹売京町瀧山屋惣兵衛宿切手出ス

一 当三月中町方生死書上左之通

出生十一人男九人女貳人 人別離十一人
死失三拾三人 差引而三拾三人減

一 去ル十七日夜茂渡荘右衛門こなし家焼失作代咎等之義ハ村方ニ有

之様郡代中へ懸合置候処作代名前村方へ出不申ニ付町奉行へ遂対談候様岸権六へ与兵衛殿御差図之由ニ付右衛門作代安兵衛町人別之者ニ付三日追込伺候而大年寄へ申付ル大目付中へ相達

四月廿四日 晴くもり

一同心三舟孫八神田順士病氣引込ニ付一宮市町中引足不申ニ付両人同心代り申立

一京都伏見海道五条上ル町近江屋勤兵衛小間物煙筒卸売ニ階町境屋伊右衛門宿切手出ス

四月廿五日 雨昼ハ晴ル 一宮市町出役甚藏郡士

一同心加人土井林藏前原才治御使組ハ相廻ル

四月廿六日 晴ル

一御蔵米九拾老匁町米八拾七匁相庭書出ス

一茂渡莊右衛門作代安兵衛追込差免御所へ御届申達

一橋本町西側三笹屋五兵衛家屋鋪表口三間裏行十式間半裏ニ建物老軒但半役也五人組相談之上中ノ町松屋忠助へ代銀札式百五十匁ニ

相究売渡申度願出承届ル翌廿七日売券状出ス

一宮市町出役祐藏兵助

一茅町百万扁申出承置夜廻同心五申聞置

一西今町松本屋五右衛門家屋鋪同町三倉屋栄次郎方へ質入ニ致置濟

方不埒之段願立大年寄場合逐吟味候処栄次郎願立候趣尤ニ相聞依

而三十日限筋立候様申渡同年七月廿九日 内齊ニ相成ル

四月廿七日 曇

一宮市町同心出役福田甚藏土井林藏

一播州姫路東魚町池田屋八郎右衛門境町稻実屋義七郎実父之由廿日計逗留為致度願出承置候同廿九日病死取計之事

一柏原前敷際大目付構之場所ニ禪門坊主行倒罷有候由其辺之者とも様子承候処因州知頭郡南方村光善と申禪門之由四国扁路(マ)之心懸ニ

而罷出候処殊之外足痛致行倒候由申之段大年寄孫右衛門申出即刻大目付赤見氏へ為知遣候処見分被申付候処弥相違も無之由町方へ

引受宜取計候様被申聴桶屋町番人并食物等手当申付町医今并甚仲申付遣ス病躰と申候而ハ老年之義足痛一ト通命分気遣等有之趣ニ

而ハ無之迎も此躰ニ而ハ早速致平愈四国扁路(マ)へ可相成躰ニも無之一刻も早国元へ送帰呉候様相願候段桶屋町年寄宛ニ而願書爪判ニ

而出候ニ付御用番与兵衛殿へ及御沙汰候処送出可遣被仰聞其旨孫右衛門へ申付大目付中へも相達郡代中へも及通用置百三目安用御共目 行被所多給遣候様長

一柏原前あくた捨申間敷之御制札横倒之由申出大目付中へ為相知ル徳芝堀町左衛門ニ感寄奉 駿大年寄へ書問廿三相成

四月廿八日 晴ル今日入梅ニ入 登城

一因州禪門坊主林田村へ送渡候段御所へ御届申達

一西今町玉屋吉右衛門妻不縁ニ付小原村藤七方へ差返度離縁人別除願出引合之上承届ル

一小麦小豆此式品津留差免之儀伺候処御聞届被成大目付中へも相達

町触申付ル

一西川領桑上村義兵衛伴伝次郎と申者茅町作人瀧右衛門養子ニ引受

申度相願御用所へ及御沙汰承届大目付中へも達人別人申付ル百廿目 森葉苗

一大坂久太郎町塚筋松屋甚兵衛手代平兵衛小間物卸売宿切手出ス二

階町塚屋伊右衛門

一 宮市町出役郡次勇藏

四月廿九日 晴

一 宮市町出役才次佐五兵衛小頭作右衛門も罷越

一 御払餅米四拾俵積下為改同心出ル

一 西川齋藤六藏田中恵右衛門来状贖札師方助懸り合荒内村幸次郎先

達而引渡候処右方助裁許口之義為問合飛脚從是委細可得御意旨及

答尤与兵衛殿へも御伺之上取計 同五月二日戸名
相廻候書付相渡ス

寺社ト
親類へも

一 堺町稻実屋義七郎実父播州姫路東魚町池田屋八郎右衛門昨日急症

ニ而相果早速姫路へ飛脚差立悴仁右衛門参亡者遠境難引取向方ニ

而旦那寺門証寺へも対談致取手形取之參妙願寺へ取置願候由尤諸

親後々年ニおゐて申分無之旨義七郎并仁右衛門も相願門証寺手形

も差出願書之趣を以与兵衛殿へ及御沙汰承届大目付中へも委細相

達右手形ハ御両所御披見之上差下遣ス但天明元年丑七月十二日新

魚町村元屋例ニ計候寺社取次松岡治郎助へも及通用

一 坪井町高砂屋兵助妻出奔断出兼而檜物屋藤吉密夫之心懸りも有之

処致等閑置今更密夫之由手ぬき之義とも訴出甚不埒至極之事ニ付

呵追込申付候様相親今日大年寄宅ニ而申渡小頭部屋目付立合相濟

与兵衛殿へ御届申達大目付同断但永尋ニ申付申渡文段ニ入

一 元魚町檜物屋清八組合藤吉永尋申付ル兵助の藤吉を密夫と申立候

得とも藤吉尋出糺明之上ならてハ実否不相分ニ付当時清八を可咎

筋無之ニ付永尋ニ申付ル是又右一件ニ籠リ候事故一統御伺申上ル

四月廿日 晴

一 宮市町出役甚藏林藏

一 御家老組荒木磯右衛門地子居小松屋理助去月十九日小頭合懸合之

上呼出候処他行致候由ニ付請人船頭町福元屋升五郎橋元町後藤屋

左市へ尋申付候得とも行衛不相知出奔届有之右ニ付請人ともへ様

子相尋候処右理助妻升五郎方引受人別人願承届尤理助立帰候ハ、

註進可申出筈ニ候并左市も立帰候ハ、註進可申出一札差出

一 越中富山板屋理兵衛役介佐七藤次郎と申者向人当十月迄召抱置候

旨例年之通願出承届ル

五月 御月番

大年寄月番

御家老 安藤丹後殿

玉置広四郎

御年寄 伊達与兵衛殿

諸吟味

大御目付 相田舍人

坪屋藤十郎

朔日 晴

一 一宮出役勇藏郡次

一 小麦十九俵船頭町高松屋理助川下致候ニ付同心組為改出ス

五月二日 雨

一 一宮市町出役甚藏才次

一 西大番所脇貫拔番人一昨夜九時後小門ノ不置不埒ニ付為過怠三夜

之番賃銀取上已後入念候様小頭作右衛門於宅申渡

五月三日 晴 登城

一 地織ちりめん糸元銀之義直屋市郎左衛門豊屋喜左衛門高雄屋藤助

相願与兵衛殿へ及御沙汰候処勘定奉行中へ遂対談取計遣候様被仰

聞對談之上四貫目計貸遣候様相濟広四郎へ申達大目付中へも及噺置尤御用等追而ハ被仰付候義も可有之旨申聞置

一中ノ町和氣屋太兵衛林田上ノ丁源助方へ引越人別離願引合之上承届ル

一西川役所へ申来候賈札万介御裁判之義問合於江戸表向方留守居中
の岡村安助江懸合有之候由江戸表へ申来候書付大目付舍人へ被相渡右「一」西川へ可為返翰旨与兵衛殿へも被仰聞候事同十九日西川役所へ書状遣ス

一三丁目浜野屋重郎兵衛来ル六日立登坂願承届ル日数三十日余リ
一小豆三十俵高松屋理助川下為改郡次出ル

五月四日 晴

一同心組福田甚蔵妻出産女子出生

一一宮市町出役佐五兵衛林蔵

一同心兩人引込ニ付御使組代リ請取候得とも市町相濟為引取大目付中へ相届ル

一例年之通市上り町触出ス文段扣ニ有

五月五日 夕方夕雨

一高砂屋兵助追込差免両御方相届ル

五月六日 雨

五月七日 雨

一東海道藤川宿近来及困窮難義ニ付当辰へ来ル亥年迄七ヶ年之間人馬賃錢四割増請取候様被仰渡候旨從公儀御触大目付中へ廻状到来
組中并町方江も達

一江戸表へ飛脚到来殿様倍御機嫌能成御座先月廿二日以上使御国許江之御暇被仰出如例両御丸より御拝領物被遊恐悦之御事依之明後九日為御歎御帳付候間辰中刻已ノ中刻迄之内登城候様御奏者番御触達有之如例町役人へ為相知組中牢屋三軒屋へも為相知ル

一小麦五十五俵舟元屋佐助川下ニ付為改同心差出

一大坂谷町三丁目美濃屋源兵衛致旅宿候病氣之由逗留るたし養生為致度勝間町西屋半兵衛断承置

一船頭町初村屋伊介俸代次郎河嶋代次と相改飯塚弥代出入奉公差出候ニ付人別離願承届ル

一明日御用□九日江相延候段舍人へ為知来ル

五月八日 雨

一御蔵米九拾式匁町米八拾八匁相庭書出ス

一福渡町与惣次手錠追込差免立会小頭大年寄書役諸吟味部屋目付兩人引込ニ付欠座右取計与兵衛殿へ御届申達大目付中中断

一今夕新魚町ニ而百万扁致度旨伺出承届ル

五月九日 晴 登城

一御歎御帳付□ニ付辰之中刻登城御用所へも類役一統罷出恐悦申述若殿様江恐悦申上植木左士忠対明日御飛脚立ニ付披露状御小納戸迄差出

一ちりめん糸元入銀四貫目直屋市郎左衛門豊屋喜右衛門高雄屋藤助証文大年寄奥書ニ而差出拙者奥印加勘定奉行栗田氏へ懸合相渡右

銀札受取広四郎へ相渡

一二階町村元屋宗兵衛娘勝山三浦備後守殿領真嶋屋弥兵衛妻ニ差越

度人別離相願御用所へ及御沙汰承届大鑑中へ達

一 盗人投火等当三月比相聞ニ付夜廻并御家中へも柳堤之者相廻候処
近來静謐ニ付及御沙汰候上今夜相止ル

一 当春町方末々飢人有之候処身元宜者ともふしミ町年寄のせ屋源助
相勤メ救米為出候様取計出米之者とも先年と違殊之外出精當時迄
末々無難ニ為取統候段何連も奇特之事ニ付御酒御吸物肴三種被下
置候様仕度已後為ニも可相成段先日与兵衛殿へ書付を以相伺置候
処尤ニ思召伺之通御酒被下候間近日差支無之日限相窮尚可申上様
御差図ニ付大目付中へも達玉置広四郎於宅近日執計方之義同人へ
申渡救米出候者名前飢人帳別袋ニ入置右世話人并救米出候者分限
不相応相助候者も有之候へとも賞方ニ付甲乙有之候而ハ却而あた
りさわりも有之故一統同様御酒被下候様伺済同十五日御酒被下

一 大坂谷町三丁目美濃屋源兵衛助近国罷有病氣為看病伊右衛門と申
者参候旨西屋半兵衛断出ル

一 西屋半兵衛方旅宿病人源兵衛儀養生不相叶今朝相果候同道はりま
屋藤藏并右盼伊右衛門申候者遠境亡者引取之事難茂候ニ付御当地
ニ而取置仕度宗旨ハ浄土真宗之由ニ而林田浄円寺へ取置相願候処
承知之旨ニ付此段相願具候様伊右衛門藤藏半兵衛へ一札差出以後
いヶ躰之義有之候共苦勞ニハ懸ケ申間敷書面印形取之差出安永乙
未年九月旅人病死類例も有之寺社取次松岡治部助へ引合候処今夕
他出ニ而返翰無之

五月十日 晴

一 大坂谷町美濃屋源兵衛病死取置之義治部助江昨夜懸合置候処承知

之旨返翰到來依之今日与兵衛殿へ相伺御聞届被成候ニ付勝手次第

ニ取置候様申渡尚治部介へも為通用大鑑中へ相達

一 下紺屋町京町ニ而今夜百万扁執行断出ル

一 論地所改御代官手代杉原文丈介山室伴次御勘定所御証文御伝馬先触
到來昨夜土居泊今夜坪井泊之由午刻過川支候由ニ而参即刻其旨与
兵衛殿へ相達去々寅八月二日御伝馬ニ而手代通行之例有之ニ付町
方通筋見苦敷無之様申付町々保頭先を為払候様申付大目付中へも
達御証文写左之通

馬三疋

右者論所地改御代官手代杉原文丈助山室伴次相州勢州作州越前国
江も差越候間道中往返并彼地御用中とも書面之馬差出之無滞可
續送もの也

辰三月 丹後印
伊予印

一 右御代官手代兩人川支ニ而泊相違ゐたし当町止宿之由申出無程元
魚町龜屋助右衛門方着之段届出右ニ付先例調候処相当之類例無之
乍然途中保頭先を払約合ニ而考候得ハ町内年寄旅宿見廻近町夜廻
申付相当ニ致候ニ付其旨与兵衛殿へ相伺申付大目付中へも達

五月十一日 昼後夕立夜ニ入又雨

一 御代官手代杉原文丈介山室伴治出立申出与兵衛殿へ御届申達大目付
中江も同断

五月十二日 雨

一 大般若御執行ニ付例刻登城宇治橋間江相詰無御滞相済御用所江罷
出恐悦申述御例御供物相廻頂戴組中御札入前之通相渡

一西屋半兵衛方ニ而病死之旅人病氣之節逗留斷翌日可断出之処翌々日断出候段一日及延引御定を相背候得ともいさゝか之儀故以来入念候様呵置候様大年寄へ申達

一玉置宇左衛門悴三四郎明後十四日立備中矢懸行往来十七日計承届ル

一備前小豆嶋土莊村眼和本川文七与申俗医十五日計逗留之儀元魚町笹屋友次断承届ル 四月八日又々十五日如首相續届ル

五月十三日 雨上ル 登城

一東南条郡太田村伝次郎并母妻梓娘とも家内五人中ノ丁西屋次三郎引請人別人願引合承届ル

一京町三栗屋与吉方去ル七日夜紛失物断書出今日御用所及御沙汰吟味ハ此間早速夫々へ申付ル

一諸国とも近来米穀高値輕者とも及難儀不相当之石数買持候儀致間敷銘々兩年新穀迄可取統手当之余慶之米穀不囲置其土地者不及申他国^五も売出候様ゐたし他之難儀を不顧余慶米穀囲置又ハ廻米道売道買入たし候ハ吟味之上御仕置可被仰付此度之申渡ニ乘し大勢徒党を集在町人家を打壊其外理不^レ成義いたすにおゐてハ是又吟味之上御仕置可申付旨右之趣從公儀御触有之御廻状写大目付中^ハ被相渡惣町中心得違無之様触達候様大年寄へ申渡

一芽町作人伝助持牛病死取調之義申出承届

一明後十五日救米出候町人どもへ玉置広四郎於宅御酒被下日限之義与兵衛殿申上ル大目付同断右廻状ハ大年寄^ハ差出文言大意左之通
当春町方末々及飢候処施米差出奇特被思召依之来ル十五日

玉置広四郎於宅御酒被下置候右麻上下差用出仕可有之
扣其場所ニ留置

五月十四日 昨夜^ハ両朝上ル

一伯州倉吉大塚屋幸介と申者東新町へ送越町方無恙新田村へ糺送ル
五月十五日 未刻^ハ雨

一今八時玉置広四郎於宅御酒被下面々左之通

藏合孫左衛門 斎藤孫右衛門 川口藤十郎 玉置卯左衛門

茂渡藤右衛門 妹尾平兵衛 山本平右衛門 三舟八郎右衛門

植月孫四郎 久米屋勘八 坪屋藤十郎 ノ十二人一席

茂渡市之助 伏見屋三之助 豊屋喜兵衛 福永屋藤介

吹田屋嘉兵へ 永田屋喜七 大坂屋喜代八 高松屋孫一

冲屋莊助 山本屋与三七 打穴屋長七 葉屋与七

植屋理介 能勢屋源介 鞠屋伊介 紙屋太兵へ

福永屋助右衛門 小浜屋茂右衛門 豊屋喜左衛門 正田屋吉右衛門

岡崎屋彦吉 かと屋源三郎 綱屋宗兵へ 小坂屋善三

田邑屋治介 大村屋満右衛門 浜野屋宗兵へ 浜屋源右衛門

小坂屋長七 菱屋多介 大黒屋理兵へ 木綿屋治介

伊部屋宗左衛門 平岡屋忠右衛門 豊野屋万介 吉田屋喜八

稲実屋義七郎 伊勢屋長右衛門 小倉屋茂兵へ 菊屋倉治

高尾屋藤介 沢野屋伝六 生駒屋佐助 武田屋今^口

井口屋理七 高瀬屋勘右衛門 高松屋理介 五十八人

救米出候者高式百拾俵老斗五升五合外ニ世話焼老人油屋与一郎右一席ニ而御酒被下能勢屋源介豊屋喜左衛門此兩人救米出相兼ル料

理向左之通

ふくさ

鮎吸物

猪口肴

鉢肴

焼あゆ竹の子
玉子 串貝

右為挨拶小頭作右衛門出役申付

登山椒

生薑

木くらげ

一町方之者涼に罷出橋之上ニ立申間敷様触流之義例年之通取計候

一今日町人ともへ御酒被下置御用番中江罷越御礼申述大目付中江者

取計相済候段手紙ニ而相届

五月十六日 雨

一当春上粉村ニ而致狼籍候ニ付吟味中牢舎申付候河原町伝介ふしミ

町源吉御裁許伺相済今日申渡兩人とも居町払申付立会例之通出番

郡次祐藏相済与兵衛殿へ御届申上へ大目付同断

一江戸表の飛脚到来殿様益御機嫌能被御座去ル朔日御暇御礼首尾克

被仰上御懇之以上意御馬御拜領被遊恐悦之御事候為御知大目付廻

状到来写組中并牢屋三軒屋番江も相達

五月十七日 未刻白雨屋前

一伏見町近江屋孫三郎悴忠藏伯州倉吉市用ニ付明十八日立往来六十

日計相願承届ル

一戸川町作屋在兵衛後家南側ニ而家屋敷表口式間裏行拾七間但四步

役也代銀札式百目ニ相極町内紙屋嘉助へ永代売願承届ル同廿七日

売券状出ス

一上紺屋丁南側渡辺三隅家屋敷表口三間裏行十口間但本役也下紺

屋丁紙屋乙四郎取次ニ而質物書人來ル午十一月迄銀札式百五十目

借用願差出承届ル同廿二日本証文出ス 癸亥二月廿一日受取之済

一橋本町年寄喜八明十八日立登坂往来四十日計承届ル逗留中隣町年

寄相兼候段承置

一安岡町北側米屋儀介家屋敷表口四間裏行十四間但本役也町内扇屋

米次取次ニ而質物書人当十月迄銀札式百目借用願承届ル同廿七日

本証文出ス

一宗通宮におゐて町内之者日待致候断出

五月十八日 雨 登城

一新職人町国銀屋平助兼々不所存ニ付親類共打寄異見差加候へとも

不相用其上近比致家出無抛親類一同義絶勘当相願然ル処国銀屋家

業も有之者之儀先日申來存寄も差加候得とも無手義願立候趣ニ付

今日御用所へ申上承届ル大鑑衆へも達

一西川領久米北条郡油木上村善兵衛娘戸河町長太郎女房ニ引取申度

人別人相願御用所へ申上承届大鑑衆へも達同廿九日住宅証文出ル

一戸河町作人新右衛門娘大津御代官所支配久米北条郡足山村佐右衛

門養女ニ差遣度人別離「」御用所へ申上承届大鑑所へも達

一新職人町後藤庵程後家養子庵順義心底ニ相叶不申ニ付久米北条郡

宮尾村美父平八方江差返度人別除願候ニ付御用所へ申上承届大鑑

所も達

一西川陣屋の贗札拵之者御裁許振合之義聞合來書ニ而此方答之趣下

案を以与兵衛殿へ相節添候処今日考之通ニ而可然被仰聞大鑑所へ

も入披見候処存寄も無之旨右申遣大意左之通

諸向へ格別抱り不申義ハ手前仕置被申付公儀江御届等是迄致

不申此度も勿論ニ候是迄贗札拵之者永ク牢舎被申付置候由牢

死之者も有之又ハ早々赦免之者も有之候右万助義も此例を

以取計候旨申遣委細之義ハ書翰扣ニ有之候

一西川江飛脚之者小勤者中へ申達置

五月十九日 晴ル

一今朝西川へ飛脚差越秋野善藏へ申付ル

五月廿日 晴夜ニ入雨

一御藏米九拾式匁五分町米八拾八匁五分相庭書出ス

一西川江差越ノ飛脚帰相答返輪米ル

一京町菊屋清左衛門悴藤藏明廿一日立伯州倉吉行逗留三十日計承届

一今夜福渡町百万遍執行致候断承置

一同心組神田順治二男抱瘡相煩候処養生不叶今日相果候段小頭作右

衛門届出ル

五月廿一日 今曉今大雨

一新魚町北側ニ而大坂屋平藏家屋鋪表口式間半裏行九間之内式間半

土蔵吉歩役引残而裏行六間半四歩役付町内作人喜兵衛へ代銀札五

拾目ニ相極売渡願承届同廿七日売券状差出

五月廿二日 雨

一小麦百俵米屋藤右衛門同六十六俵高瀬屋勘右衛門同式十俵高松屋

理介舟積ニ付同心差出改ル

一雲州松江一ノ神町板倉屋幸助林田村へ送来町方無恙新田へ送渡ス

一去ル十五日広四郎於宅町人ともへ被下候御酒代并諸人用請取証文

銀札三匁四分五厘合奥印夫へ相渡

一先日町方出生拾人男五人女五人 人別入四人 人別除三人 死失

三拾六人 差引而十五人減 懐胎十人 右之通与兵衛殿へ書上ル

一町方宗門改帳案詞宗旨奉行へ被相廻即大年寄広四郎江相渡

一坪井町日野屋五助後夫存生之内差上候封印銀札四百五十包中ノ丁

桜屋平三郎後家夫存生之内差上候封印銀札式百包有之候兩人とも

不仕合ニ而近来身上向殊之外差詰必至及難波御開封相願外並も有

之事故大年寄とも段々遂吟味候処無手儀趣相聞勘定奉行中江も対

談之上御用所へ相同候処御聞届被成候其旨大鑑所へも達

一船頭町今津屋孫十郎持追廻郷藏計リ場ニ元町方日傭等致候當時無

宿甚助与申者相煩臥居候段此間断出様子等相糺候処被雇候先方ニ

而寝泊等致候趣暫ハ橋本町松井屋和七方ニ罷有候様子ニ付同人方

へ可引取候処追々快方孫十郎も何扁世話致遣候故見合候内今朝相

果候旨孫十郎今申出郡代中へも引合置

五月廿四日 雨

一昨日行倒死候無宿甚助死骸見分之儀郡代所双方立会ニ申付旦那寺

も有之旨ニ付橋元町松井屋和七へ取捨可申付様与兵衛殿江及御沙

汰見分差遣候処弥病死相違無之孫十郎一札為差出於其場右和七へ

引渡晚刻收置候段申出与兵衛殿へ御届申達大目付同断

一先日呼出候節行方不知知西新町のふ屋忠藏罷帰候段断出ル追而可

呼出候ニ付其内ハ組合とも心添置候様申渡

五月廿五日 卯半刻地震夜今雨

届ル

一勝間田宿栄屋権右衛門父治七郎明後廿七日立上京日数四十日計承

一北山齋女房備前岡山家中片岡久左衛門方へ明廿七日立逗留五十日計差越度相願承届ル

一吹屋町作人八兵衛娘東南条郡林田村与茂八妻へ差遣度人別離願引合之上承届ル

一林田町片岡東馬後家養子ニ藤生友伯致度旨断書出承置

一小麦八拾俵船頭町舟元屋佐助川下為改同心組出ル

五月廿七日 未刻少雨降ル

一新魚町村元屋新太郎父治助当春四国扁路罷出限日ニ不能帰ニ付新太郎弟八郎次尋ニ罷出候得とも不相知ニ付罷帰候得とも未様子一向相知不申ニ付又々尋ニ八郎次差出申度明廿八日立五十日之内四国路相尋度願出承届ル

五月廿八日 登城 今晚夕雨

一京町吉田屋喜八裏通御堀端堀覆繕候ニ付御堀へ足代下シ候断書出大鑑中へ申付作事方へも及通用

一築出ちりあくた御制札此間出来替候処又々倒候由其辺材木等取扱候もの共損候様大目付中被存此已後右取扱之者とも心を付候様可申付旨太田舎人被申聴其旨大年寄へ申渡

一先達而郷北前大溝御制札当役所ニ認候得とも大目付中可相達之旨舎人被申聴ニ付先役鈴木喜右衛門右之通取計其後之例無之ニ付右之通取計候由申候処此已後ハ大目付中へ差出御右筆所認有之様被申聴

一二階町亀屋兵助借家庄兵衛と申者去月下旬在方へ商向ニ参今以不能帰心懸リ之所々相尋候へ共行衛不相知旨断出定法通尋申付ル

一堺町佐伯屋藤兵衛借家伝三郎去ル十八日夜子共兩人召連罷出行方不相知ニ付心懸リ之所々相尋候得とも未相知旨断出定法通尋申付ル

一林田村喜助と申者夫婦子共兩人家内四人由緒有之桶屋町桶屋清助引受人別人願出引合承届ル

一飢饉之後ニハ時疫流行致候事ニ付万民為御救○藥方其外色々之毒ニ中リ候者解毒之藥方享保十八丑年辺土村々々と被遣候得とも年久遺失も可有之由ニ付尚又御触知從公儀被仰出候由書付大目付中

被相渡町中へ相触ル但文段扣ニ有リ

五月廿九日 晴

一水野屋敷前貫拔番此間九時及小門ノ不置先例を以三夜分番貫過怠ニ取上ル老奴八分欠所物取計

一昨日大目付中被相渡候時疫除之藥法從公儀之御触御家中江も御触有之組中牢屋三軒屋へ達

一小麦式拾五俵高松屋利助小麦八俵高松屋次郎兵衛川下為改同心組差出

一新魚町^村元屋治助四国扁路^{（マ）}ニ罷出未帰宅ニ付悻八郎次尋ニ罷出度段願上御聞届御座候処老人ニ無覚差添罷出具候様相頼候ニ付明朔日罷立五十日計逗留相願承届ル

六月 御用番 月番大年寄

御家老 佐久間上総殿 齋藤孫右衛門

御年寄 伊達与兵衛殿 諸吟味

大御目付 黒田織江 久米屋勘八

朔日 晴申刻白雨

一 下紺屋町不動院来ル七日今十四日迄祇園会中御戸開例年之通願出
寺社方引合承届ル是又二階町ニ而石松院兼任所不動堂并鎮守前へ
灯明之祈願主有之右同様日数同断承届ル

一 御藏米九拾壹匁五分町米八拾七匁五分相庭書出ス

一 福渡町源七借屋又八并悴浅吉ともニ立願ニ而来ル二日立四国扁路(マ)
往来百日計承届ル

一 新魚町かと屋源三郎借屋 □ 右衛門久世村福田屋直太郎方へ三ヶ
年奉公願承届ル

六月二日 巳半刻今夜中雨降

六月三日 晴 登城

一 土用中御機嫌為伺御帳付若殿様江も御機嫌罷出ル

一 堺町伝三郎二階町庄兵衛出奔定法通尋申付候段与兵衛殿申達大目
付中同断

一 月々書上之町方生死人懐胎改之儀死躰流産別ニ其旨書記差上候様
与兵衛殿今被仰聞

一 吹屋町熱田若狭堺町小林主水来ル七日立讚州金比羅参往来七日計
承届尤寺社取次へ引合候

六月四日 雨

一 子ノ半刻宮川筋満水之旨注進申出即刻大目付中江御届御貸人馬之
義も申遣組中へも為相知丑刻過大川筋も満水注進申出是又大目付
中へ達無程宮川橋江罷出船頭町江高提灯一帳同心組兩人差添遣追
々両川とも水落大川筋遂見分候得とも両所無別条五日卯刻引取与

兵衛殿へ御届申達大目付中へ途中より為届組遣ス

六月五日 雨

一 元魚町紙屋茂右衛門式丁目紙屋茂三郎来ル七日立金比羅参日数七
日計承届ル

六月六日 未刻今雨

一 橋本町西側松井屋和七家屋敷表口三間裏行十式間半但六步役也当
十一月切東新町岩屋文蔵取次ニ而質物ニ書入銀札百目借用願承届
ル同廿九日木証文差出ス

一 西川役所斎藤六蔵田中惠左衛門今来状先達贖札万助懸り合元荒田

村当時美野村甚兵衛悴幸次郎多々懸り合ニ付及往返「」右幸次

郎事此度追払被申付候由為知来ル可及相答哉之旨与兵衛殿へ相伺

候処思召も無御座ニ付返輪遣ス大目付中へも達

一 当春召捕置候贖札遣治兵衛且又別ニ企候無宿六右衛門贖札板行彫
かけ候得とも央ニ而相止焼捨候由先達而吟味詰候ニ付右兩人ハ追

払被仰付候様先日伺候処御下知有之今日申渡河辺御境目外へ追払
出番甚蔵順治金蔵相済与兵衛殿へ御届申達大目付同断

一 西新町のふ屋岩蔵先日博奕咎之義相伺呼出候処他行仕候由其後不
相知処此間罷帰候段断出預置与兵衛殿尚又伺之上今日博奕咎勿論
数日無断致他行候段呵手錠懸ケ追込過料錢壹貫文申付与兵衛殿江

御届申達大目付同断

六月七日 雨

一 雲州御城下米子町留次郎と申者東今送り来新田村へ送渡

六月八日 登 城雨

一 銀札式拾八匁老分六厘八毛吹屋町孤独松女御救扶持代請取相渡

一 林田町野介代屋孫四郎来ル九日立上西国参詣日数百五十日計承届

四月十二日自申中「一」等々
六月自日羅齋ル

一 福渡町南側紺屋文助家屋鋪四ヶ年已前丑八月高雄屋藤助へ質入致

置候処此度請返し又々戸河町作人惣七取次ニ而当辰十一月切銀札

九拾匁之家質入願承届ル同十二日本証文出ス

一 小麦五拾七俵米屋藤右衛門川下為改郡次出ル

六月九日 雨

一 堺町団屋太郎兵衛上京日数廿四五日承届ル

一 堺町とよ屋喜左衛門元魚町佐々屋友治讚州金比羅参日数十二日計承届ル

一 元魚町藤野屋多吉備後鞆之祇園参詣日数十二日計承届ル

一 越中富山反魂丹壳松井屋源兵へ手代吉兵へ上下式人宿切手京町瀧

山屋惣兵衛出ス

六月十日 晴ル

六月十一日 晴

一 小麦式拾五俵高松屋理助川下改同心組出ル

六月十二日 晴

一 御帰城ニ付御道見分大年寄小頭差出ス相替義も無之段届出承置

六月十三日 晴 登城

一 豆腐直段只今迄老挺十八文ニ致商買候処近々大豆高直ニ相成候故

明和七年之例も有之ニ付老箱仕入大豆式升之処老升八合ニ而仕込

老挺廿文壳立申度惣豆腐屋とも願出直段割合書も差出無抛趣ニ付

相同今老文上ニ申付候様申上御聞届ニ付今日十九文壳ニ申付ル

大目付中へも達

一 御救之者左之通寺院方依願可差免候旨与兵衛殿被仰渡今日於役

所申渡

御先祖様御年回御救ニよつて

出牢御領分追払申付ル

一 右ハ帰住宅

一 右同断

一 右ハ徘徊

一 右ハ断(同次)

一 右ハ帰住宅

一 右ハ禁足差免

右之者とも親類呼出申渡立会例之通与兵衛殿へ御届申達大目付同断

一 藤蔵太兵衛院莊御塚目へ追払候処兩人喧嘩仕出し藤蔵を致打擲候

由ニ候へとも御領外へ追払候故不及翁着罷帰候由郡次祐蔵申出然

ル処藤蔵打擲疵所之程も難計其品ニ合他評も如何ニ付今一応召捕

遂詮議候様与兵衛殿へ伺申上候処尤ニ思召候由ニ付目明老人非人

四人今夜亥刻申付宮尾村皿高尾辺へ差遣又大目付中へも達

一 秤改神善四郎代大谷清助と申者先月廿三四日京都罷立備後へ参夫

合当国へ参候由ニ付京都御留守居合勘定奉行中へ添翰被相添候由

去ル三日出書状到来候由大目付中合被申聞

貼紙
打部
ナカノ院

六月十四日 晴

六月十五日 晴

一御着之節土居之駅へ乗下式拾式疋貸遣候様勘定奉行中へ申来其段申付ル右駅へも頼来候由申出貸渡候様同駅へ及返答ル

一勝北郡余野村喜兵衛病氣ニ付新田村へ安岡町へ送來林田村へ送渡一神善四郎代秤改之者参候由延享二丑年後無之義先例宛相分兼候ニ付当春備中国へ参候由ニ付聞合之者大年寄ともへ差遣候様与兵衛殿へも御沙汰之上小升屋善兵衛差遣ス尤町方江も秤改之者参候趣為知置大目付中へも達

六月十六日 晴

一五十敲之上御領分追払

盗人実藏

一一百敲之上御領分追払

金藏

一右同

同 松五郎

右三人之者郡代所へ此間被相伺候無宿者御仕置取計之義与兵衛殿へ被仰渡今日於牢屋門前御徒目付小川恵助下目付卷人小頭立合書役申渡之上右城御境目ニ而追払出番甚藏金藏相済与兵衛殿へ御届申達大目付同断

一御女中到着ニ付荷馬十疋勝間田へ差越候様右駅へ申来畢竟向方馬不足頼之義ニ候ハ、貸シ可遣候此方へ迎ニ差向候理ニ而ハ無之右差詰候上貸遣大年寄とも懸合候段申出右之趣及差回

一寄馬之儀申出御着日式疋不足ニ付郡代中江申遣ス

一御堀払除料之義作事方へ申来大年寄江申達

一三丁目并筒屋幸助請酒今二ヶ年追願承届ル

一戸河町清右衛門借家勤兵衛家内三人齋藤八太夫長屋引越人別除願承届ル

一昨夜子ノ半刻比西新町伊木屋源右衛門方江吉野郡小野谷村善藏与申者参よみかるた□罷出候処広戸一場村多七与申者参懸リ向人内へ這入多七申候ハ善藏牛馬代三百匁引負有之畢竟よみかるた被売候故之儀ニ付先方へ及断迄善藏を預ケ候由多七申之候得とも源右衛門御法度之物商ひ候義ハ不埒ニ候得とも善藏を可預謂無之旨源右衛門申之兔や角申内瓜生原兵八与申者参懸リ嚙彼是申候処夜ニ入往来人立も絶御城下ニ而ゆすりケ間敷義申者外へ出次第及打擲候様人ニ申追々多人数ニ相成騒ケ敷趣注進申出同心組佐五兵衛勇藏郡治差向候処往来人立者最早無之源右衛門并相手三人とも相糺候処決而ゆすりケ間敷儀ハ無之趣ニ申出候得とも其分ニ改置候事如何ニ付善藏兵八多七町内へ預リ置与兵衛殿へも及御沙汰追々可遂吟味候事

一善藏多七兵八三人之者源右衛門江ゆすり申懸嚙料取候様子ニ相聞当人病氣ニ付同人弟惣五郎并組合同三軒向隣之者召出遂吟味候へとも扱料など差遣候義無之趣右三人之者云張留置夫々村方へ町内へ通用ニ及び候様申付ル同廿日内済同廿五日よみかるた商候段呵

六月十七日 晴

一江戸表へ飛脚到来殿様益御機嫌能去ル二日江戸御免駕被遊候処御道中筋川々満水ニ而御滞御座候御様子ニ而未御着被遊候御日限不

相知候得とも火之元并万端相慎候様大目付中廻状到来組中并牢屋
三軒番江も触達

六月十八日 晴 登城

一太兵衛尋之儀未有所相知藤藏義ハ小家ニ留置候而も際限無之事時
ニ疵所も平愈ニ相聞藤藏為立去候様目明ともハ非人小家へ申渡与
兵衛殿同済大目付へも達

一撰州豊嶋郡利倉村教意与申廻国相煩送者新田村ハ送来林田村へ送
渡

六月十九日 晴

六月廿日 晴

一道中見附之駅ハ飛脚到来川々満水ニ而御滞有之候得とも追々水落
御機嫌然御渡川其後無御滞候得ハ来ル廿三日御城着被遊候御積ニ
付明日日參被仰出候旨大目付中達下之

一来ル廿三日御城着之御積ニ付町方今日ハ自身番申付ル且又御着日
前後慎候義者先格を以相触ル組中牢屋三軒屋番江も御日限為相知
候

一撰州手島郡池田村勘七悴伴柏於備中国相煩西ハ送来町方無滞林田
村へ送渡

一勝北郡広戸一場村多七吉野郡小ノ谷村善藏勝南郡瓜生原兵八右三
人とも其村々江西新町ハ申遣候処何も組頭とも参連而相佗内済致
呉候様申之ニ付誤一札取之内済可為致哉之旨与兵衛殿江も御伺申
候処思召も無之其旨申付大目付士へも達

六月廿一日 登 城晴

一御先手物頭中立宿東新町並屋忠兵衛当役立宿茂渡藤右衛門御先払
掃除見分立宿安永屋宇平次京町人留立宿花屋権兵衛右御物頭村上
清太夫へ為知置

一兼田川御船相廻候由ニ付御蔵元出役申付ル尤御舟奉行佐藤彦右衛
門懸ケ合

一御蔵米九拾匁町米八拾六匁相庭書出ス

一御堀掃除料内納百匁十治へ相廻ス

一伏見之駅ハ飛脚到来殿様益御機嫌克被成御旅行明後廿三日御城着
被遊辰上刻登城候様御奏者廻状到来組中牢屋三軒屋大年寄へ為相
知候

六月廿二日 登 城晴

一明日例格之場所江罷出候旨与兵衛殿へ申上大目付同断人馬之義申
達

一筑前遠賀郡相原浦小平次手代新兵衛又五郎伊介瀬戸物売宿切手出
ス京町田戸屋宗十郎

六月廿三日 晴

一御蔵米八拾七匁五分町米八拾三匁五分相庭書出

一御帰城ニ付辰上刻東新町立宿江罷出ル午中刻御機嫌克被遊御帰城
候河辺御立之註進ニ而玉琳升形外北側橋詰ニ而御目見名披露有之
御跡ハ登城揃罷出恐悦申上例格之場所へ罷出御座申上ル大目付へ
も同断供立ハ例之通略之御次江も罷出御小納戸を以恐悦申上候処
於御居間御目見被仰付

一達州ハ志と路焼致候職人兩人御小姓山田兵助引請ニ而被召連當分

町宿申付候様赤見氏九月六日食所代之儀赤見氏蔵之上衛上御柳野中申来元魚町紙屋助右衛門五申付ル

六月廿四日 晴 登城

一先月中町方生人人別出入書付与兵衛へ差出左之通

出生十六人男九人女七人 人別入十人 人別離七人 死失三十三

人 差引而十四人減 懐胎十三人

一大坂玉水町尾張屋七兵衛手代権兵衛上下七人宿致度旨願書承届京

町わた屋源七断

六月廿五日 晴 登城

一申上候御用向無之

一昨日与兵衛殿へ及御沙汰候神善四郎秤改之者参候義ニ付町々下調

為取計候ニ付て扱人伏見町能勢屋源助東新町佐伯屋与三兵衛西今

町車屋七郎右衛門坪井町浜野屋宗兵衛右四人五申付今日町々五出

際下調致置候ニ付大年寄とも五昨日夫々へ及演達候大目付中へも

及噂置

一去ル廿日吉野郡善蔵広戸多七瓜原村兵八ゆすり一件夫々村方組合

参相佗誤一札差出内濟取計此間迄ニ相濟今日西新町伊木屋源右衛

門中ノ町平岡屋忠右衛門大年寄於宅御法度之品を商候段不埒至極

候へとも先此度よミかるた取上呵此已後急度相慎候様申渡候様孫

右衛門へ申付ル

一西新町のふ屋岩蔵手鎖追込今日迄廿日ニ相成先日伺置候ニ付呼出

差免申渡立合例之通相濟与兵衛殿へ御届申達大目付同断

六月廿六日 晴風 登城

一御小姓頭小島新五右衛門五山田兵助引請候遠州志と路焼物細工執

行致度相望候者町方有之候ハ、遠州より参候職人弟子ニ致候由被

仰付候筋ニ者無之候へ共相望候者承糺候様被申聞其旨大年寄とも

へ申談しル

一御用ハ先格之通隔日ニ相成候段織江被申聞下役ともニも其心得有

之様申渡

一御蔵米八拾五匁町米八拾壹匁相庭書出ス

一延屋岩蔵過料老貫文差出

六月廿七日 晴

六月廿八日 晴 登城

一御蔵米八拾式匁五分町米七拾八匁五分相庭書出ル

一銀札式百八拾九匁壹分四厘御堀掃除料作事方へ相納手形取置

一西新町稲屋彦兵衛病死届出承置

一東新町惠美須屋長三郎悴甚吉坂田元治相改山本文右衛門へ出入奉

公人別離承届ル

一小麦四拾四俵舟元屋左助川下改源八

一新魚町櫻野屋茂一落切手妙願寺家来拾取候由請取度懸ケ合候得と

も寺五届出候由下方ニ而難濟申出寺社執次へ懸合拾ひ候者へ四歩

一ハ遣シ残分ハ茂一請取候様双方申渡相濟

一町奉行勘定奉行郡代一役宛於御居間御留守中之様子御尋被遊御人

払ニ而御用向申上候

一宿馬廿五疋五被下置候御扶持大豆内借願老疋老俵つゝ相濟勘定奉

行中へも及通用大目付中へ相達候事

六月廿九日 晴

一明後朔日御目見被仰付嫡子至迄辰中刻登城候様御奏者廻状到来

一御蔵米八拾目町米七拾六匁相庭書出ス

一西新町南側玉屋栄蔵家屋鋪表口式間半裏行拾七間御役半役也同町

紙屋義右衛門取次ニ而来已六月切五百匁家實願承届ル七月十二日

本証文出ス

一元魚町東側住屋市左衛門取持家屋鋪表口三間半裏行十七間但六歩

役也右裏行之北並式間半空地式歩役都合八歩役代銀貳貫百匁ニ相

究丁内鞠屋伊助へ売渡申度願承届七月朔日売券状出ス

一芽町作人瀧右衛門紛伝次郎池上利作与改号佐久間上総殿へ出入奉

公人別離願承届ル

六月晦日 晴 登城

一明朔日御目見御延引被仰出御奏者有之

一大津御代官石原清左衛門殿支配所当国勝南郡新田村菊右衛門与申

者鍛冶町喜助養子ニ仕度人別人之義願出今日御用所及御沙汰承届

大目付中へも達

七月 御用番

大年寄月番

御家老 安藤丹後殿

蔵合孫左衛門

御年寄 伊達与兵衛殿

諸吟味

大御目付 赤見頼助

坪屋藤十郎

朔日 晴 日食辰ノ二刻ニ歩懸ル

一御蔵米七拾八匁五分町米七拾四匁五分相庭出ス

一明二日六半時御供揃四ヶ寺御社參御仏詣被仰出御先払町方御通筋申付ル

一明二日御目見被仰付嫡子至迄辰中刻登城御奏者番御達有之

七月二日 晴 登城 夕方少雨

一卯下刻御供揃四ヶ寺御參詣被遊辰下刻御還被遊已刻過御目見相

始今日御表へ罷出御礼申上ル且又御參詣ニ付御先払同心組差出

一安岡町米屋儀助女房去月廿四日出産男子出生致候得とも虚弱ニ而

相果吟味申付候処紛敷義無之然処医師頼置候得とも故障有之診察

も無之懸越業服用之由年寄組合当人勿論不行届此已後入念候様此

度ハ呵置候様此間与兵衛殿達候処思召無御座候段今日被仰聞其旨

孫左衛門へ申渡

一雲州貫郡北安田村伝右衛門紛弥吉播州ニ而相煩送出候由町方へ送

来無滞新田村へ送渡

一式丁目南側武本屋まつ家屋鋪表口三間半裏行拾七間但本役也五人

組相談之上同町林田屋又次郎ニ売渡申度相願承届ル代銀札壹貫三

百目ニ相究候由同八日売券状差出ス

七月三日 晴

一御蔵米七拾五匁町米七拾壹匁

一御蔵米七拾三匁町米六拾九匁 兩度相庭書出ス

一明四日五時御供揃泰安寺御口參被仰出夫々申渡 (不詳)

七月四日 晴 登城五時出

一五時泰安寺被為成御先払差出

一備前国赤坂郡是里村幸介娘境町阿部川屋源左衛門女房呼取度人別

入願今日及御沙汰承届大目付所へも達八月十八日住宅本証文差出ス

一元魚町浜本屋喜助借金多ニ付致出奔追々濟方致徘徊願之通被差免備前西大寺辺ニ引込罷有病氣ニ付悴喜兵衛方引受看病仕度旨去ル丑年相願候ニ付相頼御聞届ニ付喜兵衛方ニ而養生罷有然ル処此上御憐愍ニ而帰住宅之義喜兵衛相願去年米子屋忠次郎帰住宅御赦免例も有之御内分申上候処願書為差出候様被仰聴候

一伏見町南側作人弥兵衛家屋敷表口三間裏行廿式間但半役也五人組相談之上組合之内能勢屋勇次郎江代銀札五百式拾匁ニ壳渡申度旨相願承届ル同八日壳券状差出ス
一例年之通市郷寺院町中宗判取之儀相願書付寺社取次中江相廻ス

七月五日 晴

七月六日 晴 登城

一御蔵米七拾目町米六拾六匁相場書出ス

一一昨日御内意申置候浜本屋喜兵衛父喜助帰住宅願之義今日御用所江相同候処御聞届被成候大目付士へも相達

七月七日 晴 登城

一七夕御礼被為請諸士登城當役於御居間御目見申上ル

一丹州中郡大野村ちりめん織甚蔵喜八郎与十郎参来巳二月中差置度相願承届ル元魚町笹屋友次断

一京町南側ニ而堺町阿部川屋源左衛門所持家屋敷表口拾間裏行十七間但壹軒役也代銀札五百匁相究組合平野屋治兵衛へ壳渡申度願之趣今日承届ル同廿八日壳券状差出ス

一備州小豆島本川文七与申眼和御当地療治仕懸有之十五日計逗留断

書元魚町笹屋友治出ス

一新魚町村本屋治助当春四国扁路ニ罷出土州幡多郡宿茂村ニ而当月廿三日病死致候由悴新太郎断書出承置

一明八日五時御供揃泰安寺御仏參被仰出夫々へ達候此婦後五時御(不詳)
□參ニ者罷出ニ不及旨亦見氏被申聞

七月八日 晴 登城

一坪井町鍛柄屋吉右衛門悴勘吉針医相成申度家職之義ハ次男甚五郎へ相統仕せ度願及御沙汰承届ル大目付士へも達

一錢相場百式文今日立替申出ル

一盆中町触先格之通触達文段扣ニ有

一明九日五時於松ノ間御囃子被来候ニ付御家中大役人婦上次男三男ニ至迄拜見不苦旨大目付廻状至来

七月九日 晴

一今七半時御対面所被為入候ニ付被為召類役何れも罷出夜九時引

七月十日 晴 登城

一古屋健次郎殿領作州勝北郡田隅村理吉兄利兵衛伏見町八出屋太助養子ニ引取人別人願承届与兵衛殿へ今日及御沙汰候上大目付中へも達同廿九日住宅証文出ス

一東新町小地友の姪先年大庭郡久世村竹田屋新右衛門方へ役介ニ差遣置候処此度勝手ニ付罷婦人別人願出及御沙汰承届大目付中へも達

一去ル戊年三ヶ年御預米東西難渋之趣ニ付御渡被下候尤勘定奉行以勘弁相増候分も被下候旨大目付赤見被仰渡

一來ル十口日町見分之義与兵衛殿へ申上ル御貸高之義大目付中へ申達

七月十一日 晴

一明十二日五時泰安寺御仏參被仰出夫々へ申渡

一明十二日九時半時御用之儀候間川嶋桃庵同道御用番伊達与兵衛殿

御宅へ罷越候様大目付赤見の申來奉書差向大年寄へ為知候

七月十二日 晴 登城

一御口參被遊候ニ付御先払差出ス

一御用所御退出之節川嶋桃庵同道伊達与兵衛殿御宅へ罷出候処赤見

立合桃庵へ被仰渡之趣者

御子様方御用向出精致候ニ付御医並被召出御擬作十人扶持被下大

目付支配被仰付之旨与兵衛殿へ被仰渡御家老御年寄御用番へ御礼

罷者義も廻勤先格之通

一御藏米七拾式匁町米六拾八匁相庭書出ス

一今日御役替左之通

格式物頭勘定奉行 奥取次兼帶 植木左士

御使番役 長沢右源士 大御番組頭 一場茂右衛門

長局付 馬場半助 御小納戸 江口恵助

御刀番 山田兵助 格式番外 川上藤五郎

格式番外 古谷其治 御子様御七替り

若殿様付 上原孝蔵 河合憲之允

一盆中三夜貫抜九つ時迄開置候申付候尤御用番大目付中へも及御沙

汰置

一五十四艘之舟株持主金谷村弥平次断此度船頭町高瀬屋勘右衛門へ株讓願承届ル

一西今町たけ屋幸助助辰次郎來ル十五日立大峰參廿五日計承届ル

一光嚴寺夜念仏願相濟候段寺社取次中へ通用有之当月へ來已八月迄

七月十三日 晴

一牢屋買物代三拾七匁七分七厘相払

一船頭町熊野屋文五郎元うを町米屋新兵衛大峰參來ル十五日立往來

廿日計承届ル

一大川筋于魁ニ而殊之外濁水小桁村井堰用水懸り兼候ニ付堰切申度

旨村方へ郡代所願立先前濁水之節も右之通ニ而船頭町へ積下シ候

荷舟申合一統ニ舟出致候へハ堰切場所ニ兼而人付置通船無差支様

致候旨明和八卯六月栗原新五兵衛市郷兼帶ニ而取計右之例を以今

日郡代中懸合有之御藏元其段申渡出船之義申合一統ニ差下候積ニ

「一」

一明十四日五時泰安寺へ御口參被仰之旨中奥目付へ通用有之夫々へ申付ル

申付ル

七月十四日 晴

一明十五日立和州大峰參詣之者とも左之通願承届ル元うを町かミ屋

太兵衛同町豊嶋屋多七二かゝ町紙屋兵助三丁目備前屋加兵へ同町

福谷屋伝助

一御口參被遊候ニ付御先払同心組差出ス

一先格之通盆中ニ付町廻ニ罷出申下刻出宅夜ニ入戌上刻相濟与兵衛

殿へ御届中達大目付中へも組之者自途中差遣相届供立例之通高張

持老人者割場相廻ル老人ハ牢屋下番出ル

一今日盆中ニ付御(不詳)参被遊候得とも出仕ニ不及候旨赤見被申聴

七月十五日 晴

一御先格之通不被為御礼請候

七月十六日 晴

一御藏米七拾四匁町米七拾匁相場書出ス

一明十七日五時御社参被仰出旨通用有之大年寄江申付ル

一大保頭勘吉勤方不宜□相慎候様呵禁足□付候段大年寄孫左衛門

の届出承置

七月十七日 晴小雨屋時

一中ノ丁久屋又兵衛助和兵衛御使組堀内茂八養子ニ差遣人別離願承

届ル

七月十八日 晴 登城

一去歳林元碩之暇遣候同人妾脱躰之療治致候義弥相違も無之哉懸リ

合松野屋伝助古川屋太兵衛へも相糺候様与兵衛殿被仰聴候事

一下紺屋町松永屋長松来ル廿日立備後国福山行百日計承届ル

七月十九日 晴

一元林玄碩妾吹屋町十藏娘もと并懸リ合伝助太兵衛兩人今六過時召

出去歳元碩脱躰療治企之一件遂吟味立会例之通相濟口書与兵衛殿

へ差出赤見氏へも其旨達

七月廿日 晴 登城

一当役被仰付候前後町方人別平均書上之様此間与兵衛殿被仰渡左

之通今日書上候

寛

安永七年戊
一七千式百八十一人

同八年亥
一七千式百九十三人

同九年子
一七千式百八十五人

三ヶ年合式万千八百五十九□

天明元年丑
一七千三百六十六人

同二年寅
一七千三百四十七人

一七千式百七拾九人

三ヶ年合式万九百九十式人

差引而百三十三人増

右之通町方々人別私御役前後三ヶ年宛平均仕書上申以上

辰七月 後藤守助

七月廿一日 晴

一御藏米七拾老匁町米六十七匁相庭書出ス

一安岡町神目屋弥吉借屋檜物屋八右衛門助常吉広原村長次郎後家親

類ニ付養子仕度旨相望候ニ付差遣度人別離願出引合之上承届ル

一芽町出雲屋文七後家家屋鋪表口式間半裏行六間但三步役東西三間

南北式間尺明地有之此明地とも代銀札式百匁ニ相究組合岡崎屋

茂兵江売渡申度願出承届ル同廿一日売券状差出

一芽町作人伝助持牛相煩候処落候段届出取捨勝手次第と申渡

七月廿二日 晴 登城

一木屋太兵衛病死之段昨日申出今日与兵衛殿并大目付中へ相達

一六月中町方人別出入左之通書上ル

出生十一人女子四人男子七人 一安岡町老人出生赤「」

人別一人 人別離五人 死失十九人 差引而十式人減シ

懐胎人十三人

一筋違橋御普請出来近々往来相始候然ル処橋詰南ノ笹下石垣江ちり

フソツカラ

芥多捨候故自分石垣を登り候者も有之向後ちり芥捨不申様致度作
事方申出由勘定奉行被申聞兼々ちり芥捨申聞敷場所尚又安岡
町へ入念可申付広四郎へ申渡

七月廿三日 晴

一御蔵米七拾五町米六拾六匁相庭書出ス

七月廿四日 晴不参

一今日少々不快ニ付仕御断岸氏江相頼

一盗人文蔵と申者於郡代所被召捕候由入牢手形相廻同心組立合順治
一明廿五日六半時御供揃二宮辺へ被為入京橋御門の鍛冶場ニ而御乘
船被遊候段被仰出候旨中奥目付の通用有之御先弘同心組并御道筋
掃除申付ル

一御手廻之者老人被召抱候由ニ付相望候者申出候様可相触大目付中

の被申聞候ニ付岸氏の通用有之下方申触させ候

七月廿五日 晴

一下目付苦口宗平役介莊左衛門と申者宮脇町かと屋莊介引請渡世為

仕人別人相願然ル処此庄左衛門 □ 元京都ニ文字屋金十郎と申者
ニ而向方彼是申分有之離縁致候由相聞当所人別ニ差加後難如何と
遂吟味候処宗平の莊助へ已後聊有之候ハ、向方可引受旨書物取置
候由別ニ口上書差出候ニ付承届ル尤宗平書面ハ大年寄手前取置候
様相達

様相達

一京町葛屋鶴次家屋鋪表口五間裏行十七間但老軒老歩役也五人組相

談之上町内瀧山屋半次郎取次ニ而銀札三百目家賃来已十月限願之

趣今日承届ル同晦日本証文差出ス 酉年二月相濟候断

一昨日被召捕候盗人町方所々ニ罷有候由白状之趣郡代所の吟味書相
廻大年寄へ吟味申付ル

七月廿六日 晴 登城 夕方雨

一御蔵米六拾五匁町米六拾五匁相場所出ス

一昨日申付候盗人文蔵為泊候町方旅籠屋とも大年寄遂吟味口書差出

郡代中へ相廻

一明廿七日六半時御供揃加茂川御築場へ被為入御道筋者林田上ノ町
通路品ニ今日上村御築場へ直ニ被為入候義も可有御座候ニ東新町
横丁江被為入百間堤江可被為入ニ付其心得ニ而可取計中奥目付藤
本十兵衛の被申聞尤同心組差出候ニハ及間敷由ニ付東西新町両丁
へ右之趣申付候様大年寄へ申渡

七月廿七日 雨

一西新町藤屋清助明日立和州大峰参廿日計承届ル

一牢番足輕佐助病氣快出勤代り之者引取候様小頭の相達其段大鑑所
へ相届ル

一去歳塩屋新兵衛依願徘徊御差免就御赦被仰出候然ル処昨日同人紛
ふしミ町塩屋彦兵衛方へ参候処急病ニ而養生不相叶相果以御憐愍
旦那寺へ取置度旨彦兵衛願書出与兵衛殿へ相伺候処御聞届被成未
帰住御差免無之義夜陰窃ニ取置候様申渡大目付中へも達

七月廿八日 晴 登城

一坪井町勝屋文助登坂明廿九日立往来日数廿日計承届ル

一二階町東側玉置彦三郎持屋敷表口六間裏行十七間但老問役也五人
組相談之上代銀札貳貫四百目ニ相究宮脇町笹屋莊左衛門へ壳渡

願承届但式間ニ五間之土蔵添同晦日売券状出ス

七月廿九日 雨

七月廿九日 登城 晴ル

一 明朔日大年寄とも御目見被仰付旨赤見氏ハ被申聞以剪紙申達御門
通行之義中奥目付へ達差上物之義ハ小勘者中へ頼置

一 中ノ町平岡屋忠右衛門紛茂四郎登坂明朔日立往来三十日計承届ル

一 西今町松本屋五右衛門家屋敷同町三倉屋永次郎方へ質入ニ相成濟
方差滞先達而訴出濟方申付置候処昨日迄ニ相濟候段大年寄届出承
置

一 道中往来之儀ニ付公儀御触書出候由従大目付中廻状到来

八月 御月番

大年寄月番

御家老 佐久間上総殿

玉置広四郎

御年寄 小須賀一学殿

諸吟味

大御目付 太田舍人

坪屋藤十郎

朔日 昨夜今烈風午下刻止折々雨 登城

一 諸士登城於松之間御礼被為請当役於御居間御礼申上ル類役相揃而
御用所へも御祝義申述

一 大年寄三人御帰城ニ付御目見被仰付三人とも登城諸士方御礼相濟
松之間下段におるて差上物自分披露御礼申上ル例之通名札拙者受
取御使番へ相渡無滞相濟差上物錫三十枚白木台

八月二日 晴 登城

一 従公儀被仰出候道中筋往来之旅人不法無之様荷物貫目惣而諸ノ御

ケ条多之義ニも有之当町問屋場江も写可渡置哉之段大目付舍人江
遂対談之処尤之旨ニ付今日相渡

一 小姓町瓜生原屋平吉借屋佐助女房先月廿一日出産男子出生月取間
違之趣断書出今日迄見合「」など追々生立候趣ニ付已来間違無
之様組合年寄ともへ呵置候様申付

八月三日 晴

八月四日 登城 曇冷雨

一 町方宗門帳例年之通奥書印形之上今日改役所へ相廻ス尤案調帳も
及返却候

一 今五時御供揃御不詳參被遊同心組先払差出ス

一 堺町豊屋喜左衛門明五日立上京往来日数三十日計承届ル

一 二丁目ふしミ屋茂七明後六日立登坂往来日数三十日計承届ル

一 御年貢皆濟無之内外払不致候様例年之通町触書付一学殿ハ御渡ニ
付相触候尤御家中へ少々宛為替出候事ハ不苦由

一 西今町南側表口三間裏行拾五間但御役三步三厘役也土蔵老ケ所湯
殿雪隠建物不残代銀札壹貫六百目相究町内正田屋喜兵衛へ売渡申

度旨松本屋五右衛門願承届ル同八日売券状差出ス

八月五日 雨

一 吹屋町北側瓜生原屋仁左衛門家屋鋪表口四間五尺裏行十七間但半
役也五人組相談之上代銀札四百三十匁ニ相究町内作人忠助へ売渡
申度旨願出承届候事同十二日売券状差出ス

八月六日 晴 登城

一 今日押入御築場江被為入御獵之鮎十被下置

一元魚町笹屋友次明七日立登坂往来三十五日計承届ル

八月七日 雨 登城

一昨日頂載物為御礼類役何れも登城御小納戸中を以御礼申上候

八月八日 晴 登城

一五時御供揃ニ而泰安寺へ御仏參被遊同心組御先私差出

一此間御城廻草蒔候旨三軒屋番届出始終共断出承置

一橋元町瀧本屋忠藏母借屋繕致候ニ付細キ横丁往来暫差留申度断書

出大目付中相達承届候事同十七日修繕相済申義大目付士へも相達

一小麦七拾式俵新屋藤吉船積致候ニ付改ニ差出

八月九日 晴

一二階町笹屋莊左衛門明十日立上京往来三十日計承届ル

八月十日 晴 登城

一斎藤孫右衛門及近年物覚目力薄「」難相勤役免之儀相願無執

趣ニ相「」今日願書一学殿へ差出

一札元川口藤十郎及近年物覚眼力薄其上近年病身ニ相成役義難相勤

役免相願勘定奉行中江相談之上是又今日一学殿へ差出何れも御請

取被成候

八月十一日 晴

一元鉄砲町ニ罷有当時無宿伊助与申者去月中旬之比妙法寺於塔中衣

類盜取候由目明とも召捕申出御日柄も有之ニ付先牢番預ケニ申付

御両所へ御届申達

八月十二日 晴

一今日御不詳參御延引被仰出候旨申来夫□江為知遣ス

一近来他方非人とも御城下大勢徘徊致此間宮川稻荷宮などへ夜分臥

候由柳土手へ申付為追払候へとも全躰御城下へ相集居候ニ付土手

之者へ申付為追払候様可申付段一学殿へ相伺候処尤ニ思召大目付

中へも達大年寄江申付ル

一宮牛馬集セニ付町家之者致參詣とも伝売或ハかさつ成義仕間敷

旨触□ス

一三軒屋家根繕之義小頭申出大目□へ達勘定奉行中へ懸合作事

方へ申達

一三軒屋江年分蠟燭六丁ツ、請取候処近来非人とも夜分相集候ニ付

追立候節ともし候故御定之通ニ而八間ニ合不申段申出予町ニ申立

其旨大目付舍人江申立六丁相渡候様小勤者中へ談置

一西今町高松屋多助借家今井玄仲方ニ丹州周枳村弥兵衛与申者来婦

二月迄差置申度旨願出承届ル

一栗田唯治被為召大目付格被仰付候

一御蔵米六拾三匁町米五拾九匁相場書出ス

一小麦三拾俵高松屋理助同五拾五俵高瀬屋助右衛門舟積改同心組出

ル

八月十三日 雨

一明十四日御不詳詣末御風邪被成御座候ニ付御延引被仰出候旨大目付

中へ為知有之夫々へ相達

八月十四日 晴 登城

一八百屋町理七方ニ而去十一日夜鍛冶町甚兵衛下人松之助同町市郎

右衛門下人岩吉恵助同町桂屋源次郎同丁文平倅龜太郎上紺屋町鉄

屋十五郎美濃職人町憲保屋莊介右之者共相集博□致候由可遂吟
味様昨日一学殿へ相伺今早朝預ニ申付ル出番屋廻式組出ス右之内
鉄屋十五郎桂屋源次郎ハ致他出候由帰次第可申出候様申渡右之段
一学殿并大目付中へ相達置

一御用所におゐて大目付舍人立会左之通被仰渡

斎藤孫右衛門

及近年物覚眼力等薄相成役義難勤依之役免願書差出無趣相聞候

役
引手目録

ニ付願之通役義被差免候数年出情相勤候ニ付苗字帯刀只今之通尤

跡役之義ハ悴次郎左衛門被仰付御擬作並之通被下之候

右之趣孫右衛門奉書次郎左衛門召連追付仕候様申遣月番広四郎

小頭作右衛門立合申渡

一近年多病ニ相成役義

川口藤十郎

難勤依之役免願書差出無余儀趣ニ相聞候故願之通役義被差免候数

年出情相勤候ニ付苗字帯刀只今之通被差免候

父藤十郎勤切ニよつて札元

川口希右衛門

本役被仰付候尚出情相勤へ候御擬作並之通被下之候

右之趣兩人とも別々奉書差向仕之上申渡立合小頭大年寄諸吟味

右四人とも申渡相濟之上一学殿大目付中へ相届候

一桂屋源次郎今夕罷帰候段申出預ニ申付尚又御両所へ御届申達

八月十五日 晴 登城

一式日御礼被為 請当役於御居間御礼申上ル御用所類役相揃当日御

祝義申述

一御蔵米五拾九匁町米五拾四匁書付出ス

一去ル三日宮脇町かと屋伝助方ニ而鍋釜致紛失然ル処靈州曾平と申

者高橋長屋平助名を偽中ノ丁田中屋文蔵ニ売渡候由ニ付曾平相尋

候処桶屋町多兵衛ニ被頼売候由多兵衛被頼候へハ高橋長屋平助と

偽可申答無之旨日明とも差詰候処申訳ハ無之然ル処多兵衛儀在方

へ參候由ニ付懸合吟味詰不申ニ付引受福渡町みなき屋甚助へ預申

付ル右之趣一学殿并大鑑所へも達

一御目見ニ付八半時御対面所へ被為召類役いつれも罷出

八月十六日 晴 登城

一今五時御供揃ニ而川向辺被為入御道筋ハ田町通蘭田端ニ御通行被

遊候段中奥目付被申聴大年寄へ申付尤同心組先扨申付ル昼前時

御還被成候

一東新町玉屋伊右衛門弟理三郎備前国盤梨郡頭村清助と申者由緒有

之ニ付此度役介ニ差越度人別離相願御用所へ及御沙汰承届大目付

へも達

一小嶋新五右衛門長屋勘次郎下紺屋町作人定四郎引受人別人断承届

ル

一堺町稻実屋義七郎醬油他所売積下願差支候事も無之趣ニ付承届ル

一元雲州神門郡出生之由十吉与申者町方所々盜賊致今日目明とも召

捕牢番預ケニ申付置候一学殿へ御届申達大目付同断

一明十七日地藏院御社參被遊候旨中奥目付通用有之町方申渡

八月十七日 晴

八月十八日 晴 登城

一 御藏米五拾五匁町米五拾壹匁

一 斎藤次郎左衛門孫右衛門与改号親孫右衛門次郎左衛門与改号玉置
広四郎源五兵衛与改号兩人とも願出一学殿へ差出候所承届候様被
仰渡承届大目付へも達

一 一方村伊兵衛与申者去ル二日盜ニ逢候色品書付大目付被相渡町
触ニ出ス扣帳文段有

八月十九日 夜雨

一 盗人十吉伊助兩人とも今日宅におゐて遂吟味牢番預ニ申付置候処
今日入牢手形差越

八月廿日 折々雨又ハ晴 登城

一 昨日盜賊兩人遂吟味候趣一学殿へ申上吟味書差出候十吉申口之内
先日郡代中入牢被申付候文藏与申者懸リ合有之由ニ付其段相達
候処夫へ懸合吟味詰候ハ、御裁許伺候様被仰聽候右之段大目付へ
も達

一 米勿論諸穀類他へ出候事差留候処此節追々下直ニも相成新穀入込
候ニ付津留差免候義一学殿御伺申候処伺之通相濟町方触流書付源
五兵衛へ相渡候大目付中へも達

八月廿一日 不正

一 去ル十四日博奕之義ニ付預ケ置候元魚町横丁油壳理七鍛冶町市郎
右衛門下人忠吉恵助同丁甚兵衛下人松之助同町文平倅莊太郎同丁
桂屋源次郎美濃職人町憲保屋莊介右七人之者御裁許預置候処昨日
被仰渡今日於宅左之通申渡立合例之通

同廿一日ニ相候
ニ傳出差免穀類

兼々博奕嚴敷御制被遊候ハ其身ノ不為ニ相成候ニ付毎々

被仰出然ル処於市中博奕參会致候段不届至極ニ付重キ罪科ニ

も可申付候処何連も未年若之者以憐愍手鎖懸ケ追込過料壹貫
文申付候此後急度^(マ)相替家業出情可致候尚親々年寄組合常々
教訓可致候事

右參会宿理七兩隣向三軒東隣重兵衛西隣伊八向弥吉七左衛門源藏
当町年寄月番佐右衛門於大年寄宅呵追込申付ル是又伺置候通被仰
渡今日執計右相濟御用番中へ相届ル大目付同断同廿三日追込差免
是又御両所へ御届中

一 七月中町方生死人別増減左之通一学殿へ書上ル

出生十三人男七人女六人 人別入五人 人別除式人

死失廿七人 差引而十一人減シ 懐胎九人

一 講場請取渡市郷役所下役とも今日立会之上無滞相濟且又講ニ付内
借壹貫八百匁申出勘定奉行中懸合相濟

一 材木町北側大工六郎右衛門取持之家屋敷表口式間半裏行十七間御
堀切但半役也五人組相談之上代銀札式百目ニ相究町内作人三六へ
売渡申度旨相願承届ル同廿四日売券状出ス

八月廿二日 晴 登城

一 材木町傘屋伝右衛門盜賊十吉拾一ッ綿入羽折一預候由ニ付目明
甚助同人へ尋候処陳候ニ付同心組及吟味候之上有躰候段不束
ニ付呵禁定申付ル

一 安岡町村永屋吉右衛門家内四人とも大津御代官所御支配久米南条
郡錦織村助七方へ来ル午才迄三ヶ年之内為渡世出作仕度跡家役之
儀者甚右衛門家守相動候段願出承届ル

八月廿三日 晚方雨

八月廿四日 少々宛雨 登城

一御蔵米五拾三匁町米四拾九匁

一使組下田吉右衛門長屋忠八厄介之女由緒有之ニ付中ノ丁福茂屋武

介厄介ニ引請人別入願承届之事

八月廿五日 晴

一二階町組屋勘十郎当年々又々造酒相始候段断書出ス

八月廿六日 晴 登城

一去ル十日宗永寺扣地七右衛門方ニ而紛失物有之候由同十八日夜同

寺土蔵壁を穿候由書付出候ニ付遂吟味候様一学殿ニ書付御渡夫々

へ申付ル

八月廿七日 晴

一皆木屋甚助へ預ケ置候曾助懸リ合と申立候桶屋町太兵衛罷帰大年

寄宅へ參曾助今申上候儀不実ニ而甚迷惑之由吟味を相願候旨申之

即刻桶屋町預候旨申出ル

一広原分新屋敷常吉借家市兵衛西今町直屋山三郎家守高松屋多助借

家引受願引合之上承届ル

八月廿八日 晴 登城

一御道中奉行大屋遠江守殿組三村源八当所問屋場へ參申聞候ハ敵高

流地新開為御改御使番依田五郎左衛門殿来已三月比御越被成候此

段此節於江戸表諸大名方へ被仰出由申聞依之夫々江相達可申哉ニ

源八へ申聽候処不及其儀ニハ之由申罷通候間大年寄申出一通一学

殿并大目付中へも及御樽置尚為心得郡代中へも移置

一実綿他所へ候事堅停止被仰出候処又々不埒有之趣ニ付去才之通

触書出当町方繰屋共へ遂吟味申出様可申渡哉之旨一学殿へ御伺申

上候処宜取計候様被仰渡御郡代中へも被仰渡被下度申上候触書ハ

扣帳ニ有

一昨日大年寄江直訴桶屋町多兵衛并曾助兩人とも呼出遂吟味候処先

日婦来宮脇町かと屋紛失物太兵衛依頼取次壳渡候杯と申候義全曾

助是迄偽ニ而自分ニ盜取候旨及白状曾助ハ入牢申付太兵衛ハ預免

無構旨申渡一学殿へ御届申達大艦中同断

一摂州西成郡今在家村新兵衛与申者縫物細工仕稼致御当所へ御出入

致度申ニ付宿致度旨元魚町紙屋助右衛門相願候ニ付故障之節無之

哉遂吟味候得とも故障無之相聞御用所へ申上候処承届候様被仰渡

大目付中へも達

一橋本町柄松屋平助三原屋平八安岡町徳兵衛二かい町紙屋兵助借屋

莊兵衛右四人出奔百日余ニ相成候得とも行衛不相知人別離願立候

ニ付御用所申上御聞届御座候大目付中へも達

一三丁目草津屋胡三郎家屋敷表口六間半裏行拾七間土蔵老ヶ所但老

軒半役也五人組相談之上新魚町たね屋久治江代銀札老貫目ニ相究

壳渡申度願承届ル九月三日壳券状出ス

一林田上ノ丁甚五郎借家又七与申者此度東新町河内屋仁兵衛後家借

家へ又七妻とも兩人引越旨人別入願引合之上承届ル

一元魚町油屋与一郎義与三兵衛与変名致且又改印致度相願承届ル

一茅町作人伝助持牛相煩候処死候段断出勝手次第取捨候様申付ル

一桶屋町平助莊兵衛当春博奕咎之節呼出候処行方不相知旨断出尋申

付候然ル処未行衛相知不申恐入候義ニ御座候得とも今百日計尋申度相願其旨御用番中へも相達承届ル

八月廿九日 晴

一 明朔日九時御供揃ニ而初山江被為入候京橋今御出今津屋前土橋へ被為懸候旨中奥目付通用依而御先払御掃除申付ル

九月 御月番

大年寄月番

御家老 安藤丹後殿

玉置源五兵衛

御年寄 伊達与兵衛殿

大御目付 黒田織江

朔日 晴 登城

一月次之御礼被為請当役於御居間御目見申上ル

一 九時杉山へ御葺狩ニ被為入昨日被仰出之通御道筋へ被為入御先払

差出暮時御還被成候

九月二日 晴 登城

御用無之

九月三日 晴

一 明四日五半時供揃泰安寺御仏參被仰出夫々江申達

九月四日 晴 登城

一 河原町七郎右衛門取次京町大村屋源右衛門江壳渡候羽釜小川町十

助方紛失物ニ而当月三七郎右衛門手鎖懸逐吟味候得とも不相分ニ

付手鎖免他參留ニ申付置候得とも無限事ニ付七郎右衛門へ為相弁

他參留差免候様先日伺置候処伺相濟今日執計且又惣而盜物と不存

取次質ニ置遣候欵又壳遣候欵□者ハ□証人ニ而候得ハ此者へ為相弁候事相当ニ而候故以来とも右之方ニ伺濟究ル與六品御方相履

一 境町佐伯屋藤兵衛借家伝三郎当五月出奔致百日尋申付候得とも弥

行方相知不申右伝三郎家内四人とも依願人別差離大目付中江も相

届ル

一 東新町初屋善吉勤勤六儀御中間奉公に出候ニ付町内人別差離候様

願出承届ル

一 御仏參無御滞相濟御先払之者届出ル

一 妙法寺ニ而去ル朔日曉比紋砂之衣一つ木綿錢紛失之由書付御渡并

小原村常右衛門去月廿七日紛失色品数々紛失之由書付出候由御渡

町触取計

九月五日 晴

九月六日 雨 登城

一 上紺屋町灰屋善右衛門借家請口長吉母疏状差上候由一昨日御渡其

趣ハ盼長吉於江戸表致病死外親類縁者無之年寄ともへ相願候得と

も取上□申及難義之由書付ニ而候故源五兵衛へ申達年寄とも相

尋候処難波ニ相違ハ無之候得とも未手足不叶と申ニも無之是等之

類ハ数多有之義年寄取扱不当之義も無之趣ニ付其段与兵衛殿へ申

上候事

一 京町河嶋屋龜太郎播州赤穂かり屋一丁目魚屋平兵衛と申者方へ三

ヶ年奉公ニ差遣度相願承届ル

一 播州加古川ねちわく細工人九郎兵衛長次郎兩人共当年中差置度ニ

階町嶋屋藤吉断承置

一三丁目植月孫四郎所持造酒株同町次田屋嘉兵へ貸置候処此度取戻候旨双方断書差出承届ル

一元魚町藤の屋太吉借屋新屋庄七下山庄七与改伊藤安女へ出入奉公致度依之人別離願候ニ付承届ル

九月七日 雨

一明八日例刻御供揃ニ而泰安寺御仏參被仰出

九月八日 晴 登城

一少々御風氣ニ付御仏參御延引被仰出

一御蔵米五拾四匁五分町米五拾匁五分

一於御用所大目付織江立会ニ而与兵衛殿被仰渡木屋幸太郎儀父多兵衛通三人扶持被下置尤門松等も祝之通被差免候其段可申渡被仰

渡大年寄へ奉書差越大年寄諸吟味小頭立合申渡即而与兵衛殿へ御

届申候大目付中へも同断

九月九日 くもる 登城 夜雨

一重陽御礼被為請於御居間御目見申上御礼後御用所へも相揃罷出御

祝義申述

一林田村玉琳辺ニ而町方同様大商ひゐたし町方及困窮先年巳三月願

立御裁許有之候処又々近来不相用様ニ相成候旨願立去十一月願書

之趣を以大年寄とも川部触大庄屋ともへ及懸合置候処以来之

のため呵禁足申付内済ニ相成書付取之相廻候段大年寄申出承置先

此度ハ右之趣取扱相済候右書付類ハ内奉之事ニ付大年寄源五兵衛

手前ニ扣置候事

一大隈宮祭礼ニ付例年之通警固四人差出引取届出承置

一久世村御代官守屋弥惣右衛門殿巡村ニ罷出今夕宮尾村泊ニ而明日

卯刻立津山御城下通行之由人馬之事申来候段申出町方掃除并先扨

同心組兩人申付ル与兵衛殿へ以手紙夜中ニ付相届大目付中へも相

届ル

九月十日 晴ル 登城

一守屋殿今四半時町方無滞通行先扨引取届出即刻与兵衛殿へ相届ル

大目付同断

一西岸院様御証月ニ付御參詣被仰出候処俄御延引被仰出

一撰州大坂北久太郎町丸屋藤兵衛手代清兵衛大工道具売京町海老屋

長右衛門宿切手出ス

一京都烏丸六角下ル町二文字屋九兵衛手代多助呉服物売右同人

一紀州海士郡日方浦池谷町善四郎手代市兵衛清右衛門腕打敷売京町

田戸屋宗十郎宿切手出ス

一京町田戸屋宗十郎紀州黒口絵屋武兵衛方へ参度往来四十日計承届

ル

九月十一日 晴

一去月廿一日博奕ニ付手鎖追込申付候七人之者共召出立会之上指免

与兵衛殿へ御届申達大目付中同断

一先日召捕候盗人十吉曾助雲州人別離帳無之様申候得とも全偽ニ而

実ハ離帳之由申口ニ候故爪判取之置

一安岡町北側ニ而作人与一商家屋鋪表口式間半裏行八間但彦歩六厘

八毛五人組相談之上同町吉田屋多四郎取次ニ而質物ニ書人来巳二

月切銀札百五拾匁借入願承届ル十月五日本証文出ス

寛政一慶年十月 贈還し候

九月十二日 曉雨晴夫二而風 登城

一大般若御祈禱無御滯相濟例之通御用所罷出恐悅申述御礼供物預戴
一銀札十七匁九分二厘吹屋町孤独まつ御救扶持代手形を以受取相渡
候

一二階町北屋喜八借家伝助家内三人とも去月廿一日出奔致候旨断出
百日尋申付其旨御用所大目付中へも御断申置

一当国英田郡十町村伝右衛門弟幸八二皆町茂渡莊右衛門借家九兵衛
兼而由緒有之ニ付引請相応之渡世為仕度人別入願今日御用所へ及
御沙汰承届ル大目付中へも達

一真木山西宝院隠居眼病為療治罷越十五日計逗留為仕度二皆町塗師
屋新吉願之趣承届ル事

九月十三日 晴

一明十四日例刻御供揃泰安寺御仏參被仰出候

九月十四日 晴 登城

一御仏參被遊候ニ付御先弘同心組出ル

一木屋幸二郎太兵衛与改号願届御用所并大目付中へも口上ニ而相届
候

一中ノ町わし屋兵藏借家菊田屋吉兵衛家内三人とも東太田村勘ノ助
由緒有之ニ付引越申度人別離願出引合之上承届ル

一三丁目平野屋助左衛門所持造酒株町内次田屋安右衛門へ讓度旨相
願承届ル

一一宮神主美土路豊前守長屋へ去ル四日之夕盗人這入下男衣類盜取
候由書付郡代中へ被相廻町触へ出ス

九月十五日 晴 登城

一式日御礼被為請当役於御居間御礼申上候類役相揃御用所へ罷出当
日申述候

九月十六日 晴 登城

一川口常右衛門事藤左衛門と改号願出今日御用所へ相窺候処承届候
様被仰渡其段大目付中へも達

一明十七日例刻御社參被仰出大年寄へ申達

九月十七日 晴

九月十八日 晴 登城

一德守宮夜宮ニ付宮脇町細工町紺屋町元魚町鍛冶町戸川町二かい町
中仕切貫抜とも去歳之通開置候様申付与兵衛殿へ御届申候大目付
舍人へも達

一去ル十四日大目付黒田織江間違之義有之遠慮被仰付右代り舍人被
相勤

一久世世代官守屋弥惣右衛門支配所久米北条郡宮尾村押目奄順と申
医師安岡町三倉屋新介由緒有之ニ付引受針術為仕度旨人別人相願
御用所及御沙汰承届ル大目付士へも達十月八日本証文出ス

一元魚町証屋弥三郎徳山朴也と相改医術修行致度相願其段御用所へ
申上承届へ大目付士へも達候事

一雲州神門郡今市町井上屋儀七井同人女房娘三人連ニ而西国順礼ニ
罷出儀七者途中ニ而病死致候女房娘兩人撰州武庫郡西宮町へ送出
候由ニ而町分無滯在分へ送渡

一備中国加陽郡吉村金十郎弟与平次与申者安岡町備前屋三太夫養子

ニ致置候此度離縁人別除相願承届可申哉と御用所へ申上候処御聞届候相済大目付士へも達

一 国保又七御勝手惣吞込見習格式物頭増尻右門又七跡役奥御用取次格式番外赤見類助へ支度出来次第出府被仰付候由

九月十九日 晴

一 徳守宮祭礼ニ付昨今とも小頭并同心組四人つゝ差出例年之通屋弁当酒遣候晚刻祭礼相済候段御用番中并大目付士へ相達

九月廿日 晴 登城

一 昨夜丑ノ半刻過林田上ノ町齊藤吟右衛門屋鋪出火ニ付出馬致早速鎮り寅ノ半刻過引取与兵衛殿へ御届申達大目付舍人へ為届同心組差遣ス

一 西屋藤屋清助家屋鋪表口三間裏行十七間但半役也五人組相談之上を以代銀札百式拾目相究同町紙屋加平次へ売渡願承届ル

一 東新町舟元屋兵助役介孫兵衛林田上ノ丁平四郎借屋へ引越人別離願出引合之上承届

一次田屋女房造酒相始候段断出ル

一 押入下村藤吉与申者捻梓細工之儀作方余力を以致度願出候由不苦哉之旨被被申聞先格相調候処宝曆八戊寅年十一月十六日先役井上弥兵衛日記ニ不相成訳委細有之ニ付其意を以郡代岸権六へ及答已後心得ニも可相成候ニ付記置事

九月廿一日 晴

一 安岡町山沢屋久助去ル十日神戸村へ綿買ニ参候処当町五郎右衛門村と申者久助を無躰ニ致打擲其節石村方よりも段々内済申込候得と

も老年之者手足も相叶不申ニ付心外至極之由ニ付五郎右衛門遂吟味吳候様願書差出夜ニ入候事故明朝部屋目付見分罷越候様申付ル同十二月十日裁許申付ル

九月廿二日 雲ル 不参 夜雨

一 御蔵新米六拾三匁五分町新米五拾九匁五分

一 坪井陣屋今来状吉田市郎兵衛為交代瀧口与次右衛門与申仁被参来秋迄相詰候由案内之来書及相答候事

一 播州網干余陸屋武兵衛八百屋物并鯉節売

一 播州網干平松屋宗九郎小間物而曝蠟売

一 播州網干丸尾屋六三郎荒物類而塩物卸売

右三人之者とも例年之通宿切手中ノ丁小山屋与三右衛門出ス

一 撰州大坂玉造上木綿町松坂屋忠右衛門唐弓弦卸売東新町いろは屋

新七宿切手出ス

一 播州網干新在家村加賀屋善七并弟忠次郎両人小間物卸売中ノ丁福

茂屋式助宿切手出ス

一 播州網干余陸屋宗七八百屋物卸売

一 播州網干高屋彦右衛門小間物卸売

一 播州網干塩屋伊兵衛同弟助三郎荒物塩物卸売

右之四人中ノ丁富尾屋新蔵例年之通宿切手出ス

一 播州網干余子浜菊屋弥七郎源次郎小間物卸売

一 播州姫路南町大村屋平吉弟茂兵衛墨筆并太物卸売

一 播州網干新在家伊部屋清六塩物物并鯉節卸売

右三人之者とも中ノ丁甲屋幸助例年之通宿切手出ス

九月廿三日 雨

九月廿四日 晴 登城

一 御藏新米六拾五匁五分町新米六拾五匁五分

一 安岡町山沢屋久助痛所部屋目付石名佐五兵衛為見分差向組合年寄

見分一札并外科渡辺雲齋容鉢書取之一昨日差出候得とも拙者不參

ニ付郡代中江者相達候得とも御用所大目付中江者今日於御城相達

候処何分痛所平愈之上遂吟味申出候様御用番与兵衛殿被仰聞郡代

中同断被仰渡尤相手万神戸村五郎右衛門向方ニ而手鎖被申付候由

ニ申聞右久助訴状差出候事無申迄候得とも相慎随分療治相加平愈

次第申出候様大年寄へ申達

一 八月中町方生死人別出入書付与兵衛殿へ差出左之通

出生十八人男子八人女子十人 人別入五人 人別除五人 死失式

拾三人 差引而五人減シ 懐胎式拾六人

一 盗人重吉伊助曾助三人とも御裁許吟味書差添御窺書与兵衛殿へ差

出置候

一 二階町東側玉置常三郎取持家屋鋪表口七間裏行五間但五步役也五

家屋敷

人組相談之上代銀札壹貫三百五十匁ニ相究山本屋弥兵衛へ売渡申

度相願承届候事十月三日売券状差出ス

一 伏見町能勢屋源助所持自国請酒株東新町丸木屋十助へ貸置候処取

戻京町ニ文字屋徳左衛門来ル申歳迄貸申度願出承届ル

一 元魚町浜本屋喜兵衛病身ニ付中買株弟多汲屋常一郎へ譲度相願承

届ル
一 京町年寄菊屋清左衛門粉藤藏備前岡山行明廿五日立三十日計承届

ル

一 橋本町武藏屋源次旅籠屋株先達而人別相離候節宿屋頭へ預置候処

此度依願夫へ遣候尤先達而株式片付願も不致不埒候へとも以憐愍

遣候ニ付此已後不埒無之様申渡候様申達

一 元魚町笹屋藤次伯州行今日立廿日計承届候事

一 雲州嶋根郡菊屋町鉄之助と申者小中原村ニおゐて相煩歩行難相成

同所へ送届由町方無滞在方へ送渡

九月廿五日 晴

一 京町田原屋伊兵衛并同人粉孫七兩人とも因州行今日立三十日計承

届ル

九月廿六日 雨 登城

一 町方ニ而御乳之者遂吟味書出候様大目付中へ被申聞後日迄書出

候様相触

九月廿七日 時雨

一 御藏米六拾四匁町米六拾五匁

九月廿八日 晴 登城

一 去ル廿日夜実廻之者届出候へ二階町南貫拔船頭町西貫拔九時後不

ノ置并番所改之者とも遂吟味候様大年寄へ申渡候処両町とも目明

事不埒之趣相聞二階町早助船頭町山北屋伊兵衛先例も有之ニ付三

百文つゝ過料可申付哉伺候処其通ニ可申付与兵衛殿被仰聞夜々番

所改山本屋弥兵衛不埒ニ付三日追込申付候様是又伺濟源五兵衛へ

申渡

一 町方乳持改書出候処御子様付古谷其治ハ乳多之者明廿九日四時下

御屋敷へ出候様被申聞其段大年寄へ申渡

一上紺屋町東横丁福渡町作人清助所持家屋敷表口式間裏行五間但老
歩式厘役也代銀札三百匁ニ相究枿屋荘助へ売渡願承届ル十月八
日売券状出

一出雲大社西村神太夫旦那廻宿切手坪井町桔梗屋荘右衛門

九月廿九日 晴

九月廿九日 晴 不参

一勝山戸村源五右衛門の来状当十月来平均相場書之義頼来ル及相答

一森对馬守殿預所当国英田郡土居村治郎右衛門粉治兵衛并同人孫佐

一兩人とも西今町金川屋茂兵衛養子仕度人別人相願承届之儀御用

番中へ岸氏相頼及御沙汰承届大目付中へも達候十月十六日本証文

出ス

一玉置常三郎当秋の冬造酒相始候断

一安岡町今元屋源六家屋敷表口式間半裏行拾式間但半役也五人組相

談之上代銀札五百目相究大黒屋理兵衛へ売渡承届ル十月八日売券状出

一安岡町大黒屋利兵衛取持表屋鋪表口式間裏行四間但老歩式厘五毛

役也代銀札百目ニ相究西隣菱屋多助へ売渡願承届ル十月八日売券状出

一残八拾壹箇從銀札場川下裏判申来調遣ス

十月 御月番

御家老 佐久間上総殿 大御目付 大田舎人

御年寄 小須賀一学殿 大御目付 大田舎人
大年寄月番 齋藤孫右衛門

朔日 不参 晴

一九時御供揃皿村辺へ御出被成御先払并掃除申付ル暮時御還被成候

一山本屋弥兵衛追込差免御両所江御届申達

一西新町枿屋勤助年寄役申付ル

一播州坂越茶屋久五郎同国同所茶屋利八右両人米買船頭町高松屋利

助宿切手出ス

十月二日 晴 不参

一御蔵米六拾三匁町米五拾九匁

一西新町北側笠屋与三右衛門所持家屋鋪表口式間半裏行十七間但半

役也五人組相談之上東新町伊木屋五郎代銀札四百目ニ売渡申度旨

願出承届ル同十四日売券状差出ス

十月三日 晴

一明四日御仏参被仰出夫々申付ル

十月四日 晴 不参

一小姓町倉吉屋善助女房当六月の経行無之処懐胎之容躰ニも無之旨

医師中被申よし断書出一学殿相達置候尚追而様子申出候様申付置

一京町二文字屋徳左衛門裏堀取繕候ニ付御堀へ足代下シ候断書出大

目付中へ達作事方へも達

一万人講ニ付拝借道具書付出左之通

御高札 式本 三つ道具 一組 御幕 三張

羽波 廿 寄棒廿五本 大文字付灯籠 三張

右之書付大目付中へ差出聞置之上勘者中へ申談置

一講ニ付毎歳取計之通諸事町方申付候段御用所大目付中へ相達立会

とも前夜当日とも太鼓打廻候儀も相達

一茅町昨人已之助父伝助去月十五日与風在方商參候処不罷帰行衛相

尋候へとも今以行方不相知候段断出百日尋申付候旨御用所へ達大

目付同断

一西今町善藏役介要八与申者去年泰安寺長屋より引請然ル処生国石

見へ此度罷帰度申付人別離相願御用所へ及御沙汰承届大目付中

へ達

一二宮町市右衛門借家源之丞并同人祖母兩人とも西今町松尾屋源八

由緒有之候ニ付引受度旨人別人相願引合之上承届ル

一万人講木駒年々大キニ相成かそへ之者之手ニあまり自然と取落候

様相成大キ成駒ハ入不申段町触去歳も差出候へとも尚伺之上今日

触候様大年寄へ達

一盜賊入込候由ニ付町方時廻町切ニ申付御用所へも相達

一二階町山手屋弥太郎家守十兵衛借家作人荏吉并同人母妹家内三人

とも太田村伝七方引請人別離願出引合ニ而承届ル

一明五日玄猪之御祝被下置候申中刻登城候様御奏者廻状到来

十月五日 時雨風

一玄猪ニ付登城風邪ニ付御断岸氏へ相頼

一秤改神善四郎手代武河与一与申者今五日立備前々来着之由伝馬触

状来旨申出即刻御用番中大目付所へ相達覺触写左之通

覚

一御伝馬 老疋 一賃駕籠 老挺

右者秤改為御用明五日朝七つ時岡山出立致作州津山迄罷通候并御

証文之写差添遣候宿々人馬無滞御差出可給候以上

京都神善四郎

辰十月四日

秤改役人 武河与一

岡山 金川 津山

御伝馬写左之通

一馬 老疋

右者今度京都秤師神善四郎名代之者为秤改山城大和河内和泉摂津

播磨美作備前備中備後安芸周防長門紀伊淡路阿波讃岐伊予土佐国

相廻り候付従京都上下右拾九箇国書面之伝馬無滞可差出者也

安永六丁酉七月

土岐美濃守 印

太田備後守

戸田因幡守

枚野越中守

右十九ヶ国々宛

御料 私領 寺社領 宿々村々

問屋年寄

十月六日 雲 不参

一二階町いせ屋庄左衛門明七日立上京廿日計承届ル

一宮脇町柏屋儀兵衛家屋鋪北側ニ而表口五門裏行十三間但七步五厘

役也五人組相談之上代銀札三貫目ニ相究町内砂屋助次郎へ壳渡願

承届ル同九日壳券状差出ス

一徳守宮門前ニ四才計之野伏之子と相見吟居候よし堀其辺ニ而物貫

当日ハ送り候様子ニ申出其後穢多躰之者連帰候由之処又々一兩日

已前々元之場所近辺吟罷有候由□□□□非人番所有之ニ付此所ニ

夜分程差置遣候ハ、^{ヒル}昼之内ハ物貫ニ出候而可相済ニ付少々之差懸ケニ而も先つ而以遣候様孫右衛門へ申付先徳守宮近辺ニ居候事故

寺社方へも引合右之趣御用番中江御沙汰被下候様岸氏へ頼遣候^日御願出岸氏を以伺候処相済夫々通用も取計被呉候

御先例御御儀ニ付延享三寅年御下ニ御時伏之字知^日御願出岸氏を以伺候処相済夫々通用も取計被呉候

一 秤改神善四郎手代兩人參着申出即刻一学殿へ御届申大目付同断

十月七日 雲

一 西川斎藤六蔵田中恵左衛門が当月米平均直段之義頼来「」候及相答候

一 明八日例刻泰安寺へ御仏參被仰出候

一 秤改神善四郎手代武河与一 大年寄斎藤孫右衛門宅へ參孫右衛門及

応対秤改断書堅紙ニ相認持參其外改方仕統帳差出延享六年丑四月

參候節とハ何扁相違之様被存弁書ニ綴京都御留守居之添翰とも

尚差出候様可談孫右衛門申渡添翰等も不差出ニ付表立御用番中御

沙汰ハ不申候へとも明日岸氏相頼委細御内意一学殿迄申上候事

同十二月八日大谷清助并外三人未差夫々

取斗之翰此末ニ記事

十月八日 晴 不參

一 御蔵米六拾三匁五分町米五拾九匁五分

一 目木陣屋甲斐郡蔵候時候為見廻来書經節二十酒一樽被相送且又上

中下米相庭書相頼来ル 及相答候

一 来月十一日万人講建札ちらし之義講元「」願出去ル 四日岸氏

相頼今日同済申渡

一 来ル十三日戒善院様五十回御忌ニ当候ニ付配當場御布施頂戴之

儀願出岸氏を以伺候処相済夫々通用も取計被呉候

〔 〕 近来大割八朔割不納之者多時節柄ニ付而ハ無余儀事共ニ候得とも

新魚町平田屋理介然就中致横着今以不相納致方無之旨ニ付手錠ニ

而も被仰付被下候様ニと大年寄とも相願尤之事ニ付其旨御用所へ

岸氏を以伺候処御聞届被成候ニ付其旨孫右衛門へ申渡翌九日手鎖

申付ル孫右衛門宅^{ニ而} 患

十月九日 晴

一 新魚町平田屋利助八朔割不納ニ付於孫右衛門手鎖申付候立合小頭

部屋目付相済御両所へ被届申

一 講場普請出来見分小頭出ル^{廿一日八朔割被候ニ付} 手錠宛

一 伏見町近江屋孫三郎盼忠蔵伯州倉吉行明十日立日数百五十日承届

ル

一 秤改武河与一久世村へ参度旨相断然ル此間御伝馬ニ而乘込秤相

改候段断書出置不候「」而他行之儀ハ難心得御伝馬等不輕義ニ

候へハ甚勝手つく之由申聞候様申達候処心得達之由与一申之候段

申出ル此後為心得記置候

十月十日 登城 晴

一 来ル十三日戒善院様五十回御忌之為 於泰安寺御法事被仰付候

段為御知廻状出ル先例之通町方十二日十三日自身番申付ル組中

「」牢屋三軒屋同断

一 大年寄三人御法事ニ付參拜大目付へ相伺候処先例之通申付候様舎

人被申聞

一 新魚町鳥屋与三兵衛方ニ此間瀬戸物早繼細工致候者町方所々致律
徊候処無限數日宿致候出所も不慥成者差留候段不届ニ付追込申付
候様同済申付ル大目付中へも達為立合小頭部屋目付差向ル

十月十一日 晴

一 京都中江弥左衛門參万人講相濟候迄逗留之儀相願承届二階町境屋
伊右衛門断翌十二日御両所へ相達

一 新魚町魚住屋太郎右衛門悴岩次郎五ヶ年嫡前子歳大年寄孫右衛門
宅へ拔身を以直訴ニ參遂吟味候処邪心ニ相決太郎右衛門へ預困へ
入置候処 □養生不相叶相果候断申出取置勝手次第と申渡翌十二
日岸を以御届申達

一 明十二日例刻泰安寺御仏參被仰出

十月十二日 晴 登城

一 小姓町山形屋新太郎立願有之晴天一 日德守宮於社地花角力致度於
御許容者来ル十六日興行仕度書付差出寺社方引合御用所へ御伺申
上候処御聞届被成候大目付中へも達

一 安岡町久米屋岩吉借家吉野屋和助夫婦とも二宮村茂一方へ引越申
度人別離願引合候而承届ル

一 安岡町山沢屋久助追々快方書付出承置

一 万人講ニ付御賃人馬并同心代り増人十四人去歳之通大目付へ申達

一 田中武兵衛被為召大目付役被仰付候

十月十三日 晴

一 戒善院様御法事ニ付辻固西今町橋江同心組差出四時御仏參被遊御
先払も相兼ル但藪田辺御出御還者御平常之通

十月十四日 晴 登城

一 今晚七半時林田上ノ町出火紺屋火元ニ而三軒焼失并汲右兵衛も類
焼卯刻過鎮ル引取御用番一学殿へ御届申大目付中へ自途中同心組
差遣相届ル

一 御藏米六拾式匁五分町米五拾八匁五分

一 例刻御供揃御^{不詳}參被遊候

十月十五日 晴

一 万人講ニ付辰半刻右場所へ相詰ル町奉行郡代御徒目付中尾嘉兵衛
下目付小頭平組市郷下役不残大年寄大莊屋
寄札高老万四千四百式拾四枚 但五匁札
此銀札五十七貫百廿匁

内十七貫百三十六匁

残而三拾九貫九百八十四匁 五十番割

壹番式貫式百八十四匁式分 拾番式貫五十一匁三分式厘

廿番同断 三十番六貫五十六匁三分式厘

五十番四貫五百六十九匁六分

間々四百五十六匁九分六厘

右相濟掃懸御用番一学殿へ御届申大目付中以手紙相届ル

十月十六日 寒風烈 登城

一 船頭町今津屋孫十郎来ル十八日立上京行来廿五日計承届ル十一月
廿一日病氣ニ付今廿日計日延願承届ル

一 紀州高野山宝蓮院上下式人材木町正木屋才吉家守桶屋忠右衛門宿
切手出ス

一 万人講割合書付一学殿へ差出ス

一 式十歩一銀前々役所へ相納候処上江差上候ニ而御用之分者算用

立請取候様天明六丑年三月すえ申上候処闕所銀も一緒ニ打込御算

用相立暮ニ勘定^帳差出候様被仰渡然ル処差支之儀も有之以後之故

障ニも可相成ニ付此度一統御附人等前之通被仰出ニ付御用番中へ

相伺候処前々之通廿歩一銀役所へ納メ闕所銀者御金蔵へ相納候様

被仰出大目付中へも右之趣相達候^{同廿二日}

十月十七日 雪三四寸^{積雪}相續^{積雪}

一例刻御社參被遊候御見通へ相触ル

一 坪井町勝屋文助明十六日立登坂廿日計承届ル

十月十八日 晴雪 登城

一新魚町魚屋勘兵衛甚介境論勘兵衛訴訟方書付出甚助返答書ともニ

差出今日小頭部屋目付大年寄諸吟味大工棟梁召連町内入込間口相

改繪図差出候処勘兵衛表口式間甚助表口四間半無相違然ル処双方

境ニ七寸式歩之延有之ニ付双方間口へ割遣シ大年寄内洛取計可然

被致候ニ付其段孫右衛門へ相達候十月十日内洛取寄口書付差出見之^{本年寄へ返ス爲メ}

十月十九日 不正雲

一新魚町鳥屋与三兵衛追込一学殿へ御伺之上差免候尤御両所へ御届

申達候

一 播州坂越高屋平五郎米買船頭町高松屋理介宿切手出ス

十月晴 登城 夜雨

一 町方夜廻内町者中仕切東西式手ニ分ケ一町式人つゝ一夜ニ二町

二組四時合貫抜々々を相廻候様去々寅才申付候通可申付哉之段一

学殿へ相伺候処思召も無御座ニ付其通ニ申付大鑑所へも達

一 上紺屋町灰屋善十郎家守彦三郎借家独身女りん七十歳相成病身

ニ而候処諸親類も無之組合大家只今迄心付遣候得とも数日之儀不

行届依之孤独扶持被下置候様組合一同願立遂吟味候処相違も無之

ニ付一学殿御伺申上候処御聞届被成候大目付中へも相達

一 近々於誕生寺富有之候由ニ付兼々他領富興行之場所參候儀停止申

付候得とも当町触致其節も目明非人等差遣候様可取計哉と市郷申

談一学殿へ御伺申候処宜計候様被仰聞大目付へも達

一 備中国足森領大井村弥右衛門と申者去ル十五日講三十番当リ札ニ

而候処途中無心元宿伏見町原屋甚助并組合小田屋伊平次帯屋伝次

杉屋茂八送呉候様申ニ付今日為見送備中へ罷立向方も為迎四五

人も參候由承置

一 中江弥左衛門来月講迄之内京都へ罷越候由断承置

一 大坂南本町三丁目紙屋藤兵衛手代新兵衛菜種卸壳宿二かの町境屋

伊右衛門

一 江州多賀成新院使僧玄乘坊上下式人旦那廻宿二かい町境屋猪右衛

門

一 撰州豊嶋郡池田村自野小町植木屋平兵衛植木^亮宿新魚町鳥屋与三

兵衛

十月廿一日 折々雨

一新魚町平田屋利助八朔割相納候ニ付手錠差免執計於孫右衛門小頭

部屋目付出番兩人相濟一学殿へ御届申上候大目付同断

一今般一統御附人被下候ニ付書役内抱ニ被仰付書役代リ御使中村勇藏向方へ差戻候様大目付中へ御沙汰有之其旨申渡候

十月廿二日 晴

一安岡町山沢屋久助痛所快氣断出一学殿へ申上尚郡代中へも談候処内濟ニも今一応下方相致可然哉ニ付其段御嚮申上置大目付士へも達

一遊女躰之者町方差置候由担右ニ付先例も有之町触可取計哉之旨御用番中へ相伺候処御聞届ニ付相触ル大目付士へも達

一明廿三日六半時杉山辺へ御鹿狩被為入京橋御門今津屋橋へ被為入候旨被仰出夫々へ申付ル

一下紺屋町孤独りん御救扶持七匁五分受取相渡手形取置候

一御蔵米六拾三匁五分町米五拾九匁五分

一目木村ニ而盜賊召捕候処西新町備前屋市右衛門方ニ質物ニ有之受取度先日申来候処右質物取次人大隅宮神主内ニ居候藤助と申者取

次ニ而難相渡申聞候処市郷へ相懸り彼是先日已来及往返候得とも双方訳立不申然ル処目木村知奇之者久米屋勤八へ相懸り内濟相望向方へ罷越川崎村肝煎治助三人申談内濟ニ相成候委細者下方ニ

而相濟候故不記

一闕所銀前々之通相納候様被仰付候付而今日御勘定所へ勘定帳仕立差出尤是迄勘定不足立用差引而残物三百九拾五匁五分八厘御金蔵へ相納手形取御用受留へ入置

十月廿三日 折々雨夜風

一杉山辺ニ御鹿狩被為七過時御機嫌能御帰被遊候御帰へ広瀬合蘭田

大番所前田町通候御帰被遊候ニ付御用使合船頭向へ罷出候御先払同心組へ通用有之夫へ御掃除等申付御間ニ合仕ル則引取其旨届出候

一久世代官守屋弥惣右衛門殿支配所東南条郡新田村莊屋六左衛門合ふしミ町小坂屋善兵衛同町田邑屋治助へ相懸生綿代銀三百匁余差滞及出入右手代原此右衛門添輪ヲ以濟方願出右濟方夫々へ申付ル

十月廿四日 雲風烈 登城

一昨日申出候生綿完渡代銀差滞之儀善兵衛治助兩人孫右衛門於宅相糺候処新田村六左衛門悻弥左衛門直置ニ而者無之同町為本屋儀兵衛取次ニ而代銀早速儀兵衛へ渡相濟候段吟味申口相聞然ル上ハ願人六左衛門ニ吟味口書為読聞尚返輪ニも儀兵衛致相対候様被仰付度旨原此右衛門へ返書願人へ可相渡哉と御用番中へ御申上候処同濟大目付中へも達孫右衛門右之趣取計候様申渡往返文段扣帳ニ有

一久世御代官所支配当国久米北条郡宮尾村六郎左衛門娘二丁目植月孫四郎養女ニ致度人別入為願御用所へ及御沙汰候処承届候様被仰渡大目付中へも達

一愛宕山長床坊使僧柳意坊上下式人旦那廻小姓町紀地屋茂八宿切手出ス

一勢州朝熊岳明王院使僧義仲坊宝藏坊休賀坊悦忠坊上下八人廻在宿切手右同人合出ス

一九月中町方生死人別出入書付左之通書上ル

出生十一人男四人女七人 人別入四人 人別除十一人 死失廿一

人 懐胎九人

一 二階町年寄豊屋喜左衛門問屋目付繁多ニ付役免申付跡役境屋伊右衛門へ申付ル

十月廿五日 風烈

一 鍛冶町年寄市郎右衛門役免申付跡役横野屋碓太郎へ申付ル

一 雲州杵築大社多久十太夫回在宿切手境町 □ 屋治郎右衛門

一 細工町市兵衛借屋きよ方ニ而去ル十八日夜紛失物有之断書出御用

所へ及御沙汰町触取計大目付中へも達

一 大隅宮神主小原橋磨粉弥門儀材木町中村益庵「」候処橋磨夫婦

とも出奔致養育致候もの無之ニ付暫引受世話仕遣度旨断書出郡代

所并寺社引合承置

一 林田町北側正屋忠八家屋鋪表口三間裏行十五間五尺但六步役也西

新町丸屋嘉七取次ニ而質物書人来婦十月切銀札五百日借用願承届

ル十一日告本証文出

十月廿六日 晴 登 城雷折々

一 誕生寺富有之目明老人非五人差遣前条無之

十月廿七日 雪七寸

一 摂州大坂南本町三丁目小法師利兵衛墨筆売

一 右同国嶋之内大宝町万屋善次郎皮足袋「」通売

一 備州津宇郡妹尾村木綿屋太兵衛畳表元結木綿売

右之者三人とも中ノ町福茂屋武助宿切手出ス

十月廿八日 晴 不参

一 桶屋町宇之助女房之甥太兵衛不行跡ニ付而異見「」候得とも

不相用剂去ル廿日夕与風罷出行衛「」相知ニ付いケ様之惣事仕出候義難計依之組合相談之上義絶勘当仕度旨相願御用所へ権六相頼伺候処御聞届被成大目付中 □ も達翌月五日勘当本証文出

「」町長谷屋清六妻去ル廿六日八月娠ニ而致出産「」女子之

死跡出生已刻産婦相果組合共大年寄於宅遂吟味候処紛敷義無之一

札取て御用所へ差出

一 懸ケ合問屋之義当中買とも相願御許容被成候処其後中絶仕又々此

度再興致度相願先日一学殿迄御伺申上置候処勝手次第ニ可申付候

沙汰有之孫右衛門へ申付ル尤場所ハ元魚町原屋佐平方ニ而致候段

承置尤ノ一札 □ 差出申付置十一月十二日ノ請書取之 □

十月廿九日 晴

一 同心組河端又六足痛ニ付番代差出承届 □ 中村善治と申者願出是

又承届ル

一 今度書役内抱ニ被仰付候ニ付河端又六と申者召抱右善治又六目見

請候

一 筑前国遠賀郡柏原浦小平次手代宅兵衛又五郎茶碗売宿切手出京町

田戸屋宗十郎

十一月 御月番

大年寄月番

御家老 安藤丹後殿

斎藤孫右衛門

御年寄 伊達与兵衛殿

大御目付 黒田織江

朔日 今曉雨屋合晴 登城

一月次之御礼被為請当役於御居間御目見申上候御用所へ相揃罷出ル
御吉事日ニ付御赤飯頂戴大目付へ御礼申上候

一「」渡辺仲右衛門書状当月米平均相庭書申来返書ニ相廻ス是又
年々相場書致調達候ニ付目録之通金式百疋被下候由右同人奉礼ニ
而来ル返翰ニ相答御請申遣候大目付中途相違

〔役職〕二かゝ町木屋太兵衛事研師御用向差添「」年寄役差免跡役之儀
八山手屋弥五郎へ帰役申付ル

一及井野御預所役人神原宗右衛門津田与一左衛門日礼之上石川専左
衛門〆米三段相庭書申来返翰差遣ス

一坪井瀧口与次右衛門〆米平均相庭書申来返書へ差遣候

十一月二日 折々雨あられ 登城

一福渡町ニ而林玄碩懸屋敷家名代林内と申者名前出有之然ル処吹屋
町十蔵後家夫十蔵内縁有之兼而家屋鋪讓候旨申談有之玄碩御暇被
下候へハ林家先祖印等致候者無之家屋敷被下置候ハ、年忌尊薩等
印申度願出候得とも無証拠之儀願おくれ之儀無取上旨御用番与兵
衛殿へ申上候処尤ニ思召左候ハ者其町内〆も断出候儀家屋敷取上
入札申付代銀欠所ニ可仕様相伺済候ニ付其旨大年寄へ申渡大鑑所
へも達

一久世御代官所守屋弥惣右衛門殿手代原此右衛門〆米上中下三段相
場中来相調越候

一目木役所甲斐郡藏上中下三段相場申来差越候

一西川斎藤六蔵田中恵左衛門米平均相場書自此方差越候

一福渡町南側城南家屋敷表口式間裏行拾七間但半役也五人組相談之

上宮脇町阿賀屋助次郎へ売渡申度願承届代銀札五拾匁ニ相究同五
日売券状差出ス

一西新町北側大坂屋理助所持家屋鋪表口式間半裏行十七間但大溝切
半役也五人組相談之上代銀札三百匁ニ相究町内伊木屋宗五郎へ売
渡申度相願承届へ同廿日売券状差出ス

一〆町米屋佐七御中間奉公罷出度人別除相願承届ル

十一月三日 晴

一明四日泰安寺御仏參被仰出候

十一月四日 不正雲 登城

一来ル十二月五日万人講建札伺書差出御用所へ差出同六日御間届相

濟大目付中へも相達

十一月五日 晴

雲州羽根村百姓善七妻妹知法与申尼京堀川下立売西橋詰ニ行倒同
所〆送出候由町分無滞送在方へ送渡候

十一月六日 晴 登城

一与兵衛殿并小嶋新五衛門来巳四月御參府御供被仰付候よし

一江戸表水谷但馬守殿内鈴木其太夫へ米相場書御留守居相頼差越

一下紺屋町長松今日立備前岡山行日数四十五日承届ル

十一月七日 晴

一明八日御仏參被仰出夫々へ申達

十一月八日 雨夕方風 登城

一大笹村嘉兵衛去ル四日二かゝ町辺ニ而米切手三拾式斗式升五合嶋
之引巻ニ入落候由拾候者有之候ハ、可申出様可相触大目付〆被申

聞相触ル

十一月九日 晴

十一月十日 晴 不參

一差懸不快ニ付仕御断岸氏へ相懸

一錢相場百老文通用

一明十一日智円院様然御証月御參詣被仰出夫々江申達

十一月十一日 晴

一御藏米六拾四匁五分町米六拾匁五分

一明十二日泰安寺御仏參被仰出候

十一月十二日 雪 登城

一京町田原屋伊兵衛紛孫七来ル十五日立播州姫路行往来四十日計承

届ル

一元魚町東側古川屋かけ家屋敷表口四間裏行拾七間但本役也五人組

相談之上代銀札三貫匁ニ相究組合豊屋喜兵衛へ壳渡申度相願候義

願之通承届ル同廿四日壳券状差出ス

一元魚町通土橋損所有之同町年寄「」申出勘定奉行中へ申達候

一久世御代官所御支配作州勝南郡新田村庄屋六左衛門外老人の伏見

町小坂屋善兵衛外老人へ相懸リ生綿代銀差滞及出入先日訴状差出

猶又訴持參原此右衛門安田政吉添翰有之早速大年寄ともへ相手方

糺申付ル

十一月十三日 雪八寸斗

一明十四日御仏參被仰出候

十一月十四日 雪晴 登城

一今日御口參延引被仰出

一今下紺屋町小嶋屋鬼子左衛門大坂阿知川式丁目善屋徳右衛門由緒有

之処相続人無之ニ付養子ニ致度相望候ニ付町内人別相離罷越申度

願承届ル

一公科御廻米明十五日夕積下相始候旨郡代所ニ通用有之番人大年寄

へ申付ル

一京都中江弥左衛門參候断書ニかる町境屋伊右衛門差出

一上紺屋町南側東横丁鉄屋喜右衛門家屋鋪表口式間裏行五間但老歩

役也五人組相談之上下紺屋町波屋□郎取次ニ而銀札八十目家質

相願承届候翌十五日日本証文差出ス

一新田村庄屋六左衛門訴訟ニ付伏見町小坂屋「」為本屋儀兵衛右

三人遂吟味候処新田村「」源太の儀兵衛生綿買請儀兵衛の善兵

衛治助兩人綿買取尤源太の儀兵衛へ壳渡□仕切書有之源太印判

等髓ニ有之上ハ善兵衛治助へ懸合差滞候へとも筋ニ無之尤儀兵衛

も同様之申口ニ而成程「」源太儀兵衛ハ兩人手前ニ差引有之ニ

付未算用相立不申可相渡分有之先達而可相渡と申談候処善兵衛治

作の可受取と無駄を申無抛差滞新田村庄屋の及訴訟候義義兵衛に

おるても甚及迷惑候旨申出右之趣返翰書綴願人へ相渡候右一件今

日与兵衛殿へ相伺候考之通計候様被仰聞大鑑所へも相達

一明十五日御礼不被為請候旨廻状到来

十一月十五日 晴 十一月十六日 晴 登城

一御藏米六拾五匁五分町米六拾匁五分

一桶屋町備中屋莊兵衛吉田平介先達而^屋出奔後尋日延相願承届置候得

とも未行衛不相知依之人別差離願出今日及御沙汰承届ル大鑑所へも相達

一 盗人十吉伊介曾介此三人御裁許之儀先達而御用所へ伺置候処今日於御用所大目付黒田織江立合御裁許被仰渡

一 来ル十八日万人講諸事執計先月之通出役儀 □ 与兵衛殿へ相達大目付同断御貸人馬之儀織江へ達同心組加人も申立置神田「一」十五人申立候

一 明十七日例刻御供揃御社参夫々惠照院様御証月ニ付御仏参被仰候夫々へ申付ル

十一月十七日 晴

一 公科御廻米榭村河岸積下有之旨郡代中通用ニ付大年寄へ申付ル

十一月十八日 晴

一 万人講ニ付役町奉行并郡代添役松岡治郎助御徒目付柴田郷助下目付小頭平組并「一」役組小頭下代大年寄大荘屋御勝手方井口恵左衛門拙者供立例之通也

寄札高式万式百三拾壹枚 但五匁札

此銀札百壹貫百五拾五匁

内三拾貫三百四拾六匁五分 三步引

残而七拾貫八百八匁五分六十番割

一番三貫三拾四匁六分五厘 拾番貳貫貳拾三匁壹分

廿番同 三十番拾貳貫百三拾八匁六分 四十番貳貫貳拾三匁

壹分 五十番同 六十番四貫六百五拾三匁壹分三厘 間々八

百九匁貳分四厘

右之通興行相済引取御用番与兵衛殿へ改参御届申達大目付中へ以手紙相達

一 久世御代官御支配作州村々御廻米河岸出有之ニ付火用之儀申付呉候様守屋殿手代小村留右衛門へ来状ニ付火用手当申付ル尤返翰相答扣帳ニ記

一 備中小坂郡水谷但馬守殿江戸屋鋪へ米相庭書相廻候為挨拶近藤武左衛門中嶋幸右衛門近藤政藏へ来状産物之由紙式束到来及相答候事往返扣帳ニ有

一 錢通用百貳文ニ相成候

十一月十九日 晴

一 六判時於牢屋前左之通刑取行立合御徒目付柴田郷介下目付壹人当役小頭部屋目付書役出番佐五兵衛兵介

鼻刑之上御領分追払申付ル 盗人 十吉

五十敲之上 同断 同 曾助

百敲之上 同断 同 伊介

右三人古城御境外へ追払同村荘屋立会一札取之差出御用番与兵衛殿へ御届申達大目付同断

一 今曉七時過大年寄罷出林田土手筋山本屋与惣七東横丁へ少し東方道年比四十計男行倒死居候旨注進尤大鑑中構場ニ付織江月番ニ付為知遣候日上村仁右衛門と申者之由村方へ引取申よし相聞候段大年寄とも今夜中申出承置候

十一月廿日 晴 登城

一 万人講割合書付与兵衛殿へ差上候

一 東南条郡林田上之丁半兵衛家内五人西新町飯塩屋源兵衛引受人別入願引合ル之上承届ル

一 東新町野田屋破右衛門借家源助大隅□神主家守ニ引越申度人別除願出引合 □ 上承届

一 紀州高野山万生院使僧弁曉と申僧上下式人廻在宿坪井町桔梗屋莊右衛門切手出ス

一 新魚町檉野屋茂一味噌大坂廻当川下願運上処へも相願候由勘定奉行引合承置

一 一川辺村藤助方へ去ル七日八日比盗人這入紛失物有之由色目書差出大目付の相渡町触取計候

十一月廿一日 晴

一 二かゝる町山手屋弥太郎家守重兵衛借家住京町重藏引請女くま二才当才乳呑子有之夫八郎右衛門ハ勝手向及極難右両人之子とも右くまニ任せ置奉公稼ニ致他参差当及艱難趣先日申出内々下方へ移難洩無之様計遣候様相合置候処右重藏方へ両人之子供引取養育遣候間くまハ奉公稼候とも又ハ親元へ参手仕事等稼候とも八郎右衛門落着候迄談候様十藏申候得とも女不致得心色々大年寄とも利害申聞候内今日直訴ニ罷出候ニ付直訴難取上旨小頭とも申聞候処聞入不候ニ付町内年寄組合呼出連帰候様小頭及指図候処女引取不申今無昧を申募甚狼籍におよひ候故手鎖懸組合預ケニ申付「」取之藏合月番ニ而呼出遂吟味候様申達立「」目付出番差向其段与兵衛殿へ御届申大目付同断

一 油屋八郎右衛門三津屋平右衛門弟ニ而先達而引受人別加入之者ニ

付八郎右衛門を相尋候処弥くま申通奉公稼罷出候由之処無願罷出甚不束何連にも八郎右衛門存所ニ可有之儀故急々八郎右衛門罷帰候様平右衛門へ申付置

一 新魚町へ子牛離候而昨夜参藤七方ニ置断出東西橋心懸之者尋参候様建札申付与兵衛殿へ御届申達大目付同断（四廿三日御届和部目録等本館へ送）

一 伊勢内宮藤崎神主手代松井本衛長廻参ニかゝる町境屋伊右衛門宿切手出ス

一 桶屋町勘兵衛由諸有之ニ付林田上之町藤介家内四人引受渡世為仕度相願郡代所引合之上承届ル

十一月廿二日 晴 登城

一 昨日直訴ニ罷出候くま吟味書与兵衛「」

一 西寺町大円寺去ル十八日夜銅釣亀水風呂釜紛失之由一宮觀音寺兼帶所ニ而断出大目付中書付被相渡町触ニ出ス

一 明廿三日六半時供揃杉山へ御鹿狩被為人候旨中奥目付の被申聞夫々へ申付ル

一 西今町直屋山三郎家守市太夫借屋今井玄仲夫婦とも此間致出奔候段断出定法尋申付ル

一 牢舍人仕着せ此間伺相濟七人分綿入七口買上右代為請取証文奥書致小頭へ相渡

十一月廿三日 晴

一 杉山御鹿狩被為入京橋御門の船頭町「」被為懸夫迄御先払同心組兩人相勤御「」の西大番所迄御先払相勤七半時引取届出ル

一中ノ丁倉鋪屋伊介盼惣兵衛御殿中間ニ被召抱人別離願出承届ル

十一月廿四日 薄雪 登城

一井口村長法寺ニ而仏具盜取候由之処西川領ニ而盜賊番召捕来仏具も持参先牢番預ケ申付置御用番一学殿へ御届申達大目付同断右盜人年廿松次郎因州出生之由申出ル備前國鞆守言及為取置

一西今町直屋政女方へ去ル十六日在方之者参庭ニ有之候米を指ニ而拔取近辺ニ而見合候ニ付声懸候処逃去盜取之米其外相調候物一諸ニ差置逃去未相知旨断書差出御用所申上大目付へも相達

一三丁目組雇重右衛門方へ去ル廿二日夜盜人口入風呂釜銅釣龜盜取候由断出惣側貫拔番吟味申付是又御用所大目付中へ相達候

一近來盜人所々へ入込候由取沙汰有之■方兼而夜廻等申付候得とも無怠情廻相動用心可致様可相触哉伺之上触達御家中へも非人加廻

一組相廻候様伺之上申付ル「」一学殿へ御伺上候大目付へも達

一万人講木駒年々大キニ相成先日も触達候へ共未大キ成駒致売買候ニ付玉琳とし元屋左助東新町久米屋五郎右衛門別而大駒売候由駒目付申出今日御用所へも申上郡代中懸合急度呵之上一統江も弥

相慎候様触達之儀相取計候大目付中へも達

一二かい町くま直訴十一月廿日くま罷出其上及狼籍候ニ付手錠申付然ル処美濃職人町綿屋左助借屋同人母罷有船頭町塩屋新七妻同人「」くま

方へ参色々雑言共申候段「」人とも禁足申付ル右之趣御両所へ相達候

一十月中町方人別出入生死書付左之通一学殿へ差上ル
出生十人男六人女四人 死躰七人 人別入七人 人別離四人

死失十九人 懐胎十式人

差引而十式人減シ

一新魚町ニ捕置候子牛備前和氣郡日笠村幸太郎持主之由途中ニ而失ひ渡呉候様申来一宮村久右衛門宿之由元魚町黒坂屋請人ニ而一札取之幸太郎へ牛相渡今日及御沙汰候

十一月廿五日 薄雪

一錢相庭百文通用立替申出承置

一御藏米六拾七匁五分町米六拾三匁五分

十一月廿六日 晴 登城

一勝間田町金屋善助坪井村勝左衛門と申者此間尋参相果候由之処其村方高柳常八と申者同人弟之由申遣候処何方除帳者之由申来候段申出候趣孫左衛門申聞今一応も年寄今庄屋へ懸合候様談置同晦日

ニ取計有之候

十一月廿七日 晴

一御藏米六拾八匁五分町米六拾四匁五分

十一月廿八日 雨 登城

一福渡町作人茂七女房去ル廿三日致出産男子出生然ル処難産ニ而隙取其上小兒虚弱ニ而巳刻相果候旨申出遂吟味候処紛敷儀無之一札取之口出今日与兵衛殿へ差出

一東新町伝兵衛女房当三月経行無之不順口懐胎とも難定届及延引然ル処此口腹かき有之彼是延引不調法之段書付出先請取置

十一月廿九日 晴

一長法寺ニ而仏具盜取之松次郎今日召出遂吟味口書爪判取之而入牢

「手形差」

一 林田上ノ丁忠三郎と申者林田町葛屋徳右衛門由諸有之忠三郎夫婦
兩人之者引請申度人別人相願引合之上承届候

一 福渡町作人林内家屋鋪北側表口四間裏行貳貳間但本役也此度御払
入札申付候処町内宗助高札ニ而代銀札貳百一十一匁五分被下置候様
願出承届ル十二月六日大銀札売券状差添出又闕所物へ相収ル

一 貳町目北側松田屋常太郎家屋敷表口四間裏行拾七間但本役也五人
組相談之上代銀札壹貫三百匁ニ相究町内紙屋長右衛門へ売渡願
承届ル十一月七日見發

一 林田町北側かと屋伝吉家屋敷表口貳間裏行拾六間貳步五厘役也表
通東西貳間南北八間已前々灰屋磯右衛門持此度屯間者灰屋磯右衛
門屯間者錫屋治兵衛代銀札銀札貳拾五つ、合五拾匁ニ相究壹步貳
厘五毛つ、役付ニ右兩人売渡申度願承届ル十一月七日見發

十一月晦日 屋々晴天

一 御蔵米六拾七匁町米六拾三匁

(田欠)

一 坪井中北村庄左衛門と申者去ル廿日勝間町鞍屋善助方へ罷越病氣

ニ相成色々養生相加候得とも不叶同廿六日相果庄左衛兄高柳常八

懸合候処人別相離候由返書差越候旨申出尚向方庄屋年寄々書状遣

候処弥除帳之者ニ而懸リ無之返書差越然ル処船頭町広嶋屋清七妻

庄右衛門ハ伯父姪之由ニ而清七へ懸合候処ともく葬世話に致相

談相濟候旨書付差出与兵衛殿へ相達候承届候様被仰渡大目付士

へも達尤清七旦那寺常殿寺取置候段相断寺社取次松岡へも及通用

一 久世御代官守屋弥惣右衛門殿支配作州久米北条郡宮尾村安之允姉

安岡町坪屋和助内縁有之ニ付養女ニ仕人別人相願承届可申哉と及
御沙汰候承届候様与兵衛殿被仰渡大目付中へも達

一 盗人松次郎吟味書与兵衛殿へ差上ル

一 京町ぬめ屋庄七助庄吉兼々不所存者ニ而色々異見差加候得とも不
用剂先日已来致家出行方相知不申依之無抛親類一同申合義絶勘当
仕度願出与兵衛殿へ相伺候候御聞届被成大目付中へも達十二月廿

一 日本証文出ス

一 宿馬持廿五人之者去ル亥才元壹貫百匁貳割五年賦なし崩拜借被

仰付翌々当辰迄上納相濟候ニ付又々壹貫百匁五年賦拜借相願勘

定奉行引合之上御用所相伺御聞届ニ付大目付中へも達

一 右馬持とも例年之通御扶持式俵半つ、拜借願出是又御用所へ相伺

御聞届ニ付大目付中へも達

十二月 御月番

月番大年寄

御家老 佐久間上総殿

斎藤孫右衛門

御年寄 小須賀一学殿

六日ヶ月番

大御目付 田中武兵衛

藏合孫左衛門

朔日 晴 登城

一月並御礼被為請当役於御居間御礼申上ル

一 勝間田町鞍屋善助方ニ而病死莊左衛門取捨相濟候段届出然ル処兼

同 々々他所者差置候儀無断差留候停止候処無其儀剂無宿差置候段不届

ニ付伺之上追込申付ル尤一学殿御届申上候大目付同断

一 阿州板野郡高房村新兵衛右同国同村成瀬村曾右衛門同国同郡川端

村清兵衛同国郡高原村真兵衛手代平右衛門上下式人右之者とも例年之通藍玉売ニ而参候宿切手出船頭町今岡屋儀右衛門

一上紺屋町南側久世屋直吉家屋鋪表口三間裏行十五間但半役也五人組相談之上町内中山屋岩右衛門取次ニ而銀札百目家質相願承届ル

十月七日日本
野文出ス

十二月二日 晴 不参

一城州正法寺役者青松寺病氣ニ付自湊庵与申僧来者宿二階町伊右衛門断承届尚御用所大目付中へも相達

一万人講諸取計之義者先月伺濟下方へも申付ル

一阿州名西郡乘嶋村平次兵衛手代吉兵衛藍玉売京町今出屋半兵衛宿切手出ス

一先月廿二日三丁目くミ屋金右衛門方盜取候水風呂釜かなつるへ二品とも倉敷村ニ有之取返候断出ル

一阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛阿州名西郡乘嶋村武右衛門手代与一兵衛藍玉売宿切手出ス京町今出屋半兵衛

一今日不参断近藤子へ相頼

一秤改袖谷茂八与申者京都御留守居添輪持参差出候処大谷清介御国元へ参候由之文段ニ付相尋候処跡方参候由ニ付其節書付等可出様申聞置其段御用所へ及御沙汰置候

十二月三日 晴

一明四日五半時御供揃ニ而泰安寺御仏参被仰出此後暫ハ蘭田通泰安寺裏門方御出被成候由其段同心組并町へも申付ル

十二月四日 晴 不参

一拙者未相勝明日講出役難致宜様御伺被下候様岸氏談候処大目付中

へ被相達明日町奉行代岸氏郡代添役松岡治部助出役之筈ニ相濟之一細工町大工藤兵衛家屋鋪表口三間裏行十一間但半役也五人組相談之上代銀札式百三拾目ニ相究町内多七へ売渡度願承届ル

十二月五日 快晴

一万人講興行ニ付同心組不残差出委細者昨日日記之通御断申不参

寄札高七千式百四拾五枚 但五匁札

此銀札三十六貫式百廿五匁

内拾貫八百六拾七匁五分 三步引

残而式拾五貫三百五拾七匁五分 六十番ニ割

一番老貫八拾六匁七分五厘 拾番七百廿四匁五分

廿番同断 三十番四貫三百四拾七匁

四十番七百廿四匁五分五厘 五十番同断 六十番

老貫六百六十六匁三分五厘 間々式百八拾七匁八分つゝ

一明六日六半時御供揃杉山辺御鹿狩被為入御道筋先頃之通と被仰出夫々申付ル

十二月六日 快晴 不参

一杉山辺へ御鹿狩被為入御機嫌能七半時御帰被遊候

一安岡町割屋佐七小嶋新五右衛門へ出入奉公相動度人別除願之趣承届候

届候

一吹屋町孤独まつ上紺屋町孤独りん右兩人御救扶持米代四拾老匁八

歩八厘相渡

一伊勢山田御板屋四郎太夫手代高井莊屋廻旦参候旨宿切手二かゝ町

境屋伊右衛門差出

一御藏米六拾七匁五分町米六拾三匁五分

一城州愛宕山大善院使僧正元坊廻旦參候旨宿切手出ス坪井町桔梗屋

庄右衛門

一京町瀧山屋惣兵衛所持之旅人宿株町内小菊屋文治へ讓請願双方連判ニ而差出承届ル十二月廿一日旅証文差出候

一奈良今井墨屋伊兵衛手代源助參候ニ付宿切手京町小菊屋文次出ス

十二月七日 不正夜雨

一錢三十三箇從銀札場川下有之裏判取計候

一明八日泰安寺御仏參被仰出夫々へ申付ル

十二月八日 晴 不參

一今日御仏詣四時御供揃ニ而其段中奥目付の申来ル

一御藏米六拾九匁町米六拾五匁

一去ル五日万人講廿五番六十番式枚残り札ニ相成其段御用所大目付

中御届申置

一橋本町作人徳右衛門借屋山田屋七之助并母妹共家内三人去月廿六

日出奔同町三原屋平八元妻并娘両人家内三人とも右同日出奔断出

百日之尋申付ル尤其旨御用所大目付中へも達

一福渡町舟元頭元懸ケ屋敷同人御暇被下故取上ニ相成入札御払町内

宗助落札ニ而式百拾匁匁五分ニ買取候ニ付其旨御用所大目付中へ

も及御沙汰代銀闕所ニ取計候ニ付御金藏へ今日相収手形取御用單

筒へ入置

一小姓町北屋喜八借屋伝助出奔致百日尋候得とも弥行衛相知不申人

別除相願今日及御沙汰承届候尤大目付中へも達

一四川陣屋齋藤六藏田中恵左衛門の寒中為見廻通谷紙十枚例年之通

被相送

諸通行

一秤改神善四郎代大谷清助并徳田喜六水原左四郎塚本金藏与左衛門右五人来着ニ付清助の領内秤改度断書差出大年寄孫左衛門持參受

取 十二月九日 晴

一右秤改来着断書出候処延享年改方トハ相違之儀申立甚下方煩ニ

も可成被存候先年改ニ參候節初而之儀ニ付時之寺社御奉行本多紀

伊守殿へ御問合御座候而大目付中役所右扣等有之由然ル上先年改

候方先例ニ相成候故御触通先例之外難取用趣大谷清助へ申聞可然

様被存候ニ付弁書相認岸氏相扣委細談之上学殿へ御伺被下候様

頼置候委敷義ハ別記一件ニ記置候

十二月十日 晴 不參

一安岡町山沢屋久助儀先達而於神戸村五郎右衛門と申者に打擲ニ逢

右一件双方吟味申付候処久助の五郎右衛門へ大麦一俵貸置返済之

儀申談候処無躰打擲致候様申立候得とも久助義も右返済方之義付

而ハ申方も不束ニ相聞依之郡代中申談五郎右衛門ハ呵追込借用之

大麦五日之内ニ久助ニ返弁申渡久助ハ返済方申談之節不束之申方

とも有之処の及曲事不埒之段呵禁足差免尤五郎右衛門申付之段申

聞候様双方取計可申哉之段岸氏の一諸ニ一学殿へ相親候処考之通

と被仰出双方明日取計之筈ニ相究大年寄へ申渡

一二階町組屋源左衛門大坂御番所へ御呼登之由尤尅両人差添申付候

様大目付中の被仰渡即刻大年寄へ申渡

十二月十一日 晴

一 秤改大谷清助断出候趣ニ付岸子相頼何書差出置候処考之通可取計
旨一学殿の以御書面被仰聞大目付中へも達左之趣清助へ相達候様
孫左衛門へ申付ル

今度領内諸秤相改度旨断書之趣先達而從公儀御触達有之兼而得
其意罷有勝手次第可相改候日限申出候ハ、其段下方へ可申「」
然改方仕様書付并大年寄ともへ差出候口上書之趣先規無之義ハ
難取用候ニ付書付全返却候先規之形ヲ以可相改候場合ニも
先例可有之此方ニも先例有之候得ハ新法之儀ハ此方ニ而ハ難及
思慮夫とも達而可申立との存寄ニ候ハ、猶無遠慮可申出候其節
可及挨拶候

右之趣孫左衛門方へ清助相招申達候処引返候而同役与一相談之上
可申出申之清助退去之由申出ル
一 明十二日泰安寺御仏參被仰出候

十二月十二日 少雪 登城

(翌日三月五日罷登候)
一 二階町組屋勘十郎事源左衛門大飯御番所へ御呼登之趣申渡候処当
九月已来大病相煩難罷登申之給合勤之助へ申渡候処病氣断日延猶
予之願差出御用所へ差出候処早速御聞濟被成大目付中へ達候処大
目付中へも大坂村尾彦右衛門宛之御用状被相渡源左衛門願書ニ拙
者輿書印取計添状相認早速飛脚差立候様源左衛門へ可申渡孫左衛
門申付ル

一大目付太田舍人詰江戸被仰付今日出立

一 今日御口參少々御風邪ニ付御延引被仰出夫々申達

一 西新町藤屋清助悴清吉事伊達与兵衛殿出入奉公相勤度人別除相願
承届ル

一 東新町鍛冶次右衛門所持家屋鋪表口三間裏行七間御役三步七厘五
毛也五人組相談之上東隣榎屋利助方七百匁家質入度願出候ニ付承
届候同十九日日本証文差出ス丙午二月相濟

一 坪井町福得屋伊兵衛家屋鋪表口六間裏行十七間但老軒半役也五人
五人組相談之上町内八百屋平左衛門取次ニ而老貫目家質入度相願
候ニ付承届候翌己八月七日日本証文出ス

一 林田町北側紙屋新助後家家屋鋪表口三間裏行六間老尺五寸但三步
役也町内松田屋平七取次にて百式拾匁家質願承届本証文出ス

十二月十三日 晴

一 播州姫路印南郡魚崎村油屋三郎兵衛從弟才助と申者元魚町とよ屋
喜兵衛内縁有之ニ付来巳ノ八月迄逗留為致度願承届ル
一 西今町直屋山三郎造酒又々当年の相始断書差出承置候
一 明十四日泰安寺御仏參被仰出候

十二月十四日 晴 登城

一 守屋弥惣右衛門殿御代官所当国久世村岩野屋長兵衛後家娘坪井町
高砂屋兵助養女ニ引受置候処家風不叶ニ付離縁除帳之義願出今日
御用所へ及御沙汰承届大鑑所へも達

一 城州正法寺へ相渡所納銀百五十兩役者月溪庵中江弥左衛門へ相渡
受取手形取差出御用所へ御披見ニ入大鑑所へも出ス

去ル十一日秤改神善四郎代大谷清助江孫左衛門の申聞候趣ニ付翌

十一日
晴
通行
去ル十一日

十二日慈悲勸弁ヲ以飯料等一人壹匁ツ、申付呉候様清助ハ相願候得とも先規相違之儀者難申付飯料等之儀公刃願相濟候ハ、其旨弁書相認可差出申聞候処急度表立公刃相濟候共難申上候由ニ而弁書等差出候事。難仕旨申之左候へハ先規之通ニ而相改候哉之旨孫左衛門ハ申談候処何分御役所御旧例ニ違背仕間敷旨清助書付差出

一 大谷清助今度持參候諸稱明日売出申度申出成程勝手次第之事ニ候得とも売出候上又々改之秤数五加候儀杯ニ候ハ、決而不相成旨差詰候処決而新調秤ハ改之員数ニ差加候事ニ而ハ無之旨申之ニ付左も候へハ勝手次第と申渡且又右手代之内明日御近領へ秤改願付ニ參度申ニ付是又勝手次第と申付

十二月十五日 少雪 登城

一 式日御礼被為請當役於御居間御礼申上之

一 昨夜孫左衛門申出候秤改之者へ申談相濟役所旧例通相背間敷清助

書付差出候ニ付先規之形を以郡代中へも申渡市郷へ秤改之儀触書

可差出候哉之義一学殿へ相同候処先格通ニ申談相濟候上ハ相触候

様被仰聞大目付中へも相達然ル処及月追午内町方一日も諸秤取放

候而ハ及難義候ニ付相願候ハ、其節可及御沙汰旨申上置候御用所

ニも尤ニ思召何分下方及迷惑不申様取計候様被為思召ニ候事

一 当八月廿一日博奕之義ニ付咎申付候者とも之内下紺屋町鉄屋与八

悴十五郎其節在方へ參行方相知不申談申出尋申付置候処去ル十日

夜与風罷帰候旨断出預ニ申付置相同候処先達而相咎之連中之通手

錠追込過料一貫文并無断他出るたし義呵申付候様伺之通ニ被仰出

式日ニ候得とも月追日合段々差添候事ニ付晚深取計御届申上之

立会例之通出番甚藏金藏但宿迄付添ハ不致候事

一切金輕目金通用五步迄之輕目金とも無滞通用可致旨并兩替屋にて

も歩合不請取候様先年ハ度々相触置候処文字金吹替之年数も相立

追々切金輕目金多相成通用差支ニも可相成ニ付於金座切金輕目金

相直候間兩替屋とも役口申付金座へ為相渡右ニ付兩替屋ニ而切金

輕目金即刻引替又ハ兩替致候節輕目金輕重ニ寄相成之歩合差出候

様可致候

一 松平陸奥守領分銀通用之鑄錢形ヲ撫テ角文字者■台通宝と致於領

内当辰ハ五ヶ年之間鑄錢有之候陸奥守領分銀通用之処若心得違外

々ニ而通用致候ハ、夫々へ可訴出旨被仰出

右兩ヶ条之趣從公儀御触達有之由大目付廻状到來是町方并組中并

牢屋三軒屋番へも相達

一 御駕籠之者被召抱町方ニ而相望候も候ハ、可申出相触候様大目付

ハ達有之相触

十二月十六日 晴 登城

一 去ル五日万人講殘札六十番取至鉄砲町喜助相渡候段御用所大目付

へ相達

一 秤改応対人野勢屋源助浜野屋宗兵衛米屋藤右衛門右三人先大谷清

助へ対面候様申付遣候事

一 明十七日五つ半時御社參被仰出候

一 守屋弥惣右衛門殿御代官所久世村御支配久米北条郡宮尾村定之允

姉安岡町坪屋和介由緒有之ニ付養女ニ引受申度相願御用所へ及御

沙汰承届大目付中へも達

一元二かゝ町作人長助娘并母兩人とも十二年已前西一宮村新七女房
ニ參候処不縁ニ付材木町万屋左吉借家代助由緒之者ニ付此度引請
度人別人願出候ニ付郡代所引合之上承届ル

一雲州神門郡今市村久村屋文吉与申者橋本町松屋忠助由緒有之候ニ
付文吉并女房兩人とも引請渡世為仕度人別人帳相願御用所へ申上
候処承届候様被仰渡大目付中へも達

一林田上之町半兵衛借家居申茂一并女房さよ夫婦とも林田中ノ町芥
屋清助方引受渡世為仕度人別人願郡代所へ引合承届候

十二月十七日

一桶屋町作人伊助倅莊介と申者御駕籠之者御奉公相望候由書出大目
付へ差出

一西今町直屋山三郎方江町内下直屋跡自国請酒株当辰迄三ヶ年切借
置候処来ル申才迄又々五ヶ年限賃借連段ニ而相願承届ル<sup>西屋相
三言所</sup>

十二月十八日 晴快 登城

一橋本町松井屋和七借家三笠屋十藏死後娘老人有之候処御当地ニ諸
親類無之養育難涉致依之守屋弥涉惣右衛門殿御代官所西々条郡□□
□村筑前と申非人右娘祖父ニ而此在方へ引越度人別離帳相願御用
所へ申上候処御聞届へ付大目付中へも達

一坪井町富士屋嘉右衛門西今町久米屋勘七所持之造酒株来ル午才迄
三ヶ年之内借受商売仕度相願承届ル

一立掃盗人松五郎於郡代所被召捕入牢之事

十二月十九日 雪彦寸計

一御蔵米七拾匁町米六拾六匁

一東新町鍛冶勘右衛門所持之家屋鋪表口三間裏行十七間但五歩役也
五人組相談之上代銀札彦貫百匁ニ相極同町古手屋伊助へ壳渡申度
相願承届ル同廿三日売券状差出ス

一安岡町北側割屋嘉助家屋敷表口二門裏行七間但半役也五人組相談
之上鍛冶町又兵衛取次銀札百目家質願承届ル

一錢相場九拾八匁通用ニ成ル

十二月廿日 晴

一大年寄とも先例之通歳末御祝儀詣上申度窺出御奏者番中へ伺濟

一二階町くま先月廿一日小兒養育之儀ニ付京町大工十藏江相懸リ難

波直訴ニ及び利害当番申聞候得とも雜言無躰之義を申立手錠組
合預ニ申付置候処段々誤入十藏及内濟赦免相願書付差出候ニ付御
用所へ相伺候候御聞被成候ニ付大鑑所へも達於孫左衛門宅役人と
も立会之上手鎖差免無躰之儀及直訴候段呵追込申付ル尤御両所へ

御届申

一油屋八郎右衛門呼出候処行方相知不申よし尋申付候得とも未行衛
不相知旨書付出候へハ早速出奔之義可断出候時日及延引不埒之段
引受三津屋平右衛門呵可申付候哉之段御用所へ伺濟是又申付尤改
而八郎右衛門例之通尋申付候

〔附〕下紺屋町龜屋勘右衛門借家作人佐吉幼年之子供大勢有之兼々困窮

者然ル処家内一統類病相煩親類とも介抱ニ罷越候処追々致伝遷大
家之致世話遣候へ共永々之義達而当人等御救願上度申候旨勘右衛
門之願書差出無余義趣ニ付御用所へ相伺候候御聞届御手当として
米三俵被下置大目付士へも達手形を以受取相渡

一 妙法寺塔中瑞雲院ニ而當七月紛失之品々取上置今日寺社取次懸合同寺の受取ニ出相渡

一 井口村長法寺ニ而先月紛失之仏具取上置是又同断相渡

一 美濃職人町団屋仁三郎借屋憲保屋安兵衛夫婦とも城代町下目付組

本沢長右衛門借家へ引越人別離願承届ル

一 二階町くま一件ニ付同人母姉禁足申付置候処一件落着ニ付今日差免候

十二月廿一日 快晴

一 二階町くま母并姉禁足一件相济候ニ付差免一学殿并大目付中へも相届ル

十二月廿二日 不参 晴

一 十一月中町方人別増減書付左之通御用所へ差出

出生拾式人男六人女六人 人別入十一人 人別離六人

死失式拾式人 差引而五人減シ 懐胎廿五人

一 錢相庭九拾七文通用

一 播州姫路腕藤兵衛塗物卸売中ノ町福茂屋武助宿切手遣ス

十二月廿三日 晴

一 二階町くま屋源左衛門大坂御番所御呼登之処病氣ニ付日延御断之

義村尾彦右衛門へ申遣候処去ル十八日西御番所へ日延御断相济候

段昨夜及深更返輪到来一学殿大目付中へ達

一 御藏米六拾九匁米六拾五匁

一 三丁目浜野屋重郎兵衛粉寿四郎京都三条高倉西へ入高宮屋徳兵衛

方当辰午年迄三ヶ手限奉公差越願承届ル

十二月廿四日 晴 不参

一 西新町紙屋甚兵衛家屋敷表口六間半裏行十七間但七步役也五人組相談之上代銀札壹貫五百三拾目相極安岡町古川屋安左衛門へ壳渡

申度相願承届ル同廿六日壳券状出ス

一 戸川町板屋伊右衛門女房去ス五日出奔断書出百日尋申付ル其旨御用所大目付士へも相断ル

一 牢屋諸人用五十目余リ分其外欠所物ニ而御払ニ相成候品書付を以受取相渡候但委細ハ張紙文扣ニ有之候

一 神善四郎代秤改大谷清助年内ニも改申度申出候処此間町方町々否年内秤改有之候而ハ商壳向差支ニ相成依而早春迄御差延被下候様

願出有之趣申聞候処左候ハ、一先引取来春罷越改申度断書差出一学殿へ御伺申上候処即刻御聴济被成京都御留守居平野忠助へ右断

之趣へ付承届候又々来春入込候節ハ当添輸有之度申越候右之趣大目付中へも相届候

一 高野永案寺紛失物書付大目付否被相渡町触被出候段色目ハ触書扣有之候

十二月廿五日 快晴

一 大谷清助并相役何茂不残帰京断相济今日出立右ニ付来春迄秤改延引之段相触候事

一 安岡町北側ニ而割屋嘉助家屋敷表口式間裏行十七間但半役也五人組相談之上鍛冶町又兵衛取次ニ而銀札百目家質願承届

一 中ノ町せと屋銀助所持之家屋敷表口三間裏行十七間但五步役也五人組談之上代銀札貳百目ニ相極二丁目伏見屋茂七壳渡申度相願承

届ル翌廿六日売券状差出ス

一 二階町大和屋勘兵衛所持家屋鋪表口六間裏行十七間但卷軒六歩役也五人組相談之上代銀札五百目ニ相究元魚町藤野屋多吉へ売渡申度相願承届ル同廿七日売券状差出

十二月廿六日 晴 不參

一 中ノ町谷屋清助所持家屋鋪表口三間裏行拾七間但半役也五人組相談之上代銀札百目ニ相究町内平岡屋忠右衛門へ売渡申度相願候へ付其旨承届へ翌廿七日売券状差出ス

一 御駕籠之者被召抱相望候者来正月十五日迄申出候様大目付中へ被申聞町方へ相触ル

十二月廿七日 晴

一 一宮村新藏方ニ盗人文藏茶釜一ツ羽釜壹ツ盗取林田町鍋屋治兵へ方質物有之請取度郡代中被申聽取上持主へ相渡

十二月廿八日 晴 登城

一 此間相伺候通大年寄とも歳末之御祝儀雉子番ツ、献上致候ニ付御奏者番中へ差出候後刻中ノ口ニ而御奏者黒田織江大年寄へ被謁其節立会相応之取合相済之

一 上紺屋町鉄屋十五郎去ル十五日手鎖追込申付置尤日数廿日先格ニ候得とも咎中越年之義令用捨候ニ付今日可差免哉之旨一学殿伺候処尤之由存寄之通可取計被仰聞大目付中へも相達取計尚及御届之当年万人講三步銀差引而残銀収証文を以御金藏へ相収手形取置候右差引書付一学殿へ差出之

一 懸合問屋冥加銀大年寄とも御金藏へ送手形を以相収

一 五十四艘之舟持とも巻艘ニ付式拾目ツ、合巻貫八拾匁五年賦拜借上納相収猶又拜借相願一学殿へ相窺候処御聞届被成大目付中へ相達勘定奉行中相移置

一 於御用所大目付田中八郎左衛門立会左之通從一学殿被仰渡出精相動候ニ付三人扶持御増 茂渡藤右衛門

被下置之尚出精可相動

出精相動ニ付札元

本役被仰付

中尾平兵衛
山本平右衛門

右之趣奉書差向召出小頭大年寄立会申渡相済御両所へ御届申達候一沢田村吉十郎紛失脇差町触取計候様大目付中へ被申聞相触ル

十二月廿九日 晴

一 西新町玉屋猪右衛門所持自国請酒株大和屋借置候処又々来ル午才迄三ヶ年借用申断書承届ル

一 茅町作人久兵衛娘広原村安次郎妻ニ差遣置候処病身ニ相成其上独身ニ而及難波依之掣安次郎娘夫婦とも引請申度人別入相願引合之上承届之

津山郷土博物館紀要第十五号

津山松平藩町奉行日記十

平成十四年三月三十一日発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 株式会社 三勝
岡山県津山市高野山西三五一五

